

ANNUAL REPORT

2015

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum

年報



目次

平成27年度の流れ	近代美術館	3
	万代島美術館	4
事業報告		
展覧会	近代美術館	
	常設展	6
	第1期 金色 銀色	7
	ブラック／ホワイト	7
	近代美術館の名品	7
	第2期 新潟を描く・新潟を写す	9
	親子のワクワク美術館①不思議の国へようこそ	9
	近代美術館の名品	9
	第3期 新収蔵品を中心に	11
	近代美術館の名品	11
	ヴァロットの小さな仕事	11
	没後70年 ケーテ・コルヴィッツ	11
	第4期 ひと	14
	近代美術館の名品	14
	みて きいて 感じて	14
	第5期 工芸の魅力	16
	近代美術館の名品	16
	裸婦一同	16
	企画展 コレクション・ストーリーズ	18
	印象派への旅	20
	生誕100年 写真家・濱谷浩	25
	会田誠展	31
	生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』	35
	ジブリの大博覧会	42
	共催展 第70回新潟県美術展覧会長岡展	44
	第45回世界児童画展	44
	第26回MOA美術館長岡児童作品展	45
	第19回新潟県立近代美術館友の会作品展	45
	第19回長岡市中学校美術部作品展	46
	磯野宏夫展—生命の森	46
	第46回新潟県ジュニア美術展覧会長岡展	47
	こどもものづくり大学校作品展覧会	47
	所蔵品展 現代のアートとデザイン	48
	企画展 トーベ・ヤンソン展	51
	日韓近代美術家のまなざし	54
	生誕100年 亀倉雄策展	51
	世界遺産 京都・醍醐寺展	72
	蛸川実花展	77
教育普及	近代美術館	
	イベント	81
	館外活動・巡回ミュージアム	83
	地域との出前講座	84
	連携 こどもものづくり大学校校外ワーク	85
	こらぼ de 茶会	85
	見附市立保育園との連携	86
	刊行物・鑑賞資料	87
	作品解説会	88
	団体の受入れ	89
	学校教育との連携	90
	観覧料免除	92
	博物館実習	93
	万代島美術館	
	イベント	94
	刊行物	95
	作品解説会	95
	団体の受入れ	96
	学校教育との連携	97
	観覧料免除	98
	サポートメンバー	99
	博物館実習	99
調査・研究	近代美術館	100
	万代島美術館	102
収集・保存	美術品の収集	103
	平成27年度収集作品	103
	美術品の修復	107
	美術品の燻蒸	107
	美術品の貸出	108
管理・運営	開館および入館状況	112
	近代美術館	112
	万代島美術館	116
	施設の貸出	114
	アンケート集計	115
	近代美術館	115
	万代島美術館	117
	組織及び業務	120
	職員	120
施設	近代美術館	121
	万代島美術館	123
審議会等	美術館協議会	125
	美術品収集委員会	131
沿革	新潟県立美術館友の会	132

平成27年度の流れ (新潟県立近代美術館)

4月	5日(日)	コレクション・ストーリーズ関連イベント「作品解説会」 企画展「コレクション・ストーリーズ—11年の物語—」閉会
	12日(日)	平成26年度コレクション展第5期閉会
	16日(木)	平成27年度コレクション展第1期開会
	17日(金)	企画展「印象派への旅」開場式
	18日(土)	「印象派への旅」開会
5月	19日(日)	映画鑑賞会「巴里のアメリカ人」
	26日(日)	印象派への旅関連講演会「フランス近代美術は何を求めたか—あるいは日本人はフランスに何を求めたか」
	2日(土)	ワークショップ「フランス色のコースターづくり～印象派の点描入門～」
	3日(日)	印象派への旅関連イベント「学芸員によるスライドトーク」
	9日(土)	ワークショップ「友の会ボランティアによる とっておきの美術館ツアー」 映画鑑賞会「そして誰もいなくなった」
	10日(日)	ワークショップ「友の会ボランティアによる とっておきの美術館ツアー」
	16日(土)	印象派への旅関連コンサート「パリ・ミュゼット」
	17日(日)	印象派への旅関連イベント「学芸員によるスライドトーク」
	23日(土)	美術鑑賞講座「パリの陰影—印象派誕生の謎を追う」
	24日(日)	印象派への旅関連イベント「こらぼ de 茶会」
31日(日)	印象派への旅関連イベント「学芸員によるスライドトーク」	
6月	6日(土)	美術鑑賞講座「金色 銀色」
	7日(日)	「印象派への旅」閉会
	13日(土)	ワークショップ「鉛筆のチカラ!～白黒だけで描こう～」
	17日(水)	共催展「新潟県美術展覧会 長岡展」開会
	21日(日)	「新潟県美術展覧会 長岡展」閉会 コレクション展第1期閉会
	25日(木)	コレクション展第2期開会
	27日(土)	友の会ワークショップ「らせんを折ろう」 美術鑑賞講座「不同舎の画家：田中本吉とその周辺」
7月	3日(金)	企画展「生誕100年 写真家・濱谷浩」開場式
	4日(土)	「生誕100年 写真家・濱谷浩」開会 濱谷浩展関連講演会「濱谷浩を語る」
	11日(土)	友の会ワークショップ「プロの技で、美術館再発見!～デジカメを使って～」
	12日(日)	濱谷浩展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」
	16日(木)	博物館実習初日
	18日(土)	映画鑑賞会「十二人の写真家」
	19日(日)	濱谷浩展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」
	25日(土)	美術鑑賞講座「濱谷浩と写真」
	30日(木)	博物館実習最終日
	8月	1日(土)
8日(土)		ギャラリートーク「美術でおしゃべり」
9日(日)		濱谷浩展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」
15日(土)		濱谷浩展関連イベント「玉音放送とともに振り返る8月15日」 ギャラリートーク「美術でおしゃべり」
22日(土)		ワークショップ「ねんどでアニメーション」
23日(日)		濱谷浩展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」 夏休み子どもアート「(目)で(さわる)!? でっかいアートをつくろう」
30日(日)		濱谷浩展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」 「生誕100年 写真家・濱谷浩」閉会 コレクション展第2期閉会

9月	3日(木)	コレクション展第3期開会
	11日(金)	企画展「会田誠展」開場式
	12日(土)	「会田誠展」開会 映画鑑賞会「会田誠第1回監督作品 The Natives @ Ogi Island」
	19日(土)	映画鑑賞会「会田誠第1回監督作品 The Natives @ Ogi Island」 「巡回ミュージアム」開会 湯沢町公民館ホールで開催
	20日(日)	会田誠展関連イベント「会田誠 講演会」 映画鑑賞会「会田誠第1回監督作品 The Natives @ Ogi Island」
10月	21日(月)	映画鑑賞会「会田誠第1回監督作品 The Natives @ Ogi Island」
	22日(火)	映画鑑賞会「会田誠第1回監督作品 The Natives @ Ogi Island」
	23日(水)	映画鑑賞会「会田誠第1回監督作品 The Natives @ Ogi Island」
	26日(土)	会田誠展関連イベント「会田誠氏のお話」
	28日(月)	「巡回ミュージアム」閉会
	3日(土)	映画鑑賞会「続・美術のみかた 第6巻 抽象に至る道—主題から形式へ」
	10日(土)	美術鑑賞講座「シミュレーションニズム再考～ベトナム戦争から会田誠まで」
	17日(土)	会田誠展関連イベント「会田誠氏のお話」
	18日(日)	映画鑑賞会「会田誠第1回監督作品 The Natives @ Ogi Island」
	11月	3日(火・祝)
8日(日)		コレクション展第3期閉会
12日(木)		コレクション展第4期開会
13日(金)		企画展「生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』」開場式
14日(土)		「生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』」開会 クリエイション展関連トークイベント「亀倉雄策と『クリエイション』」
21日(土)		美術鑑賞講座「デザインって何？」
29日(日)		クリエイション展関連イベント「企画展ギャラリートーク」
12月	6日(日)	クリエイション展関連イベント「生誕100年記念シンポジウム 「亀倉雄策のデザイン 未来に向けて」
	12日(土)	映画鑑賞会「アンダルシアの犬」
	13日(日)	クリエイション展関連イベント「企画展ギャラリートーク」
	22日(火)	共催展「磯野宏夫展—生命の森—」開会
	28日(月)	
1月	}	年末年始の休館
	4日(月)	
2月	10日(日)	磯野宏夫展関連イベント「講演会 熱帯雨林 生命の森」
	16日(土)	クリエイション展関連イベント「生誕100年記念シンポジウム 「亀倉雄策のデザイン 未来に向けて」
	17日(日)	クリエイション展関連イベント「企画展ギャラリートーク」 「生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』」閉会 コレクション展第4期閉会 「磯野宏夫展—生命の森—」閉会
	21日(木)	コレクション展第5期開会
	23日(土)	共催展「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」開会
	30日(土)	映画鑑賞会「グレンミラー物語」
3月	3日(水)	「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」閉会
	13日(土)	美術鑑賞講座「明治期の竹内蘆風」
	27日(土)	美術鑑賞講座「銅像探訪」
3月	4日(金)	企画展「ジブリの大博覧会」開場式
	5日(土)	「ジブリの大博覧会」開会
	12日(土)	ジブリの大博覧会展連携事業「春を呼ぶ ハープ&オルガン コンサート」リリックホールで開催
	27日(日)	ジブリの大博覧会展関連イベント「長岡少年少女合唱団による スタジオジブリ音楽コンサート」
	31日(木)	コレクション展第5期閉会

平成27年度の流れ (新潟県立万代島美術館)

4月	5日(日)	トーベ・ヤンソン展関連イベント「ムーミンがびじゅつかにやってくる！」
5月	6日(水)	企画展「生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～」閉会
	7日(木)～15日(金)	展示替えのため休館
	16日(土)	「日韓近代美術家のまなざしー「朝鮮」で描く」開場式・開会
	23日(土)	美術鑑賞講座「新潟の彫刻家・戸張幸男の朝鮮での制作活動について」
6月	20日(土)	日韓展関連イベント 講演会「近代期の京城＝ソウル、おんなたちの「モダン」と「伝統」
	28日(日)	「日韓近代美術家のまなざしー「朝鮮」で描く」閉会
	29日(月)	
7月	}	展示替えのため休館
	10日(金)	
	10日(金)	企画展「生誕100年 亀倉雄策展」開場式
	11日(土)	企画展「生誕100年 亀倉雄策展」開会
	28日(火)	博物館実習初日
8月	1日(土)	美術鑑賞講座 「亀倉雄策のデザイナー－当館所蔵資料から業績をたどる」
	6日(水)	博物館実習最終日
	8日(土)	亀倉雄策展関連イベント 講演会「亀倉雄策の東京オリンピックと大阪万博」
	30日(日)	企画展「生誕100年 亀倉雄策展」閉会
	31日(月)	
9月	}	展示替えのため休館
	18日(金)	
	19日(土)	企画展「三宝院開創900年記念 世界遺産 京都・醍醐寺展」開場式・開会法要・開会 醍醐寺展関連イベント ギャラリートーク

10月	12日(月・祝)	醍醐寺展関連イベント ギャラリートーク
11月	8日(土)	「三宝院開創900年記念 世界遺産 京都・醍醐寺展」結願法要・閉会
	9日(月)～27日(金)	展示替えのため休館
	27日(金)	企画展「蛸川実花展」開場式
	28日(土)	「蛸川実花展」開会
12月	28日(月)	
1月	}	年末年始の休館
	2日(土)	
2月	28日(日)	「蛸川実花展」閉会
	29日(月)	
3月	}	展示替えのため休館
	11日(金)	
	12日(土)	所蔵品展「現代のアートとデザイン」開会
	13日(日)	美術鑑賞講座「水島爾保布の挿絵『人魚の嘆き 魔術師をめぐって』
	27日(日)	美術鑑賞講座「水島爾保布の挿絵『人魚の嘆き 魔術師をめぐって』

事業報告



常設展(コレクション展)

【趣旨】

当館の所蔵品による展示。

本年度より、学校の夏休みと重なる時期に、コレクションを使用しての親子向けの展覧会を企画開催することにした。企画展と異なり造作等のための予算はないため、手作りの要素が大きい展覧会となった。また、これに合わせて学校の教諭を講師として「夏休みこどもアート」と題し、鑑賞と制作を連動させたワークショップを行い、学校との緩やかな連携をはかった。

その他、各期に「近代美術館の名品」として常に当館所蔵の代表作品を展示するほか、戦後70年となる本年にちなんで第3期の「没後70年 ケーテ・コルヴィッツ」を開催するなど、11のテーマで展覧会を行った。



【観覧料】

一般……………430円(340円)

大学・高校生……………200円(160円)

中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

※同時期の企画展観覧券で観覧可

第1期 2015年4月16日(木)～6月21日(日)(59日間)

展示室1 金色 銀色
展示室2 ブラック／ホワイト
展示室3 近代美術館の名品

金色 銀色

【趣旨】

金や銀は、色ではなく素材である。写実絵画では基本的に金や銀が使用されることはないが、日本の伝統的絵画の中では金と銀はしばしば使われてきた。近現代の絵画でも、金や銀は様々な意味を含め、また効果を期待して使用される。本展では、所蔵品の中から、金や銀を効果的に使用した作品を選び、金・銀の効果と画家の意図を探ろうとした。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・解説文を金および銀の効果に関連させたため、見慣れた作品を新たな視点で紹介することができた。
 - ・会期中に美術鑑賞講座も併せて行い、金銀の意味や効果についてより深く紹介することができた。
- 検討課題
 - ・絵画作品と併せて工芸の金工作品も併せて展示したが、こちらの意味づけが曖昧に終わった。

担当 宮下東子

ブラック／ホワイト

【趣旨】

黒と白の織りなす、色味のない独特の世界は、ときに色彩以上に様々な表情を見せてくれる。

版画、彫刻、工芸、写真など多様な所蔵作品の中から、黒と白で表現された作品を紹介した。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・当館のコレクションのうち、これまで展示機会が余りなかった作品も含めて紹介することができた。
 - ・同時期の「金色 銀色」(展示室1)とともに、2色の表現の広がりを紹介することができた。
- 検討課題
 - ・やや単調な空間になってしまった。テーマを掘り下げ、配置に変化をつけるなど、会場の雰囲気づくりに工夫をした。

担当 伊澤朋美

【出品リスト】

展示室1 金色 銀色

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
麻田 鷹司	那智	1960
柴田 長俊	涅槃西風	1983
村田 茂樹	道二題	1991
加山 又造	月と駱駝	1957
大矢 紀	煌	2005
麻田 鷹司	雪原風景	1962
麻田 鷹司	東尋坊	1962
横山 操	MADO (窓)	1959
横山 操	高速四号線	1964
宮田 藍堂	指輪 美豆波乃女(5点)	1980/2003
宮田 藍堂	ブローチ 秘境	c1980
宮田 藍堂	指輪 夜もすから	c1980
宮田 藍堂	ペンダント お話	c1970
宮田 藍堂	ブローチ 花籠	c1980
宮田 藍堂	ペンダント 思ひ思ひに	c2000
宮田 藍堂	ペンダント 海の城	c1980
宮田 藍堂	ペンダント 銀の髯	c1990
佐々木 象堂	鍍銀馬置物	1933
加山 又造	白菜と小鳥	1961
加山 又造	白い華	1995
亀倉 浦舟	磨崖	1973
亀倉 浦舟	黄鶴詩抄	1980
【前期】		
三輪 晃勢	瀟	1964
郷倉 千靱	豊饒群雀	1928
前田 青邨	被物	不明
上野 泰郎	もろびと	1975
【後期】		
佐々木 林風	柳におしどり	不明
竹内 蘆風	武陵桃源之図	1928
小林 古径	文殊	1931
上野 泰郎	佳きおとづれ	1992

展示室2 ブラック/ホワイト

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
柴田 武次	線紋様黒味銅花瓶	昭和10年代
内田 宗寛	黒塗大甕	1974
齋藤 三郎	白磁連弁文陰刻蓋付壺	1977
北村 正信	初夏	1969
品川 工	ネガとポジ(鏡シリーズ) No2A	1974
品川 工	ネガとポジ(鏡シリーズ) No3A	1974
品川 工	ネガとポジ(鏡シリーズ) No5B	1974
伊藤 彬	山水-亡隠 I	2000
横山 操	燈台	1959
富岡 惣一郎	海	1971
富岡 惣一郎	北アルプス信濃川源流	1976
富岡 惣一郎	雪国シリーズ 北海道雷電海岸	1974
木下 晋	101年の胎動	2001
白髪 一雄	志賀#107	1973
白髪 一雄	白色のひろがり	1965
向井 修二	作品	1964
高橋 秀	アリスの月(白)	1976
高橋 秀	アリスの月(黒)	1976
堂本 尚郎	黒い太陽-W	1973
菅井 汲	ナショナルルートNo.12	1964
O. ラジヨ	ソノロ	1965
G. リヒター	作品	1967-68
川崎 ヒロ子	MORE 01-02	1999
【前期】		
棟方 志功	二菩薩釈迦十大弟子の内二菩薩	不明
谷中 安規	影絵芝居 第3景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第8景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第9景	1932
蕪木 研爾	流水(オホーツク)作品1979	1979
蕪木 研爾	樹氷(奥飛騨)作品1985	1985
蕪木 研爾	樹氷(奥飛騨)作品1986-I ver.2	1986
【後期】		
棟方 志功	女	不明
谷中 安規	影絵芝居 第2景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第10景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第12景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第13景	1932
蕪木 研爾	流水(オホーツク)作品1979	1979
蕪木 研爾	樹氷(奥飛騨)作品1985	1985
蕪木 研爾	樹氷(奥飛騨)作品1985-II	1985

回廊

竹田 康宏 Under the leaves 1994

ロビー

木村 忠太 桜樹のある村 1984

展示室3 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
小山 正太郎	仙台の桜	1881
岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916
牧野 虎雄	麦扱く農婦等	1918
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
前田 寛治	赤い帽子の女	1925
佐伯 祐三	パンテオン寺院	1928
小出 楯重	ソファアの裸体B	1930
安井 曾太郎	読書	1942
藤田 嗣治	私の夢	1947
佐藤 哲三	帰路	1954
北村 四海	女性立像	1926
T. ルソー	ボートの乗る人のいる夏の風景	c1845
J-E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
C-F. ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
G. クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869
C. モネ	コロンプの平原、霜	1873
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
P-E. ランソン	収穫する7人の女性	1895
G. ルオー	晩秋 No.3	1948-52
E. バヴラッハ	ロシアの恋人たち	1908

第2期 2015年6月25日(木)～8月30日(日)(60日間)

展示室1 新潟を描く・新潟を写す

展示室2 親と子のワクワク美術館①不思議の国へようこそ

展示室3 近代美術館の名品

新潟を描く・新潟を写す

【趣旨】

広い新潟県内の中で、描かれた詳しい地名の判明する絵画や写真、工芸作品を展示し、新潟の風土、風俗等を見つめ直す。

【総括】

●評価すべき点

- ・新潟県の風土をどのように作家は表現しているか、改めて探る機会となった。

●検討課題

- ・常設展全般にわたる問題だが、どのように周知し、多くの県民が利用する状況を作るかということが大きな課題と考える。

担当 松矢国憲



親と子のワクワク美術館① 不思議の国へようこそ

【趣旨】

本年度より、子どもたちが親しめる企画を実施し次世代の美術ファンを育てるため、夏休みを含む期間のコレクション展示室において、親子向けの展覧会を開催した。

第1回目にあたる本展では、作品の前に立つだけでその世界に入り込めそうなスケールの大きい作品を集めて展示した。結果的に現代の作品が増え、またそのためか、素材感の際立つ作品が集まることとなった。作品ごとに「作品を楽しくみるためのことばの箱」を設け、鑑賞を楽しむためのヒントや質問を記したカードを複数枚入れた。これを自ら取りあげ読むことにより、親子で話し合いながらゲーム感覚で鑑賞を楽しむ工夫をした。

また、作品によって、座ってみるための量やのぞいてみる筒（望遠鏡）などを置き、いつもと異なる視点から見るができる仕掛けも用意した。

【総括】

●評価すべき点

- ・学校の通信ネットワークを利用し、図工・美術の担当教員に直に知らせたため、予算もかからず効果的な周知ができた。さらに、いくつかの学校で夏休みの課題となり、多くの親子連れが来館した。
- ・展示に関連させた内容で、学校の教員を講師に迎えて鑑賞から制作へつなげるワークショップを行い、学校との連携をはかることができた。

●検討課題

- ・予算のない中で実施する事業のため、会場の造作ができなかった。多少の予算をかけてもある程度の演出は必要ではないかと思う。

【関連行事】

・ワークショップ

夏休みこどもアート「〈目〉で〈さわる〉!? でっかいアートをつくろう」

8月23日(日) 10:00～16:00

当館バックヤード

講師：齊藤博文氏（魚沼市立堀之内中学校教諭）

対象：小学生・中学生

参加者：15名

担当 宮下東子

【出品リスト】

展示室1 新潟を描く・新潟を写す

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
柴田 長俊	やわらかき夜	1990
小野 末	高原(妙高)	1947
田代 修一	遅春の里	1984
亀倉 雄策	苗場スキー場	1971
亀倉 雄策	苗場スキー場	1975
亀倉 雄策	苗場スキー場	1976
亀倉 雄策	苗場スキー場	1977
亀倉 雄策	苗場スキー場	1980
亀倉 康之	日本海	1993
諸橋 政範	潮風	1937
三浦 文治	佐渡のイカ干し	1938
小林 大幾	佐渡の舟庫	1970
恩田 耕作	風島弁天の景	1930
五十嵐 二郎	越後海景	1986
矢部 友衛	泉・農民百態39 浦原で	1951
布川 勝三	蒲原風景	1976
佐藤 哲三	越後の秋	1937
佐藤 哲三	残雪	1952
佐藤 哲三	風景	c1953
佐藤 哲三	農婦	1940
國領 經郎	女医さん	1947
三代 宮田 藍堂	終りのない物語「世阿弥の流人箱」	1993
三代 宮田 藍堂	終りのない物語「五合庵の昼寝」	1994

【前期】

安宅 安五郎	越後六拾景図より阿賀川鹿瀬	1939-53
安宅 安五郎	越後六拾景図より鹿瀬三軒家	1939-53
安宅 安五郎	越後六拾景図より佐渡小比叡蓮華峰寺	1951
西脇 順三郎	万代橋風景	c1941
久保田 米庵	信濃川洪水図	1897
寺崎 広業	信濃川洪水図	1897
濱谷 浩	耕つくり	1956
濱谷 浩	雁木	1956
濱谷 浩	雪季市	1956
蕪木 研爾	奥只見を望む	1970年代

【後期】

安宅 安五郎	越後六拾景図より越後国上五合庵	1939
安宅 安五郎	越後六拾景図より越後渡部大河津分水	1939-53
安宅 安五郎	越後六拾景図より越後五箇浜	1951
平澤 熊一	長岡	c1940
平澤 熊一	宮内疎開中	c1945
平澤 熊一	摂田屋風景	1948
中島 萬木	奥三面の山の嶺	1971
濱谷 浩	昭和男性諸君 大いなる趣味人、黒船館の吉田正太郎さん	1947
濱谷 浩	昭和男性諸君 多芸博覧強記の陶工、斎藤三郎さん	1947
濱谷 浩	学藝諸家 松岡譲 作家	1947
濱谷 浩	昭和女人集 粉雪舞う料亭行形屋 挨拶する仲江さん	c1953

展示室2 親と子のワクワク美術館① 不思議の国へようこそ

作家名	作品名	制作年
藪内 佐斗司	走る童子	1996
八木 幾朗	魚図	1980
丸山 直文	Kind	1994
前田 常作	人間誕生6	1963
千住 博	WATERFALL	2000
品川 工	ネガとポジ(鏡シリーズ) No.7A	1974
品川 工	ネガとポジ(鏡シリーズ) No.2A	1974
品川 工	ネガとポジ(鏡シリーズ) No.1A	1974
R.リキテンスタイン	睡蓮と柳	1992
岡村 桂三郎	泉	2003
菅原 健彦	円形のジャングルジム	1993
K.ヘリング	花I	1990
K.ヘリング	花II	1990
K.ヘリング	花III	1990
K.ヘリング	花IV	1990
K.ヘリング	花V	1990

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

ロビー

木村 忠太	桜樹のある村	1984
-------	--------	------

展示室3 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
小山 正太郎	仙台の桜	1881
岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916
牧野 虎雄	麦扱く農婦等	1918
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
前田 寛治	赤い帽子の女	1925
佐伯 祐三	パンテオン寺院	1928
小出 橋重	ソファアの裸体B	1930
安井 曾太郎	読書	1942
佐藤 哲三	婦路	1954
北村 四海	女性立像	1926
J-E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
C-F. ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
G. クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
P-E. ランソン	収穫する7人の女性	1895
G. ルオー	晩秋 No.3	1948-52
E. パルラッハ	ロシアの恋人たち	1908

【前期】

藤田 嗣治	私の夢	1947
-------	-----	------

【後期】

T. ルソー	ボートの乗る人のいる夏の風景	c1845
--------	----------------	-------

第3期 2015年9月3日(木)～11月8日(日)(59日間)

前期：9月3日(木)～10月4日(日)

後期：10月6日(火)～11月8日(日)

展示室1 新収蔵品を中心に

展示室2 近代美術館の名品

展示室3 前期：ヴァロトンの小さな仕事 後期：没後70年 ケーテ・コルヴィッツ

新収蔵品を中心に

【趣旨】

平成26年度に収蔵した作品を披露し、美術館の収集活動を紹介します。

【総括】

●評価すべき点

・収集活動だけでなく、平成26年度から新たに寄託となった作品も併せて紹介し、作品調査を幅広く紹介ができた。

●検討課題

・常設展全般にわたる問題だが、どのように周知し、多くの県民が利用する状況を作るかということが大きな課題と考える。

担当 松矢国憲

ヴァロトンの小さな仕事

【趣旨】

黒と白による版画表現で独創的な世界を創り上げたフェリックス・ヴァロトン(1865～1925)は、肖像画や風景画など幅広い主題を扱ったが、なかでも得意としたのが風刺画の分野だった。鋭い観察眼を活かして、社会の表層や根底にある問題をすくいとり、雄弁に視覚化している。今回の特集では、雑誌や書籍などの小さな媒体に掲載された風刺画的な作品を中心に作家の足跡を紹介した。

【総括】

●評価すべき点

・一人の作家に焦点を絞った展示は、ある程度の作品数を所蔵していることが前提となる。近年ヴァロトンの関連資料が多数寄贈されたことを受けて、今回の特集展示が可能となった。ナビ派を代表する作家の一人として今後さらに調査研究を継続し、紹介していくための糸口とすることができた。

●検討課題

・書籍やシート状の作品が多いため、ガラスケースに並べる形での平面的な展示が中心となった。また風刺的作品に関する社会的背景の説明が十分ではなかった。作品として鑑賞する楽しみを演出するための立体的な展示の工夫や、理解を深めるためのパネル解説の充実が課題となるだろう。

担当 平石昌子

没後70年 ケーテ・コルヴィッツ

【趣旨】

ケーテ・コルヴィッツ(1867～1945)は、ベルリンを拠点として作家活動を行い、生前から国内外で高い評価を得ていた作家である。ナチスの台頭とともに厳しい迫害を受けることになり、戦災で多くの作品を焼失し、不遇のうちにその晩年を過ごしたことで知られる。没後70年の節目となる今回の特集展示を通して、その力強い造形性を堪能すると同時に、そこにこめられた反戦の祈りや母子の情愛にあらためて思いをはせる機会とした。

【総括】

●評価すべき点

・戦後70年を考慮し、コルヴィッツのテーマと通底するゴヤ《戦争の惨禍》、ジョージ・グロス《神は共にあり》なども合わせて展示した。戦争との対峙から生まれた作品は時代を超えて互いに響き合い、独自の緊張感を孕む空間となった。研究者等に注目され、新聞や雑誌で展覧会評に取り上げられるという反響を得た。

●検討課題

・同時期に武蔵野美術大学図書館では「マリク書店の光芒：ハートフィールド、ヘルツフェルデ兄弟とグロス」展が開催され、名古屋芸術大学では「佐喜眞美術館のスタンス～丸木位里・俊、ケーテ・コルヴィッツを中心に」が開催されていた。来館者への情報提供などの対応ができていれば、この時代への理解もさらに深まっただろう。

【関連記事】

●新聞

10月2日 朝日新聞

2度の大戦経験 母と子の悲しみ—ドイツの女性芸術家の作品展／狩野浩平

●雑誌

2016年6月『再考再論 No.49』

【美術館訪問】『没後70年 ケーテ・コルヴィッツ』展／志真斗美恵

担当 平石昌子

【出品リスト】

展示室1

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
岩田 正巳	浜名を渡る源九郎義経	1936
五代 伊藤 赤水	無名異練上鉢	1988
五代 伊藤 赤水	佐渡島	2012
五代 伊藤 赤水	無名異練上花紋壺	2013
佐藤 哲三郎	中国風景	1942-43
佐藤 哲三郎	中国風景(習作)	1942-43
宮 芳平	風景 その19	1955
宮 芳平	睡蓮 その1	1958
宮 芳平	海 その1	1959
宮 芳平	さざはし	1959
宮 芳平	さざなみ	1970
田中 本吉	風景(七ツ釜)	1932
田中 本吉	風景	不明
田中 本吉	写生帖	1919-35 *
石井 柏亭	池	1928
石井 柏亭	出雲雄姿(下図)	1938
渡邊 利雄	門	1965
渡邊 利雄	陽	1968
渡邊 利雄	鏡の前で毛織いをする猫	1995
葛西 薫	HIROSHIMA APPEALS 2013 ポスター「夏の囀のまぶしさ」	2013
【前期】		
竹内 蘆風	鴛鴦図	1894
竹内 蘆風	夜桜争鴉之図	c1907
竹内 蘆風	鐘旭	明治30-40年代
竹内 蘆風	落葉の頃	1912
竹内 蘆風	春江待渡之図	1928
藤巻 囃月	家族団楽	1912 *
江口 草玄	野ばら	1950
江口 草玄	はかなさは	1975
中村 木子	曠達	c1950
中村 木子	作品C	1950年代中頃
【後期】		
岩田 正巳	相模太郎	昭和10年代
竹内 蘆風	蓬萊山水	1900年
竹内 蘆風	峠の富士	1901年
竹内 蘆風	秋山晚趣之図	1905年
竹内 蘆風	佐藤忠信之図	明治後期
中村 木子	崔顥詩黃鶴樓	1951年
中村 木子	老子 第一章	1951年
中村 木子	作品	1950年代中頃
江口 草玄	久遠	1961年
江口 草玄	天心	1964年

展示室2

作家名	作品名	制作年
J-E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
A. フォンタネージ	ブジェイ高原	c1858-60
G. クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869
C-F. ドービニー	オワズ川 イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
G. ルオー	晩秋No.3	1948-52
J. アンソール	シノワズリー	c1920-25
J. デュブレ	羊飼	c1883
A. マイヨール	テレーズの背中	1928
M. マリーニ	馬と赤い騎手	1977
M. マリーニ	馬	1953
A. カルダール	無題	1975
G. カボグロッシ	表面 308	1959
A. ロダン	考える人	1880
M. マリーニ	騎手のための構想・習作	1955
H. ムーア	トルソ：コラム	1982
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
坂田 一男	椅子による裸婦	1924
前田 寛治	赤い帽子の女	1925
佐伯 祐三	広告塔	1927
吉原 治良	作品	1935
北川 民次	大地	1939
小山 正太郎	仙台の桜	1881
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
安井 曾太郎	読書	1942
高岡 惣七	海風	1959
菅井 汲	ナショナルルート No.12	1964
岡本 太郎	顔	1965
山口 長男	漠	1972
高橋 秀	アリスの月(白)	1976
高橋 秀	アリスの月(黒)	1976
李 禹煥	線より	1976
猪熊 弦一郎	犬とネクタイ	1991
村井 正誠	ものうり	1958
斎藤 義重	赤の跡	不明
川崎 ヒロ子	MORE 01-02	1999
長沢 明	Bookboard-Blue	1999
下村 良之助	旅	1961
三上 誠	作品3	c1965
柳原 義達	道標 鳩	1974
高田 博厚	横たわる女	1972
吾妻 兼治郎	MU-766	1976 *

回廊

竹田 康宏 Under the leaves 1994

ロビー

C. ヒンマン 休憩 1965 *
※*は寄託作品

展示室3

〈前期〉ヴァロトンの小さな仕事

作家名	作品名	制作年
1. 版画家ヴァロトン		
F. ヴァロトン	フルターニョの巡礼祭の女たち	1889
	盲目の運命(『芸術と理想』7号)	1892
	フェリックス・ヴァロトン(『芸術と理想』2号)	1892
	ラ・ベビニエール	1893
	小さな浴女	1893
	1. すわる二人の浴女	
	2. 水に入る	
	3. 草の上に横たわる浴女	
	4. 水から上がる	
	5. 下着姿の女の子ふたり	
	6. 下着を脱ぐ女の子	
	7. 太陽のもとで遊ぶ	
	8. 風に驚く浴女たち	
	9. 子供のいる浴女	
	10. 白鳥と浴女	
	シューマンに(『パン』I. 1895年4-5月号)	1893
	テオフィル・ゴティエの肖像(過去、現在あるいは未来の不滅の人々) XIII	1893
	版画愛好家	1900
	水浴(『ザ・チャップブック』1894年12月5日号挿絵)	1894
	エミール・ゾラの肖像(『ザ・チャップブック』1895年5月15日号挿絵)	1895
	ヒュヴィス・ド・シャヴァンヌの肖像(『ザ・ステュディオ』1898年12月15日号)	1898
	エドガー・ポーの肖像	1894
	怠惰	1896
	『ラ・ルヴェ・ブランシュ』1895年2月15日付41号	1895
	『ラ・ルヴェ・ブランシュ』1895年10月15日付57号	1895
	『ラ・ルヴェ・ブランシュ』1896年4月1日付68号	1896
	ポール・アダン(『ラ・ルヴェ・ブランシュ』1895年7月15日付51号挿絵)	1895
	飾り線(『ラ・ルヴェ・ブランシュ』1895年6月号挿絵)	1895
	夏・冬(『リマージュ』1897年8月・9月号挿絵)	1897
	花火(万国博覧会 VI)(『ディー・インゼル(島)』1901年10月号挿絵)	1901
	5時(万国博覧会 IV)(『ディー・インゼル(島)』1901年11月号挿絵)	1901
	カイロ通り(万国博覧会 V)(『ディー・インゼル(島)』1901年12月号挿絵)	1901
	にわか雨(万国博覧会 II)(『ディー・インゼル(島)』1902年1月号挿絵)	1902
2. 作家ジュール・ルナールとの出会い		
F. ヴァロトン	泥棒だ!(『ル・リール(笑い)』1895年3月16日付19号挿絵)	1895
	美しい日曜日(『ル・リール(笑い)』1895年4月13日付23号挿絵)	1895
	『博物誌』(ジュール・ルナール著 フラマリオン刊 パリ)	1896
	『日々の糧』(ジュール・ルナール著 ポール・オランドルフ書店刊 パリ)	1898
	『にんじん』(ジュール・ルナール著 フラマリオン刊 パリ)	1902
	『にんじん』(ジュール・ルナール著 フラマリオン刊 パリ)	1926
3. 風刺とユーモア		
F. ヴァロトン	今日のブルー・カラー(労働者階級)(『ル・リール(笑い)』1894年12月1日付4号表紙)	1894
	手助け(『ル・リール(笑い)』1895年5月4日付26号裏表紙)	1895
	もう動かないぞ!(『ル・リール(笑い)』1895年7月13日付36号表紙)	1895
	帝政期には……(『ル・リール(笑い)』1895年10月19日付50号表紙)	1895
	かわいそうな職人たち……(『ル・リール(笑い)』1896年4月25日付77号表紙)	1896
	道で(『ル・リール(笑い)』1898年1月8日付166号表紙)	1898

おい、御者!……(『ル・リール(笑い)』1898年6月25日付190号表紙)	1898
木靴で(トリストラン・ベルナル著『パリの物語』他 F. ジュヴァン(社刊) パリ/挿絵)	1897
36匹の動物による本当のゲーム(『パリ生活』1897年1月16日付3号挿絵)	1897
田舎の芸術(『ル・クリ・ド・パリ』1900年9月30日付192号表紙)	1900
お父さん、……(『ル・クリ・ド・パリ』1899年10月1日付140号表紙)	1899
放っておきなさい……(『ル・クリ・ド・パリ』1899年10月29日付144号表紙)	1899
イギリス皇太子アルバート・エドワード(『ル・クリ・ド・パリ』1900年2月25日付161号表紙)	1900
高貴な振る舞い(『ル・クリ・ド・パリ』1900年5月27日付174号表紙)	1900
トランスヴァールにて……(『ル・クリ・ド・パリ』1900年10月28日付196号表紙)	1900
彼は祖国を守り……(『ル・クリ・ド・パリ』1902年4月27日付274号表紙)	1902
先生、……(『ラシェット・オ・ポール(パター皿)』1902年2月・特別号)	1902
まず敬礼だ……(『罪と罰』1902年3月1日付・ヴァロトン特集号)	1902
聖壇の中で(『芸術家による大戦』1914年3号挿絵)	1914
ミランの肖像(『芸術家による大戦』1914年16号挿絵)	1914

〈後期〉没後70年 ケーテ・コルヴィッツ

K. コルヴィッツ	自画像	1904
	靈感(インスピレーション)	1906
	《農民戦争シリーズ》	
	1 耕す人	1906
	2 凌辱	1907
	3 大鎌	1905
	4 地下室で武器を取れ	1906
	5 蜂起	1903
	6 戦場	1906
	7 囚人	1908
	クルト・プフィスター著(現代ドイツ版画家集)より 自画像	1920
	《戦争シリーズ》	
	1 犠牲	1922-23
	2 志願兵	1921-23
	3 両親	1921-22
	4 未亡人 I	1921-22
	5 未亡人 II	1922-23
	6 母親	1921-22
	7 群衆	1922-23
	母と二人の子	1932-36(1988複製)
F. ゴヤ	《カプリチオス》	1799
	1. フランシスコ・ゴヤ・イ・ルシエンテス、画家	
	《戦争の惨禍》	1810年代(1863複製)
	2. 理由があるとならうと	
	3. 同じことだ	
	12. そのためにお前たちは生まれたのだ	
	20. 治してやって、また戦場へ	
	45. そしてこれも見た	
E. マネ	マクシミリアンの処刑	1868
G. グロス	《神は共にあり》	1920
	1. 神は共にあり	
	4. 労働者の光と風(自由、平等、博愛-労働者の休日)	
	5. 加持祈禱師(精密科学の勝利-閉塞と闘うドイツ人医師)	
	8. 共産主義者は愚れ、尊厳ばかりが声高に(飢饉を粉砕せよ-血は最高のソース)	
E. パルラッハ	ロシアの恋人たち	1908(1940複製)

第4期 2015年11月12日(木)～2016年1月17日(日)(52日間)

展示室1 ひと
展示室2 近代美術館の名品
展示室3 みて きいて 感じて

ひと

【趣旨】

人生それぞれの場面で、たくさんの人とかかわりながら生きている人の姿をテーマにした作品を中心に紹介した。日本画、洋画、彫刻と幅広い分野で展示するようにした。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・図らずも展示した8割が県内出身作家の作品であり、ほかの作品も新潟県にかかわりの深い作家のものとなった。しばらく展示されていなかった作品も意図的に展示するようにした。参観者からは、「新潟出身の作家の作品が多く、じっくりと見入った。」という感想もあった。
- 検討課題
 - ・テーマをさらに深く掘り下げる解説が必要であった。掘り下げることで、多様な作品の展示が可能となったかもしれない。

担当 宇賀田和雄

みて きいて 感じて

【趣旨】

「どうやってかいたのかな?」「どんな音・声がかきこえるかな?」「何を感じる?どう思う?体でかんじよう」等、展示室内を3章に分けた。その際、大人から子どもまで、イメージをひろげやすい投げかけの言葉や作品を選定し展示した。また、「この展示室では、語り合いながら鑑賞を楽しむことを想定しています。静かに鑑賞したいお客様には、ご迷惑になる場合があります。」とタイトルと共に鑑賞マナーについてあらかじめ表示させていただき、語り合いながら鑑賞を楽しみやすい環境づくりに留意した。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・分かりやすいテーマであっただけに、わかりやすく、共感をもって鑑賞していただけた。
- 検討課題
 - ・子どもでもより一層親しみやすいテーマや投げかけの言葉を考えていきたい。

担当 青木善治

展示室1 ひと

作家名	作品名	制作年
第1章 生まれる	愛される	
三輪 晃勢	草の上	1947
岩田 正巳	母と子	不明
荒井 一郎	母と子	1950
横山 操	母子	1958
長谷部 権次呂	遊	1991
三輪 晃久	苑	1974
安宅 安五郎	姉弟	1931
牧野 虎雄	秋近き濱	1934
佐藤 哲三	農村託児所	1934
K. コルヴィツ	母と二人の子	1932-36

第2章 夢に向かって 自らの足で
【全期】

穂刈 春雄	大河渡る	2002
高村 真夫	春日野	1911
矢部 友衛	茶刈・静岡県下	1960
佐藤 三郎	バリエーション	1927-28
小野 末	闘牛場(潮騒C)	1977
北村 正信	裸婦立像	不明

【前期】

伊東 深水	ジャカルタの踊り子	1943
-------	-----------	------

【後期】

奥村 土牛	少女図	1926
-------	-----	------

第3章 刻まれた年輪 実直に生きる

大矢 十四彦	明けゆく	2001
池山 阿有	炬ばた	1993
小泉 成一	小春ノ日和	1888
藤田 熊雄	とむらい	1959

展示室2 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
J-E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
A. フォンタネージ	ブジェイ高原	c1858-60
C. トロワイヨン	りんごの取り入れ	c1840
T. ルソー	ボートに乗る人のある夏の風景	c1845
C-F. ドービニー	オワズ川 イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
G. ルオー	晩秋No.3	1948-52
J. アンソール	シノワズリー	c1920-25
C. コロー	ビブリア	1874-75
B. ニコルソン	Painting 1946	1946
G. カボグロツ	表面 308	1959
フンデルトワッサー	日本で描いた最初の渦巻#466	1961
L. フォンタナ	空間概念 期待	1962
R. ビアンコ	3D	1966 *
H. ムーア	トルン: コラム	1982
M. マリーニ	騎手のための構想・習作	1955
岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
坂田 一男	椅子による裸婦	1924
前田 寛治	赤い帽子の女	1925
佐伯 祐三	バンテオン寺院	1928
吉原 治良	作品	1935
鳥海 青児	北海道風景	1943
小山 正太郎	仙台の桜	1881
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
安井 曾太郎	読書	1942
高間 惣七	海風	1959
菅井 汲	ナショナルルート No.12	1964
近藤 直行	祈り	1988
山口 長男	漢	1972
高橋 秀	アリスの月(白)	1976
高橋 秀	アリスの月(黒)	1976
李 禹煥	線より	1976
猪熊 弦一郎	犬とネクタイ	1991
村井 正誠	ものうり	1958
斎藤 義重	赤の跡	不明
川崎 ヒロ子	MORE 01-02	1999
長沢 明	Bookboard-Blue	1999
下村 良之助	旅	1961
三上 誠	作品3	c1965
柳原 義達	道標 鳩	1974
高田 博厚	横たわる女	1972
吾妻 兼治郎	MU-766	1976 *

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

ロビー

C. ヒンマン	休憩	1965 *
---------	----	--------

※*は寄託作品

展示室3 みて きいて 感じて

作家名	作品名	制作年
どうやってかいたのかな?		
白髪 一雄	志賀#107	1973
斎藤 義重	作品I	1957
岡本 太郎	顔	1965

どんな音・声がかきこえるかな?

加山 又造	月と駱駝	1957
北川 民次	大地	1939
佐伯 祐三	広告塔	1927
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
C. モネ	コロンプの平原、霜	1873

何を感じる? どう思う? からだでかんじよう

岡 鹿之助	朝の城	1970
脇田 和	あらしい	1955
藤田 嗣治	私の夢	1947
J. デュプレ	羊飼いの	c1883
吉原 治良	静物	1929
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
藪内 佐斗司	走る童子	1996
A. ロダン	考える人	1880

第5期 2016年1月21日(木)～3月31日(日)(62日間)

展示室1 工芸の魅力
展示室2 近代美術館の名品
展示室3 裸婦一同

工芸の魅力

【趣旨】

「工芸」の魅力は、作家が素材と対峙して作品を作り上げるということに尽きる。素材の特性を知り尽くした上で、自らが持っている技術を最大限に発揮することで、その素材が持つ美しさや華やかさを表現する。

1960年代以降に登場した現代美術作家の中には、自らが描くヴィジョンを最大限に発揮するために、自らが制作するのではなく、例えば技術のある部分を発注するようになったが、工芸家は正に真逆の存在であり、「自らの手で作る」という、その一点に工芸家が工芸家たる所以があると言える。本展では各分野の工芸作品を展示するとともに、その様々な技法も併せて紹介することで、工芸の魅力を十二分に感じられるよう心掛けた。

【総括】

●評価すべき点

- ・当館の工芸作品の中からほぼ全ての分野の作品を紹介することで、工芸技術の多様性とその魅力、そして工芸家の技術の高さを紹介することができた。
- ・工芸の技法や素材、また工芸作品の名称の読み方など、工芸に関わる語句を会場で紹介することで、工芸に親しめるよう心掛けた。

●検討課題

- ・当館所蔵の工芸作品は分野によって偏りがあり、工芸技法や素材の全てを紹介することができなかった。今後は長期的な視点で幅広い収集が必要であろう。

担当 藤田裕彦

裸婦一同

【趣旨】

美術館の展示室で必ずといってよいほど目にする人体の表現。とりわけ裸の女性はなくてはならない存在だといえる。そうした裸体、特に裸婦の表現について、西洋を皮切りに、次いで近代以降の日本での受容と展開を紹介した。そこから裸婦の存在と表現にあらためて着目する機会となった。

【総括】

●評価すべき点

- ・展示機会にあまり恵まれない裸婦を表現した絵画や彫刻を含む展示内容にしながら、裸婦の歴史を紹介することができた。

●検討課題

- ・西洋美術ではロダンなどの彫刻2点のみの出品となり、近現代の日本美術に比重が偏ってしまった。

担当 澤田佳三

【出品リスト】

展示室1 工芸の魅力

作家名	作品名	制作年
五代 伊藤 赤水	無名異練上鉢	1988
三浦 小平二	焼きしめ花瓶「マサイ」	1970
三浦 小平二	青磁鉢	1978
五代 伊藤 赤水	無名異練上花紋壺	2013
三浦 小平	獅子舞大花瓶	1954
齋藤 三郎	色絵唐草窓絵椿模様大壺	1977
齋藤 三郎	白磁連弁文陰刻蓋付壺	1977
齋藤 三郎	辰砂陰刻牡丹花瓶	1948
齋藤 三郎	染付竹林文壺	1970年代
齋藤 三郎	鉄絵草文輪花瓶(6客)	1955-59
堀 浄規	兜舎	1970
三代 本間 琢齋	蠟型銅花鳥文花瓶	1900
市橋 敏雄	白銅置物・萌生	1977
佐々木 象堂	蠟型銅製装耳小花入	1959
小川 英鳳	銀製・波・花瓶	1969
原 直樹	銅製花瓶・銘花苑	1954
原 正樹	プラスのトルソー	1988
二代 宮田 藍堂	蠟型銅ひねり一瞬置物	1976
宮田 脩平	トルソ	1975
岩田 藤七	花器	1960
岩田 久利	花器	1985
高井 進	青瓷線文壺	2002
鶴巻 三郎	早春賦	1970
細野 實	雲の標	2002
宮田 宏平(三代藍堂)	蠟型銅金・終りのない物語「恋秤」	1983
宮田 宏平(三代藍堂)	布留(なら)の佛たち	1966
宮田 亮平	ゲルからの移行Ⅲ	1979
伊藤 豊	陶板画・雪山松嶺	1973
亀倉 蒲舟	磨崖	1973
亀倉 康之	枯野	1978
本間 一秋	冬夏青々	1977
原 益夫	エンドレス	1997
内田 宗寛	黒塗大甕	1974
初代 本間 琢齋	蠟型銅羅漢香炉	明治初期
柴田 武次	鍛鉄銀象嵌波瀾文香炉	昭和10年代
石山 恵美子	蒼Ⅱ	1981
広川 青五	89白い空間	1989
香取 秀真	斑紫銅銅壺	不明
津田 信夫	銅壺・波光連如	1942
佐々木 象堂	銅色絵鷗置物	1940
目黒 順三郎	彫漆小笹文箱	1988
堀 政晴	鍍分花器「彩」	1997
玉川 宣夫	木目金花瓶	2009
亀倉 蒲舟	黄銅鷗文飾箱	1937

展示室2 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
小山 正太郎	仙台の桜	1881
浅井 忠	農人	1890
高村 真夫	ラバクール村	1915
岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
前田 寛治	赤い帽子の女	1925
牧野 虎雄	サンルーム	1929
牧野 虎雄	春去らんとす	1925
佐伯 祐三	広告塔	1927
佐伯 祐三	バンテオン寺院	1928
野間 仁根	花園の友人	1936
安宅 馬雄	鸚鵡と少女	1936
北川 民次	大地	1939
竹谷 富士雄	壺つくりの女	1940
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
安井 曾太郎	読書	1942
佐藤 哲三	農婦	1940
海老原 喜之助	燃える	1957
斎藤 義重	赤の跡	不明
桂 ゆき	異邦人	1961
川端 実	作品	1963
木村 忠太	桜樹のある村	1984
柳原 義達	道標 鳩	1974 *
G. ルオー	クラウン	不明 *
C. トロワイオン	りんごの取り入れ	c1840
T. ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	c1845
A. フォンタネーシ	フジエイ高原	c1858-60
C-F. ドービニー	オワズ川 イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
C. コロー	ビプリ	c1874-75
P. セザンヌ	水浴	1875-77 *
C. ビサロ	ルヴシエンヌの画家の家	1871 *
C. モネ	コロンプの平原、霜	1873
J. デュプレ	羊飼	c1883
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
M. ドニ	ベンガル虎 バッカス祭	1920
A. ロダン	考える人	1880
G. ルオー	晩秋 No.3	1948-52

※ *は寄託作品

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

ロビー

富岡 惣一郎	作品	1961
--------	----	------

展示室3 裸婦一同

作家名	作品名	制作年
A. ロダン	疲れ	1887
A. ブーシェ	朝顔	c1892
北村 四海	空想に耽り居る女	1916
高村 真夫	裸婦	1921
佐藤 哲三郎	裸婦	1930
桑重 儀一	浴する女	不明
満谷 国四郎	裸婦	1923
矢部 友衛	習作	1920
坂田 一男	椅子による裸婦	1924
小出 楳重	ソファへの裸体B	1930
藤田 嗣治	私の夢	1947
竹谷 富士雄	廃墟のヴィナス	1947
千野 茂	裸婦	1957
柳原 義達	坐る	1960
小林 哲夫	夢妄	c1976
倉石 隆	イヴ	1982
北村 正信	裸婦立像	不明

企画展



コレクション・ストーリーズ—11年の物語

【趣旨】

2003年度に「県民の美の財産—新潟県立近代美術館10年の歩み」を開催し、開館から10年間のコレクション活動を振り返った。本展は、その後の11年間に収集された主な作品を、当館の名品とともに、それぞれのストーリーで紹介する展覧会。さらに、コレクションの形成には、展覧会が様々な形で影響していることから、関連する展覧会もあわせて紹介し、当館の11年の活動の軌跡を収集と展示の側面から振り返った。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・開館以来3冊目となる所蔵品目録として、1,700点超の多数の作品の基本情報を掲載する形で発行することができた。
 - ・所蔵品による企画展としての魅力を高めるよう、11年間の収蔵品に過去の名品を関連させて展示し、10のストーリーに仕立てながら展覧会と収集という当館の主要な活動の歴史を新旧の関係でつなげる構成として工夫した。
 - ・前後期に分けて約7割の作品を入れ替えるなど多くの作品を展示し、新規の額装や展示台の作成によって初公開となる作品も含めることができた。
- 検討課題
 - ・県単独の展覧会で予算が限定された中での広報展開で成果はあったものの、観覧者増までにはいたらなかった。

【開催日・その他】

=2015年4月1日(水)～4月5日(日) (5日間)=
※全体会期は2月3日(火)～4月5日(日) (54日間)

主催：新潟県立近代美術館

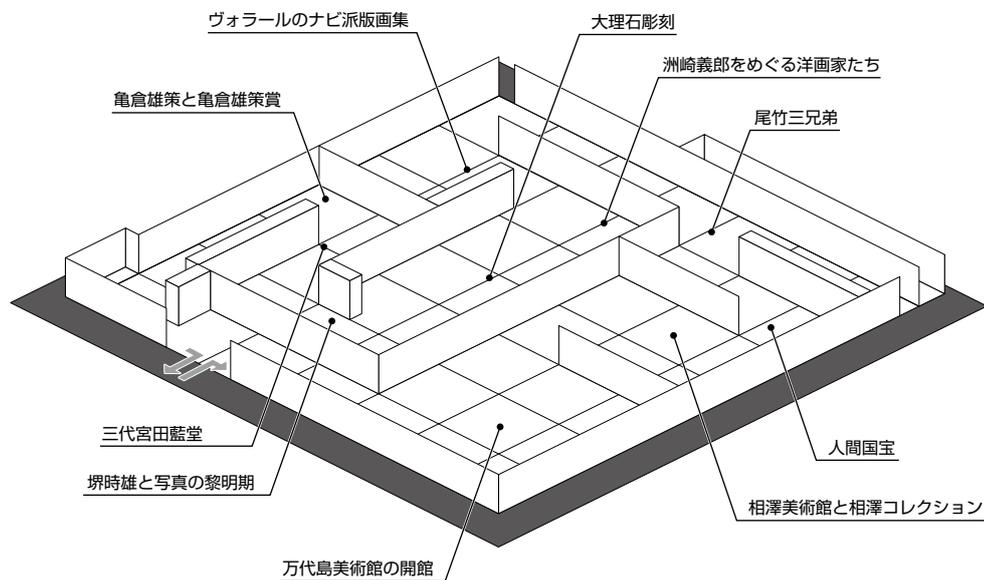
後援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日报社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、燕三条エフエム放送株式会社、FMながおか80.7

観覧料：一般……………600円 (400円)

大学・高校生……………400円 (200円)

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金



【図録】

仕様：28.0×21.5 cm 本文276頁

編集：新潟県立近代美術館

発行：新潟県立近代美術館

内容：ごあいさつ

凡例

図版 原色図版、絵画(日本画)、絵画(洋画ほか)・平面、版画、彫刻・工芸・書、水彩画、グラフィックデザイン・写真、素描・その他の作品、相澤コレクション

作家略歴

作家索引

寄贈者一覧



【関連行事】

・作品解説会

4月5日(日) 14:00～

企画展示室

参加者数：10名

【観覧者数】

※4/1～4/5

有料観覧者数	当日	126
無料観覧者数	招待	103
	無料	21
	免除	9
総観覧者数		259
有料率 (%)		48.6

・全会期(2/3～4/5)

有料観覧者数	当日	1,245
無料観覧者数	招待	512
	無料	151
	免除	176
総観覧者数		2,084
有料率 (%)		59.7

※本展の出品リストは平成26年度版年報を参照のこと。

担当 澤田佳三



印象派への旅

戦後70年 ひろしま美術館フランス絵画展

【趣旨】

ひろしま美術館は、戦後復興の道を歩んできた人々の心の希求に応えるため、「愛とやすらぎのために」をテーマとして1978年に設立された。別名「印象派美術館」と呼ばれるほど近代フランス絵画のコレクションが充実していることで知られる。本展は同館の代表作70点を通して豊かな美の世界を紹介することを目的とし、また同時に平和の尊さをあらためて認識する得がたい機会とすることができた。

【総括】

●評価すべき点

- ・アンケート結果では満足度が高く、具体的な作品名をあげてコメントする声が多かったのは展覧会内容の充実を示すといえる。
- ・講演会やコンサート、お茶会など企画展の内容にリンクしたイベントも好評を得た。
- ・戦後70年の節目の年に、平和希求の理念を掲げる同館の名品展を開催できたことの意義は大きい。

●検討課題

- ・実行委員会を構成するメディアが広報に工夫を凝らしたにもかかわらず、収支目標を達成することができなかった。オーソドックスな西洋美術に対する一般の関心がとみに低下していることが実証される結果となった。

【開催日・その他】

=2015年4月18日(土)~6月7日(日) (45日間)=

主 催：新潟県立近代美術館、新潟日报社、NST、ひろしま美術館フランス絵画展実行委員会

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟・フランス協会、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、燕三条エフエム放送株式会社、FM ながおか 80.7、新潟日報美術振興財団

特別協力：公益財団法人ひろしま美術館、広島銀行

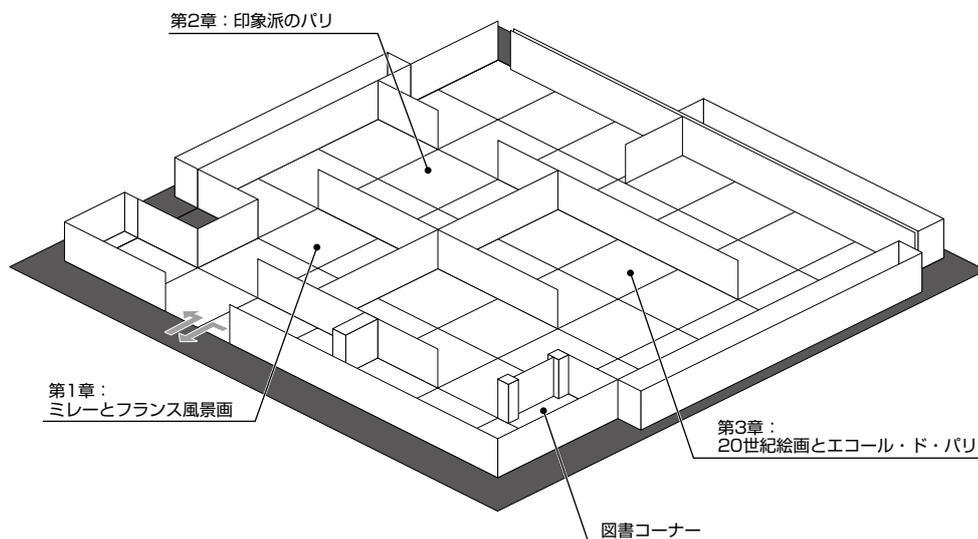
観覧料：一般……………1,200円 (1,000円)

大学・高校生……………1,000円 (800円)

※中学生以下無料

※ () 内は有料20名以上の団体料金及び前売券料





【関連行事】

・講演会

「フランス近代美術は何を求めたかーあるいは日本人はフランスに何を求めたか」

日時・会場：4月26日(日) 14:00 講堂

講師：馬淵明子（国立西洋美術館長）

参加者数：110名

・美術鑑賞講座

「パリの陰影ー印象派誕生の謎を追う」

5月23日(土) 14:00 講堂

講師：平石昌子（当館学芸課長代理）

参加者数：45名

・学芸員によるスライドトーク

5月3日(日)／17日(日)／31日(日) 14:00～14:30 講堂

講師：平石昌子（当館学芸課長代理）

参加者数：54名／82名／34名

・映画鑑賞会

「巴里のアメリカ人」

4月19日(日) 14:00～ 講堂

参加者数：28名

「そして誰もいなくなった」

5月9日(土) 14:00～ 講堂

参加者数：50名

・ワークショップ

「フランス色のコースターづくりー印象派の点描入門」

5月2日(土) 14:00～ 講座室

講師：青木善治（当館学芸課長代理）

参加者数：9名

・コンサート

「パリ・ミュゼット」

5月16日(土) 14:00～ エントランスホール

出演：田中トシユキ

参加者数：90名

・こらぼde茶会

5月24日(日) 10:30～15:30 ロビー

呈茶：長岡大学茶道部

参加者数：160名

・1万人目セレモニー

5月28日(木)

【図録】

仕様：B5判変形 80頁

編集：新潟県立近代美術館

発行：新潟県立近代美術館

内容：ごあいさつ

印象派への旅／古谷可由

図版

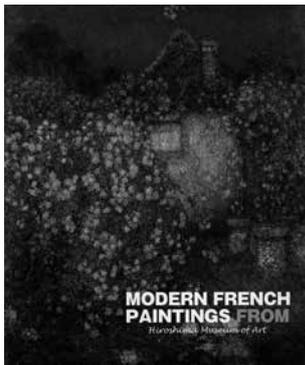
第1章 ミレーとフランス風景画

第2章 マネと印象派のパリ

第3章 20世紀絵画とエコール・ド・パリ

出品目録

謝辞



〈連載〉

・新潟日報「印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展」

①エドゥワール・マネ《灰色の羽根帽子の夫人》／平石昌子（4/28）

②シスレー《サン＝マメス》／平石昌子（4/29）

③カミーユ・ピサロ《ポン＝ヌフ》／宮下東子（4/30）

④キスリング《ルーマニアの女》／宮下東子（5/1）

⑤ポール・シニャック《ポルトリュー、グーヴェルロー》青木善治（5/2）

●雑誌

ジャックランド 4月号

財界にいがた 4月号

月刊にいがた 4月号

BijiN vol. 29

月刊庄内小僧 5月号

●テレビ

4月17日(金) NST こんやのニュース

4月29日(水) NST みんなのニュース1部

5月1日(金) NST みんなのニュース1部

5月16日(土) NST みんなのニュース

5月29日(金) NST みんなのニュース1部

【関連記事】

●新聞

4月7日(火) 新潟日報

特集記事「平和への祈り名画に」／平石昌子

4月19日(日) 新潟日報

長岡「印象派への旅」開幕

4月23日(木) 長岡新聞

「ひろしま美術館」の名品にため息

5月3日(日) 新潟日報

市民ら点描技法学ぶ

5月12日(火) 長岡新聞

やすらぎの一枚 やすらぎの一碗／小川幸代（長岡大学教授）

6月11日(木) 長岡新聞

「こらほde茶会」の道具立て／小川幸代（長岡大学教授）

その他 長岡新聞（3/10）

村上新聞（3/22）

暮らしの通信（3/28）

新潟日報（3/29、5/29）

十日町新聞（4/2）

妻有新聞（4/3、5/8）

栃尾タイムス（4/25）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	8,043
	前売	2,335
無料観覧者数	招待	1,930
	無料	617
	免除	962
総観覧者数		13,887
有料率（%）		74.7

担当 平石昌子

【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)
第1章 ミレーとフランス風景画					
1	ウジェーヌ・ドラクロワ	剣を持つ兵士		水彩、紙	19.1×13.1
2	ウジェーヌ・ドラクロワ	墓地のアラブ人	1838	油彩、カンヴァス	47.3×56.0
3	カミーユ・コロー	花の輪を持つ野の女		油彩、カンヴァス	55.5×46.5
4	ジャン＝フランソワ・ミレー	毛を刈られた羊	1862	油彩、カンヴァス	59.5×73.0
5	ジャン＝フランソワ・ミレー	刈り入れ	1866-67	パステル、カルトン	96.0×68.0
6	ジャン＝フランソワ・ミレー	薪拾い、夕陽	1867頃	パステル、カルトン	41.5×50.7
7	ギュスターヴ・クールベ	雪の中の鹿のたたかい	1868頃	油彩、カンヴァス	60.0×80.0
8	ウジェーヌ・ブーダン	ポルドー風景	1874	油彩、カンヴァス	48.5×74.0
9	ウジェーヌ・ブーダン	ベルク、浜辺に座る漁婦		油彩、カンヴァス	19.3×32.1
第2章 マネと印象派のパリ					
10	エドゥワール・マネ	灰色の羽根帽子の婦人	1882	パステル、カンヴァス	55.0×35.3
11	エドガー・ドガ	赤い服の踊り子	1897頃	パステル、カルトン	64.4×50.2
12	アルフレッド・シスレー	サン＝メメス	1885	油彩、カンヴァス	54.5×73.0
13	クロード・モネ	オランダ風景	1871頃	油彩、カンヴァス	60.0×72.6
14	カミーユ・ピサロ	ボン＝ヌフ	1902	油彩、カンヴァス	66.0×81.2
15	オーギュスト・ルノワール	トリニテ広場(パリ)	1892頃	油彩、カンヴァス	65.3×54.2
16	オーギュスト・ルノワール	パリの審判	1913-14	油彩、カンヴァス	73.0×92.5
17	ベルト・モリゾー	若い女性と子供	1894	油彩、カンヴァス	61.5×50.5
18	スタニスラス・レピーヌ	パリ市庁舎河岸のりんご市	1884-88頃	油彩、カンヴァス	112.5×168.5
19	ジョルジュ・スーラ	村へ	1883	油彩、板	15.6×24.9
20	ポール・シニャック	ポルトリュエ、グーヴェルロー	1888	油彩、カンヴァス	46.2×55.5
21	ポール・シニャック	パリ、ボン＝ヌフ	1931	油彩、カンヴァス	73.0×92.0
22	アンリ・ル・シダネル	帰ってくる羊の群れ	1889	油彩、カンヴァス	91.0×150.5
23	アンリ・ル・シダネル	離れ屋	1927	油彩、カンヴァス	150.0×125.0
24	ピエール・ボナール	ピガール広場	1905	油彩、カンヴァス	31.6×47.4
25	ピエール・ボナール	白いコルサーージュの少女(レイラ・クロード・アネ嬢)	1930	油彩、カンヴァス	91.7×65.0
26	エドゥワール・ヴエイヤール	アトリエの裸婦	1909	ティンタイプ、紙・カンヴァスで裏打ち	155.5×109.2
27	アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック	「ルイ13世風の椅子」のリフレイン(アリスティド・ブリュアン卿のキャバレーにて)	1886	コンテ・油彩、紙・カンヴァスで裏打ち	78.4×50.4
28	オディロン・ルドン	ベガサス、岩上の馬	1907-10頃	パステル、カルトン	80.7×65.0
29	エドワルド・ムンク	マイスナー嬢の肖像	1906-07	油彩、カンヴァス	51.0×45.2
30	オーギュスト・ロダン	腕を上げ、頭をそらせた踊りの型	1875-76	鉛筆・水彩、紙	41.5×28.5
31	アリスティド・マイヨール	横向きに横たわる裸婦		赤チョーク、紙	26.0×42.5
32	アリスティド・マイヨール	正面を向く坐る女	1925	赤チョーク、紙	36.0×26.0
33	アリスティド・マイヨール	横向きの裸婦立像	1930	赤チョーク、紙	35.0×21.5
34	アリスティド・マイヨール	背姿	1932	木炭、カルトン	34.5×24.7
35	アリスティド・マイヨール	ディナ、《大気》のための習作	1938	鉛筆・木炭・赤チョーク、紙	24.7×35.5
36	アリスティド・マイヨール	ヴェールを着けたディナ	1940	赤チョーク・白墨・鉛筆、カルトン	36.0×23.0
37	アリスティド・マイヨール	窓辺のディナ	1942	パステル、カルトン	27.0×37.0
38	アリスティド・マイヨール	横向きのディナ	1942	パステル・木炭、カルトン	44.0×29.0

第3章 20世紀絵画とエコール・ド・パリ

39	アンリ・ルソー	要塞の眺め	1909	油彩、カンヴァス	45.8×55.0
40	アンドレ・ボーシャン	人物	1928	油彩、カンヴァス	73.0×100.0
41	アンドレ・ドラン	風景の中の裸婦	1925-26	油彩、カンヴァス	97.0×116.0
42	アンドレ・ドラン	風景の中の金髪の婦人	1936-37	油彩、カンヴァス	150.0×99.5
43	モーリス・ド・ヴラマンク	花瓶	1935	油彩、カンヴァス	46.0×33.2
44	モーリス・ド・ヴラマンク	雪景色		油彩、カンヴァス	88.8×114.2
45	ピエール・ラブラード	静物	1930頃	油彩、カンヴァス	73.0×60.0
46	アルベール・マルケ	ボン=ヌフとサマリテーヌ	1940	油彩、カンヴァス	65.0×81.0
47	ラウル・デュフィ	エブソム、ダービーの行進	1930	油彩、カンヴァス	70.7×130.5
48	ジョルジュ・ルオー	ピエロ	1937-38	油彩、カンヴァス	99.8×65.1
49	キース・ヴァン・ドンゲン	ヴェニス島の眺め	1921	油彩、カンヴァス	91.9×69.8
50	ジョルジュ・ブラック	果物入れと果物	1935	油彩、カンヴァス	43.3×73.0
51	フェルナン・レジェ	踊り(第1作)	1929	油彩、カンヴァス	92.2×65.2
52	アンドレ=デュノワイエ・ド・スゴンザック	サン=トロペ島の眺め		水彩、紙	56.8×77.8
53	マリー・ローランサン	《家具付の貸家》のためのエスキース	1912	油彩、板	98.0×56.7
54	マリー・ローランサン	牝鹿と二人の女	1923	油彩、カンヴァス	73.0×54.0
55	モーリス・ユトリロ	モンモランシーの通り	1912頃	油彩、カンヴァス	58.6×79.7
56	アメデオ・モディリアアーニ	青いブラウスの婦人像	1910頃	油彩、カンヴァス	80.7×54.2
57	アメデオ・モディリアアーニ	男の肖像	1919	油彩、カンヴァス	99.0×65.0
58	ハイム・スーティン	椅子によれる女	1919頃	油彩、カンヴァス	81.0×45.5
59	ハイム・スーティン	にしんと白い水差しのある静物	1922-23頃	油彩、カンヴァス	65.0×54.0
60	クスリング	ルーマニアの女	1929	油彩、カンヴァス	81.2×64.4
61	クスリング	ショールをつけた少女		油彩、カンヴァス	73.0×54.0
62	クスリング	花		油彩、カンヴァス	55.6×46.0
63	ジュール・パスキン	ギカ公女	1921	油彩、カンヴァス	72.5×60.0
64	ジュール・パスキン	緑衣の女	1927	油彩、カンヴァス	92.0×65.0
65	レオナール・フジタ	裸婦と猫	1923	油彩、カンヴァス	55.5×100.5
66	レオナール・フジタ	アッシージ	1961	油彩、カンヴァス	38.0×61.2
67	レオナール・フジタ	フード付きマントを着た子供(帽子をかぶった少女)		エッチング、紙	28.0×22.0
68	マルク・シャガール	私のおばあちゃん	1928	グワッシュ、紙	63.3×48.4
69	マルク・シャガール	河のほとり	1973	油彩、カンヴァス	81.0×100.0
70	ベルナール・ビュッフェ	赤い家	1961	油彩、カンヴァス	89.4×116.2



生誕100年 写真家・濱谷浩

一人間とは何か、日本人とは何か 1930s-1960s

【趣旨】

日本を代表する写真家・濱谷浩が、疎開先の新潟県の高田で撮影した《終戦の日の太陽》から70年となる本年は、戦後70年であるとともに濱谷の生誕100年に当たる。

本展は、濱谷の没後初となる大規模な展覧会として、1930年代の写真家としての出発点から1960年代の安保闘争まで、国内で撮影された主要なモノクローム写真200点を通して、人間と日本人の在り方を問い続けた写真家の足跡を紹介する。

【総括】

●評価すべき点

- ・当県と深い関わりを持つ濱谷浩の昭和戦前・戦中・戦後の一連の時代性及び日本の民俗と風俗を色濃く記録した優れた写真を展示し、濱谷の中核的な仕事とその存在を再認識できる展示構成にすることができた。
- ・会場内に観覧者の感想を掲示するコーナーを設け、さらに館のホームページでも一部の感想を毎週更新しながら紹介することで、観覧者同士が反響を共有する効果が見られた。

●検討課題

- ・同時期に別のテーマと内容で濱谷浩展を開催した上越市立総合博物館とは、広報と物販面で相互に協力した効果はあったものの、観覧者数は当初目標の約半数にとどまった。
- ・限定的な広告以外にも、独自の広報展開による主要メディアの取り上げはあったものの、明らかな観覧者増までには結びつけることはできなかった。

【開催日・その他】

=2015年7月4日(土)~8月30日(日) (52日間)=

主 催：新潟県立近代美術館

共 催：新潟日報社

特別協力：濱谷浩写真資料館

企画協力：株式会社クレヴィス

協 賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社、文化堂印刷株式会社

協 力：高田文化協会、株式会社新潟フジカラー

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、燕三条エフエム放送株式会社、FMながおか80.7

観覧料：一般……………1,000円 (800円)

大学・高校生……………800円 (600円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金

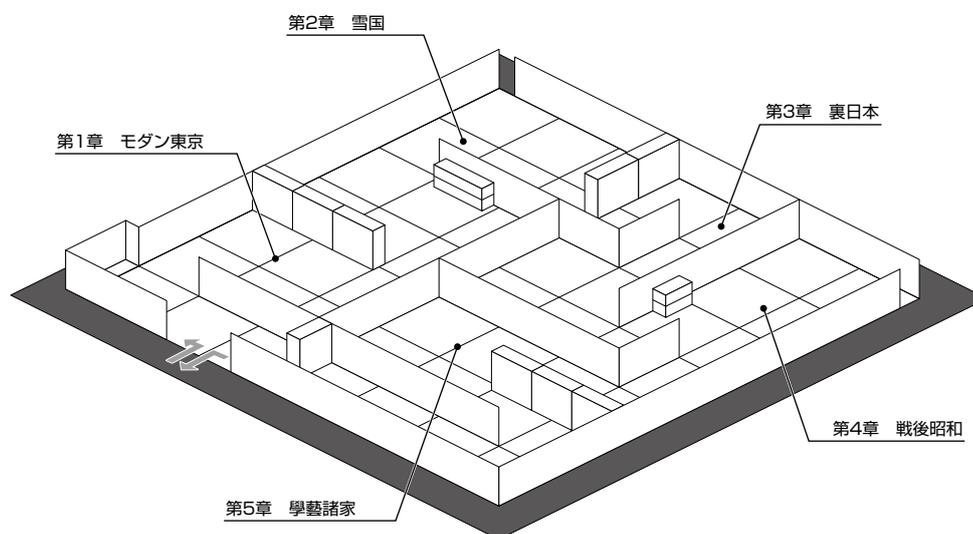


【関連行事】

- ・ 記念講演会
「濱谷浩を語る」
7月4日(土) 14:00～ 講堂
講 師：多田亜生氏（本展監修者）
聞き手：澤田佳三（当館学芸課長代理）
参加者数：51名
- ・ 美術鑑賞講座
「濱谷浩と写真」
7月25日(土) 14:00～ 講堂
講 師：澤田佳三（当館学芸課長代理）
参加者数：31名
- ・ 映画鑑賞会
『十二人の写真家』（監督：勅使河原宏、1955年）
7月18日(土) 11:30～／14:00～ 講堂
参加者数：18名／20名
- ・ 終戦記念日イベント
「玉音放送とともに振り返る8月15日」
8月15日(土) 9:00～16:30 講堂
参加者数：53名
- ・ 作品解説会
7月12日(日)／7月19日(日)／8月9日(日)／8月23日(日)／
8月30日(日) 14:00～
企画展示室
参加者数：1名／10名／11名／8名／19名

【図録】

- 仕 様：B5判変形 256頁
- 編 集：多田亜生、澤田佳三（新潟県立近代美術館）、加藤絢・
野田尚稔（世田谷美術館）、片野恵介、江水彰洋（クレヴィス）
- 発 行：株式会社クレヴィス
- 内 容：時代の渦／濱谷浩
あいさつにかえて—濱谷浩氏と歩いた街角／酒井忠康
地域に文化の芽をまく—高田の濱谷浩／徳永健一
一貫した真摯な姿勢／野町和嘉
第1章 モダン東京
第2章 雪国
第3章 裏日本
第4章 戦後昭和
第5章 學藝諸家
濱谷浩の半世紀—『潜像残像』から読み解く「写真家・
濱谷浩」／藤田裕彦
福縁そして陽の名残り／多田亜生
年譜／加藤絢
主要文献／多田亜生、片野恵介
作品リスト



【関連記事】

●新聞

- 7月20日(月) 新潟日報
文化の記憶 「いがた食ひと紀行4「濱谷浩とタケノコ汁」
／高津直子
- 7月25日(土) 新潟日報
展覧会へようこそ「生誕100年 写真家・濱谷浩 道開いた高田での体験」／澤田佳三
- 7月28日(火) 長岡新聞
研究の周辺「朝活・夕活」／小川幸代（長岡大学教授）
- 8月2日(日) 読売新聞
本よみうり堂「生誕100年 写真家・濱谷浩」／前田英樹
- 8月2日(日) 北海道新聞
ほんのページ「生誕100年 写真家・濱谷浩」
- 8月11日(火) 長岡新聞
研究の周辺「渋沢敬三の肖像写真」／小川幸代（長岡大学教授）
- その他 十日町新聞（6/11）
十日町タイムス（6/18）
妻有新聞（6/26）
新潟日報（7/4、7/14、7/18、7/21、8/16、8/25）
栃尾タイムス（7/15）

●雑誌

- 日本カメラ7月号、8月号
- フォトテックデジタル8月号
鳥原学の展覧会プレビュー／鳥原学
- 芸術新潮10月号
濱谷浩の原点—「雪国」から「戦後昭和」へ／石川直樹

●テレビ

7月14日(火) NHK新潟放送局
新潟ニュース610「ミニキテ!」／澤田佳三

●ラジオ

- 7月23日(木) BSN新潟放送
ゆうWAVE／澤田佳三
- 8月7日(金) FM PORT 79.0
Sw!tch／澤田佳三
- 8月13日(木) BSN新潟放送
独占ごきげんアワー／澤田佳三

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	3,342
	前売	450
無料観覧者数	招待	864
	無料	623
	免除	425
総観覧者数		5,704
有料率 (%)		66.5

担当 澤田佳三

【出品リスト】

※全点とも2015年のプリントで、素材はゼラチン・シルバー・プリント、濱谷浩写真資料館の所蔵。

No.	作品名	撮影年	No.	作品名	撮影年
第1章 モダン東京					
1	客待ちする円タク、銀座、東京	1934	21	歌舞伎座客席、銀座、東京	1938
2	夜景、銀座、東京	1931	22	国際劇場、ターキー(水の江瀧子)最後の舞台稽古、浅草、東京	1938
3	カフェ銀座パレス、銀座、東京	1936	23	日比谷公会堂で出を待つビエロ、日比谷、東京	1939
4	東京茶房の喫茶ガール、銀座、東京	1935	24	日本劇場、有楽町、東京	1938
5	クリスマス・イブの酔客、銀座、東京	1936	25	フロリダ・ダンスホール、鏡を見るダンサー、赤坂、東京	1935
6	東京會館周辺、丸の内、東京	1936	26	日本劇場、有楽町、東京	1938
7	フロリダ・ダンスホール、モガ・モボ集まる、赤坂、東京	1935	27	常盤座、笑の王国、出の前、浅草、東京	1938
8	喫茶店トリコロールのウィンドー、銀座、東京	1936	28	花月劇場、出を待つ踊り子、浅草、東京	1938
9	切り絵師、銀座、東京	1939	29	花月劇場の舞台装置、浅草、東京	1939
10	夏の舗道、銀座、東京	1936	30	花月劇場の楽屋、浅草、東京	1939
11	森永キャンデーストア前、銀座、東京	1936	31	花月劇場の楽屋、浅草、東京	1939
12	春風の表通り、銀座、東京	1936	32	古風とモダンが街にあふれて、銀座、東京	1936
13	ビルディング建築現場、丸の内、東京	1937	33	日本髪と洋髪の芸者さん、銀座、東京	1936
14	東京駅、東京	1937	34	昼座敷に急ぐ新橋芸者さん、銀座、東京	1937
15	東京茶房、銀座、東京	1935	35	門付けの娘さん達、ランチタイムも稼ぎ時、銀座、東京	1936
16	オフィス街、丸の内、東京	1937	36	サイゼリア前の子どもたち、銀座、東京	1935
17	東京競馬場の菊池寛と入江たか子、府中、東京	1936	37	花を売る少年、銀座、東京	1936
18	映画「トト」の広告、銀座、東京	1935	38	贅をつくしたラスキン文庫喫茶室、銀座、東京	1935
19	花月劇場のあされたぼういず、浅草、東京	1939	39	フロリダ・ダンスホール、断髪のダンサー、赤坂、東京	1935
20	国際劇場、浅草、東京	1939	40	市電車庫前、露店の人形、新宿、東京	1938
第2章 雪国					
41	測候所開設以来の記録的な豪雪、高田、新潟	1945.2.26	46	地藏様年始、桑取、新潟	1940
42	ホンヤラ洞にゆく子どもたち、十日町、新潟	1956	47	十二山神まつり、六日町、新潟	1961
43	ホンヤラ洞で歌う子どもたち、十日町、新潟	1956	48	祝い酒、六日町、新潟	1961
44	馬ゴトの前ブレ、桑取、新潟	1940	49	普光寺毘沙門堂祭礼、浦佐、新潟	1961
45	馬ゴトの訪問、桑取、新潟	1940	50	裸押し合いに出る前、浦佐、新潟	1961
51	船霊様の年取りのご馳走を運ぶ娘、山北、新潟	1956	66	鳥追いに出る、桑取、新潟	1940-46
52	雪季市、十日町、新潟	1956	67	鳥追いを見る子どもたち、桑取、新潟	1940-46
53	草鞋を売る人、十日町、新潟	1956	68	歌ってゆく鳥追い、桑取、新潟	1940
54	出雲崎の民家、出雲崎、新潟	1956	69	鳥追いの太鼓、桑取、新潟	1940-46
55	雁木下をゆくゴゼ、高田、新潟	1956	70	川で身を浄める、桑取、新潟	1940-46
56	サイノカミの炎、桑取、新潟	1940-46	71	川下で顔を洗う人たち、桑取、新潟	1940-46
57	村の全景、桑取、新潟	1940-46	72	太刀をもつ子、桑取、新潟	1940-46
58	村の境、桑取、新潟	1940-46	73	焼草集めの子ども、桑取、新潟	1940-46
59	小正月の若木迎え、桑取、新潟	1940-46	74	嫁祝い、桑取、新潟	1940-46
60	小正月にオウミする家族、桑取、新潟	1940-46	75	賀祝い、桑取、新潟	1940-46
61	小正月の餅つき、桑取、新潟	1940-46	76	サイノカミを立てる、桑取、新潟	1940-46
62	小正月にマイダマをつくる、桑取、新潟	1940-46	77	サイノカミの行事に集まった人たち、桑取、新潟	1940-46
63	小正月に小豆を煮る、桑取、新潟	1940-46	78	サイノカミのタイマツの打ち合い、桑取、新潟	1940
64	小正月十五日夜のおまいり、桑取、新潟	1940-46	79	小正月十六日朝の祝餅、桑取、新潟	1940-46
65	村の子ども、桑取、新潟	1940-46	80	小正月の寺参り、桑取、新潟	1940-46

第3章 裏日本

81	地吹雪、十三、青森	1955
82	津軽の男、中里近郷、青森	1955
83	道を阻む断崖、男鹿半島、秋田	1955
84	シジミをとる一家、男鹿半島、秋田	1955
85	海の暮らし、男鹿半島、秋田	1955
86	部落の防塞、亀飛、青森	1955
87	港のない漁村、亀飛、青森	1955
88	海の家族、男鹿半島、秋田	1955
89	雪道をいそぐ女、今別付近、青森	1955
90	青森駅前、青森	1966
91	乗合櫓、中里近郷、青森	1955
92	歳の市、五所川原、青森	1955
93	雁木、十日町、新潟	1956
94	寒念仏の講仲間、青森	1955
95	氷の下の地曳き網、八郎潟、秋田	1955
96	潟漁業、八郎潟、秋田	1955
97	部落に来た尼さん、亀飛、青森	1955
115	庄内美田、最上付近、山形	1955
116	雲と波と雪と家、広小路浜、新潟	1955
117	海の夫婦、鱒ヶ沢、青森	1955

98	嫁入り、鳥越、石川	1957
99	停留所、指江、石川	1955
100	春雪、男鹿半島、秋田	1955
101	餅つくり、小千谷、新潟	1956
102	骨休め、荒浜、新潟	1955
103	ながれかんじょ、石地、新潟	1955
104	生活、新湊、富山	1955
105	雨の通学、砺波、富山	1955
106	越後の女、松ヶ崎、新潟	1955
107	苗代、三郷、新潟	1955
108	アワラの田植、白萩、富山	1955
109	田植女、白萩、富山	1955
110	湯滝にうたれる女たち、酸ヶ湯温泉、青森	1957
111	山の湯治場、谷地温泉、青森	1957
112	農家の子、横内、青森	1955
113	島の墓場、見島、山口	1955
114	稲刈り、最上、山形	1955
118	赤子を背負った子、大平、青森	1955
119	山の暮らし、大川平、青森	1955
120	雪に暮れる部落、亀飛、青森	1955

第4章 戦後昭和

121	終戦の日の太陽、高田、新潟	1945
122	焼け跡の駅前闇市、大森、東京	1945
123	東本願寺の報恩講のおたや、高田、新潟	1948
124	交差点のモク拾い、数寄屋橋、東京	1951
125	それぞれの午後、銀座、東京	1951
126	復員列車の元兵隊、東京	1953
127	カーボン工場の職工さん、新潟	1953
128	炭層に切り込む若い鉱夫たち、常磐、福島	1953
129	三菱造船所の溶接作業員、横浜、神奈川	1953
130	朝日新聞社の選挙速報、有楽町、東京	1953
131	フランス座の楽屋、浅草、東京	1953
132	海産物を売るお母さん、塩釜、宮城	1954
133	三越ファッションショー満員盛況、日本橋、東京	1955
134	日暮れて客待ちの頃、玉の井、東京	1954
135	盛りをすぎた夜の盛り場、長崎	1956
136	開店前のキャバレー屋上、銀座、東京	1957
137	キャバレー・カリオカ、午後10時、銀座、東京	1957
138	米兵で賑わう日劇地下のアルピオン、有楽町、東京	1957
139	新式自動カウンター装置のできた店、有楽町、東京	1957
140	空前の冷害に襲われた開拓村一家、東旭川、北海道	1957

141	人口密度日本一の町、吾嬬町、東京	1958
142	混雑する午前7時の職業安定所、新潟	1960
143	花売りの白川女、東山、京都	1959
144	配管工事現場の交通整理、新潟	1960
145	日米安保条約全権団の帰国声明する岸首相、羽田、東京	1960.1.24
146	国会議事堂構内の抗議集会、永田町、東京	1960.5.20
147	国会議事堂前の国民大会、永田町、東京	1960.5.26
148	首相官邸前で抗議する全学連学生たち、永田町、東京	1960.6.3
149	アメリカ大使館に向かうデモ隊、銀座、東京	1960.6.3
150	始発電車の前に座り込む学生たち、東十条、東京	1960.6.4
151	米特使反対のデモ隊に殴り込む右翼、羽田、東京	1960.6.10
152	ハガチー特使の車を囲むデモ隊、羽田、東京	1960.6.10
153	空白の国会議事堂を守る板付トラック、永田町、東京	1960.6.11
154	激突への誘い水となった放水、国会議事堂南門付近、永田町、東京	1960.6.15
155	激突する警官隊とデモ隊、国会議事堂構内、永田町、東京	1960.6.15
156	女子大学生の死、国会議事堂構内、永田町、東京	1960.6.15
157	仲間の死に黙禱する学生たち、国会議事堂構内、永田町、東京	1960.6.15
158	徹夜で座り込む学生たち、品川駅、東京	1960.6.22
159	怒りと悲しみの隊列、東京	1960.6.22
160	オフィスビル夜景、丸ノ内、東京	1968

第5章 學藝諸家

161 渋沢敬三 (1896-1963、実業家・民俗学者)	1939	169 會津八一	1947
162 鈴木大拙 (1870-1966、本名貞太郎、仏教学者)	1944	170 小田嶽夫 (1900-1979、作家)	1947
163 新村出 (1876-1967、言語学者)	1944	171 高村光太郎 (1883-1956、詩人・彫刻家)	1949
164 堀口大學 (1892-1981、詩人)	1954	172 高村光太郎	1949
165 堀口大學一家	1951	173 小林古径 (1883-1957、本名茂、日本画家)	1949
166 小杉放庵 (1881-1964、画家)	1946	174 小林古径	1949
167 小杉放庵	1946	175 棟方志功 (1903-1975、画家・版画家)	1951
168 會津八一 (1881-1956、歌人・書家・美術史家)	1947	176 棟方志功一家	1954
177 大岡昇平 (1909-1988、作家)	1953	189 川端康成 (1899-1972、作家)	1956
178 坂口安吾 (1906-1955、本名炳五、作家)	1954	190 小林秀雄 (1902-1983、文芸評論家)	1955
179 坂口安吾	1954	191 小林秀雄父子	1955
180 折口信夫 (1887-1953、国文学者・歌人)	1952	192 幸田文 (1904-1990、作家・随筆家)	1956
181 伊藤整 (1905-1969、作家・評論家・詩人)	1954	193 正宗白鳥 (1879-1962、本名忠夫、作家)	1959
182 内田百閒 (1889-1971、本名榮造、随筆家・作家)	1954	194 室生犀星 (1889-1962、本名照道、詩人・作家)	1959
183 永井荷風 (1879-1959、本名壯吉、作家)	1954	195 柳宗悦 (1889-1961、民藝運動の創始者)	1959
184 佐藤春夫 (1892-1964、作家・詩人)	1955	196 坂口謹一郎 (1897-1994、農芸化学者)	1979
185 谷崎潤一郎 (1886-1965、作家)	1954	197 安岡章太郎 (1920-2013、作家)	1982
186 谷崎潤一郎	1960	198 石川淳 (1899-1987、作家)	1982
187 井伏鱒二 (1898-1993、本名満壽二、作家)	1975	199 大江健三郎 (1935-、作家)	1982
188 井伏鱒二	1955	200 開高健 (1930-1989、作家)	1982

展示資料リスト

『FRONT』 1942年3・4合併号
『FRONT』 1943年8・9合併号
写真集『雪国』(カメラ毎日別冊) 毎日新聞社、1956年3月
『寫真文化』 1942年12月号 「〈民俗〉の記録」(文・市川信次)
『カメラ』 1950年2月号 「雪国―桑取村のこと」(文・小田嶽夫)
写真集『裏日本』 新潮社、1957年10月
『カメラ』 1955年1月号 「連作・裏日本・庄内平野」
『中央公論』 1956年5月号 「アワラの田植えを見る」
写真集『怒りと悲しみの記録』 河出書房新社、1960年8月
マグナム・フォト 記者証
マグナム・フォト プレス腕章
安保闘争取材時の着用ヘルメット
『ザ・サンデー・タイムス』 1962年9月2日号 The Sunday Times, Colour Section, Sep 2, 1962.
『ライフ』 国際版 1962年12月号 Life: International Edition, vol.33, no.13 (Dec.,) 1962.
写真集『學藝諸家』 岩波書店、1983年3月
『白雲牒』
濱谷浩 日記



会田誠展

ま、Still Alive ってこーゆーこと

【趣旨】

会田誠は1965年に新潟市に生まれ、1991年に東京藝術大学大学院美術研究科を修了後、国内外の美術館で発表を続けている。2012年11月には東京・森美術館での大規模回顧展「会田誠・天才でごめんさい」を開催、現代美術作家としては前人未踏とも言える約49万人の観客を動員するなど、まさに日本を代表するアーティストである。

本展では会田誠を日本を代表するコンセプチュアル・アーティストとして捉えた上で、会田誠氏の5年以上にも及ぶプロジェクト《モニュメント・フォー・ナッシングⅡ》を中心に、ナント美術館（2014.6.28－8.31 仏）などの国際展で高い評価を得た本邦初公開となる作品をはじめとして、会田誠の代表作や、アイデンティティの源泉とも言える学生時代の作品を紹介した。

また、会期中には、ほぼ毎日、会田氏が当館に滞在し、会田誠自身の主宰により、《モニュメント・フォー・ナッシングⅡ》がさらなる巨大なインスタレーションに変貌する様子を紹介することができた。会田誠はその先鋭的な作風から、話題性ばかりが先行し、本質までを理解することが困難な作家でもあるが、本展により、会田誠が優れたコンセプチュアル・アーティストであり、あらためて日本を代表する現代美術作家であることを知る、貴重な機会となったと言える。

【総括】

●評価すべき点

- ・会田誠氏の本質でもある、コンセプチュアル・アーティストとしての氏を紹介する機会となった。
- ・日本を代表する現代美術作家でありながら、今まで公立美術館では紹介されてこなかった会田誠氏の諸作品をある程度、理解しやすい形で紹介することができた。
- ・初めて作家以前に制作した初期作品を紹介。
- ・アンケートにおいて来館者の89.6%が好評であった。

●検討課題

- ・アンケートの不満足理由の多くが、会田作品の一部の特徴的な代表作が展示されていなかったことに起因していたこと。公立館である以上、展示作品について、ある程度考慮しなければならないが、グレーゾーンに位置する作品については、もう少し展示対応が可能ではなかったかと悔やまれる。

【開催日・その他】

＝平成27年9月12日(土)～11月3日(火) (46日間)＝

主催：新潟県立近代美術館

共催：会田誠展実行委員会、新潟県立近代美術館、新潟日报社、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、BSN新潟放送

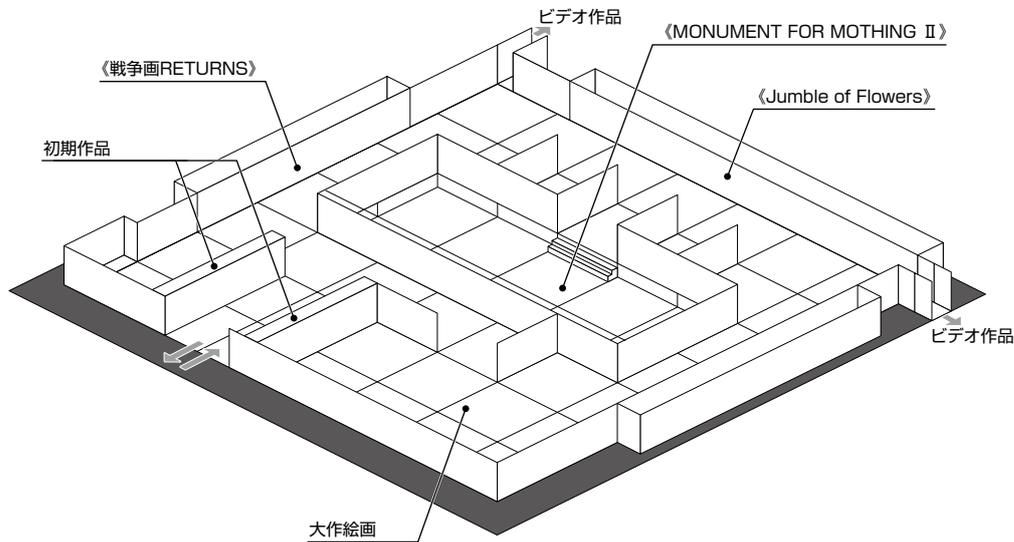
企画協力：ミズマアートギャラリー

観覧料：一般……………1,000円(800円)

大学・高校生……………800円(600円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

・映画鑑賞会

会田誠第1回監督作品

「The Natives@Ogi Island」(上映約50分)

9月12日(土) 13:00～/15:00～ 講堂

参加者数：30名/10名

9月19日(土) 13:00～/15:00～ 講堂

参加者数：20名/12名

9月20日(日) 11:00～/14:00～ 講堂

参加者数：20名/35名

9月21日(月) 11:00～/14:00～ 講堂

参加者数：18名/26名

9月22日(火) 11:00～/14:00～ 講堂

参加者数：10名/15名/25名

9月23日(水) 11:00～/14:00～ 講堂

参加者数：16名/22名

10月18日(日) 11:00～/14:00～ 講堂

参加者数：23名/22名

・講演会

「会田誠氏のお話」

9月26日(土)/10月17日(土) 14:00～ 講堂

講師：会田誠氏

参加者数：126名/185名

・美術鑑賞講座

「シミュレーションズ再考～ベトナム戦争から会田誠まで」

10月10日(土) 14:00～ 講堂

講師：藤田裕彦(当館学芸課長)

参加者数：26名

・当館外イベント

「長岡造形大学大学祭 会田誠氏講演会」

9月20日(日) 13:00～14:30 長岡造形大学大講堂

参加者数：265名

・その他

会田誠ワークショップ作品《MONUMENT FOR NOTHING II》の作成 会期中ほとんどの日数、会田さんが来館されワークショップを主宰

のべ参加者数：226名以上

近代美術館ホームページ内でほぼ毎日「今日の会田さん」と題して、その日の会田さんの様子を紹介。

【図録】

仕様：A4判横綴じ 90頁

編集：新潟県立近代美術館(藤田裕彦)

編集協力：ミズマアートギャラリー(三瀧末雄、日下恵理子)

発行：新潟県立近代美術館

内容：ごあいさつ/会田誠さんからのメッセージ

巻頭論文「会田誠に向かって」藤田裕彦

凡例/図版/会田誠発言集/略歴/主要参考文献

出品リスト



【関連記事】

- 9月3日(水) 新潟日報
 特集記事「会田誠 ま、Still Alive ってこーゆーこと
 長岡・県立近代美術館 12日開幕 創造 無限」／藤田裕彦
- 9月15日(火) 新潟日報
 座標軸「会田誠さん作品 表現の自由考える契機に」／大塚清一郎（論説編集委員）
- 10月17日(土) 新潟日報
 文化欄「新潟市出身現代芸術家会田誠さん 長岡・近代美術館で県内初の個展
- 11月12日(木) 新潟日報
 「美術・会田誠 ま、Still Alive ってこーゆーこと・時代を斬る「越後の恥」」
- その他 新潟日報 (8/28、9/4、9/12、9/27)
 十日町新聞 (8/27)
 妻有新聞 (9/4)

●雑誌

- 県民だより夏号
- センターニュースNo.93
- ニピイ8月号、9月号
- まるごと生活情報8月22日号
- HOT PEPPER 9月
- Campass 9月号
- ナジラビ 9月号
- 月刊アートコレクターズ 9月号
- ジャックランド9月/10月
- シネウインド9月/10月
- 財界にいがた9月号
- 月刊にいがた9月号
- ウエストタウン第100号
- エヌアッシュ 9月10日号
- 長岡よみうり 9月13日号
- カルチャー新潟 vol.84
- カットイン・アヴァン 10月号
- My Skip 11月
 「特集●“会田誠・展戦争画RETURNS” を考える」
- Komachi 11月号
- 月刊ウインド11月号

●美術雑誌

- 『月刊ギャラリー』2月号
 「巻頭インタビュー 会田誠」
- 『美術の窓』8月号
 「異論反論・現代美術 インタビュー会田家」
- 『月刊ギャラリー』9月号
 「会田家、故郷での大規模個展」
- 『アートコレクターズ』9月号
 「会田誠展」
- 『美術の窓』10月号
 「異論反論・現代美術 常に議論を巻き起こす現代美術家、故郷での初個展を開催中／「コンセプチュアル・アーティスト」としての会田誠の魅力に迫る」／藤田裕彦

- 『美術手帖』10月号
 「会田誠」
- 『芸術新潮』10月号
 「会田誠展」
- 『博物館研究』11月号

●テレビ

- 9月11日(金) NST
 みんなのニュース3部
 TeNYテレビ新潟
 タ方ワイド新潟一番3部
- 9月12日(土) UX新潟テレビ21
 ANNストレイトニュース
- 10月18日(日) TeNYテレビ新潟
 NNNストレイトニュース
- 10月24日(土) BSN新潟放送
 ダイばん／会田誠氏インタビュー

●ラジオ

- 9月21日(月) FMポート
 モーニング/会田誠氏インタビュー
- 9月25日(金) FMポート
 シーズンズ

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	7,221
	前売	1,355
無料観覧者数	招待	1,548
	無料	1,288
	免除	1,020
総観覧者数		12,432
有料率 (%)		69.0

担当 藤田裕彦



【出品リスト】

作品名	制作年	素材	サイズ(cm)	所蔵	展示
1 考えない人	2012	FRP, etc	313×181×150		エントランス ホール展示
2 (参考図版)あぜ道	1991	パネル、和紙、岩絵具、アクリル絵具	73×52	オリジナルは 豊田市美術館	企画展示室 入口展示
3 (参考図版)新潟こ世界(「みんなといっしょ」シリーズより)	2002	模造紙、油性マーカー、水彩絵の具	160×120	オリジナルは個人	企画展示室 入口展示
4 初期作品		約100点			
5 デザイン	1992	パネル、綿布、白亜地、卵テンペラ絵具、油絵具	143×245	国際交流協会	
6 無題(通称:電信柱)	1990	パネル、水性ペンキ、アクリル絵具	190×245		
7 雲古蜚鱗図	1992	膠、岩顔料、墨、金箔、和紙、襖	175.5×104		
8 近所の洋食屋さん	1992	油彩、キャンバス	80×100		
9 死んでも命のある菓	1988	パネル、アクリル系の下地、油絵具、明治マーブル チョコレート筒	181.2×227.2		
10 727	2007	油彩、キャンバス	194×112		
11 大山椒魚	2003	パネル、アクリル絵画	314×420	高橋コレクション	
12 電信柱、カラス、その他	2012	パネル、キャンバス、アクリル絵画(六曲一雙屏風)	360×1020	森美術館	
13 灰色の山	2009-2011	アクリル絵具、キャンバス	300×700	タグアートコレクション	
14 愛ちゃん盆栽(ほおずき)小料理屋にて	2008	ラムダプリント			
15 愛ちゃん盆栽(松)お庭にて	2008	ラムダプリント			
16 愛ちゃん盆栽(檜)	2007	ミクストメディア	29.5×20×17	個人	
17 新宿御苑大改造計画	2001	シナベニヤ、黒板塗料、チョーク	182×846		
18 日本語	2008	和紙、金箔、銀箔、墨	28×800		
19 ポスター(全18連作中15点)	1994	画用紙、ポスターカラー、鉛筆、クレヨン、油性マーカー、その他	54.7×70.6×54.7		
20 ハンサムな詐欺師	1998	裏面がコアテックス加工のナイロン製懸架(ツェルト)テント、 ラッカー塗料、ナイロンテープ、プラスチック製ベグ(テントの杭)	200×200		
21 通訳/Translator	2005	キャンバスにシルクスクリーン、和紙にシルクスクリーン(2点組)	83×83		
22 The Video of a man calling himself Japanese Prime- minister Speeching in International Conference	2014	video	26'07"		
23 日本に潜伏中のビン・ラディンと名乗る男からのビデオ	2005	video	8'14"		
24 Jumble of 100 Flowers	2012	キャンバス、アクリル絵画	200×1750		
25 コメットちゃん	2015	FRP, etc	222×180		
26 会田誠+21st Century Cardboard Guild MONUMENT FOR NOTHING II	2008	ダンボール、その他			
27 美術と哲学2 フランス語、ドイツ後、英語	2011	ビデオ			
28 ゲームの国	2008	Nintendo DS, programmed software			
29 《いろは》新作インスタレーション	2015	木版画、その他	400×1200	作家	
30 たいらっぴょう	1995	Video (endless)			
31 おにぎり仮面の小さすぎる旅	2005~	Video			
32 ロンリープラネット	1998	Video			
33 書道教室	2007	アルミ複合版、カッティングシート	280×280		
34 美しい旗(戦争画 RETURNS)	1995	襖、蝶番、木炭、大和のりをメディウムにした 自家製絵具、アクリル絵画(二曲一雙屏風)	169×169	高橋コレクション	
35 大皇乃敝ル許曾死米(戦争画 RETURNS)	1996	四曲一雙屏風、旅行代理店のパンフレット(ハワ イを除き沖縄を加えた南方の島々のもののみ)、 油絵具、水彩絵具、墨、襖、蝶番	178×273	個人	
36 たまゆら(戦争画 RETURNS)	1999	襖、蝶番、麻布、アクリル絵具、油絵具(二曲一雙屏風)	169×169	東京都現代美術館	
37 紐育空爆の図(戦争画 RETURNS)	1996	襖、蝶番、日本経済新聞、ホログラムペーパーにプ リントアウトしたCGを白黒コピー、チャコールペン、 水彩絵具、アクリル絵具、油性マーカー、事務用修 正ホワイト、鉛筆、その他(六曲一雙屏風)	169×378	高橋コレクション	
38 ドーハ	2008	ブロンズ	39.5×45.7×4.5		
39 Your Pronunciation is Wrong!	2000	タイプCプリント			
40 My Peace Pole	2005	木、ペンキ、エナメル塗料	183×8.7×8.7		
41 SONY	1999	段ボール、アクリル絵具			
42 一人デモマシーン	2002	コンピューター、マイク、スピーカー、布、木材、その他			
43 一人デモマシーン(サラリーマン反対)	2005	布、インクジェットプリント	116.5×87.7		
44 ふるさとはNO FEELING(「みんなといっしょ」シリーズより)	2013	パネル、蝶番、金色の折り紙、木工用ボンド、 水性ペイント、水性スプレー(四曲一雙屏風)	250×560		
45 美術と哲学3 ハイデッガー 存在と時間	2012	油彩画、本、定点観測カメラの記録に よるインスタレーション			
46 Minimun Society Recording Device	2013	ミクストメディア	183×200×200		
47 おにぎり仮面の小さすぎる旅	2005	タイプCプリント	30.5×41.5		
48 津田沼	1998	透明フィルム、ライトボックス	100×150×8		
49 The Natives @ Ogi Island	2012	video	48'00"		講堂で上映



生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』

【趣旨】

新潟県燕市出身のグラフィックデザイナー亀倉雄策（1915-1997）の生誕100年を記念した展覧会。数々の傑作を生み出し、日本のグラフィックデザイン史を最前線で牽引してきた彼が、晩年責任編集者として情熱を注いだ、デザイン誌『クリエイション』に焦点を当てた。

本展では、亀倉によって選ばれ『クリエイション』誌上で取り上げられた、グラフィックデザイナー、イラストレーターをはじめ様々なアーティストの作品の魅力を伝えるとともに、原稿やラフスケッチ、スクラップブックなどの関連資料も併せて展示。亀倉のデザイン観や本誌にかける想いを紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・世界中の様々なジャンルの作家の作品や、これまで活用機会の少なかった『クリエイション』関連資料を、広く紹介する機会となった。
- ・展覧会図録は亀倉による『クリエイション』まえがきの再掲、関係者による座談会を掲載。充実した内容とすることができた。
- ・実際に『クリエイション』全号を手に取り、閲覧できるコーナーが好評であった

●検討課題

- ・海外作家を中心とした著作権処理が煩雑となり印刷物制作が大幅に遅れた。
- ・上記により広報に十分な配慮が行き届かず、入場者数は目標を下回った。また、デザイン展に対する一般の関心の薄さも感じられた。

【開催日・その他】

=2015年11月14日(土)~2016年1月17日(日) (50日間)=

主催：新潟県立近代美術館、新潟日报社

協力：株式会社リクルートホールディングス クリエイション
ギャラリー G8、NST、新潟県立美術館友の会

後援：公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)、
長岡市、長岡市教育委員会、NHK新潟放送局、
BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、
ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、
FM PORT 79.0

観覧料：一般……………1,000円(800円)

大学・高校生……………800円(600円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金

【関連行事】

・トークイベント

「亀倉雄策と『クリエイション』」

11月14日(土) 14:00~15:30 講堂

ゲスト：大迫修三氏(公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会事務局長)

聞き手：伊澤朋美(当館主任学芸員)

参加者数：25名

・美術鑑賞講座

「デザインって何？」

11月21日(土) 14:00~15:30 講堂

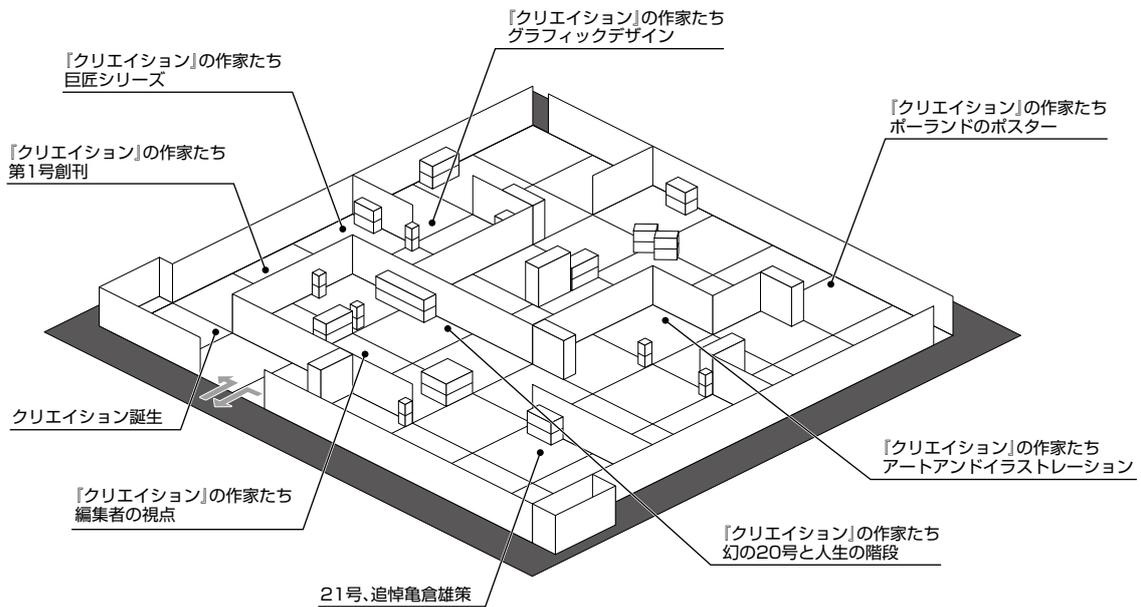
講師：藤田裕彦(当館学芸課長)

参加者数：13名

・企画展ギャラリートーク

11月29日(日) / 12月13日(日) / 2016年1月16日(日)
14:00~ 企画展示室

参加者数：6名 / 10名 / 15名

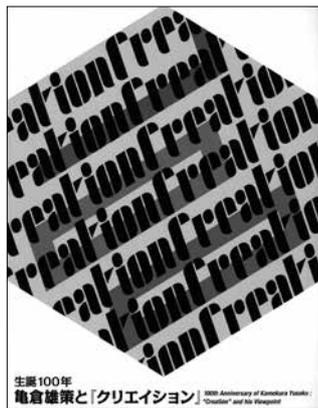


- ・特別上映会
生誕100年記念シンポジウム「亀倉雄策のデザイン未来に向けて」
12月6日(日)／2016年1月16日(土) 13:00～ 講堂
参加者数：7名／16名
※協力：毎日新聞社

【図録】

仕様：280×216mm 134頁
編集：新潟県立近代美術館（伊澤朋美）
発行：新潟県立近代美術館
内容：ごあいさつ

- 謝辞
- 亀倉雄策『クリエイション』1-20号のまえがき（再録）
- 図版
- 座談会「クリエイションのころ」
- 出品作家略歴
- 年譜
- 参考文献
- 出品リスト



【関連記事】

- 新聞
12月9日(水) 新潟日報
展覧会へようこそ「亀倉雄策とクリエイション」／伊澤朋美
- その他 十日町新聞（10/29）
長岡新聞（11/3）
妻有新聞（11/6）
新潟日報（11/14）
朝日新聞（12/18）
信濃毎日新聞（12/18）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	1,315
	前売	211
無料観覧者数	招待	741
	無料	623
	免除	172
総観覧者数		3,062
有料率（%）		49.0

担当 伊澤朋美

【出品リスト】

作家名	作品名	制作年	所蔵	素材	サイズ (縦×横)cm	展示
クリエイション誕生						
亀倉雄策とリクルート						
亀倉雄策	「企業への招待」表紙 日本リクルートセンター	1964	当館		各25.5×38.5(2点)	
亀倉雄策	「リクルートメント」表紙 日本リクルートセンター	1964	当館		No.1:25.5×38.5 No.2:25.5×18.0	
亀倉雄策	「ブレスメント 就職指導の資料と情報」表紙 日本リクルートセンター	1966	当館		青:25.5×36.0 茶:25.5×18.0	
	ロゴタイプラフスケッチ「Creative Center Recruit / Creation Creation」		当館		37.8×31.0	
	ロゴタイプ「Recruit Creative Center」		当館		各27.0×39.5	
	亀倉雄策デザイン研究室 封筒、便箋、亀倉雄策 名刺		当館		封筒:11.5×23.0 便箋:29.5×20.8 名刺:6.5×9.0	
	ロゴタイプ下書き「G8 Galry」、ロゴタイプ「G8 Galry」		当館		下書き:27.2×39.7 ロゴタイプ:25.3×30.4	
	ロゴタイプ「G8 Gallery」		当館		27.1×39.7	
亀倉雄策	日本リクルートセンタートレードマーク	1961	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	リクルートRCSロゴタイプ、INS・ISRロゴタイプ	1987	当館	オフセット、紙	各103.0×72.7(2点)	
亀倉雄策	リクルートイメージポスター	1987	当館	オフセット、紙	103.0×218.0	
「クリエイション」の作家たち						
第1号創刊						
	ロゴタイプラフスケッチ「Katachi / Designo」		当館		25.5×18.0	
	ロゴタイプラフスケッチ「DESIGNO / VISION / VISUAL / VISION」		当館		25.5×18.2	
	ロゴタイプラフスケッチ「Desiign Vision / DesiGno」		当館		25.5×18.2	
	ロゴタイプラフスケッチ「Creative Graphic」		当館		29.0×33.2 28.5×33.0	
	ロゴタイプ「DisiGno」		当館		27.0×39.7 27.0×39.5 27.0×39.7 27.0×39.5 19.7×27.0	
	ロゴフォントラフスケッチ「Cre」、「ski」		当館		各18.2×25.7	
	ロゴフォントパーツ案		当館		38.5×28.3	
	ロゴフォント案		当館		27.0×39.5	
	1号表紙案 ラフスケッチ		当館		各:33.0×29.5	
	1号作家執筆者 文字指定メモ		当館		18.2×25.7	
	1号見出し 文字指定		当館		36.0×62.0	
	1号見出し 英文		当館		19.8×27.3	
	1号表紙 ラフスケッチ		当館		各30.0×22.8	
	1号 表紙原稿、解説ページ原稿		当館		各:30.0×23.5	
	あいざつ文		当館		29.7×21.0	
	創刊チラシ		当館		30.0×21.0	
	投げ込み 原稿		当館		39.5×27.0 19.8×27.2	
	クリエイション広告		当館		各29.3×21.0	
	クリエイション広告		当館		各24.8×17.7	
田中一光	ヒロシマビールズ	1988	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
田中一光	JAPAN	1987	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
早川良雄	女	1985	個人	水彩、紙	67.6×55.8(外寸)	
早川良雄	顔	不詳	当館(亀倉雄策旧蔵)	石膏ボード	51.6×36.5	
ブルーノ・ブルーニ	星月夜	1989	当館(亀倉雄策旧蔵)	リトグラフ、紙	77.0×59.0	
スタシス・エイドリグヴィチウス	クウォツコ市庁舎「スタシス・エイドリグヴィチウス展」	1985	個人	オフセット、紙	94.3×66.0	
スタシス・エイドリグヴィチウス	自殺者	1988	武蔵野美術大学 美術館・図書館	オフセット、紙	98.0×67.5	
サイトウ・マコト	MASAMI TSUCHIYA LIFE MIRRORS	1987	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
サイトウ・マコト	ALPHA CUBIC	1987	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×145.5	
巨匠シリーズ						
ポール・ランド	インターフェイスデイ	不詳	個人	オフセット、紙	103.0×74.6	
ポール・ランド	IBM (復刻世界のポスター 100より)	1995復刻(オリジナルは1982)	当館	オフセット、紙	102.8×68.5	
ポール・ランド	絵皿のデザイン	1956-57	個人	陶器(2枚)	各直径12.0×高さ1.7	
亀倉 雄策(編著・装丁)	「ポール・ランド作品集」 造形社	1959	当館	書籍	26.0×25.5	
	広告原稿		当館		27.1×39.5	
ポール・ランド	無題	1954 年頃	当館(亀倉雄策旧蔵)	水彩、紙	34.5×49.5	
ヘンリック・トマシェフスキー	ヒストリアー	1989	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	96.7×66.0	
ヘンリック・トマシェフスキー	第13回ワルシャワポスタービエンナーレ	1990	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	91.0×63.0	
	広告原稿		当館		31.0×26.7 35.0×27.3	
ヘンリック・トマシェフスキー	タイトル不詳	1994	個人	水彩、鉛筆、紙	20.6×25.8(外寸)	

レイモン・サヴィニャック	ピックのボールペン しなやかな書き心地	1956	宇都宮美術館	リトグラフ、紙	115.0×156.4	
レイモン・サヴィニャック	チンザノ (復刻世界のポスター 100より)	1995復刻(オリジナルは1951)	当館	オフセット、紙	103.0×139.5	
ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン	工芸美術館創立100周年記念「あかり展：日本の伝統照明とモダン照明」 [ヤマギワ美術財団主催国際照明コンペ]	1975	宇都宮美術館	シルクスクリーン、紙	128.0×60.9	前期
ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン	第12回チューリヒ音楽会館シンフォニー・コンサート「今日の音楽」	1970	宇都宮美術館	シルクスクリーン、紙	127.6×90.4	後期
ヘルベルト・ロイピン	最高級のヘア・トニック「バンテーン」	1945	宇都宮美術館	リトグラフ、紙	127.6×90.0	
ヘルベルト・ロイピン	スイス国営サーカス「クニー」	1956	宇都宮美術館	オフセット、紙	99.8×69.8	
ジョバンニ・ピントーリ	オリヴェッティのポータブル・タイプライター レッテラ22	1949	宇都宮美術館	オフセット、紙	69.8×50.4	
ジョバンニ・ピントーリ	オリヴェッティの電動計算機 テトラクティス	1954	宇都宮美術館	オフセット、紙	69.9×50.1	
ジョバンニ・ピントーリ	オリヴェッティ広告(復刻作品集より) Olivetti	不詳(オリジナルは1958-62)	株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリー-G8		各38.5×28.0(4点)	
	台割		当館		40.2×53.3	
	校正		当館		各37.5×51.5(2点)	
グラフィックデザイン						
横尾忠則	GREETING (復刻戦後日本のポスター 100より)	1991復刻(オリジナルは1973)	当館	オフセット、紙	103.0×73.1	
横尾忠則	千年王国への旅 横尾忠則近作展	1973	個人	オフセット、紙	103.0×68.0	
仲條正義	タクティクスデザイン(復刻戦後日本のポスター 100より)	1991復刻(オリジナルは1988)	当館	オフセット、紙	各103.1×72.6(2点)	
	広告原稿		当館		27.2×39.5	
杉浦康平(構成)/岩田慶治(監修)	『アジアのコスモス+マンダラ』 講談社	1982	武蔵野美術大学 美術館・図書館	書籍	29.4 x 19.8	
松長有慶、杉浦康平(編)	『美と宗教のコスモス1—マンダラの世界』 講談社	1983	武蔵野美術大学 美術館・図書館	書籍	21.4 x 15.6	
岩田慶治、杉浦康平(編集)	『美と宗教のコスモス2—アジアの宇宙観』 講談社	1989	武蔵野美術大学 美術館・図書館	書籍	21.4 x 15.6	
杉浦康平(表紙構成)	『銀花』 文化出版局	1975-82	武蔵野美術大学 美術館・図書館	雑誌	各25.7×18.4(3冊)	
戸田正寿	VIVRE21	1988	富山県立近代美術館	オフセット、紙	各103.0×145.5(2点)	
永井一正	リリーカラー	1974	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.1×73.1	
永井一正	WATER IS LIFE	1989	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
	クリエイション5号 表紙、表紙 ラフスケッチ		当館		30.0×22.5 36.0×53.0	
	ライオン、ワニ、魚(永井一正ポスター作品より)		当館		各26.0×36.0	
K2 長友啓典&黒田征太郎	長明三味線	1981	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.×72.8	
K2 長友啓典&黒田征太郎	慶応四年のガンファイター	1980	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	103.×72.8	
五十嵐威暢	EXPO'85 科学万博—つくば'85	1982	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
福田繁雄	VICTORY 1945	1976	富山県立近代美術館	オフセット、紙	97.3×67.5	
福田繁雄	12人のアーティスト(モナリザ)	1984	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	103.0×72.8	
田中一光(デザイン)/アーヴィング・ペン(写真)/三宅一生(服)	Issey Miyake A-UN	1988	富山県立近代美術館	オフセット、紙	各175.0×119.4(2点)	
勝井三雄	APE CALL FROM TOKYO	1991	富山県立近代美術館	オフセット、紙	145.0×102.5 103.0×72.8	
タナカノリュキ	VIVRE'91 WINTER	1991	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×145.6	
水谷孝次	スウォッチ企業ポスター	1987	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	各102.8×72.8(2点)	
松永真	VISION OF WATER	1989	当館	オフセット、紙	103.0×72.8	
松永真	PEACE	1986	当館	オフセット、紙	103.0×72.8	
佐藤見一	ミュージックメディア 新音楽媒体	1974	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	103.0×72.6	
粟津潔	ポスターニッポン展	1972	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	103.0×72.7	
遠藤亨	space & space "Pencil 9"	1986	個人	オフセット・リトグラフ、 アルシュペーパー	59.0×59.0	前期
遠藤亨	space & space "N-1"	1992	個人	オフセット・リトグラフ、 アルシュペーパー	73.0×73.0	前期
遠藤亨	space & space "Apple 4"	1985	個人	オフセット・リトグラフ、 アルシュペーパー	59.0×59.0	後期
遠藤亨	space & space "N-3"	1992	個人	オフセット・リトグラフ、 アルシュペーパー	73.0×73.0	後期
遠藤亨	ERATH CRISIS WOOD 2	1992	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
浅葉克己	セゾングループ ちびまるこ	1990	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
浅葉克己	TYPOGRAPHY IN ASIA : A VIEW FROM TOKYO	1990	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
浅葉克己	アートディレクター△△展2	1992	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
原研哉	TAKEO PAPER WORLD '92	1992	富山県立近代美術館	オフセット、紙	各103.0×72.8(2点)	
石岡瑛子	ある劇場である。とても、バブルコである。	1983	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
石岡瑛子(著)	『石岡瑛子 風姿花伝 —Eiko by Eiko』 求電堂	1983	株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリー-G8	書籍	30.5×34.5	
青葉益輝	環境ポスター	1992	富山県立近代美術館	オフセット、紙	各103.0×72.8(2点)	
青葉益輝	平和が飛べない	1981	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
靳埭強	香港著名画家十三人展	1989	富山県立近代美術館	オフセット、紙	98.8×69.3	
ブラッド・ホランド	I'm Coming Apart	1990	富山県立近代美術館	オフセット、紙	96.3×58.3	
ブラッド・ホランド	牛の絵入り手紙	1991	当館(亀倉雄策旧蔵)	鉛筆 紙 コンテ	38.5×32.4(外寸)	
シーモア・クワスト	戦争は狂気	1985	富山県立近代美術館	オフセット、紙	91.4×61.0	
シーモア・クワスト(絵)	『Happy Birthday, Bach』 Dolphin/DoubledayBook	1985	株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリー-G8(亀倉雄策旧蔵)	書籍	23.0×23.0	
ミルトン・グレーザー	ラダ近辺の風景	1989	個人	リトグラフ、紙	67.3×88.5(外寸)	

ミルトン・グレーザー	ヴォルパイアからの風景	1989	個人	リトグラフ、紙	67.6×86.3 (外寸)
ミルトン・グレーザー	キュビストチェリスト	1990	富山県立近代美術館	オフセット、紙	91.4×60.9
ポール・ディヴィス	スピークアウト	1983	富山県立近代美術館	オフセット、紙	116.9×76.2
ポール・ディヴィス	Jiggs II	不詳	当館(亀倉雄策旧蔵)	リトグラフ、紙	33.2×43.0
	台割		当館	リトグラフ、紙	37.5×51.5
マックレイ・マグルビー	PEACE	1985	個人	シルクスクリーン、紙	101.2×66.0
マックレイ・マグルビー	Reach for the stars (大学の履修申請期限の広報ポスター)	1990	個人	シルクスクリーン、紙	88.9×58.3
スコロス/ウェデル	EMI ミュージック・ポスター	1991	富山県立近代美術館	オフセット、紙	100.0×68.0 (変形ポスター)
マイケル・ヴァンダーバイル	エキジビター・ショウ'91	1991	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	86.3×61.5
マイケル・シュワップ	カウボーイ	1987	富山県立近代美術館	オフセット、紙	91.4×60.9
ソール・バス	映画「黄金の腕」(復刻世界のポスター 100より)	1995復刻(オリジナルは1955)	当館	オフセット、紙	103.0×72.5
	ロゴタイプ原稿(映画「或る殺人」)		当館		23.6×23.3
	ロゴタイプ原稿(映画「栄光への脱出」)		当館		20.5×21.0
	ロゴタイプ下書き(映画「男と女のあいだ」)		当館		36.5×42.0
ハーブ・ルバリン	反戦ポスターコンペの告知ポスター	不詳	個人	オフセット、紙	63.5×48.0
	ロゴタイプ原稿(新オフィス開設の通知)、ロゴタイプ原稿		当館		30.0×39.5 30.5×45.5
	ロゴタイプ原稿(ビジネス機器会社のロゴタイプ/写真家のロゴタイプ)		当館		25.4×20.3
	ロゴタイプ下書き		当館		21.0×29.7
	ロゴタイプカラーコピー、ロゴタイプ下書き		当館		22.8×29.7 21.0×29.7
	ロゴタイプ 色指定		当館		36.4×25.7
ヘンリー・ウルフ	「domus」イラスト「バチカン」	制作年不詳	株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリー-G8		32.5×24.5
ヘンリー・ウルフ	「PHOTOGRAPHIS」表紙	1970/1976	株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリー-G8		30.5×24.2
オルガー・マチス	演劇「たくらみと恋」(復刻世界のポスター 100より)	1995復刻(オリジナルは1985)	当館	オフセット、紙	103.0×73.0
ペア・アーノルディ	建設会社「エリオン&バイルト・ブーヘン」(復刻世界のポスター 100より)	1995復刻(オリジナルは1987)	当館	オフセット、紙	103.0×73.0
メンデル&オペラー	キール週間	1985	富山県立近代美術館	オフセット、紙	118.7×84.0
メンデル&オペラー	デザイン・プロセス・オート	1986	富山県立近代美術館	オフセット、紙	118.7×84.0
オーダーマット&ティッシ	ロシア週間のポスター	1989	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	128.0×90.2
マックス・フーバー	展覧会ポスター	1990	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	128.0×90.5
マックス・フーバー	「CALLIGRAPHY 1535-1885」	1962	株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリー-G8(亀倉雄策旧蔵)	書籍	24.5×17.5
マックス・フーバー	「Max Huber progetti grafici 1936-1981」	1981	株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリー-G8(亀倉雄策旧蔵)	書籍	24.0×22.0
	校正		当館		37.7×51.4
	校正		当館		37.2×51.4
	la Rinascente アルファベット部分		当館		8.6×20.2
	la Rinascente アルファベット部分		当館		25.4×30.4
ヴェルネル・イエカー	マン・レイ展	1990	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	128×90.6
ヴェルネル・イエカー	ル・コルビジエ展	1987	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	127.5×90.0
ブルーノ・モングッツィ	NANDO SNOZZI	1989	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	127.8×90.3
ブルーノ・モングッツィ	不在の存在(20世紀の芸術と写真展)	1990	富山県立近代美術館	オフセット、紙	128.0×90.5
ニクラウス・トロクスラー	セシル・テイラー・ロコンサート	1989	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	128.0×90.5
カール・ドメック・ガイシューラー	イゴール・ストラヴィンスキー	1986	富山県立近代美術館	オフセット、紙	127.3×90.5
グラビウス	人種差別制度/民主主義	1984	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	160.0×110.0
イタロ・ルビ	展覧会「モーダ・イタリア」(復刻世界のポスター 100より)	1995復刻(オリジナルは1988)	当館	オフセット、紙	103.0×71.0
亀倉雄策	「クリエイション」1~20号	1989-1994	当館	書籍	各30.0×22.5
ポーランドのポスター					
ロマン・シェスレヴィッチ	フォトモンタージュ展	1981	武蔵野美術大学 美術館・図書館	オフセット、紙	93.2×67.2
ミェチスワフ・グロフスキー	ポスター展	1984	富山県立近代美術館	オフセット、紙	67.3×97.2
ミェチスワフ・グロフスキー	古い祭日用絵巻書(展覧会ポスター)	1986	富山県立近代美術館	オフセット、紙	67.3×97.5
アンジェイ・ドゥジンスキ	Promotional poster for Body Shop: Hello America	1989	富山県立近代美術館	オフセット、紙	152.5×101.7
ヴィクトル・サドフスキ	ブルーノ・エル	1987	富山県立近代美術館	オフセット、紙	68.4×97.0
ヤン・ムウォドゼニツ	ツェペリアー乗り物	1972	個人	オフセット、紙	97.2×66.3
ヤン・ムウォドゼニツ	サーカス-馬	1972	個人	オフセット、紙	96.3×66.0
ヴァルデマル・シフィエジ	エイジ・マクシミウク指揮、ポーランド室内楽団	1982	個人	オフセット、紙	97.5×67.3
ヴァルデマル・シフィエジ	ジャズの巨匠 レイ・チャールズ	1988	個人	オフセット、紙	98.3×67.3
ヤン・レニツァ	ヴォツェック	1964	武蔵野美術大学 美術館・図書館	オフセット、紙	94.0×67.0 前期
ヤン・レニツァ	コペルニクスに捧げる劇(コペルニクス記念行事)	1973	武蔵野美術大学 美術館・図書館	オフセット、紙	98.0×68.0 後期
ヤン・レニツァ	人形劇博物館	1984	富山県立近代美術館	オフセット、紙	84.1×59.3
フランチシェク・スタロヴィエイスキ	ゴレム	1979	武蔵野美術大学 美術館・図書館	オフセット、紙	97.0×67.0
フランチシェク・スタロヴィエイスキ	ドン・ジョヴァンニ	1976	武蔵野美術大学 美術館・図書館	オフセット、紙	95.0×67.0
ヴィエスワフ・ヴァウクスキ	カリギュラ(映画ポスター)	1990	富山県立近代美術館	オフセット、紙	94.7×66.1

ヴィエスワフ・ヴァウクスキ	リア王(演劇)	1992	富山県立近代美術館	オフセット、紙	96.5×67.5
イエジー・チェルニャフスキ	オペラのポスター「TOSCA」	1985	武蔵野美術大学 美術館・図書館	オフセット、紙	95.7×67.0
ヤン・サフカ	展覧会ポスター／自薦回顧展	1990	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	100.5×76.9
ヤン・サフカ	ヤン・サフカ展	1989	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	90.6×63.5
ヤン・サフカ	ヤン・サフカ展	1985	個人	シルクスクリーン、紙	103.3×75.7(外寸)
ヴィエスワフ・ロンハ	シェイクスピア「ハムレット」	1983	個人	オフセット、紙	96.9×65.0
ヴィエスワフ・ロンハ	コジンスキー「異端の鳥」	1988 / 1991(印刷)	個人	オフセット、紙	95.6×68.2
ヴィエスワフ・ロンハ	TEMPTING WITH BLACK	1995	個人	水彩、パステル、鉛筆、紙	61.7×51.6(外寸)
	【映像】 第1回世界ポスタートリエンナーレトヤマ	北日本放送 1985			第1回：12分
	第2回世界ポスタートリエンナーレトヤマ	富山テレビ放送 1988			第2回：18分

アートアンドイラストレーション

田中一光(デザイン) / 滝野晴夫(イラストレーション)	探偵	1973	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8
石岡瑛子(デザイン) / 滝野晴夫(イラストレーション)	コヤニスカッティ	1984	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×145.5
瀬戸照	珪孔雀石	1989	個人	アクリル絵具、ボード	25.7×36.4
瀬戸照	砂利石	1989 / 2010	個人	アクリル絵具、ボード	25.7×36.4
瀬戸照	バラ(枯れたバラ)	1990	個人	アクリル絵具、ボード	25.7×36.4
磯野宏夫	カジュマル	2010	エメラルドフォレスト	アクリル絵具、イラストボード	53.3×45.6
磯野宏夫	シルベスの朝	2000	エメラルドフォレスト	アクリル絵具、イラストボード	45.5×37.9
上村次敏	イタリア、パピアの大聖堂	1994	当館(亀倉雄策旧蔵)	テンペラ、板	45.0×32.5
野又権	永遠の風景-24	1988	東京オペラシティ アートギャラリー	アクリル、キャンバス	91.0×60.6
ロゼリン・デリー	作品	不詳	当館(亀倉雄策旧蔵)	陶器	直径10.8×高さ7.0
フレッド・オトネス	時計	不詳	当館(亀倉雄策旧蔵)	立体	直径26.5×厚さ3.0
ジャン＝ミッシェル・フォロン	酔っぱらい	1945	当館(亀倉雄策旧蔵)	水彩、紙	16.5×23.0
ジャン＝ミッシェル・フォロン	タイトル不詳	1989	個人	鉛筆、水彩、紙	43.3×58.2(外寸)
ジャン＝ミッシェル・フォロン(絵)	フランツ・カフカ「変身」 Olivetti	1973	株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリーG8	書籍	35×28.5
石元泰博	多重露光	1952-92	武蔵野美術大学 美術館・図書館	カラープリント	各28.0×28.0(3点) 前期
石元泰博	多重露光	1952-92	武蔵野美術大学 美術館・図書館	カラープリント	各28.0×28.0(3点) 後期
片山利弘	drawing N-6	1982	当館(亀倉雄策旧蔵)	アクリル・クレパス、紙	98.9×69.2
谷口広樹	懐かしい山	1990	個人	英国製ホームメイドペーパー、墨、顔彩	46.0×36.5
谷口広樹	海の火山、山の波	1993	個人	メキシコ製ホームメイドペーパー、鉛筆	30.0×39.5
山本容子	ジャック・プレヴェール	1992	当館(亀倉雄策旧蔵)	エッチング、手彩色	34.7×49.1
舟越桂	風をためて	1983	栃木県立美術館	楠に彩色、大理石	横41.0×奥行28.0×高さ91.0 ~12/27
たむらしげる	「水の中の街」(映像作品「銀河の魚より」)	1993	個人	リトグラフ、紙	44.0×56.0(外寸)
クヴィエタ・パツォウスカ	射撃場	1979-85	ちひろ美術館	リトグラフ、紙	44.0×65.0 前期
クヴィエタ・パツォウスカ	「数の人」	1987	ちひろ美術館	ペインティング・コラージュ	41.5×59.0 前期
クヴィエタ・パツォウスカ	「ふしぎなかず」のイメージ	1994	ちひろ美術館	リトグラフ、紙	50.0×65.0 後期
クヴィエタ・パツォウスカ	「文字の道化師」	1987	ちひろ美術館	ペインティング・コラージュ、紙	41.5×59.0 後期
クヴィエタ・パツォウスカ	「すずの兵隊」	1987	ちひろ美術館	リトグラフ、紙	30.2×21.0×1.3
ひびのこづえ	黒のシャツ	1992	個人	綿、テープ(化学繊維)	
ひびのこづえ	黄色シャツ	1991	個人	化学繊維、染料	
伊藤秀男	ハマサの店	1979-80	個人	油彩・アクリル、キャンバス	47.0×40.0
伊藤秀男	寄付集め	1989	個人	水彩、紙	45.0×55.0
伊藤秀男	数珠返し	1982	個人	水彩、紙	45.0×55.0
土橋とし子	母子家庭	1989	個人	アクリル絵具・蠟、紙	26.3×28.7
土橋とし子	もうひとつの姿でこ旅	1989	個人	アクリル絵具・蠟、紙	20.0×32.4
土橋とし子	おいしいぼく	1990	個人	アクリル絵具・蠟、紙	27.0×40.0
下谷二助	亀倉雄策イラストレーション 原画	不詳	個人	インク、パステル、紙	各39.5×27.0(3点)
下谷二助	目玉灯台	1992	個人	リトグラフ、紙	63.0×86.0(外寸)

幻の20号と人生の階段

サウル・スタインベルグ	スタインベルグ展ポスター	不詳	個人	オフセット、紙	115.1×75.5
	20号(サウル・スタインベルグ特集)ダミー本		当館		29.9×22.4
	台割		当館		40.0×55.0
	原稿		当館		各37.6×51.4(4点)
	スタインベルグへの手紙 1		株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリーG8		25.7×18.2
	スタインベルグへの手紙 2		株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリーG8		18.2×25.7
	スタインベルグへの手紙 3		株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリーG8		18.2×25.7
勝井三雄	AIR : I'M HERE.	1993	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8
永井一正	Save me, please. I'm here	1993	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	103.0×72.8
田中一光	田中一光グラフィックアート植物園 1	1993	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8
杉浦康平(デザイン)	『日本の美学』ペリかん社	1990-92	武蔵野美術大学 美術館・図書館	書籍	各22.2×15.0(2点)

サイトウ・マコト	TRANS ART '91 LOOK AT 0002	1991	富山県立近代美術館	シルクスクリーン、紙	104.6×147.2	
葛西薫(デザイン) / 仲條正義(イラストレーション)	セゾン生命	1989	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×72.8	
戸田正寿	伊勢丹 1990	1990	富山県立近代美術館	オフセット、紙	103.0×145.6	
松永真	仁摩サウンドミュージアム	1991	当館	オフセット、紙	103.0×72.8	
亀倉雄策	クリエイション掲載作家近作展	1994	当館	オフセット、紙	103.0×72.8	
編集者の視点						
	『紋徒具し(紋づくし)』 芸艸堂	1925 (1915 初版)	株式会社リクルートホールディングス クリエイションギャラリー G8 (亀倉雄策旧蔵)	書籍	26.8×18.5	
	日本の紋章 ページ		当館		各29.8×21.4	
	エレザー・アービン「英国の昆虫生態史」	1724	当館(亀倉雄策旧蔵)		26.8×21.5	
	マルティン・レーダーミュラー「顕微鏡で見る楽しさと眼の喜び」	1790	当館(亀倉雄策旧蔵)		各25.7×20.5 (2冊)	
瀧口修造	私の心臓は時を刻む 「わたしにさわってはいけない」 / 「孤独の起源」 / 「マチュアス・グリュネヴァルトの幽霊」	1962	富山県立近代美術館	紙、透明水彩絵具	各20.0×15.0(外寸) (3点)	前期
瀧口修造	私の心臓は時を刻む 「わたしにさわってはいけない」 / 「わたしにさわってはいけない」 / 「マチュアス・グリュネヴァルトの幽霊」	1962	富山県立近代美術館	紙、透明水彩絵具	各20.0×15.0(外寸) (3点)	後期
パブロ・ピカソ	ランプの下の静物	1962	当館(亀倉雄策旧蔵)	リノカット、紙	93.5×52.5	
	パブロ・ピカソ絵画(レプリカ)	不詳	当館(亀倉雄策旧蔵)	陶器	皿直径41.5 / 59.3× 59.3(外寸)	
矢島文夫(監修) / 田中一光(構成) / モリサワ(制作・企画)	「文字の博物館」 白水社	1984	当館	書籍	37.0×26.7	
	スクラップブック		当館	スクラップブック	各29.6×22.5 (5点)	
21号、追悼亀倉雄策						
亀倉雄策	原子エネルギーを平和産業に!	1956	当館	シルクスクリーン、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	地下鉄開通記念	1956	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	ニコールレンズ	1955	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	ニコンカメラ	1957	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	ヤマギワ国際照明器具コンペ入賞作品展	1968	当館	シルクスクリーン、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	The Language of Light (コレクションシリーズNo.3)	1982	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	東京オリンピック 公式ポスター 1号	1961	当館	グラビア印刷、紙	103.0×55.0	
亀倉雄策(デザイン) / 村越妻(フォトディレクション) / 早崎治(写真)	東京オリンピック 公式ポスター 2号	1962	当館	グラビア印刷、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策(デザイン) / 村越妻(フォトディレクション) / 早崎治(写真)	東京オリンピック 公式ポスター 3号	1963	当館	グラビア印刷、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策(デザイン) / 早崎治(写真)	東京オリンピック 公式ポスター 4号	1964	当館	グラビア印刷、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策(デザイン) / 北井三郎(写真)	万座スキー場	1967	当館	シルクスクリーン、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策(デザイン) / 北井三郎(写真)	苗場スキー場	1968	当館	シルクスクリーン、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策(デザイン) / 横山明(イラストレーション)	ヒロシマビールズ 1983	1983	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	EXPO'70	1967	当館	シルクスクリーン、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策(デザイン) / 早崎治(写真)	EXPO'70	1969	当館	グラビア印刷、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	UCLA 日本古典芸能団招聘記念	1981	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	J A P A N	1988	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	I'm here オリジナルポディーデザイン、オスカー・シュレンマー	1994	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	COMMUNICATION & PRINT	1991	当館	オフセット、紙	103.0×72.7	
亀倉雄策	武満 徹フィルムコンサート	1997	当館	オフセット、紙	145.5×103.0	
田中一光、永井一正、福田繁雄(監修)	『クリエイション』 21号	1998	当館	書籍	30.0×22.5	
	【映像】 亀倉雄策 デザインの先に見えるもの N S T	2015			20分	



ジブリの大博覧会

【趣旨】

スタジオジブリは1985年に子どものためのアニメーション映画制作を目的として設立された。同社も2015年、30年を迎え、これまでの活動を2つの展覧会で構成し、ご覧いただいた。

一つは「思い出のマーニー×種田陽平展」。実写映画の美術監督種田陽平が、2014年公開の「思い出のマーニー」で初めてアニメーションの美術監督を務めた同映画の制作の舞台裏を、実写映画の技術を生かして実体化したセット共に紹介した。

二つ目は、スタジオジブリの設立から30年間の歩みを体感できる「ジブリの大博覧会」。ナウシカからマーニーまで、これまでのジブリ作品がどのように生み出され、世に出て行ったのか、ポスターやチラシといった広告宣伝物を中心に、制作資料、企画書など未公開資料を含む多数の資料により、制作された映画がどのように一般に届けられるかを紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・平成28年度まで継続により同年度年報に記載

●検討課題

- ・平成28年度まで継続により同年度年報に記載

【開催日・その他】

=2016年3月5日(土)～3月31日(木) (24日間)=
全体会期は3月5日(土)～5月15日(日) (65日間)

主催：ジブリの大博覧会新潟展実行委員会、新潟県立近代美術館、TeNYテレビ新潟

後援：長岡市、長岡市教育委員会、(公財)長岡市芸術文化振興財団、新潟県小学校長会・中学校長会・特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、読売新聞新潟支局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおが80.7

特別協賛：KDDI、アイフルホーム

協賛：EPSON、ア・ファクトリー

企画制作協力：スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館

協力：長岡造形大学

観覧料：一般……………1,300円(1,100円)<1,000円>

大学・高校生……………1,100円(900円)<800円>

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金

※< >内は前売券料金

【関連行事】

・コンサート

長岡少年少女合唱団によるスタジオジブリ音楽コンサート

3月27日(日) 10:30～11:00 エントランスホール

参加者数：230名

【図録】

1 思い出のマーニー×種田陽平展オフィシャルガイド

仕様：A4判変形（27.5×21.0cm） 96頁

発行：株式会社KADOKAWA

内容：ごあいさつ

第1章 映画「思い出のマーニー」ができるまで

第2章 思い出のマーニー×種田陽平展

第3章 美術監督・種田陽平にせまる

2 ジブリの大博覧会パンフレット

仕様：A4判 38頁

編集：スタジオジブリ

発行：スタジオジブリ

内容：ごあいさつ

宣伝に興味のなかった僕が、映画の宣伝をしながら
考えてきたこと 鈴木敏夫

風の谷のナウシカ／天空の城ラピュタ／となりのトトロ／火垂るの墓／魔女の宅急便／おもひでぽろぽろ／紅の豚／海がきこえる／平成狸合戦ぽんぽこ／耳をすませば／On Your Mark／もののけ姫／ホーホケキョとなりの山田くん／千と千尋の神隠し／猫の恩返し／ギブリーズepisode2／ハウルの動く城／ゲド戦記／崖の上のポニョ／借りぐらしのアリエッティ／コクリコ坂から／風立ちぬ／かぐや姫の物語／思い出のマーニー

スタジオジブリ 1984 - 2015



【関連記事】

●新聞

長岡新聞 (2/2)

十日町新聞 (2/4)

妻有新聞 (2/12)

朝日新聞 (3/6)

読売新聞 (3/12)

長岡よみうり (3/13、3/27)

信濃毎日新聞 (3/15)

●ラジオ

3月6日(日) ボンボレソレイユ／松矢国憲

3月11日(金) SwitcH／松矢国憲

3月12日(土) 長岡ひとまちアオーレ+1(アオラジ)／松矢国憲

【観覧者数】(H28.3.31 まで)

有料観覧者数	当日	28,022
	前売	11,393
無料観覧者数	招待	1,317
	無料	19,167
	免除	1,165
総観覧者数		61,064
有料率 (%)		64.55

担当 松矢国憲



共 催 展

第70回新潟県美術展覧会 長岡展

第45回 世界児童画展

【趣旨及び総括】

本県の美術の普及と向上を目的に1945年から始まった県内最大の公募展であり、本年度で70回を迎えた。日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真の7部門に、2,867人4,069点の応募があり、入賞作品54点、入選作品1,054点が選ばれた。

長岡展では、7部門の県展賞、奨励賞、新潟日報美術振興賞の入賞作品、長岡市及び周辺地域の入選作品、並びに審査員、委員の作品、無鑑査作品を展示し、5日間で3,065名（1日あたり613名）と多数の来館者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

=2015年6月17日(水)～6月21日(日)(5日間)=

会 場：新潟県立近代美術館 企画展示室

主 催：新潟日报社、新潟日報美術振興財団、新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、上越市教育委員会、佐渡市教育委員会、胎内市教育委員会

後 援：新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市、佐渡市、胎内市

特別協賛：東北電力

入場料：450円、大学生以下無料

審査員：日本画：川瀬 鷹士、藤田 史朗
洋 画：大谷 喜男、香川 猛
版 画：小林 敬生、清水美三子
彫 刻：保田智之、本郷 寛
工 芸：北村 眞一、山崎 輝子
書 道：河野 隆、吉澤 鐵之
写 真：浅井 慎平、大山謙一郎

長岡展作品解説会

6月17日(水) 浦上 義昭(日本画)
石丸 雨虹(書道)
今井 厚(洋画)
河面 元(工芸)
6月18日(木) 池山 阿有(洋画)
坪谷 幸作(日本画)
田辺 千勝(写真)
6月19日(金) 荒川 希伊(書道)
村山 徳成(洋画)
小川 宏(版画)
倉茂 義隆(写真)
6月20日(土) 佐藤 海雲(書道)
渡辺 寿(洋画)
関 登美恵(日本画)
松本 保忠(彫刻)
平澤実知雄(写真)
6月21日(日) 目黒 煌人(書道)
菊地 美秋(日本画)

担当 宇賀田和雄

【趣旨及び総括】

世界児童画展は1970年3月に大阪で開かれた万国博覧会を機に開催されて、今年で45回目を迎えた。この展覧会は、子どもたちの感性と理性の調和のとれた成長を願い、子どもたちが自らつくり出す造形文化の支援と、国境を越えて世界の人々を繋ぐ国際相互理解を目的として開催してきている。

今回は、日本と世界28の国と地域から約11万点の応募があり、このうち新潟県からの応募作品では「特選」に17点が選ばれた。新潟県展では、これらに加え、新潟県からの応募で「入選」となった145点を含む、計250点を展示した。8日間で1,199名（1日あたり150名）の来館者があった。

【開催日・その他】

=2015年8月1日(土)～8月8日(土)(8日間)=

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：公益財団法人 美育文化協会、TeNYテレビ新潟、新潟県立近代美術館

後 援：外務省、文部科学省、新潟県教育委員会、読売新聞社、公益財団法人 日本美術教育連合、全国造形教育連盟

協 力：べんてる株式会社

観覧料：無料

担当 宇賀田和雄

第26回MOA美術館児童作品展 長岡会場

【趣旨及び総括】

MOA美術館児童作品展は、子どもたちの創作活動の奨励をめざし「生命を尊ぶ心」や「心豊かな人間」形成を目的に、日本国内のみならず海外も含めて約420会場で開催されてきた。

長岡会場では、新潟県教育委員会のほか、長岡市・長岡市教育委員会をはじめとして、県内各メディアの後援を得て、1,629点の応募作品の中から165点が選ばれ、県民ギャラリーに10月20日(火)から28日(水)まで展示された。752名の方が観覧され、特に週末は多くの親子連れで盛況であった。

また、10月24日(土)には表彰式が行われた。入賞した児童の作品がスクリーンに映し出される中、一人ひとり賞状が授与された。

児童及び児童の保護者・家族にとって県を代表する美術館で表彰されたという経験は、かけがえのない経験として心に残るものとなり、地域の芸術振興に大きく寄与する作品展・表彰式となった。

【開催日・その他】

= 2015年10月20日(火)～10月28日(水)(8日間) =

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：MOA美術館

後 援：文部科学省、外務省、厚生労働省、農林水産省、日本ユネスコ国内委員会、公益財団法人日本PTA全国協議会、公益財団法人全国子ども会連合会、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟、全国新聞社事業協議会、公益財団法人海外日系人協会、全国連合小学校長会、新潟県長岡地域振興局、新潟県教育委員会、長岡市、長岡市教育委員会、新潟日报社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UXテレビ新潟、エフエムラジオ新潟、(株)長岡新聞社、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、FMながおか

協 賛：公立大学法人長岡造形大学、北越銀行、大光銀行、長岡西病院、木村医院、アオキ住建、イタヤ、オダジマ、中山左官、小川塗装、コイズミ、中村豊工業、藤塚工務店、太田屋、ホテルサンパレス、新潟グリーン産業、本間材木店他 計19社

観覧料：無料

担当 丸山実

第19回新潟県立美術館 友の会作品展

【趣旨及び総括】

友の会会員の制作した作品を募集し、会員の結束を図りながら、美術館の運営や活動に協力することを目的として、平成9年度に企画、以来開催を続けている。

第19回展では、会員の作品を中心に、ワークショップで制作した作品、アートカフェをはじめ友の会の活動内容などを近代美術館ギャラリーに展示した。

展示作業は会員が中心となって行い、148名の来場者があった。

また万代島美術館のエントランスでも活動内容の展示を行った。

【開催日・その他】

近代美術館

開催日：2015年11月3日(火・祝)～11月8日(日)

会 場：新潟県立近代美術館ギャラリー

主 催：新潟県立美術館友の会

万代島美術館

開催日：2016年3月13日(日)～4月17日(日)

会 場：新潟県立万代島美術館エントランス

主 催：新潟県立美術館友の会

観覧料：無料

担当 更科昌江(友の会事務局)

第19回長岡市中学校美術部 作品展

磯野宏夫展—生命の森—

【趣旨及び総括】

長岡市内の中学校美術部の活動の成果を発表する場として、今回が19回目の開催となる。今回は、14校281名、256点の作品が展示された。2日間で809名(1日あたり400名)の来館者があった。

また、これまで長岡悠久ライオンズクラブの主催であったが、今回から長岡造形大学が主催することとなった。地域連携事業として、中学校美術部の活動への参加や作品の展示企画、作品の講評、作品展の広報など、長岡造形大学が主体となり造形教育の活性化を目指した。

【開催日・その他】

＝2016年11月14日(土)～11月15日(日)(2日間)＝

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：長岡造形大学

共 催：新潟県立近代美術館

後 援：長岡市教育委員会、長岡悠久ライオンズクラブ

観覧料：無料

【関連行事】

作品講評会

日 時：11月14日(土) 13:00～14:30

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

講 師：吉川賢一郎氏(長岡造形大学 視覚デザイン学科 准教授)

御法川哲郎氏(長岡造形大学 視覚デザイン学科 准教授)

参加校：9校美術部員

担当 宇賀田和雄

【趣旨及び総括】

企画展「亀倉雄策と『クリエイション』」開催に併せ、『クリエイション』15号掲載作家で、2013年に没した磯野宏夫の個展を開催した。

磯野宏夫は1945年愛知県生まれ。その後、東京を拠点にフリーのイラストレーターとして活躍。46歳のとき、亀倉雄策編集のデザイン誌『クリエイション』に熱帯雨林などの作品14点が掲載された。その後愛知に拠点を移し、生命の森をテーマとして制作を続けた。

本展では、『クリエイション』掲載作品のほか、ゲーム「聖剣伝説」のビジュアル、学校教科書などに採用されたイラストレーションなど、現在も多くの人々を魅了し続ける磯野の作品約50点を紹介。20日間の会期で1,855人の来場者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

＝2015年12月22日(火)～2016年1月17日(日)(18日間)＝

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：エメラルドフォレスト

共 催：新潟県立近代美術館

協 力：株式会社 スクウェア・エニックス

後 援：新潟日报社

観覧料：無料

【関連イベント】

講演会 熱帯雨林 生命の森

2016年1月10日(日) 第一部 13:00～13:50

第二部 14:00～15:00

講 師：湯本貴和氏(京都大学霊長類研究所教授)

服部眞幸氏(東京農工大学大学院連合農学研究科雑草生物学)

会 場：新潟県立近代美術館講堂

参加者数：39名

担当 伊澤朋美

第46回新潟県ジュニア 美術展覧会長岡展

長岡造形大学2015年度 こどもものづくり大学校作品展覧会 ～こども×カタチ展～

【趣旨及び総括】

感性豊かな子どもの育成と美術振興をねらいとして、46年間継続している全県規模のコンクールである。今回は、県内668の幼稚園、小・中学校、特別支援学校等から32,493点の応募があった。9名の審査員により選ばれた2,060点を新潟市、柏崎市、長岡市、上越市の4会場に巡回展示した。

長岡展会場である当館には、10日間の会期中に3,018名の入場があり、家族で美術鑑賞を楽しむ場となった。

【開催日・その他】

会場：新潟展 2015年12月5日(土)～12月17日(休)
新潟県民会館ギャラリーにて
柏崎展 2016年1月14日(休)～1月19日(火)
柏崎市ソフィアセンターにて
長岡展 2016年1月23日(土)～2月3日(水)
新潟県立近代美術館にて
上越展 2016年2月10日(水)～2月15日(月)
上越市民プラザにて

主催：新潟日报社・新潟県教育委員会・新潟県立近代美術館・
新潟県美術教育連盟・新潟市教育委員会・長岡市教育
委員会・上越市教育委員会・柏崎市

後援：新潟日報美術振興財団

観覧料：無料

審査員(敬称略)

3～5歳	戸潤幸夫(新潟県立大学教授)
小学校1年	奥村高明(聖徳大学教授)
小学校2年	橋本光明(信州大学名誉教授)
小学校3年	林耕史(群馬大学教授)
小学校4年	石上城行(埼玉大学准教授)
小学校5年	丹治嘉彦(新潟大学教授)
小学校6年	阿部靖子(上越教育大学教授)
中学校1～3年	村上尚徳(環太平洋大学教授)
特別支援学校	天形健(福島大学教授)

担当 青木善治

【趣旨及び総括】

長岡造形大学主催事業「こどもものづくり大学校」は、ものづくりによって豊かな感性と創造力をはぐくみ、また日常生活では体験できない自由な発想の場の提供、小学3～6年生を対象に行われる講座である。同大学のキャンパスを主な活動場所とし、6クラス156名の子どもが参加した。当館でもそのうちの1講座を学外ワークとして受け持ち「バタバタたためる屏風をつくろう!」を10月4日及び18日に実施した。

本展覧会は、年間を通してガラス、陶芸、油絵、彫刻、クラフト——と、多彩な10講座を受講した子どもたちのユーモアあふれる作品の数々を展示し、こどもものづくり大学校の活動を紹介するものである。今年度は318点の作品が展示され、会期中は、作品を出品した子どもの家族を中心とした来場者でにぎわった。

【開催日・その他】

=2016年3月19日(土)～3月27日(日)(8日間)=

会場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主催：長岡造形大学

共催：新潟県立近代美術館

後援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日报社、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT79.0、FMながおか80.7、長岡新聞社

観覧料：無料

来場者数：1,537名

担当 宮下東子

所蔵品展



感じる・見つめる・考える 現代のアートとデザイン

【趣旨】

所蔵品から2000年前後に制作された新しい作品を中心に構成した。3つのテーマに沿って作品を分類し、「感じる一色と形と空間を味わう」では岡村桂三郎、八木幾朗らの大型作品や藪内佐斗司の立体作品、「見つめるー自然の姿に入りこむ」では日本画を中心に植物や生物、風景を描いた作品、「考えるー作品の意味を探す」では森村泰昌や福田美蘭、浅葉克己や佐藤卓らのデザイン作品を展示し、様々な分野の作品を紹介した。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・空間を広くとり、テーマごとに独立した3室にした。通常とは趣の異なる展示空間となり、所蔵品を新鮮な目で楽しんでもらうことができた。
 - ・見る際にイメージをふくらませる材料として、キャプションと共に作者の言葉を付した。アンケートでも好意的な意見が寄せられた。
- 検討課題
 - ・会期が短かったため全体としては入館者が少なく、所蔵品の魅力を多くの人に伝えることができなかった。

【開催日・その他】

=2016年3月12日(土)～3月31日(木)(18日間)=
※全体会期は3月12日(土)～4月17日(日)(34日間)

主催：新潟県立万代島美術館

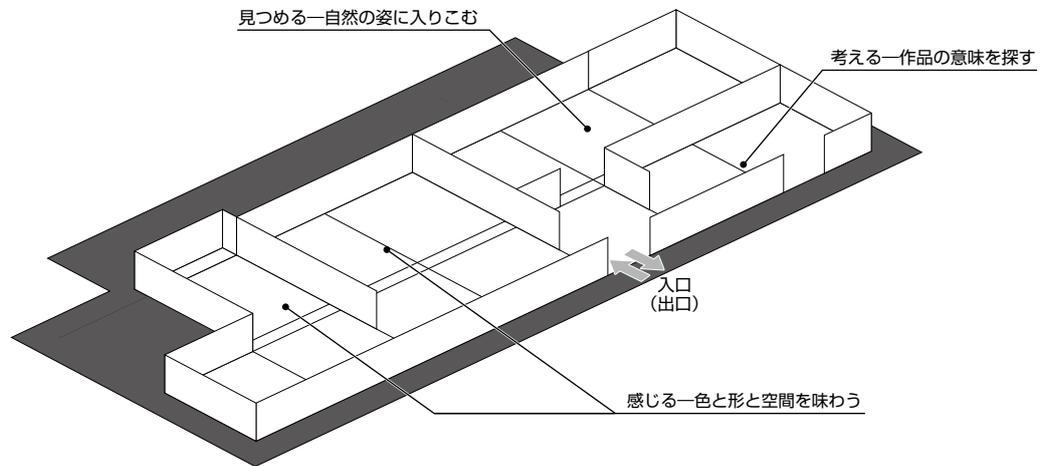
後援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日报社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角山(ほかほかラジオ)、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………310円(250円)

大学・高校生……………150円(120円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金



【関連行事】

・美術鑑賞講座

「水島爾保布の挿絵『人魚の嘆き 魔術師』をめぐって」

3月13日(日)／27日(日) 14:00～

美術館ロビー／NICOプラザ会議室

講師：桐原浩（当館業務課長）

参加者数：1名／3名

・当館学芸員による作品解説会

3月20日(日) 14:00～

当館展示室

参加者数：2名

・新潟県立美術館友の会 活動紹介パネル展示

3月12日～3月31日（全体会期～4月17日）

美術館ロビー

【観覧者数】

※ 3/12～3/31

有料観覧者数	当日	767
	前売	—
無料観覧者数	招待	105
	無料	108
	免除	55
総観覧者数		1,035
有料率 (%)		74.1

担当 池田珠緒

【出品リスト】

タイトル	作家名	生没年	素材・技法	サイズ (縦×横cm)	制作年
感じる					
① 魚図	八木幾朗	1955-	紙、岩絵具、墨、箔	180.0×1440.0	1980
② 円形のジャングルジム	菅原健彦	1962-	紙、岩絵具、顔料、箔	243.3×488.0	1993
③ 泉	岡村桂三郎	1958-	板、岩絵具	295.0×960.0	2003
④ Chuckwill's Widow	舟越直木	1953-	ブロンズ・彩色	200.0×145.0×65.0 (高さ)	1993
⑤ 走る童子	藪内佐斗司	1953-	ブロンズ・彩色	46.0×56.0×79.0(高さ) 46.0×25.0×79.0(高さ) 46.0×34.0×79.0(高さ)	1996
⑥ WATERFALL	千住博	1958-	紙、岩絵具、胡粉	194.0×266.0	2000
⑦ 水路-王の方舟	山口啓介	1962-	紙・エッチング	120.0×234.0	1990
⑧ Sound-40	白木ゆり	1966-	紙・エッチング、ドライポイント	172.2×120.5	2001
⑨ 光彩図	仲山計介	1948-	紙、岩絵具	112.5×225.0	1996
⑩ いつの世までも	清水伸	1947-	キャンバス、油絵具	245.0×306.0	2000
⑪ いけにえ	野見山暁治	1920-	キャンバス、油絵具	182.0×227.0	1995
⑫ 死を悼みて濡れた紫の水瀬に立つ者V	中村一美	1956-	綿布、アクリル絵具	300.4×240.3	2003
⑬ RITES OF PASSAGE	斉藤典彦	1957-	紙、絹、岩絵具	335.0×260.0	2000
⑭ DH L	丸山直文	1964-	綿布、アクリル絵具	230.0×230.0	1992
⑮ 花 I	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑯ 花 II	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑰ 花 III	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑱ 花 IV	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑲ 花 V	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑳ 睡蓮と柳	ロイ・リキテンスタイン	1923-1997	ステンレス・スチール板・スクリーン印刷	147.3×264.6	1992
㉑ イーゴル・ストラヴィンスキー	デイヴィッド・ホックニー	1937-	紙・セリグラフ	205.9×89.2	1981
㉒ パラード	デイヴィッド・ホックニー	1937-	紙・セリグラフ	203.0×101.5	1981
㉓ パラード (フランス作曲家三部作)	デイヴィッド・ホックニー	1937-	紙・セリグラフ	206.0×104.0	1981-82
㉔ サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」	田中一光	1930-2002	紙・オフセット印刷	206×145.4	1998
㉕ ポスター：CD [Smag]	佐藤可士和	1965-	紙・オフセット印刷	102.8×291.0	2000-01
㉖ 作品集「視覚の地平 visionary ∞ scape」ポスター	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.8×73.0	2004
㉗ //	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.8×73.0	2004
㉘ VISIONARY GENE+m -a	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.2×73.0	2005
㉙ //	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.2×73.0	2005
㉚ //	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.2×73.0	2005

見つめる

㉛ あるく 私の生活基本形 千秋・長岡 2009年6月20日～28日	秋山さやか	1971-	様々な種類の糸、千秋と長岡市内で見つけた様々な素材、ポリエステル布	60.0×65.0	2009
㉜ 生命の讃歌-鹿 (白月)	中野嘉之	1946-	紙、岩絵具	220.0×110.0	1998
㉝ 生命の讃歌-鹿 (黒月)	中野嘉之	1946-	紙、岩絵具	220.0×110.0	1998
㉞ 降	竹内浩一	1941-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、胡粉	230.0×180.0	2000
㉟ 豊粟花 (春)	林潤一	1943-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、胡粉	230.0×130.0	1998
㊱ 山百合 (夏)	林潤一	1943-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、胡粉	230.0×130.0	1998
㊲ 牡丹図	渡辺信喜	1941-	紙、岩絵具、胡粉、銀泥、箔	168.0×370.0	1989
㊳ 山水-くするる2	伊藤彬	1940-	紙、墨、木炭	182.0×546.0	1997
㊴ Life 6点	永井一正	1929-	紙・シルクスクリーン印刷	103.0×72.7	1999
㊵ 空との距離 II	日高理恵子	1958-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、胡粉	240.0×240.0	2002
㊶ 道二題	村田茂樹	1946-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、箔	227.3×162.1	1991
㊷ 瀬	箱崎睦昌	1946-	紙、岩絵具、墨、箔	182.0×380.0	1999
㊸ 宵の星	大野 俊明	1948-	紙、岩絵具、水干絵具、墨	162.0×388.0	1989
㊹ 阿吽	坂爪勝幸	1947-	陶・焼き締め	各34.0×44.0×96.5(高さ)	1994

考える

㊺ 住宅メーカーのデザイン思想 「ミサワデザイン2009 パウハウス」ポスター-1	浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊻ //	浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊼ //	浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊽ //	浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊾ //	浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊿ //	浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	19.0×73.0	2009
㊽ //	浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊿ ブッシュ大統領に話しかけるキリスト	福田美蘭	1963-	板、アクリル絵具	130.3×162.0	2002
㊽ ぶれちゃった写真 (アムステルダム国立美術館)	福田美蘭	1963-	板、アクリル絵具	181.8×227.2	2003
㊿ Death of Father	森村泰昌	1951-	カラー写真に透明メディウム	266.6×346.0	1991
㊽ 21_21 DESIGN SIGHT 企画展「water」ポスター-1	佐藤卓	1955-	紙・デジタルプリント	145.5×103.0	2007
㊿ //	佐藤卓	1955-	紙・デジタルプリント	145.5×103.0	2007
㊽ HIROSHIMA APPEALS 2013 ポスター	葛西薫	1949-	紙・オフセット印刷	102.0×72.0	2013
㊿ //	ポスター原画	葛西薫	紙・カラージュ	72.1×42.0	2013

企 画 展



生誕100周年 トーベ・ヤンソン展 ~ムーミンと生きる~

【趣 旨】

世界中で愛され続ける「ムーミン」シリーズを生んだフィンランドの作家、トーベ・ヤンソン（1914-2001）の全貌を紹介した展覧会。フィンランドの国立アテネウム美術館で開催された生誕100周年を記念する回顧展を日本巡回展として再構成したものであり、トーベの代表作「ムーミン」シリーズの挿絵原画のほか、生涯を通じて描いた油彩、文学作品の挿絵、写真資料など約400点を展示した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・ムーミンの作家として知られるトーベ・ヤンソンが、ムーミンのみならず、風刺雑誌の挿絵や油彩、舞台美術、漫画など、様々な分野で才能を発揮した作家であることを紹介できた。
- ・日本で人気の高い「ムーミン」シリーズの挿絵や絵本の原画を約280点展示、日本のムーミンファンの期待に応えることができた。
- ・トーベが夏を過ごしたクルーヴ島の小屋を再現して展示、作品だけでなく、作家のライフスタイルを紹介することにより、その独特の価値観や作品の背景にある世界観に触れて頂くことができた。
- ・読書コーナーや、ムーミンのキャラクターをイメージした衣装を身につけられるコーナー、アニメ上映など、来館者が楽しめる様々な仕掛けを用意することができた。
- ・イベントはいずれも参加者数が多く好評で、大きな混乱なく実施できた。

●検討課題

- ・ムーミンの挿絵原画はサイズが小さく、幼児や小学校低学年の子どもたちにはやや見づらかったことが推測される。来館者からは多くご意見があったわけではないが、今後の展示では作品の安全にも配慮しながら方策について工夫したい。

【開催日・その他】

=2015年4月1日(土)~5月6日(水)(34日間)=

※全体会期は2月28日(土)~5月6日(水)(63日間)

主 催：新潟県立万代島美術館、UX新潟テレビ21、トーベ・ヤンソン展新潟展実行委員会、朝日新聞社、新潟日報社
後 援：フィンランド大使館、新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協 賛：エフソン販売(株)、日本写真印刷(株)

特別協賛：dwarf

協 力：フィンランド国立アテネウム美術館、(株)トル・モリ エイジェンシー、フィンエアー、フィンエアー・カーゴ、(株)河出書房新社、(公財)ギャラリーエークウッド、(株)講談社、S2(株)

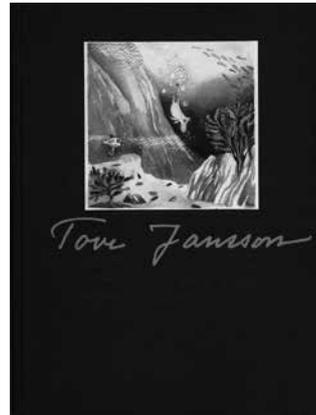
観覧料：一般……………1,000円(800円)(800円)

大学・高校生……………800円(600円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金



【関連行事】

- ・「ミイ」割の日
「ちびのミイ」のようなおだんごヘアでご来館の方の観覧料100円引。また対象者先着30名様にプレゼント（絵はがき）を贈呈
4月12日(日)
参加者数：30名（プレゼント贈呈者）
- ・「ムーミンがびじゅつかんにやってくる！」
4月5日(日) 11:00～/13:00～/14:30～/16:00～
美術館ロビー
参加者数：415名
- ・学芸員によるギャラリートーク
4月18日(土) 14:00～
当館展示室
参加者数：20名
- ・記念撮影コーナー「ムーミン谷の住人になりきろう！」
当館展示室
開館中随時参加可能

【図録】

- 仕様：25.0×18.7cm 254頁
編集：朝日新聞社
編集協力：河出書房新社、清田麻衣子
執筆：トゥーラ・カルヤライネン（展覧会監修者、ヘルシンキ現代美術館 KIASMA 元館長）、富原真弓（聖心女子大学哲学科教授）、今井有（新潟県立万代島美術館）、朝日新聞社
協力：迫村裕子（S2）
アート・ディレクション：祖父江慎
ブックデザイン：福島よし恵、小川あずさ（コズフィッシュ）
プリンティングディレクター：渡辺穰（日本写真印刷）
翻訳：露久保由美子、ヘレンハルメ美穂、五十嵐淳（リベル）
印刷：日本写真印刷
発行：朝日新聞社
内容：ごあいさつ（主催者）
偉大な芸術家（フィンランド国立美術館館長 リスト・ラウホネン／アテネウム美術館館長 スサンナ・ペッテルソン）
ごあいさつ（駐日フィンランド大使 マヌ・ヴィルタモ）
トーベ・ヤンソン—その人生と作品（トゥーラ・カルヤライネン）
「ムーミンの変貌」—語り部トーベ・ヤンソンの忠実なる相棒（富原真弓）
マルチな芸術家、トーベの全容を日本へ（ソフィア・ヤンソンさんインタビュー）
【作品図版、解説】（章解説、作品解説＝今井有）
1 芸術家への道
2 戦争と青春
3 ムーミン（1945-59年）
4 画家として
5 ムーミン（1960年以降）
6 広がる創作の世界
トーベ・ヤンソン年譜
作品リスト



【関連記事】

新潟日報 (4/6、4/14(夕)、4/15、5/2)
朝日新聞 (4/15、5/2)

〈連載〉

- ・朝日新聞「新潟でトーベ・ヤンソン展」／今井有
「第5章 ムーミン (1960年以降)」(4/3)
「第6章 広がる創作の世界」(4/10)

【観覧者数】

※ 4/1 ~ 5/6

有料観覧者数	当日	13,470
	前売	3,928
無料観覧者数	招待	1,585
	無料	3,573
	免除	693
総観覧者数		23,249
有料率 (%)		74.8

※全会期 (2/28 ~ 5/6)

有料観覧者数	当日	21,704
	前売	6,746
無料観覧者数	招待	2,270
	無料	5,860
	免除	1,105
総観覧者数		37,685
有料率 (%)		75.5

※本展の展示図面および出品リストは平成26年度版年報を参照のこと。

担当 今井有



日韓近代美術家のまなざし —「朝鮮」で描く

【趣旨】

本展は、20世紀前半における日本と韓国の美術、そして美術家同士の交流に焦点を当てたもの。さまざまな矛盾に満ちた「近代」という時代の中、日韓両国の美術家たちは、自らが置かれた社会的限界を越えようとする眼差しを持ち、芸術の力で個々の世界を深めていった。韓国にゆかりが深い日本近代の作家たちおよび韓国近代美術史を代表する作家たち以外にも、これまでほとんど注目されてこなかった戦前の在「朝鮮」日本人作家の作品なども、最新の研究成果をふまえて多数紹介。

【総括】

●評価すべき点

- ・数年の時間と労力を積み重ねた研究に基づき、これまで未開拓の分野を拓き、学術的に高い内容の展覧会を実現できた。結果、本巡回展に対して、美術館連絡協議会から「2015年度大賞」をいただくことができた。
- ・記録として日韓二か国語の図録を刊行でき、今後の研究のための基礎を築くことができた。

●検討課題

- ・高い学術性とは裏腹に、残念ながら多くの方に見ただけなかった。メディアの取材も多く、好意的だったが、それが動員には結び付かなかった。
- ・幹事館として開催までの業務が多忙であったため、専門的な内容を噛み砕いて、一般的な関心と呼ぶようなイベント等を準備することができなかった。

【開催日・その他】

＝平成27年5月16日(土)～6月28日(日)(41日間)＝

前期：5月16日～5月31日、後期：6月2日～6月28日

主催：新潟県立万代島美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、TeNYテレビ新潟

共催：新潟市、新潟市教育委員会

後援：外務省、駐日韓国大使館、韓国文化院、駐新潟大韓民国総領事館、NHK新潟放送局、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエムしばた、エフエム角田山、燕三条エフエム放送株式会社

監修：金炫淑（成均館大学校兼任教授）

学術協力：韓国国立現代美術館、金惠信（沖縄県立芸術大学准教授）、横須賀美術館、本展研究会

協力：光州市立美術館、新潟県立美術館友の会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、大韓航空、LGエレクトロニクス

助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団、美術館連絡協議会

*本展研究会：青山訓子（岐阜県美術館）、原田正俊（都城市立美術館）、井内佳津恵（北海道立近代美術館）、高晟竣（新潟県立万代島美術館）、李美那（神奈川県立近代美術館）、ラワンチャイクン寿子（福岡アジア美術館）、富田康子（横須賀美術館）

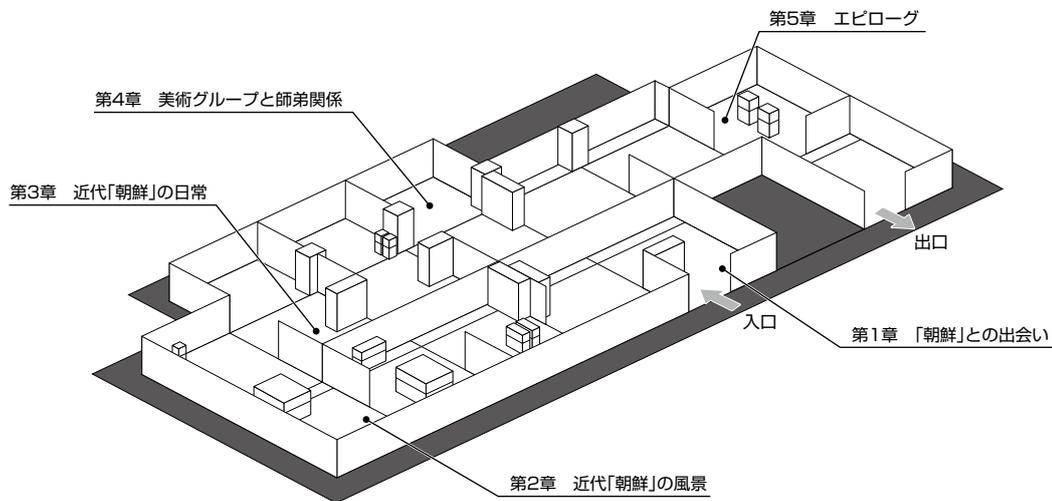
観覧料：一般……………1,100円(900円)<900円>

大学・高校生……………900円(700円)

※中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

※< >は前売券料金



【関連行事】

- ・記念講演会
「近代期の京城＝ソウル、おんたちの「モダン」と「伝統」」
6月20日(土) 14:00～15:40 NICOプラザ会議室
講師：金恵信（キム・ヘシン）氏（沖縄県立芸術大学准教授、本展学術協力者）
参加者数：20名
- ・美術鑑賞講座
「新潟の彫刻家・戸張幸男の朝鮮での制作活動について」
5月23日(土) 14:00～15:30 NICOプラザ会議室
講師：高晟竣（当館主任学芸員）
参加者数：20名
- ・作品解説会
5月31日(日)、6月7日(日) 当館展示室
参加者数：2回計27名
- ・いいがた県政出前講座
6月24日(水) 13:30～15:00 三条市嵐南公民館
参加者数：33名

【図録】

- 仕様：250×189mm 388頁
執筆：青山訓子（岐阜県美術館）、崔烈（美術史家）、原田正俊（都城市立美術館）、井内佳津恵（北海道立近代美術館）、祝迫真澄（都城市立美術館）、黄ビンナ（韓国美術研究所）、黄正洙（美術史家）、姜玟奇（弘益大学校）、川村湊（法政大学）、金恵信（沖縄県立芸術大学）、金炫淑（成均館大学校）、金仁恵（韓国国立現代美術館）、高晟竣（新潟県立万代島美術館）、權幸佳（徳成女子大学校）、李仁範（祥明大学校）、李美那（神奈川県立近代美術館）、朴慧聖（韓国国立現代美術館）、ラワンチャイクン寿子（福岡アジア美術館）、柳枝延（韓国国立現代美術館）、富井正憲（漢陽大学）、富田康子（横須賀美術館）、山梨絵美子（東京文化財研究所）、韓国国立現代美術館
- 翻訳：ポリリー・バートン、崔在赫、日比野民蓉、金恵信、金智英、金正善、高晟竣、盧ユニア、徐潤雅
- 装幀：宗利淳一＋齋藤久美子
- 地図：河合理佳
- 写真撮影：岩根悠樹、梶原敏英、李東勲、大滝恭昌、佐藤勉、竹前朗、辻美津夫
- 編修：坂井基樹＋諸岡なつき＋浅野靖菜[坂井編集企画事務所]
- 校正：崔在弼、合田真子、文俊植、杉原環樹
- DTP：株式会社アド・エム
- 印刷：株式会社アイワード
- 発行元：福岡アジア美術館、岐阜県美術館、北海道立近代美術館、神奈川県立近代美術館、都城市立美術館、新潟県立万代島美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
- 内容：（論文要旨、年表と参考文献以外は、日韓二か国語併記）
会期会場等概要
ごあいさつ
目次
謝辞

凡例

論文「『朝鮮』をめぐるすれ違いの視線」金炫淑
 論文「行き来するひと、もの、考え、そして造形—20世紀前半・北東アジアの流動性のなかで」井内佳津恵

地図

I 「朝鮮」との出会い

論文「開港から20世紀初めにおける日本人画家の朝鮮半島渡航と活動」姜玟奇
 論文「近代における『朝鮮』という物語のはじまり」山梨絵美子
 論文「古代への憧憬と朝鮮風俗画の復興」金炫淑
 論文「『朝鮮』への憧憬と工芸」富田康子
 コラム「高麗青磁の『復興』」富田康子
 コラム「浅川伯教の『京城』ネットワーク」富田康子
 コラム「柳宗悦—朝鮮の美を発見する」柳枝延

II 近代「朝鮮」の風景

論文「近代『朝鮮』の風景 「モダンコロニアル都市—『京城』」 富井正憲
 コラム「都市京城のイメージ」金仁恵
 論文「古都と名所—植民地朝鮮への美術旅行」高晟竣
 コラム「金剛山観光の大衆化と金剛山図の流行」金炫淑

III 近代人の日常

論文「モダン都市京城における女性イメージ—『遊女』と『良妻』」金恵信
 コラム「近代余暇文化と昌慶苑の花見」金炫淑
 コラム「李王家美術館」李美那
 コラム「在『朝鮮』日本人漫画家」高晟竣
 論文「モダニスト・李箱の『京城』」川村泰

IV グループ活動と師弟関係

コラム「『朝鮮南画院』と日本人書画家たち」黄ビンナ
 論文「美術教育と書画協会」崔烈
 コラム「朝鮮美術展覧会」ラウンチャイクン寿子
 コラム「東京美術学校・帝国美術学校・文化学院」李美那
 コラム「女子美術学校と刺繍」富田康子
 論文「在野グループ活動と学校における活動—日本人の動向を中心に」井内佳津恵

V エピローグ

論文「終戦と光復」崔烈
 論文「越北画家」高晟竣
 論文「日韓近代美術—二重性を越えて」李美那

作品解説

作家解説

グループ解説

本展開連年表

論文要旨と英訳(「『朝鮮』をめぐる〜」金炫淑、「行き来する〜」井内佳津恵、「日韓近代美術〜」李美那)

主要参考文献

【関連記事】

●新聞

5月15日(金) 東洋経済日報
 「悲運の画家、曹良奎の再評価を『日韓近代美術家のまなざし』展で紹介 新潟県立万代島美術館で16日から」／河正雄(光州市立美術館名誉館長)
 6月2日(火) 新潟日報
 展覧会へようこそ「国家、民族乗り越え制作 日韓近代美術家のまなざし」／高晟竣

その他 新潟日報(5/16、6/18、6/22)
 読売新聞(5/17)
 朝日新聞(5/28)
 信濃毎日新聞(6/13)

〈連載〉

・読売新聞「日韓近代美術家のまなざし」
 (上) 堀野正雄《ポーズ：崔承喜》／高晟竣(6/2)
 (中) 曹良奎《農婦と牛》／高晟竣(6/3)
 (下) 新海竹蔵《砧》／高晟竣(6/4)

●雑誌

『美術手帖』7月号、pp.164-165
 展覧会評「『朝鮮』表象をめぐる事実と痕跡」／沢山遠

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	926
	前売	79
無料観覧者数	招待	515
	無料	97
	免除	189
総観覧者数		1,806
有料率(%)		55.6

担当 高晟竣



【出品リスト】

作家名	作家名よみ	作家生没年	作品名	制作年	技法・材料	所蔵	展示
第1章 「朝鮮」との出会い							
藤島武二	ふじしま たけじ	1867-1943	花籠	1913年	油彩・キャンパス	京都国立近代美術館	
藤島武二	ふじしま たけじ	1867-1943	朝鮮服の女	1914年頃	鉛筆・紙	愛知県美術館	前期
藤島武二	ふじしま たけじ	1867-1943	朝鮮服の女	1914年頃	鉛筆・紙	愛知県美術館	後期
牛田雞村	うしだ けいそん	1890-1976	朝鮮風俗	1917年頃	絹本彩色	三渓園	後期
牛田雞村	うしだ けいそん	1890-1976	朝鮮旅行スケッチ	1917年	鉛筆・水彩・色鉛筆・紙	三渓園	前期
平福百穂	ひらふく ひゃくすい	1877-1933	泉	1924年	紙本墨画淡彩	個人蔵	
小杉放庵	こすぎ ほうあん	1881-1964	井泉図	1925以前?	油彩・キャンパス	個人蔵	
和田三造	わた さんぞう	1883-1967	朝鮮総督府壁画画稿	1926年	油彩・紙	兵庫県立美術館	
益田玉城	ますだ ぎょくじょう	1881-1955	笛の音	1920年	絹本彩色	都城市立美術館	
長谷川朝風	はせがわ ちょうふう	1901-1977	朝鮮三題 鶯の巢(草稿)	1940年	紙本彩色	岐阜県美術館	後期
長谷川朝風	はせがわ ちょうふう	1901-1977	朝鮮三題 霜晨(草稿)	1940年	紙本彩色	岐阜県美術館	前期
金俊根	キム・ジュングン	19世紀半ば-20世紀初	朝鮮風俗画 こどもの遊び	19世紀末	絹本彩色	個人蔵	
金俊根	キム・ジュングン	19世紀半ば-20世紀初	朝鮮風俗画 ぶらんこ	19世紀末	絹本彩色	個人蔵	
金俊根	キム・ジュングン	19世紀半ば-20世紀初	朝鮮風俗画 すもうとり	19世紀末	絹本彩色	個人蔵	
金俊根	キム・ジュングン	19世紀半ば-20世紀初	朝鮮風俗画 妓生と骨牌(コルペ)をする	19世紀末	絹本彩色	個人蔵	
金俊根	キム・ジュングン	19世紀半ば-20世紀初	朝鮮風俗画 糸つむぎ	19世紀末	絹本彩色	個人蔵	
作家不詳							
中村金城	なかむら きんじょう	?-1909	朝鮮人風俗図	19世紀末-20世紀初	画卷(映像展示)	国立国会図書館	
清水東雲	しみずとうん	清水:?-1927	復刻版 朝鮮風俗画譜	1910年(1996年復刻)	書籍	個人蔵	
今村雲嶺	いまむらうんれい	今村:生没年不詳	日本人作家による絵葉書	1935年頃	絵はがき(45枚)	黄正洙コレクション	
加藤松林人ほか	かとうしょうりんじんほか	加藤松林人:1898-1983					
荒井龍男	あらい たつお	1904-1955	花生けに倚る蒼頭の男の肖像	1936年	油彩・キャンパス	個人蔵	
土田麦僊	つちだ ばくせん	1887-1936	檀園筆風俗図模写	1933-35年頃	鉛筆・紙	個人蔵	
堀野正雄	ほりの まさお	1907-1998	ポーズ:崔承喜	1931年	写真	個人蔵	
小林古径	こばやし こけい	1883-1957	舞蹈(崔承喜)下図	1940年代	紙本墨画淡彩	東京藝術大学	前期
松田黎光	まつだ れいこう	1891-1941	僧舞	1940年	木版・紙	光州広域市立美術館 河正雄コレクション	
松田黎光	まつだ れいこう	1891-1941	剣舞	1940年	木版・紙	個人蔵	
荒井龍男	あらい たつお	1904-1955	尼僧舞	1943年	油彩・キャンパス	個人蔵	
崔禹錫	チェ・ウソク	1899-1964	比丘尼	1920年代	絹本彩色	サムスン美術館リウム	
金重鉉	キム・ジュンヒョン	1901-1953	農桑	1941年	油彩・キャンパス	個人蔵	
金重鉉	キム・ジュンヒョン	1901-1953	巫女図	1941年	油彩・板に貼られた絹	韓国国立現代美術館	
山川秀峰	やまかわ しゅうほう	1898-1944	朝鮮婦人	1930年頃	木版・紙	黄正洙コレクション	
寺崎廣業	てらさき こうぎょう	1866-1919	朝鮮美人	1904年頃	木版・紙	黄正洙コレクション	
加藤松林人	かとう しょうりんじん	1898-1983	朝鮮時代 女人像	1930年頃	絹本彩色	黄正洙コレクション	
中澤弘光	なかざわ ひろみつ	1874-1964	朝鮮歌妓	1940年	油彩・キャンパス	京都市美術館	
湯浅一郎	ゆあさ いちろう	1868-1931	尹玉葉	1913年	油彩・キャンパス	群馬県立近代美術館	
湯浅一郎	ゆあさ いちろう	1868-1931	二人の朝鮮婦人	1914年	油彩・キャンパス	群馬県立近代美術館	
土田麦僊	つちだ ばくせん	1887-1936	平床 下図	1933年	紙本墨画淡彩	京都市美術館	
土田麦僊	つちだ ばくせん	1887-1936	妓生の家 下図	1935年	紙本墨画	神奈川県立近代美術館	前期
野田九浦	のだ きゅうほ	1879-1971	朝鮮風俗	1936年	紙本彩色	武蔵野市立吉祥寺美術館	後期
松田黎光	まつだ れいこう	1891-1941	妓生の家	1940年	木版・紙	個人蔵	
長谷川路可	はせがわ ろか	1897-1967	清韻	1940年	紙本彩色	藤沢市教育委員会	前期
六角紫水	ろっかくしすい	1867-1950	漆面丸盆	1924年	漆	東京国立近代美術館	
小場恒吉	おば つねきち	1878-1958	『楽浪出土漆器模様図解』	1919年/ 2008年復刻版	書籍	個人蔵	
関野貞	せきの ただし	1867-1935	『朝鮮美術史』	1932年	書籍	神奈川県立近代美術館 (山口逢春文庫)	
朝鮮総督府	ちょうせんそうとくふ		『朝鮮古蹟図譜 15』	1935年	書籍	神奈川県立近代美術館 (山口逢春文庫)	
龍村平蔵	たつむら へいぞう	1876-1962	漢羅「楽浪」	1927年	絹、羅、錦	龍村美術織物	
三和高麗焼	さんわこうらいやき		青磁象嵌菓子鉢	1911-45年?	陶器	個人蔵	
漢陽高麗焼	かんようこうらいやき		青磁象嵌盃	1911-45年?	陶器	個人蔵	
漢陽高麗焼	かんようこうらいやき		青磁象嵌盃	1911-45年?	陶器	個人蔵	
三和高麗焼	さんわこうらいやき		印花文煎茶器揃	1911-45年?	陶器	個人蔵	
漢陽高麗焼	かんようこうらいやき		青磁象嵌水注	1911-45年?	陶器	個人蔵	
浅川巧	あさかわ たくみ	1891-1931	『朝鮮の膳』	1929年	書籍	個人蔵	
浅川伯教	あさかわ のりたか	1884-1964	鶏龍山周辺窯跡図	1920-30年	紙本墨画淡彩	大阪市立東洋陶磁美術館 (鈴木正男氏寄贈)	
富本憲吉	とみもと けんきち	1886-1963	朝鮮風景絵巻	1922年	紙本墨画	個人蔵	
富本憲吉	とみもと けんきち	1886-1963	高麗轉写	1922年	紙本墨画	個人蔵	
富本憲吉	とみもと けんきち	1886-1963	染付大皿(京城南大門模様)	1922年	磁器	個人蔵	
富本憲吉	とみもと けんきち	1886-1963	染付中皿(京城南大門模様)	1922年	磁器	個人蔵	
富本憲吉	とみもと けんきち	1886-1963	染付机上小品「門」	1922年	磁器	個人蔵	
富本憲吉	とみもと けんきち	1886-1963	白磁机上小品「土塀」	1923年	磁器	個人蔵	
富本憲吉	とみもと けんきち	1886-1963	『模様寸感』	1931年	冊子	個人蔵	
富本憲吉	とみもと けんきち	1886-1963	富本憲吉書簡 伊藤助右衛門宛	1922年頃	冊子	個人蔵	
黒田辰秋	くろだ たつあき	1904-1982	摺拭漆真鍮金具三段棚	1927年	木・真鍮	河井寛次郎記念館	
黒田辰秋	くろだ たつあき	1904-1982	拭漆摺真鍮金具印单筒	1927-29年	木・真鍮	河井寛次郎記念館	

河井寛次郎	かわい かんじろう	1890-1966	黒釉筒描蓋付陶硯	1936年	陶器	河井寛次郎記念館
河井寛次郎	かわい かんじろう	1890-1966	海鼠釉陶硯	1936年	陶器	河井寛次郎記念館
河井寛次郎	かわい かんじろう	1890-1966	鉄釉陶硯	1936年	陶器	河井寛次郎記念館
河井寛次郎	かわい かんじろう	1890-1966	練上陶硯	1936年	陶器	河井寛次郎記念館
浅川伯教	あさかわ のりたか	1884-1964	「ダリヤ」図	制作年不詳	紙本墨画	大阪市立東洋陶磁美術館 (鈴木正男氏寄贈)
北大路魯山人	きたおおじ ろさんじん	1883-1959	刷毛目彫三島茶碗	1928年	陶器(鶏籠山の土)	個人蔵
北大路魯山人	きたおおじ ろさんじん	1883-1959	絵高麗徳利	1929年	陶器	個人蔵
濱田耕作	はまだ こうさく	1881-1938	案鐘瀆鼎図	1930年頃	紙本墨画淡彩	黄正洙コレクション

第2章 近代「朝鮮」の風景

藤田嗣治	ふじた つぐはる	1886-1968	朝鮮風景	1913年	油彩・キャンバス	下関市立美術館
金山平三	かなやま へいぞう	1883-1964	庭(朝鮮の農家)	1925年	油彩・キャンバス	姫路市立美術館
国松桂溪	くにまつ けいけい	1883-1962	アカシアの花咲く半島	1916年	水彩・紙	栗東歴史民俗博物館
国松桂溪	くにまつ けいけい	1883-1962	はがき	1916年	はがき(4枚)、鉛筆・紙	栗東歴史民俗博物館
国松桂溪	くにまつ けいけい	1883-1962	木のある町並	不詳	油彩・キャンバス	栗東歴史民俗博物館
高木背水	たかぎ はいすい	1877-1943	風景	1912-26年	油彩・キャンバス	東京国立博物館
渡辺浩三	わたなべ こうぞう	1897-1980	細橋里早春	1936年	油彩・キャンバス	仙北市立角館町平福記念美術館
山口長男	やまぐち たけお	1902-1983	大地	1942年	油彩・板	新潟市美術館
山口長男	やまぐち たけお	1902-1983	風景(朝鮮)	1945年	油彩・板	宇都宮美術館
金山平三	かなやま へいぞう	1883-1964	南大門	1917年頃	油彩・キャンバス	兵庫県立美術館
南薫造	みなみ くんぞう	1883-1950	京城、景福宮建春門	1925年	油彩・板	郡山市立美術館
加藤松林人	かとう しょうりんじん	1898-1983	仁旺山風景	1930年頃	紙本水墨淡彩	黄正洙コレクション
浅川伯教	あさかわ のりたか	1884-1964	京城風景図	制作年不詳	紙本墨画	大阪市立東洋陶磁美術館 (鈴木正男氏寄贈)
金重鉉	キム・ジュンヒョン	1901-1953	貞洞風景	1948年	油彩・キャンバスボード	韓国国立現代美術館
都路華香	つじ かこう	1870-1931	写生帖26	1920年	墨・顔料・紙	京都市美術館
南素行	みなみ そこう	1890-1967	扶餘29	1920年代末	パステル・紙	韓国国立現代美術館
新井謹也	あらい きんや	1884-1966	梵魚寺	制作年不詳	紙本墨画彩色	京都市立近代美術館
山口蓬春	やまぐち ほうしゅん	1893-1971	スケッチブック(4)朝鮮	1931-32年	鉛筆・紙	神奈川県立近代美術館
五味清吉	ごみ せいきち	1886-1954	朝鮮開城北門	1936年頃	油彩・キャンバス	個人蔵
吉田博	よしだ ひろし	1876-1950	大同門	1937年	木版・紙	黄正洙コレクション
川口月泉	かわぐち げっせん	1875-1934	朝鮮開城附近	1927年頃	紙本墨画	岩手県立博物館 後期
靈華外史	れいか がいし	生没年不詳	朴淵瀑布	1935年	紙本墨画淡彩	黄正洙コレクション
平福百穂	ひらふく ひやくすい	1873-1957	金剛山(長安寺)	1916年頃	紙本墨画	仙北市立角館町平福記念美術館 前期
平福百穂	ひらふく ひやくすい	1873-1957	金剛山スケッチ帖	1916年	鉛筆・水彩・紙	個人蔵
平福百穂	ひらふく ひやくすい	1873-1957	金剛山(八潭)	1916年頃	紙本墨画淡彩	仙北市立角館町平福記念美術館 後期
川口月泉	かわぐち げっせん	1875-1934	朝鮮金剛山写生	1927年	紙本墨画	岩手県立博物館 前期
高島北海	たかしま ほうかい	1850-1931	朝鮮金剛山万物相図	1919年	絹本彩色	下関市立美術館
山内多門	やまうち たもん	1878-1932	金剛赤壁江	1920年	絹本墨画裏箔	都城市立美術館
山内多門	やまうち たもん	1878-1932	金剛山	1921年	絹本墨画	都城市立美術館
結城素明	ゆうき そめい	1875-1957	金剛山	1926年以降	絹本彩色	神奈川県立近代美術館 前期
鄭鍾汝	チョン・ジョンヨ	1914-1984	金剛山展望	1942年	紙本墨画淡彩	韓国国立現代美術館
徳田玉龍	とくだ ぎょくりゅう	生没年不詳	船潭晴雪、岩窟前雪旦	1930年頃	絹本墨画淡彩	黄正洙コレクション
鶴田吾郎	つるた ごろう	1890-1969	濟州島	1935年	コンテ・紙	名古屋市美術館
鶴田吾郎	つるた ごろう	1890-1969	西帰浦	1935年	木炭・鉛筆・紙	名古屋市美術館

第3章 近代「朝鮮」の日常

長谷川朝風	はせかわ ちょうふう	1901-1977	朝鮮三題 四温(草稿)	1940年	紙本彩色	岐阜県美術館 後期
山口蓬春	やまぐち ほうしゅん	1893-1971	市場 小下図	1932年	紙本水墨淡彩	山口蓬春記念館 前期
山口蓬春	やまぐち ほうしゅん	1893-1971	スケッチブック(6)朝鮮	1932年頃	鉛筆・紙	神奈川県立近代美術館 後期
山口蓬春	やまぐち ほうしゅん	1893-1971	スケッチブック(7)朝鮮	1932年	鉛筆・色鉛筆・紙	神奈川県立近代美術館 前期
山口蓬春	やまぐち ほうしゅん	1893-1971	スケッチブック(8)朝鮮	1932-33年	鉛筆・紙	神奈川県立近代美術館
山口蓬春	やまぐち ほうしゅん	1893-1971	朝鮮の老人	1932年	鉛筆・色鉛筆・紙	神奈川県立近代美術館 前期
安藤義茂	あんどう よししげ	1888-1967	泥亀売りの女	1927年	油彩・キャンバス	個人蔵
櫻田精一	さくらだ せいいち	1910-1999	市場の帰り	1940年	油彩・キャンバス	個人蔵
岩崎勝平	いわさき かつひら	1905-1964	試作(路行く)	1938年	油彩・キャンバス	川越市立美術館 後期
新見虚舟	しんみ きょしゅう	1904-1995	市の立つ日	1928年	紙本彩色	京都市立芸術大学芸術資料館 前期
安藤義茂	あんどう よししげ	1888-1967	スケッチ	1920年代後半-30年代前半	水彩・ペン・紙(11枚)	松山市北条ふるさと館
南薫造	みなみ くんぞう	1883-1950	川筋の家	1925年	油彩・板	郡山市立美術館
土田麦僊	つちだ ばくせん	1887-1936	朝鮮風景写生	1933-1935年頃	絵本墨画	新潟県立近代美術館・万代島美術館
新海竹蔵	しんかい たけぞう	1897-1968	砧	1939年	木	東京国立近代美術館
前田青邨	まえだ せいそん	1885-1977	朝鮮五題 魚売り	1939年	紙本墨画淡彩	愛知県美術館(木村定三コレクション) 前期
前田青邨	まえだ せいそん	1885-1977	朝鮮五題 水汲み	1939年	紙本墨画淡彩	愛知県美術館(木村定三コレクション) 後期
三木弘	みき ひろむ	1900-1972	子どもと鳥	1945年	油彩・キャンバス	個人蔵
松田黎光	まつだ れいこう	1891-1941	朝鮮風俗図 酒幕	1930年頃	木版・紙	黄正洙コレクション
石井柏亭	いしい はくてい	1882-1959	農園の一隅	1920年	油彩・キャンバス	東京国立博物館
石井柏亭	いしい はくてい	1882-1959	厨	1918年	油彩・キャンバス	松本市美術館

入江一子	いりえ かずこ	1916-	松根油をつくる朝鮮のひとびと	1945年	油彩・キャンパス	作家蔵
三迫星洲	みさこ せいしゅう	生没年不詳	釜山風景	1917年	油彩・キャンパス	黄正洙コレクション
鳥居昇	とりい のぼる	1918-2011	老婆	1943-1949年	油彩・キャンパス	神奈川県立近代美術館
李快大	イ・クエデ	1913-1965	二人 肖像	1939年	油彩・キャンパス	遺族蔵
李快大	イ・クエデ	1913-1965	二人 肖像(下図)	1939年	ペン・紙	遺族蔵
安藤義茂	あんどう よししげ	1888-1967	白いチョゴリの少女	1920年代後半	油彩・キャンパス	個人蔵
李仁星	イ・インソン	1912-1950	黄色いワンピースの婦人	1934年	水彩・紙	個人蔵
李仁星	イ・インソン	1912-1950	窓辺	1934年	水彩・キャンパス	個人蔵
具本雄	ク・ボヌン	1906-1953	女人	1930年	油彩・キャンパス	韓国国立現代美術館
李惟台	イ・ユテ	1916-1999	探求	1944年	紙本彩色	韓国国立現代美術館
杉浦非水	すぎうら ひすい	1876-1965	京城三越 新館落成	1929年	リトグラフ・オフセット・紙	東京国立近代美術館
作家不詳			和信百貨店全館完成(複製)	1937年		(原作はサントリーホールディングス株式会社蔵)
湯浅一郎	ゆあさ いちろう	1868-1931	朝鮮ホテル壁画下絵	1913-14年	油彩・キャンパス	群馬県立近代美術館
孫日鉉	ソン・イルヒョン	生没年不詳	昌慶苑風景	1935年	油彩・キャンパス	韓国国立現代美術館
岡本一平	おかもと いっぺい	1886-1948	朝鮮漫画行	1928年	冊子	個人蔵
細木原青起	ほそきはら せいき	1885-1958	朝鮮漫画	1909年	冊子	個人蔵
李箱	イ・サン	1910-1937	金起林の詩集『気象図』装丁	1936年	冊子	個人蔵

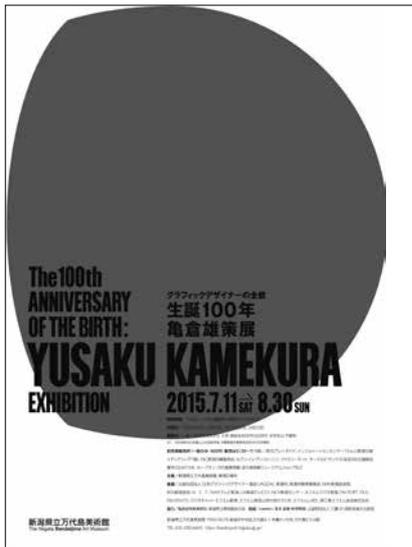
第4章 美術グループと師弟関係

安中植、 高義東、 今村雲嶺	アン・ジュンシク、 コ・フィドン、 いまむら うんれい	安：1861-1919 高：1886-1965 今村：生没年不詳	六旬高壽、萬歳芝、老筍英發	1915年	紙本水墨淡彩	高麗大学校博物館
清水東雲、 今村雲嶺、 久保田天南	しみず とうろん、 いまむら うんれい、 くぼたてんなん	清水：?-1927 今村：生没年不詳 久保田天南：1872-1940?	合作図	1920年頃	紙本水墨淡彩	高麗大学校博物館
清水東雲、他	しみず とうろん ほか	清水：?-1927	画帖『集腋』、『成裘』	1920年代	冊子	黄正洙コレクション
朝鮮美術会	ちょうせんびじゅつかい	1926年結成	雑誌『鷄林精華』	1926年	雑誌	斎藤實記念館
加藤松林人	かとう しょうりんじん	1898-1983	漢城門外桃花春	1930年	絹本彩色	黄正洙コレクション
尹用求	ユン・ヨング	1853-1939	倒垂竹	1920年頃	紙本墨画	個人蔵
尹用求	ユン・ヨング	1853-1939	倒垂竹	1920年頃	紙本墨画	個人蔵
尹用求、 金殷鎬、 金允輔	ユン・ヨング、 キム・ウンホ、 キム・ユンボ	尹用求：1853-1939 金殷鎬：1892-1979 金允輔：1886-1936	画帖『聊以自娛』	1928年	画帖	個人蔵
小室翠雲	こむろ すいうん	1874-1945	南船北馬冊	1922年	冊子	黄正洙コレクション
李漢福	イ・ハンボク	1897-1940	春景	1930年頃	絹本彩色淡彩	韓国国立現代美術館
鄭龍洙	キム・ヨンス	1901-1934	梅花樓台、嶺上多雲	1926年	絹本彩色	黄正洙コレクション
鄭仁堂	ジョン・インダン	生没年不詳	吳世昌像	1940年頃	絹本墨画	黄正洙コレクション
山本梅涯	やまもと ばいがい	1852-1928	雪景	1923年	絹本彩色	黄正洙コレクション
高義東	コ・フィドン	1886-1965	程子冠をかぶる自画像	1915年	油彩・キャンパス	東京藝術大学
高義東	コ・フィドン	1886-1965	外金剛山所見	1939年	紙本墨画淡彩	個人蔵
李濟昶	イ・ジェチャン	1896-1954	採石場	1937年	油彩・板	黄正洙コレクション
金瑬俊	キム・ヨンジュン	1904-1967	幽香	1938年	紙本墨画淡彩	黄正洙コレクション
朴広鎮	パク・クァンジン	1902-?	自画像	1928年	油彩・キャンパス	東京藝術大学
櫻田精一	さくらだ せいいち	1910-1999	早春の博物館	1933年	油彩・キャンパス	個人蔵
佐藤九二男	さとう くにお	1897-1945	自画像	1923年	油彩・キャンパス	東京藝術大学
劉永國	ユ・ヨングク	1916-2002	作品	1940年	油彩・キャンパス	劉永國芸術文化財団
鳥居昇	とりい のぼる	1918-2011	実験室の少年	1942年	油彩・キャンパス	個人蔵
小牧正美	こまき まさみ	1910-1995	海岸風景	制作年不詳	油彩・キャンパス	個人蔵
呉之湖	オ・ジホ	1905-1982	日本風景	1928年	油彩・キャンパス	韓国国立現代美術館
高島功	たかしま いさお	1903-1986	自画像	1924年	油彩・キャンパス	個人蔵
山田新一	やまだ しんいち	1899-1991	読後	1929年	油彩・キャンパス	京都市美術館
山田新一	やまだ しんいち	1899-1991	俘虜二人	1943年	油彩・キャンパス	有限会社青木画材店
遠田運雄	とおだ かずお	1891-1955	自画像	1918年	油彩・キャンパス	東京藝術大学
都相鳳	ト・サンボン	1902-1977	明倫堂	1933年	油彩・キャンパス	韓国国立現代美術館
都相鳳	ト・サンボン	1902-1977	自画像	1927年	油彩・キャンパス	東京藝術大学
山口長男	やまぐち たけお	1902-1983	庭	1937年	油彩・キャンパス	DIC川村記念美術館
戸張幸男	とばり ゆきお		肉弾三勇士(写真による複製)	1937年		(原作は現存せず。写真資料は個人蔵)
入江一子	いりえ かずこ	1916-	沼地風景	1938年	油彩・キャンパス	作家蔵
入江一子	いりえ かずこ	1916-	洗濯	1940年	油彩・キャンパス	葦崎大村美術館
千鏡子	チョン・ギョンジャ	1924-	丹粧	1950年代	絹本墨画彩色	アモーレバシフィック美術館
朴峽賢	パク・レヒョン	1920-1976	月夜	1953年	韓紙墨画彩色	個人蔵
金煥基	キム・ファンギ	1913-1974	無題(ジャスベント)(雑誌「雑記帳」挿絵原画)	1937年	鉛筆・紙	神奈川県立近代美術館 前期
金煥基	キム・ファンギ	1913-1974	島	1940年	油彩・キャンパス	ソウル美術館
劉永國	ユ・ヨングク	1916-2002	作品(レリーフ)	1938年(1979年再制作)	ミクストメディア	劉永國芸術文化財団
劉永國	ユ・ヨングク	1916-2002	作品	1940年	油彩・キャンパス	劉永國芸術文化財団
曹良奎	チョ・ヤング	1928-?	農婦と牛	1957年	油彩・キャンパス	個人蔵
多田毅三、 内野健児ら	ただ きぞう、 うちのけんじら	多田：生没年不詳 内野：1899-1944	雑誌「朝」	1926年	雑誌	個人蔵
多田毅三	ただ きぞう	生没年不詳	奥瀬英三宛年賀状(自作版画)	1932年	版画・はがき	跡見学園女子大学新座図書館

朝鮮創作版画会 — 佐藤貞一	ちょうせんそうさくはんがかい — さとうていいち	1929年結成	創作版画雑誌『すり絵』— 馬	1930年	雑誌	個人蔵
朝鮮創作版画会 — 鈴木卯三郎	ちょうせんそうさくはんがかい — すずき うさぶろう	1929年結成	創作版画雑誌『すり絵』— 風景	1930年	雑誌	個人蔵
朝鮮創作版画会 — 早川良雄	ちょうせんそうさくはんがかい — はやかわよしお	1929年結成	創作版画雑誌『すり絵』— 煙突掃除夫	1930年	雑誌	個人蔵
李秉珪、 金貞桓	イ・ビョンヒョン、 キム・ジョンファン	李：1911-1950 金：1912-1973	『LE IMAGE』	1934年	創作版画集	個人蔵
李秉珪	イ・ビョンヒョン	1911-1950	『LE IMAGE』— いちご	1934年	創作版画集	個人蔵
署名なし			『LE IMAGE』— 太陽と波	1934年	創作版画集	個人蔵
署名なし			『LE IMAGE』— 眩やく	1934年	創作版画集	個人蔵
朱美之会 — 金正鉉	しゅみのかい — キム・ジョンヒョン	1940年創刊	創作版画集『朱美之集』創刊号より — 鮮女	1940年	創作版画集	個人蔵
高等工業、 高等商業、 医専の学生	こうとうこうぎょう、 こうとうしやうぎょう、 いせんのかくせい		雑誌『あかしや』	1923年	雑誌	斎藤美記念館(岩手 県奥州市)

第5章 エピローグ

金瑠俊	キム・ヨンジュン	1904-1967	水仙	制作年不詳	紙本墨画淡彩	個人蔵
李快大	イ・クエデ	1913-1965	少年と馬	制作年不詳	ペン・紙	遺族蔵
李快大	イ・クエデ	1913-1965	自画像	1948-49年	ペン・紙	遺族蔵
李仲燮	イ・ジュンソブ	1916-1956	闘牛	1956年	油彩・紙	個人蔵
李仲燮	イ・ジュンソブ	1916-1956	旅だつ家族	1954年	油彩・紙	個人蔵
李仲燮	イ・ジュンソブ	1916-1956	二人の子ども	制作年不詳	ペン・銀紙	個人蔵
李仲燮	イ・ジュンソブ	1916-1956	愛	1955年	ペン・銀紙	個人蔵
朴壽根	パク・スグン	1914-1965	赤ん坊をおぶった少女	1953年	油彩・ハードボード	個人蔵
張旭鎮	チャン・ウクチン	1917-1990	自画像	1951年	油彩・紙	張旭鎮美術文化財団
張旭鎮	チャン・ウクチン	1917-1990	蚊帳	1956年	油彩・板	個人蔵
張旭鎮	チャン・ウクチン	1917-1990	家族図	1972年	油彩・キャンバス	個人蔵
金秉驥	キム・ビョンギ	1916-	街路樹	1956年	油彩・キャンバス	韓国国立現代美術館
李應魯	イ・ウンノ	1904-1989	徳崇山全景	1950年	紙本墨画淡彩	韓国国立現代美術館
金煥基	キム・ファンギ	1913-1974	春の音	1969年	油彩・キャンバス	個人蔵
金煥基	キム・ファンギ	1913-1974	女性と梅と白磁壺	1956年	油彩・キャンバス	個人蔵
山口長男	やまぐち たけお	1902-1983	かたち	1951年	油彩・キャンバス	神奈川県立近代美術館
山口長男	やまぐち たけお	1902-1983	捲	1965年	油彩・合板	DIC 川村記念美術館
劉永國	ユ・ヨングク	1916-2002	山のある絵	1955年	油彩・キャンバス	劉永國芸術文化財団
金景承	キム・ギョンスン	1915-1992	女人胸像	1960年	ブロンズ	個人蔵
権鎮圭	クオン・ジンギユ	1922-1973	男性立像	1953年頃	ブロンズ	個人蔵
全和風	チョン・ファファン	1909-1993	一燈園風景	1946年	油彩・キャンバス	光州広域市立美術館 河正雄コレクション
全和風	チョン・ファファン	1909-1993	私の生家	1957年	油彩・キャンバス	光州広域市立美術館 河正雄コレクション
全和風	チョン・ファファン	1909-1993	ある日の夢(銃殺)	1950年	油彩・キャンバス	京都市美術館(河正雄氏寄贈)
曹良奎	チョ・ヤングユ	1928-?	倉庫番	1956年	水彩・紙	光州広域市立美術館 河正雄コレクション
曹良奎	チョ・ヤングユ	1928-?	人物デッサン	1953年	ペン・紙	個人蔵
曹良奎	チョ・ヤングユ	1928-?	密閉せる倉庫	1957年	油彩・キャンバス	東京国立近代美術館
曹良奎	チョ・ヤングユ	1928-?	首を切られた鶏	1955年	油彩・キャンバス	光州広域市立美術館 河正雄コレクション
曹良奎	チョ・ヤングユ	1928-?	31番倉庫	1955年	油彩・キャンバス	光州広域市立美術館 河正雄コレクション
浅川伯教	あさかわ のりたか	1884-1964	『李朝の陶磁』	1956年	書籍	神奈川県立近代美術館 (矢代幸雄文庫)
柳宗悦	やなぎ むねよし	1889-1961	『今も続く朝鮮の工藝』(日本民藝協会編)	1947年	書籍	河井寛次郎記念館
三木弘	みき ひろむ	1900-1972	水汲み	1960年代以降	油彩・キャンバス	個人蔵
日吉守	ひよし まもる	1885-?	朝鮮風俗	1950-53年	木版・紙	仁川近代博物館
日吉守	ひよし まもる	1885-?	朝鮮風俗	1950-53年	木版・紙	仁川近代博物館
加藤松林人	かとう しょうりんじん	1898-1983	済州島風景・風俗集	1945年以降	紙本彩色	黄正洙コレクション



生誕100年 亀倉雄策展

【趣 旨】

新潟県燕市出身で、戦後日本を代表するグラフィックデザイナー亀倉雄策（1915-1997）の生誕100年を記念した回顧展。東京オリンピック（1964）や日本万国博覧会（1970）のポスターをはじめ、当館が所蔵する作品・資料を中心に、国内所蔵の作品・資料を加え、約400点によりその偉大な業績を辿った。

【総 括】

●評価すべき点

- ・当館が所蔵する膨大な亀倉作品・資料の調査研究の成果を披露すると共に、県出身作家の業績について知識を深めていただく機会となった。
- ・本展開催にあたり、2団体から助成いただくことができた。また前年度には、亀倉雄策関連資料のデータベース化作業に対しても1団体から助成いただいた。これにより、所蔵する全ポスター作品の撮影、所蔵ポスターの目録を掲載した図録の制作、展示備品の制作などを行うことができた。
- ・作家の親族や関係者等から今後の作品研究に有益な新たな情報を入手することができた。
- ・亀倉雄策をテーマにしたシンポジウムの開催（新潟日报社主催）や特別番組の放映（NST）など、地元のメディアとも連携し、作家を顕彰することができた。

●検討課題

- ・アンケートの回答などからも、そもそも亀倉やデザインに興味があった来館者にとっては満足いただけたようであるが、来館者数は目標に届かず、裾野を大きく広げることができなかった。

【開催日・その他】

=2015年7月11日(土)～8月30日(日)(47日間)=

主 催：新潟県立万代島美術館、新潟日报社

後 援：公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)、新潟市、新潟市教育委員会、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぼかぼかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協 力：亀倉雄策賞事務局、新潟県立美術館友の会、NST

助 成：公益財団法人 花王芸術・科学財団、

公益財団法人 三菱UFJ信託地域文化財団

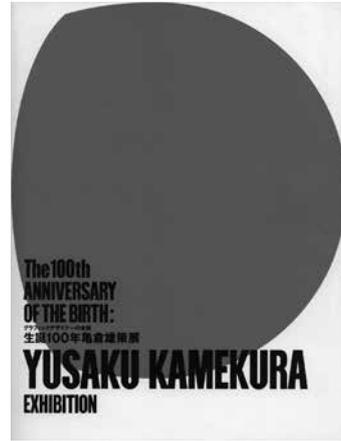
観覧料：一般……………1,000円(800円)〈800円〉

大学・高校生……………800円(600円)

※中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金

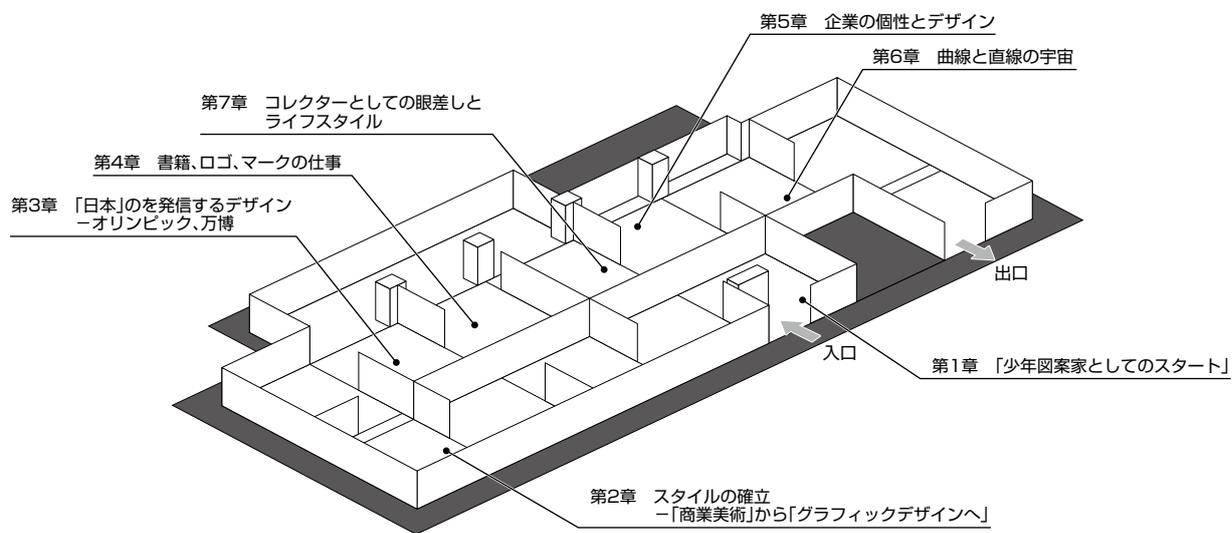


【関連行事】

- ・講演会
「亀倉雄策の東京オリンピックと大阪万博」
8月8日(土) 14:00～15:30 NICO プラザ会議室
講師：木田拓也氏(東京国立近代美術館工芸館主任研究員)
参加者数：22名
- ・美術鑑賞講座
「亀倉雄策のデザイン—当館所蔵資料から業績をたどる」
8月1日(土) 14:00～15:30 NICO プラザ会議室
講師：今井有(当館業務課課長代理・学芸員)
参加者数：6名
- ・当館学芸員による作品解説会
7月11日(土)／7月25日(土) 14:00～ 当館展示室
参加者数：13名／15名
- ・シンポジウム
「亀倉雄策の足跡とデザインの明日」(新潟日报社主催)
*当館開催協力
6月29日(月) 18:00～19:30
新潟日報メディアシップ2階 日報ホール
出演：勝井三雄氏、葛西薫氏、大迫修三氏

【図録】

- 仕様：28.0×21.7cm 164頁
- 編集：新潟県立万代島美術館(今井有)
- 表紙デザイン：石川竜太(株式会社フレーム)
- 印刷：株式会社北都
- 発行：新潟県立万代島美術館
- 内容：ごあいさつ
図版・章解説(今井有)
第1章 「少年図案家」としてのスタート
第2章 スタイルの確立—「商業美術」から「グラフィックデザイン」へ
第3章 「日本」を発信するデザイナー—オリンピック、万博
第4章 書籍、ロゴ、マークの仕事
第5章 企業の個性とデザイン
第6章 曲線と直線の宇宙
第7章 コレクターとしての眼差しとライフスタイル
亀倉雄策の素顔—「第264回クリエイティブサロン(出演：永井一正 聞き手：大迫修三)」より
亀倉雄策における「日本的なもの」—東京オリンピックのデザインワークから見えてくるもの(木田拓也)
新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵の亀倉雄策関連資料について(今井有)
出品リスト
亀倉雄策 年譜
資料—新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵 亀倉雄策 ポスター・カレンダー作品目録



【関連記事】

- 新聞 新潟日報 (7/10、7/11、8/9、8/24)
読売新聞 (7/31)
- テレビ
 - 7月12日(日) NHK
日曜美術館 アートシーン
 - 7月18日(土) NST
生誕100年記念特別番組 亀倉雄策
デザインの先に見えるもの
 - 7月18日(土) UX
ほっとホット新潟
- 雑誌
トツときガイド7・8月号

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	3,566
	前売	355
無料観覧者数	招待	992
	無料	655
	免除	421
総観覧者数		5,989
有料率 (%)		65.5

担当 今井有

【出品リスト】

※所蔵先表記のないものはすべて新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵

出品No.	作品名	制作年	種別・技法	サイズ	所蔵先
1 「少年図案家」としてのスタート					
1-001	『夜間飛行』(アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ著、堀口大學訳、第一書房)	1934年	書籍(装幀)	19.5×13.3×1.5	
1-002	『自由日記』(第一書房)	1934年	書籍(装幀)	20.9×16.0×3.7	
1-003	『自由日記』(第一書房)	1935年	書籍(装幀)	20.9×15.9×3.6	
1-004	『日本の日用工芸品展』図録	1938年03月	冊子	18.0×15.2	宇都宮美術館
1-005	『日本人造織維株式会社 五周年記念アルバム』(国際報道工芸株式会社制作)	1939年09月	アルバム(装幀・構成)	25.5×25.5×13.0	
1-006	『NIPPON』19号(復刻版)	1939年10月/ 2002年復刻	雑誌(表紙構成)	37.2×26.7	
1-007	『NIPPON』24号(復刻版)	1940年12月/ 2002年復刻	雑誌(表紙構成)	37.2×26.7	
1-008	『MANCHOUKUO』1号	1940年4月	雑誌(表紙構成)	37.2×26.8	川崎市市民ミュージアム
1-009	『NIPPON』27号	1941年8月	雑誌(表紙構成)	36.2×25.8	川崎市市民ミュージアム
1-010	『カウパアブ・タワンオーク』(第1～5号合本)	1941年12月～ 1942年4月	雑誌(美術編集)	35.8×25.0	
1-011	『支那文化談叢』(除村一学編、名取書店)	1942年	書籍(装幀)	26.3×19.1×2.3	
1-012	『アンコール遺址群』(アンリ・バルマンティエ著、永田逸郎訳、育生社弘道閣)	1943年	書籍(装幀・構成)	26.3×19.5×2.9	
2 スタイルの確立—「商業美術」から「グラフィックデザイン」へ					
2-001	スケッチブック	1940年代	水彩・紙	29.8×21.2	
2-002	マユラ オード・シャルマン	1945-50年	ポスター	40.7×28.4	
2-003	メグロランプ	1945-50年頃	ポスター	52.0×37.0	
2-004	銀河	1946年	ポスター	34.2×51.0	
2-005	東洋の置時計 1948年のニューデザイン 正シク美シク新シイ	1948年	ポスター	36.0×51.7	
2-006	婦人画報 春・初夏号 スタイルブック	1948年	ポスター	36.5×52.0	
2-007	銀座より草津へ スキーバス	1949-64年	ポスター	102.8×72.9	
2-008	モードデザイン教室	1950年代前半	ポスター	37.4×52.7	
2-009	ポスター「モードデザイン教室」原画	1950年代前半	水彩・紙	38.0×52.4	
2-010	エイステウインガム	1950年	ポスター	51.5×35.8	
2-011	スリーカメラヤ チューインガム	1950年	ポスター	51.4×36.2	
2-012	新発売の中華酒 楊貴妃 登仙	1950年	ポスター	58.3×41.0	
2-013	クサカベ油絵具	1950年代	ポスター	103.2×73.3	
2-014	トーヨーの組立時計	1951年以前	ポスター	36.0×51.5	
2-015	富士フォトコンテスト 発表展	1952年	ポスター	37.5×53.0	
2-016	全国区参議院議員候補者 石垣純二	1953年	ポスター	37.5×26.0	
2-017	土門拳写真集 風貌	1953年	ポスター	37.5×51.7	
2-018	『土門拳写真集 風貌』	1953年	書籍(表紙デザイン)	29.5×21.0	
2-019	富士フォトコンテスト 発表展	1953年	ポスター	36.4×51.6	
2-020	国際生花展	1954年以前	ポスター	51.0×36.0	
2-021	勅使河原蒼風展	1954年	ポスター	103.0×72.7	
2-022	ニッポン放送 7月15日開局	1954年	ポスター	72.8×51.9	
参考	ニッポン放送	1950年代	ハガキ		
参考	ニッポン放送	1950年代	ハガキ		
参考	ニッポン放送	1950年代	ハガキ		
参考	ニッポン放送	1950年代	ハガキ		
2-023	学校法人桑沢学園 桑沢デザイン研究所	1954年	ポスター	72.5×50.5	
2-024	グロピウスとパウハウス	1954年	ポスター	72.4×51.3	
2-025	グロピウスとパウハウス	1954年	冊子	25.8×12.1	
2-026	富士フォトコンテスト メ切迫る!	1954年	ポスター	72.3×51.5	
2-027	富士フォトコンテスト	1955年	ポスター	72.5×51.5	
2-028	地下鉄東京開通	1956年	ポスター	103.0×72.7	
2-029	世界・今日の美術展	1956年	ポスター	71.9×51.7	
2-030	丹下健三構成による岳陵と蒼風	1957年	ポスター	73.0×51.5	
2-031	ドイツ新刊書籍展	1957年	ポスター	72.6×51.5	
2-032	ソ連第一回文化使節 ベズロードニー ヴァイオリン演奏会	1957年	ポスター	73.6×51.6	
2-033	ゼネラルラジオ カレンダー	1950年代	カレンダー	72.4×51.3	
2-034	ゼネラルラジオ カレンダー 1953年 7-9月	1953年	カレンダー	73.4×51.4	
2-035	コロ・コロ	1940年代～ 1950年代	パッケージ	7.7×5.2×5.2	
2-036	放送	1948年8月	雑誌(表紙デザイン)	26.0×18.0	
2-037	放送	1950年2月	雑誌(表紙デザイン)	26.0×18.1	
2-038	『十二』(アレクサンドル・ブローク詩/中山省三郎訳、柏書店)	1946年	書籍(装幀)	24.7×18.5×0.8	宇都宮美術館
2-039	『天皇』(サン ニュース フォトス編、トッパン)	1947年	書籍(装幀・構成)	26.4×19.0	個人蔵
2-040	『現代アメリカ工芸』(商工省工芸指導書編、技術資料刊行会)	1949年	書籍(装幀)	25.0×18.4×1.3	
2-041	『新都市の形態』(A.J.ラバック、S.E.サンダース共著/高山英華訳)	1950年	書籍(装幀)	25.5×19.0×2.5	宇都宮美術館

2-042	ダイドーポップススラックス	1950年代	ポスター	101.6×71.7
2-043	大同毛織のミリオンテックス 秋こそ この色・柄・風合が生きてくる季節です	1950年代	ポスター	36.3×51.5
2-044	ミリオンテックス	1953年	ポスター	103.0×72.7
2-045	ミリオンテックス展 この色と柄が秋のメンズモードを創る!	1953年	ポスター	34.8×51.5
2-046	どなたにもピッタリ! ユースーツ	1953年頃	ポスター	102.8×72.6
2-047	高級紳士服地 ミリオンテックス	1953年頃	ポスター	102.0×72.5
2-048	ミリオンテックス創作展 一流美術工芸家のデザインによる	1954年	ポスター	37.9×51.7
2-049	高級紳士服地 ミリオンテックス	1954年	ポスター	103.0×72.5
2-050	大同毛織のミリオンテックス 多彩な色柄しかも渋く落ち着いた高級紳士服地	1957年	ポスター	36.5×51.7
2-051	ダイドーポップス 東レテトロンを生かした大同毛織の新製品 高級毛織服地	1959年	ポスター	72.8×103.3
2-052	高級紳士服地 ミリオンテックス 原毛が違います	1950年代	広告	20.5×14.3
2-053	高級紳士服地 ミリオンテックス 紡ぎ方が違います	1950年代	広告	22.0×15.3
2-054	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている だから もちが特によいのです	1950年代	広告	22.0×15.3
2-055	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている だから よくいたわって下さい	1950年代	広告	22.0×15.3
2-056	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている だから 健康によいのです	1950年代	広告	21.0×14.5
2-057	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている だから 体によく合うのです	1950年代	広告	20.5×14.3
2-058	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている だから 体温調節をします	1950年代	広告	22.0×15.3
2-059	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている だから 休息を与えてください	1950年代	広告	21.5×15.3
2-060	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている だから 染め上りが美しい	1950年代	広告	22.0×15.3
2-061	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている だから 着心地がよい	1950年代	広告	22.0×15.3
2-062	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている! だから 経済的なのです!	1950年代	広告	22.0×15.3
2-063	高級紳士服地 ミリオンテックス 羊毛は生きている! だから 燃えにくいのです!	1950年代	広告	22.0×15.3
2-064	ミリオンテックス ミリオン毛糸 1952年 株主優待展示即売会	1952年	冊子	18.2×13.0
2-065	一流美術工芸家のデザインによるミリオンテックス創作展 1954年春夏物 ご案内	1954年	冊子(表紙デザイン)	15.3×16.7
2-066	『羊彩会報』No.1	1957年	雑誌(表紙デザイン)	29.7×21.0
2-067	『羊彩会報』No.3	1957年	雑誌(表紙デザイン)	29.7×21.0
参考	新設小田原工場の概要	1953年	冊子	
参考	ミリオンテックス 1956春物 大同毛織ショールーム	1956年	ハガキ	
参考	ミリオンテックス 1956夏物 大同毛織ショールーム	1956年	ハガキ	
参考	『ひつじ』栗原社長海外視察特別号	1950年代	冊子(表紙)	
参考	ミリオンテックス 1954年秋冬物株主優待会	1954年	冊子	
2-068	第3回集団フォト展	1953年	ポスター	36.4×51.4
2-069	第4回集団フォト展	1954年	ポスター	51.0×36.0
2-070	第4回日宣美展	1954年	ポスター	72.4×51.2
2-071	グラフィック'55	1955年	ポスター	72.5×51.3
2-072	原子エネルギーを平和産業に!	1956年	ポスター	103.0×72.7
2-073	ぼくのおさかなに放射能が…… 原水爆実験禁止運動本部	1958年	ポスター	102.2×72.4
2-074	恐怖と悲しみ! ガン!	1959年	ポスター	103.0×72.7
2-075	第2回集団フォト展	1952年	冊子	17.9×25.4
2-076	第3回集団フォト展	1953年	冊子	13.3×36.9
2-077	第4回日宣美展 案内状	1954年	ハガキ	14.5×10.5
2-078	第4回集団フォト展	1954年	冊子	14.0×12.0
参考	第4回集団フォト展	1954年	冊子	
参考	第5回集団フォト展	1955年	ハガキ	
参考	第6回集団フォト展	1956年	冊子	
参考	第6回集団フォト展	1956年	ハガキ	
参考	第7回集団フォト展	1957年	冊子	
参考	グラフィック'55 カタログ(装幀:原弘)	1955年	冊子	
参考	グラフィック'55 案内状	1955年	冊子	
参考	グラフィック'55 ハガキ(デザイン:原弘)	1955年	ハガキ	
2-079	亀倉雄策グラフィックデザイン展	1953年	冊子	26.0×18.3
2-080	亀倉雄策グラフィックデザイン展	1953年	チラシ	25.8×18.7
2-081	Yusaku Kamekura's Works Exhibit (亀倉雄策作品展)	1956年	冊子	35.0×20.0
2-082	Yusaku Kamekura's Works Exhibit (亀倉雄策作品展)	1956年	チラシ	20.3×35.6
2-083	大日本印刷株式会社 1956年暑中見舞いハガキ	1956年	ハガキ	13.9×9.1
2-084	大日本印刷株式会社 1957年年賀ハガキ	1957年	ハガキ	14.1×10.0
2-085	大日本印刷株式会社 1958年年賀ハガキ	1958年	ハガキ	14.4×9.1
2-086	大日本印刷株式会社 1959年暑中見舞いハガキ	1959年	ハガキ	14.4×9.1
2-087	大日本印刷株式会社 1959年年賀ハガキ	1959年	ハガキ	14.0×9.3
2-088	大日本印刷株式会社 1960年年賀ハガキ	1960年	ハガキ	14.0×9.2
2-089	「大日本印刷株式会社 1956年暑中見舞いハガキ」印刷原稿	1956年	鉛筆・水彩・紙	24.0×21.0
2-090	大日本印刷	1950年代	冊子(表紙デザイン)	22.1×20.1
2-091	大日本印刷カレンダーの葉	1956年	冊子(表紙デザイン)	25.7×18.2
2-092	大日本印刷株式会社 アルマナック'56-57	1957年	冊子(表紙デザイン)	25.8×18.4
2-093	大日本印刷株式会社 アルマナック'57-58	1958年	冊子(表紙デザイン)	25.8×18.4
2-094	大日本印刷株式会社 アルマナック'58-59	1959年	冊子(表紙デザイン)	25.8×18.4

2-095	ハガキ「大日本印刷 年賀はがき1960年」原画・版下原稿	1960年	水彩・紙	14.0×9.4
2-096	冊子「大日本印刷 第43期営業報告書」印刷指示書、版下原稿	1956年	鉛筆・水彩・紙	25.5×36.0/17.5×19.0/ 19.7×13.6
2-097	冊子「大日本印刷」印刷指示書、版下原稿	1950年代	鉛筆・水彩・紙	22.0×21.0
2-098	冊子「大日本印刷カレンダーの葉」印刷指示書、版下原稿	1955年	鉛筆・紙	17.0×16.0(2点)/36.6×25.7/ 25.0×20.0(2点)/19.0×11.4
2-099	『年鑑広告美術1957』	1957年	冊子(表紙デザイン)	18.5×17.0
2-100	『アサヒカメラ』1959年1月号	1959年	雑誌(表紙デザイン)	25.5×18.2
2-101	『アサヒカメラ』1959年2月号	1960年	雑誌(表紙デザイン)	25.5×18.2
2-102	『アサヒカメラ』1959年3月号	1961年	雑誌(表紙デザイン)	25.5×18.2
2-103	『アルスカメラ』1953年1月号	1953年	雑誌(表紙デザイン)	25.5×18.2
2-104	『アルスカメラ』1953年2月号	1953年	雑誌(表紙デザイン)	25.5×18.2
2-105	『アルスカメラ』1954年11月	1954年	雑誌(表紙デザイン)	25.5×18.2
2-106	『アルスカメラ』1954年7月号	1954年	雑誌(表紙デザイン)	25.5×18.2
2-107	『アルスカメラ』1954年8,9月号	1954年	雑誌(表紙デザイン)	25.5×18.2
2-108	『アルスグラフ』第6号 日本の国宝 彫刻編	1952年	雑誌(表紙デザイン)	26.5×18.7
2-109	『アルスグラフ』第6号 日本の国宝 彫刻編	1952年	雑誌(中表紙デザイン)	26.5×18.7
2-110	『アルスグラフ』第7号 映画	1952年	雑誌(表紙デザイン)	26.5×18.7
2-111	『アルスグラフ』第7号 映画	1952年	雑誌(中表紙デザイン)	26.5×18.7
2-112	『アルスグラフ』第9号 新東京案内	1953年	雑誌(表紙デザイン)	26.2×18.5
2-113	『アルスグラフ』第10号 オペラ	1953年	書籍(表紙デザイン)	25.6×18.3
2-114	『アルスグラフ』第10号 オペラ	1953年	雑誌(中表紙デザイン)	25.6×18.3
2-115	『アルスグラフ』映画 アメリカ篇	1950年代	書籍(表紙デザイン)	26.5×18.7
2-116	『栄養と料理』第22巻第5号	1956年1月	雑誌(表紙デザイン)	21.0×15.0
2-117	『栄養と料理』第23巻第8号	1957年8月	雑誌(表紙デザイン)	21.0×15.0
2-118	『栄養と料理』第24巻第3号	1958年3月	雑誌(表紙デザイン)	21.0×15.0
2-119	『栄養と料理』第25巻第1号	1959年1月	雑誌(表紙デザイン)	21.0×15.0
2-120	『栄養と料理』第25巻第5号	1959年5月	雑誌(表紙デザイン)	21.0×15.0
2-121	『工芸ニュース』第20巻第4号	1952年4月	雑誌(表紙デザイン)	26.0×18.0
2-122	『工芸ニュース』第21巻第6号	1953年6月	雑誌(表紙デザイン)	26.0×18.0
2-123	『工芸ニュース』第23巻第11号	1955年11月	雑誌(表紙デザイン)	26.0×18.0
2-124	『工芸ニュース』第25巻第1号	1957年1月	雑誌(表紙デザイン)	26.0×18.0
2-125	『工芸ニュース』第29巻第4号	1961年4月	雑誌(表紙デザイン)	26.0×18.0
2-126	『広告美術』第2号	1952年8月	雑誌(表紙デザイン)	26.0×18.6
2-127	『広告美術』第2号 表紙試作	1952年8月	雑誌(表紙デザイン)	26.0×18.6
2-128	『コマース・ジャパン』対ラテンアメリカ貿易特集号	1953年	雑誌(表紙デザイン)	30.0×21.3
2-129	『コマース・ジャパン』商業美術特集号	1954年	雑誌(表紙デザイン)	30.0×21.3
2-130	『コマース・ジャパン』第5巻第2号	1954年	雑誌(表紙デザイン)	30.0×21.3
2-131	『コマース・ジャパン』第6巻第3号	1955年	雑誌(表紙デザイン)	30.0×21.3
2-132	『コマース・ジャパン』第7巻第7号	1956年	雑誌(表紙デザイン)	30.0×21.3
2-133	『コマース・ジャパン』第8巻第4号	1957年	雑誌(表紙デザイン)	30.0×21.3
2-134	『コマース・ジャパン』第9巻第2号	1958年	雑誌(表紙デザイン)	30.0×21.3
2-135	『コマース・ジャパン』第9巻第6号	1958年	雑誌(表紙デザイン)	30.0×21.3
2-136	『デザイン』第1号	1959年10月	雑誌(表紙デザイン)	29.5×20.8
2-137	『デザイン』第2号	1959年11月	雑誌(表紙デザイン)	29.7×21.0
2-138	『デザイン』第3号	1959年12月	雑誌(表紙デザイン)	29.7×21.1
2-139	『デザイン』第4号	1960年1月	雑誌(表紙デザイン)	29.8×21.0
2-140	『デザイン』第5号	1960年2月	雑誌(表紙デザイン)	29.7×21.0
2-141	『デザイン』第6号	1960年3月	雑誌(表紙デザイン)	29.9×21.0
2-142	『デザイン』第7号	1960年4月	雑誌(表紙デザイン)	29.8×21.0
参考	『デザイン』第1号 表紙原稿(2点)	1959年	版下原稿	各34.4×26.8
参考	『デザイン』第3号 表紙原稿	1959年	版下原稿	37.9×25.0
2-143	『リビングデザイン』第16号	1956年4月	雑誌(表紙デザイン)	25.7×18.0
2-144	『リビングデザイン』第17号	1956年5月	雑誌(表紙デザイン)	25.7×18.0
2-145	『リビングデザイン』第18号	1956年6月	雑誌(表紙デザイン)	25.7×18.0
2-146	『葦折れぬ』(千野敏子著、大月新書)	1955年	書籍(装幀)	17.7×21.9
2-147	『アルス写真年鑑 1950』	1950年	書籍(装幀)	38.4×26.0
2-148	『アルス写真年鑑 1953』	1953年	書籍(装幀)	26.0×18.0
2-149	『アルス写真年鑑 1954』	1954年	書籍(装幀)	26.0×19.3
2-150	『偉大なるギャツビー』(F・スコット・フィッツジェラルド著、野崎孝訳、研究社)	1957年	書籍(装幀)	17.3×29.3
2-151	『英語自習帖』(研究社)	1950年代	書籍(装幀)	18.7×12.7
2-152	『英米現代詩の鑑賞』(研究社)	1950年代	書籍(装幀)	18.7×12.7
2-153	『活用英文法』(研究社)	1950年代	書籍(装幀)	18.0×28.0
2-154	『基本英会話』(研究社)	1950年代	書籍(装幀)	18.0×28.0
2-155	『基本英単語・熟語』(研究社)	1950年代	書籍(装幀)	18.0×28.0
2-156	『基本英文解釈』(研究社)	1950年代	書籍(装幀)	18.0×28.0
2-157	『基本英文法』(研究社)	1950年代	書籍(装幀)	18.0×28.0

2-158	『世界一流デザイナー作品集』(田中千代編著、婦人画報社)	1951年	書籍(装幀)	26.0×39.2
2-159	『添削式英作文の研究』(研究社)	1956年	書籍(装幀)	18.0×28.0
2-160	『日本の現代建築』(小池新二編、彰国社)	1954年	書籍(装幀)	25.0×28.2 / 25.0×26.0
2-161	『入門英作文講話』(研究社)	1956年	書籍(装幀)	18.7×12.7
2-162	『年鑑広告美術 1957』	1957年8月	書籍(表紙デザイン)	30.2×21.5
2-163	『ふだん着のデザイナー』(桑沢洋子著、平凡社)	1957年	書籍(装幀)	18.1×26.5
2-164	『私たちのおかず1』(江上トミ著、柴田書店)	1950年代	書籍(装幀)	21.5×33.0
2-165	『私たちのおかず4』(江上トミ著、柴田書店)	1950年代	書籍(装幀)	21.5×33.0
2-166	『私たちの生活手帖』(田中千代・田中薫著、婦人画報社)	1952年	書籍(装幀)	25.7×38.9
2-167	『私の料理 西洋料理』(江上トミ著、柴田書店)	1950年代	書籍(装幀)	21.5×33.0
2-168	『私の料理 中華料理』(江上トミ著、柴田書店)	1950年代	書籍(装幀)	21.5×33.0
2-169	『私の料理 日本料理』(江上トミ著、柴田書店)	1956年頃	書籍(装幀)	21.5×33.0
参考	『史的唯物論』(コンスタンチーノフ監修/ソ同盟科学院哲学研究所編)	1951年	書籍(装幀)	17.3×22.3
参考	『大日本印刷株式会社 アルマナック'59-'60』	1960年	冊子(表紙デザイン)	
参考	『大日本印刷株式会社 アルマナック'60-'61』	1961年	冊子(表紙デザイン)	
参考	大日本印刷 第43期営業報告書	1956年	冊子(表紙デザイン)	
2-170	日本光学の正確な眼鏡レンズ ポイントール	1950年代	ポスター	36.1×51.3
2-171	日本光学の正確な眼鏡レンズ ポイントール	1950年代	ポスター	36.2×51.2
2-172	日本光学工業株式会社	1954年	ポスター	103.0×72.8
2-173	ニコンカメラ	1955年	ポスター	103.0×72.7
2-174	ニコンカメラ	1955年	ポスター	103.0×72.8
2-175	ニコンカメラ	1955年	ポスター	103.0×72.8
2-176	ニッコールレンズ	1955年	ポスター	103.0×72.7
2-177	ニッコールレンズ	1955年	ポスター	103.0×72.8
参考	ニッコールレンズ	1955年	ポスター	103.0×72.8
2-178	ミクロン双眼鏡	1955年	ポスター	103.0×72.8
2-179	ニコンSP	1957-65年頃	ポスター	101.5×72.6
参考	ニコンSP	1957-65年頃	ポスター	101.5×72.6
2-180	ニコンS2 ニッコールレンズ	1957年	ポスター	103.5×72.8
2-181	ニコンSP	1957年	ポスター	103.0×72.7
2-182	ニコンSP	1957年	ポスター	101.5×73.0
2-183	ニコンカメラ	1957年	ポスター	103.0×72.7
2-184	ニコンF	1959年	ポスター	51.3×36.3
参考	ニコンF	1959年	ポスター	51.3×36.3
参考	ニコンF	1959年	ポスター	51.3×36.3
2-185	ニコレックス35	1960年	ポスター	103.0×72.7
2-186	ニッコールレンズ	1960年	ポスター	103.0×72.7
2-187	ニコンS2	1954-57年頃	広告	29.5×22.5
2-188	ニコンS2	1954-57年頃	広告	34.0×22.7
2-189	ニコンS2 ニッコール	1954-57年頃	広告	27.4×19.6
2-190	ニコンS2 ニッコール	1954-57年頃	広告	35.8×26.0
2-191	ニコンSP	1957-65年頃	広告	19.2×20.4
2-192	ニコンSP	1957-65年頃	広告	11.5×39.8
2-193	ニコンSP ニコンS3	1958-65年頃	広告	28.7×22.5
2-194	ニコンF ニコンSP	1959-71年頃	広告	29.6×21.3
2-195	ニコンF	1959年頃	広告	29.0×22.0
参考	ニコンS2	1956年	広告	35.6×26.6
参考	ニコンS2	1954-57年頃	広告	35.6×26.6
参考	ニコンS2	1954-57年頃	広告	35.6×26.6
参考	ニコンS2 ニッコール	1954-57年頃	広告	35.6×26.6
参考	ニコンS2 ニッコール	1954-57年頃	広告	35.6×26.6
参考	ニコンS2	1954-57年頃	広告	35.6×26.6
2-196	ニコンカメラ 取り扱い説明書(英語版)	1950-54年頃	冊子	16.2×17.4
2-197	ニコンS2 取り扱い説明書(日本語版)	1954-57年	冊子	16.2×17.7
2-198	ニコンS2 取り扱い説明書(日本語版)	1954-57年	冊子	16.2×8.2
2-199	ニコンS2 製品パンフレット(日本語版)	1954-57年	冊子	18.1×8.2
2-200	ニコンS2 取り扱い説明書(英語版)	1954-57年頃	冊子	16.0×17.6
2-201	ニコンS2 取り扱い説明書(英語版)	1954-57年頃	冊子	16.1×17.7
2-202	ニコンSP 取り扱い説明書(英語版)	1957-65年頃	冊子	16.2×17.4
2-203	ニコンSP 製品パンフレット(英語版)	1957-65年頃	冊子	17.5×36.8
2-204	ニコンSP 取り扱い説明書(日本語版)	1957-65年頃	冊子	16.4×17.4
2-205	ニコンSP 製品パンフレット(日本語版)	1957-65年頃	冊子	17.5×36.5
2-206	ニコンF 取り扱い説明書(英語版)	1959-71年頃	冊子	14.8×10.4
2-207	ニコンSP ハードケース	1957-65年頃	パッケージ	13.0×17.0×9.0
2-208	ニコンSP	1958年	パッケージ	11.7×18.0×10.5 日本カメラ博物館
2-209	ニコンF	1959年	カメラ	9.0×15.0×11.0

2-210	ニコフ	1959年頃	パッケージ	13.4×19.3×14.0	
2-211	ニコフ PC ニッコール 3.5cmf/3.5	1959年頃	パッケージ	10.4×10.4×10.4	
2-212	ニコフ Photomic	1959年頃	パッケージ	13.3×13.3×14.0	
2-213	ニコフ Focusing Screen Type B	1959年頃	パッケージ	6.6×8.3×1.0	
2-214	ニコレックス8	1960年	パッケージ	12.9×21.2×10.7	日本カメラ博物館
参考	ニコレックス8	1960年	カメラ		
2-215	日本産業巡航見本市(日本語版)	1958年	ポスター	103.0×72.7	
2-216	シドニーの貿易市	1959年	ポスター	103.0×72.7	
2-217	JAPON	1950年代後半	冊子(表紙デザイン)	21.5×41.7	
2-218	第11回ミラノトリエンナーレ展 日本出品リスト	1957年	冊子	17.2×17.3	
2-219	アメリカワールドトレードフェア日本出展者リスト	1958年	冊子	28.9×44.1	
2-220	The story of toyo rayon 1958	1958年	冊子	28.0×43.4	
2-221	古き伝統の国から新しい製品の提案	1950年代後半	海外向け雑誌広告	各35.7×26.3	
2-222	杼 古き造形の伝統から生まれた新しい産業	1950年代後半	海外向け雑誌広告	33.2×23.9	
2-223	佛陀	1961年	海外向け雑誌広告	30.9×23.8	

3 「日本」を発信するデザイン-オリンピック、万博

3-001	東京オリンピック 公式ポスター第1号	1961年	ポスター	103.0×72.7	
3-002	東京オリンピック 公式ポスター第2号	1962年	ポスター	103.0×72.7	
3-003	東京オリンピック 公式ポスター第3号	1963年	ポスター	103.0×72.7	
3-004	東京オリンピック 公式ポスター第4号	1964年	ポスター	103.0×72.7	
3-005	東京オリンピックのシンボルマーク案	1961年所収	冊子からの切り抜き	25.5×23.9	
参考	東京オリンピックシンボルマーク 下図	1960年頃	方眼紙・鉛筆	29.6×21.0	
参考	東京オリンピックシンボルマーク 印刷原稿	1960年頃	紙、トレーシングペーパー	27.2×19.8	
参考	XVII Olympic Games, Tokyo, Oct. 10-24, 1964	1964年	紙	7.4×25.0/8.6×24.8	
3-006	札幌オリンピック 公式ポスター第2号	1969年	ポスター	103.0×72.7	
3-007	札幌オリンピック 公式ポスター第3号	1970年	ポスター	103.0×72.7	
3-008	EXPO'70(日本万国博覧会 海外向け第1号公式ポスター)	1967年	ポスター	103.0×72.7	
3-009	EXPO'70	1967年	ポスター	103.0×72.7	
3-010	EXPO'70	1967年	ポスター	103.0×72.8	
3-011	EXPO'70	1967年	ポスター	103.0×72.8	
3-012	EXPO'70	1967年	ポスター	103.0×72.8	
3-013	EXPO'70(日本万国博覧会 海外向け第3号公式ポスター「日本のまつり」)	1969年	ポスター	103.0×72.7	
3-014	第3次日本産業巡航見本市	1960年	ポスター	102.0×72.9	
3-015	ソ連の日本工業展	1960年	ポスター	103.0×72.7	
3-016	ソ連の日本工業展	1960年	ポスター	103.0×72.7	
3-017	日本経済を支える機械工業 機械工業年産3兆円突破大会特別展示会	1961年	ポスター	102.8×72.8	
3-018	第9回全日本自動車ショー(英語版)	1962年	ポスター	102.8×72.4	
3-019	東京国際スポーツ大会	1963年	ポスター	102.9×72.7	
3-020	東京放送 日本選手の活躍に焦点をあわせておくります	1964年	ポスター	102.9×73.0	
3-021	19回国民体育大会 春季大会/新潟	1964年	ポスター	102.9×72.7	
3-022	第6回東京国際見本市(英語版)	1964年	ポスター	103.0×72.7	
3-023	参議院選挙	1965年	ポスター	103.0×72.7	
3-024	大きく進展する可能性 キャンバス構造展	1968年	ポスター	72.7×51.6	
3-025	江戸京子ビアノリサイタル	1968年	ポスター	103.0×72.7	
3-026	世界の偉大な写真家たち ジョージ イーストマン ハウス コレクション展	1968年	ポスター	102.9×72.7	
3-027	参議院選挙	1971年	ポスター	103.0×72.7	
3-028	亀倉雄策展	1971年	ポスター	103.0×72.7	
3-029	ICSID'73 世界インダストリアルデザイン会議	1973年	ポスター	103.0×72.7	
3-030	ICSID'73 世界インダストリアルデザイン会議	1973年	ポスター	102.9×72.7	
3-031	'73 デザインイヤー	1973年	ポスター	72.7×51.4	
3-032	'73 デザインイヤー	1973年	ポスター	72.7×51.4	
3-033	デザインフォーラム グラフィックス'74	1974年	ポスター	102.5×73	

4 書籍、ロゴ、マークの仕事

4-001	『NOGUCHI』(イサム・ノグチ著、美術出版社)	1953年	書籍(装幀)	31.1×26.4×2.0	株式会社リクルートホールディングス
4-002	『ポール・ランド作品集』(造型社、アルフレッド・A・ノップ出版)	1959年	書籍(編著・装幀)	25.0×26.0×1.5	
4-003	『土門拳写真集 筑豊のこどもたち』(パトリア書店)	1960年	書籍(装幀)	25.4×18.0	
参考	『バートン版 千夜一夜物語』	1967年	書籍(装幀)		
参考	『世界文学全集』(河出書房新社)	1966年	書籍(装幀)	19.8×14.3×3.0	
4-004	『石元泰博写真集 シカゴ・シカゴ』(美術出版社)	1969年	書籍(装幀)	28.6×28.6×3.0	株式会社リクルートホールディングス
4-005	『桂 日本建築における伝統と創造』(丹下健三著、石元泰博写真、イエール大学出版)	1971年	書籍(装幀)	29.8×28.2×3.2	
4-006	『蒼風造形』(勅使河原蒼風著、主婦の友社)	1978年	書籍(装幀)	45.3×32.2×4.5	
4-007	『グレコの素描と日本の詩人たち』(現代彫刻センター)	1978年	書籍(装幀)	41.3×30.3×2.2	

参考	「片岡球子画集」(朝日新聞社)	1980年	書籍(装幀)	
4-008	『佐藤忠良』(石元泰博写真、現代彫刻センター)	1982年	書籍(装幀)	38.0×27.0×3.0
4-009	『李朝の民画』(講談社)	1982年	書籍(装幀)	39.6×28.0×5.0
4-010	『女人高野室生寺』(土門拳著、美術出版社)	1991年	書籍(装幀)	45.5×32.7×4.5
4-011	『土門拳古寺巡禮』(岸哲男、川邊武彦著、美術出版社)	1996年	書籍(装幀)	43.5×30.8×3.1
4-012	李朝生活民画展	1989年	ポスター	103.0×72.7
4-013	土門拳写真展 古寺巡礼	1972年	ポスター	103.0×72.8
4-014	『世界のトレードマーク』(ダヴィッド社)	1956年	書籍(編著・装幀)	25.2×26.5×2.0
4-015	『世界のトレードマークとシンボル』(河出書房新社)	1965年	書籍(編著・装幀)	28.7×27.5×4.0
4-016	世界のトレードマーク	1956年	ポスター	52.2×39.0
4-017	日本インダストリアルデザイナー協会シンボルマーク/フジテレビシンボルマーク	1953年/1958年	マーク	103.0×72.8
4-018	グッドデザインシンボルマーク	1959年	マーク	103.0×72.8
4-019	リクルート	1961年	マーク	103.0×72.8
4-020	ヤマギワトレードマーク/ヤマギワランブストレードマーク/ヤマギワ事務所トレードマーク	1966年/1970年/1970年	マーク	103.0×72.8
4-021	プリンスホテルトレードマーク	1968年	マーク	103.0×72.8
4-022	伝統的工芸品産業振興協会シンボルマーク	1975年	マーク	103.0×72.8
4-023	NTTトレードマーク	1985年	マーク	206.0×145.6
参考	現代芸術研究所シンボルマーク/デザインフェアリビング展シンボルマーク/日本職業スキー教師協会シンボルマーク	1965年/1968年/1976年	マーク	103.0×72.8
参考	トステム	1985年	マーク	103.0×72.8
4-024	グッドデザイン シンボルマーク案(4点)	1959年	インク・鉛筆・紙	各25.7×18.1
4-025	新潟日報社 社章試作	1963年頃	インク・鉛筆・紙	27.5×20.0
参考	新潟日報社 社章	1963年	社章	新潟日報社

5 企業の個性とデザイン

5-001	明治チョコレートミルク	1973年	ポスター	103.0×72.8
5-002	明治チョコレートストロベリークリームエクストラ	1973年	ポスター	103.0×72.8
5-003	明治 ミルクチョコレートデラックス パッケージ試作(4点)	1957年頃	パッケージ	各15.5×17.0
5-004	明治 ミルクチョコレート パッケージ試作	1971年	パッケージ	16.3×15.0/25.5×19.5
5-005	明治 ロゴ試作	不詳	インク・紙	34.0×25.3
参考	明治 チョコレート商品ロゴ 版下原稿	不詳		
参考	明治 ミルクチョコレートデラックス 印刷指示	不詳		
5-006	勅使河原蒼風 ヨーロッパの旅	1956年	ポスター	72.9×51.5
5-007	勅使河原蒼風の眼展	1981年	ポスター	103.0×72.7
5-008	草月創流60周年	1987年	ポスター	103.0×72.7
5-009	草月創流60周年	1987年	ポスター	103.0×72.7
5-010	草月創流60周年	1987年	ポスター	103.0×72.8
5-011	勅使河原宏展	1987年	ポスター	103.0×72.7
5-012	『草月別冊 蒼風個展』	1953年	雑誌(表紙デザイン)	25.2×36.5
5-013	『草月』第86号	1973年2月	雑誌(表紙デザイン)	29.8×47.3
5-014	『草月』第88号	1973年6月	雑誌(表紙デザイン)	29.5×45.4
5-015	『草月』第92号	1974年2月	雑誌(表紙デザイン)	29.5×45.4
5-016	『草月』第94号	1974年6月	雑誌(表紙デザイン)	29.5×45.4
5-017	『草月』第129号	1980年4月	雑誌(表紙デザイン)	29.5×45.4
5-018	『草月』第135号	1981年4月	雑誌(表紙デザイン)	29.5×45.4
5-019	『草月』別冊1983	1983年	雑誌(表紙デザイン)	28.4×44.0
5-020	『三人三様』(勅使河原蒼風、土門拳、亀倉雄策共著、講談社)	1977年	書籍(装幀)	22.5×16.0×3.4 株式会社リクルートホールディングス
参考	勅使河原蒼風への弔辞	1979年	手紙	
5-021	ヤマギワ国際照明器具コンペ入賞作品展	1968年	ポスター	103.0×72.7
5-022	ヤマギワ国際照明器具コンペ入賞作品展	1970年	ポスター	74.5×51.5
5-023	ヤマギワ国際照明器具コンペ 1970	1970年	ポスター	73.9×51.0
5-024	ヤマギワ国際照明器具コンペ 1971	1971年	ポスター	72.5×51.5
5-025	東京国際照明デザインコンペ 1972	1972年	ポスター	72.5×51.5
5-026	ヤマビット オーディオ ポリシー	1975年	ポスター	72.6×51.4
5-027	ヤマビット オーディオ ポリシー	1975年	ポスター	72.5×51.5
5-028	第9回東京国際照明デザインコンペティション'79	1979年	ポスター	103.0×72.7
5-029	第10回東京国際照明デザインコンペティション'83	1983年	ポスター	103.0×72.7
5-030	粉雪の万座	1967年	ポスター	103.0×72.7
5-031	4キロのダウンヒルコース 苗場	1967年	ポスター	103.0×72.7
5-032	粉雪の万座	1968年	ポスター	103.0×72.7
5-033	4キロのダウンヒルコース 苗場	1968年	ポスター	103.0×72.7
5-034	安比高原	1995年	ポスター	103.0×72.7
5-035	安比高原	1995年	ポスター	103.0×72.7
5-036	安比高原リゾートシンボルマーク(冬)	1982年	ロゴ、マーク	103.0×72.7

参考	安比高原リゾートシンボルマーク(春)	1982年	ロゴ、マーク	103.0×72.7
5-037	ノエビアイメージポスター 1987年春	1987年	ポスター	103.0×72.7
5-038	ノエビアイメージポスター 1987年夏	1987年	ポスター	103.0×72.7
5-039	ノエビアイメージポスター 1987年秋	1987年	ポスター	103.0×72.7
5-040	ノエビアイメージポスター 1987年冬	1987年	ポスター	103.0×72.7
5-041	ノエビアイメージポスター 1996年春	1996年	ポスター	103.0×72.7
5-042	ノエビアイメージポスター 1996年夏	1996年	ポスター	103.0×72.7
5-043	ノエビアイメージポスター 1996年秋	1996年	ポスター	103.0×72.7
5-045	ノエビアイメージポスター 1996年冬	1996年	ポスター	103.0×72.7

6 曲線と直線の宇宙				
6-001	オンキヨーイメージ	1980年	ポスター	103.0×72.7
6-002	UCLA日本古典芸能団招聘記念	1981年	ポスター	103.0×72.7
6-003	Design19(コレクションシリーズNo.1)	1982年	ポスター	103.0×72.7
6-004	ムジカクラブ(コレクションシリーズNo.2)	1982年	ポスター	103.0×72.7
6-005	The Language of Light(コレクションシリーズNo.3)	1982年	ポスター	103.0×72.7
6-006	オンキヨーイメージ(コレクションシリーズNo.4)	1982年	ポスター	103.0×72.7
6-007	ヒロシマアピールズ1983	1983年	ポスター	103.0×72.7
6-008	ポスター「ヒロシマアピールズ1983」アイデアスケッチ	1983年	鉛筆・色鉛筆	25.7×16.8
6-009	[横山明]ポスター「ヒロシマアピールズ1983」原画	1983年	水彩、グワッシュ、カラーインク、紙	85.0×60.0 川崎市市民ミュージアム
6-010	亀倉雄策デザイン展	1983年	ポスター	103.0×72.7
6-011	第1回国際デザインフェスティバル	1983年	ポスター	103.0×72.7
6-012	土門拳記念館	1983年	ポスター	103.0×72.7
6-013	モリサワ イメージポスター	1984年	ポスター	103.0×72.7
6-014	関崎ひで女の世界	1984年	ポスター	103.0×72.7
6-015	日本の12人のグラフィックデザイナー展	1984年	ポスター	103.0×72.7
6-016	ハーバート・バイヤー展	1986年	ポスター	103.0×72.7
6-017	第1回国民文化祭 東京	1986年	ポスター	103.0×72.7
参考	コミュニケーションTOKYO'91(日本語版)	1986年	ポスター	103.0×72.7
6-018	JAPAN(昼)	1987年	ポスター	103.0×72.7
6-019	JAPAN(夜)	1987年	ポスター	103.0×72.7
6-020	デザインフォーラム'87公募展	1987年	ポスター	103.0×72.7
6-021	世界デザイン博覧会	1987年	ポスター	103.0×72.7
6-022	世界デザイン博覧会	1987年	ポスター	103.0×72.7
6-023	世界デザイン博覧会 スケッチ	1987年頃	鉛筆・紙	36.5×25.5
6-024	Japan	1988年	ポスター	103.0×72.7
6-025	ルーシー・リー展	1989年	ポスター	103.0×72.7
6-026	ポスター「ルーシー・リー展」アイデアスケッチ(3点)	1989年	鉛筆・紙	18.2×12.9/23.2×18.4/18.2×12.9
6-027	第46回国民体育大会冬季大会スキー競技会	1990年	ポスター	103.0×72.7
6-028	COMMUNICATION & PRINT	1991年	ポスター	103.0×72.7
6-029	le seuil /in-between	1991年	ポスター	103.0×72.7
6-030	コミュニケーションTOKYO'91(日本語版)	1991年	ポスター	103.0×72.7
6-031	第6回国民文化祭ちば'91	1991年	ポスター	103.0×72.7
6-032	ポスター「第6回 国民文化祭ちば'91」印刷原稿	1991年頃	鉛筆・色鉛筆・紙	57.5×42.5
参考	ポスター「第6回 国民文化祭ちば'91」印刷原稿	1991年頃	鉛筆・色鉛筆・紙	各36.7×30.1
6-033	I'm here	1992年	ポスター	103.0×72.7
6-034	新潟県立近代美術館 開館ポスター(夏)	1992年	ポスター	103.0×72.7
参考	日本文化デザイン会議'92 山梨	1992年	ポスター	103.0×72.7
6-035	IBM COST	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-036	IBM QUALITY	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-037	IBM SPEED	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-038	LIFE	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-039	LIFE	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-040	LIFE	1994年	ポスター	103.0×72.7
参考	ポスター「LIFE」印刷指示	1994年頃	鉛筆・色鉛筆・紙	54.5×40
6-041	オスカー・シュレンマーへのオマージュ展	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-042	シンポジウム1 超高層都市と文化	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-043	シンポジウム2 超高層都市と環境	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-044	シンポジウム3 超高層都市と生活	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-045	シンポジウム4 超高層都市と経済	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-046	シンポジウム5 超高層都市と未来	1994年	ポスター	103.0×72.7
参考	ポスター「シンポジウム5」版下原稿	1994年頃	写真、紙	51.5×36.5
6-047	ロンドンシンフォニエッタ	1994年	ポスター	103.0×72.8
6-048	亀倉雄策ポスター新作展	1994年	ポスター	103.0×72.7
6-049	写楽200年	1994年	ポスター	103.0×72.7

6-050	北欧デザインの系譜展	1995年	ポスター	103.0×72.7
6-051	宮城大学	1996年	ポスター	103.0×72.7
6-052	土門拳記念館 千手観音	1996年	ポスター	103.0×72.7
6-053	土門拳記念館 文楽	1996年	ポスター	103.0×72.7
6-054	特別展亀倉雄策のポスター展	1996年	ポスター	103.0×72.7
6-055	亀倉雄策のグラフィックデザイン	1997年	ポスター	103.0×72.7
6-062	武満徹フィルムコンサート	1997年	ポスター	145.5×103.0
6-056	『クリエイション』第1号	1989年6月	書籍(編集)	30.0×22.5
6-057	『クリエイション』第4号	1990年3月	書籍(編集)	30.0×22.5
6-058	『クリエイション』第16号	1993年3月	書籍(編集)	30.0×22.5
6-059	『クリエイション』第17号	1993年6月	書籍(編集)	30.0×22.5
6-060	『クリエイション』第18号	1993年9月	書籍(編集)	30.0×22.5
6-061	『クリエイション』第20号	1994年	書籍(編集)	30.0×22.5

7 コレクターとしての眼差しとライフスタイル

7-001	[アルネ・ヤコブセン]椅子 モデルNo.3100「蟻」(3本脚)	1951-1952年	チークおよび積層合板(曲木成形・ニス塗装)、スチール・パイプ(クローム・メッキ)	76.5×51.2×45.0	宇都宮美術館
7-002	[ペーター・ヴィート]椅子 モデルNo.Fd-134「プーメラン」	1954-1956年	チーク、真鍮、ウール(クッション張り地)	76.8×65.5×80.5	宇都宮美術館
7-003	[イェルゲン・ラスムッセン]回転椅子 モデル[R]シリーズ	1965-1967年頃	スチール、布、金具、金属キャスター	71.0×70.5×51.4	宇都宮美術館
7-004	[海老原喜之助]市場	1937年	油彩・板	33.0×24.0	
7-005	[ベン・ニコルソン] Painting 1946	1946年	油彩・キャンバス	42.5×43.5	
7-006	[マッシュモ・カンピーリ]ディアボロ	1954年	モノタイプ・紙	39.5×32.5	
7-007	[エンリコ・カステラーニ]無題	1964年	油彩・キャンバス	100.0×70.0	
7-008	[エミリオ・グレコ]裸婦	1976年	ペン・紙	69.0×50.5	
7-009	[イサム・ノグチ]女(リシ・ケシュにて)	1956年	鋳鉄	35.5×44.0×22.0	
7-010	[マリノ・マリーニ]騎手のための構想・習作	1955年	ブロンズ	57.0×35.0×24.0	
7-011	[ルート・ブリュック]蝶	1959年頃	陶器	12.5×12.5×4.0	
7-012	[ルーシー・リー]磁器	1960年代	磁器	径13.0×高さ8.5	
7-013	[スティグ・リンドベリ]魚	1950年頃	陶器	10.8×60×1.5	
7-014	[スティグ・リンドベリ]スプリングレ(馬)シリーズ	1960年(発表年)	陶器	14.0×16.0×8.0	
7-015	[スティグ・リンドベリ]カルネヴァル(カーニバル)シリーズ	1958年(発表年)	陶器	17.0×24.7×6.0	
7-016	[オイバ・トイッカ]鳥	1973年以降	ガラス	34.0×26.0×17.0	
7-017	[ロバート・ジョン・ソーントン]フローラの神殿	1812年	書籍	40.0×31.5×3.0	
参考	[ルート・ブリュック]蝶(5点組)	1958年	陶器		
参考	[オイバ・トイッカ]鳥	1973年以降	ガラス	20.0×8.5×9.5	
参考	[オイバ・トイッカ]鳥	1973年以降	ガラス	21.0×8.0×9.5	
参考	デコイ(3点)	不詳	木、着色		
参考	鳥の置物(スウェーデン製12点)	不詳	木、着色		
参考	鳥の置物	不詳	木、着色		
参考	ガラス器(3点)	不詳	ガラス		
参考	[エンツォ・マリ] Cubo 3018A (4点)	1959年	ポリエステル樹脂(ダネーゼ)	各7.0×7.0×7.0	
参考	[エンツォ・マリ] Cubo 3018C	1960年	ポリエステル樹脂(ダネーゼ)	7.0×7.0×7.1	
参考	[エンツォ・マリ] Cubo 3018D	1961年	ポリエステル樹脂(ダネーゼ)	7.0×7.0×7.2	



三宝院開創900年記念 世界遺産 京都・醍醐寺展

【趣旨】

世界文化遺産に登録されている真言宗醍醐派総本山醍醐寺(京都市伏見区)の本格的な寺宝展を日本海側で初めて開催。県内展覧会最多となる国宝16点・重文22点を含む同寺の代表的寺宝(仏像、仏画、工芸、書跡、近世絵画等)71点を展示した。灌頂院(三宝院)開創900年を記念する本展では、三宝院秋草の間障壁画(長谷川等伯・等秀筆)も寺外初公開した。前年に奈良・東京で開催された醍醐寺展とは別内容の独自企画、単館開催であった。

【総括】

●評価すべき点

- ・醍醐寺や外部の専門家の協力を得て質の高い展示を実現し、資料的価値の高い図録を作成、かつ文化庁との協議を重ね、文化財の安全に配慮して無事に借用・返却できた。
- ・展示品や解説パネルにより、醍醐寺と新潟とのかかわりを紹介できた。

●検討課題

- ・比較的大規模な展示替えがある展覧会での料金設定や会期の表記方法について、今回の事例を踏まえ、再検討が必要。
- ・主として高齢層の来場を見込む展覧会においても、学校など若年層へのアピールに努める必要がある。

【開催日・その他】

＝2015年9月19日(土)～11月8日(日)(50日間)＝

主催：新潟県立万代島美術館、NST、新潟日報社、醍醐寺
展実行委員会、総本山醍醐寺

協力：真言宗醍醐派新潟宗務所

後援：新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ほかほかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

特別協賛：株式会社吉運堂

協賛：菊水酒造株式会社

監修：永村真氏(日本女子大学教授)

観覧料：一般……………1,400円(1,200円)〈1,200円〉

大学・高校生……………1,200円(1,000円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金



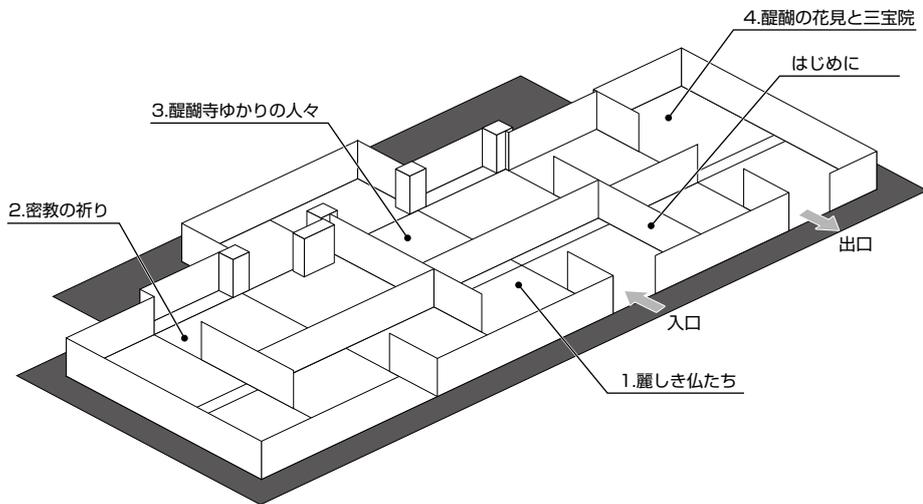
世界遺産 京都・醍醐寺展

【関連行事】

- ・ギャラリートーク
 - ①9月19日(土) 11:00～12:00／②10月12日(月・祝)
 - 14:00～15:00 当館展示室
 - 講師：①仲田順英氏（醍醐寺執行総務部長）／
 - ②長瀬福男氏（醍醐寺公室室長）
 - 参加者数：①70名／②110名
- ・開会法要 ※醍醐寺、真言宗醍醐派新瀧宗務所寺院による
 - 9月19日(土) 10:00～ 当館展示室
 - 参加者数：150名
- ・法要
 - 「醍醐の祈り」 ※真言宗醍醐派新瀧宗務所寺院による
 - 9月28日(月)／10月5日(月)／10月19日(月)／10月26
 - 日(月)／11月2日(月) 各回11:00～ 当館展示室
 - 参加者数：70名／110名／80名／90名／100名
- ・結願法要 ※醍醐寺、真言宗醍醐派新瀧宗務所寺院による
 - 11月8日(日) 17:40～ 当館展示室
 - 参加者数：30名

【図録】

- 仕様：B5判変形（24.0×19.0cm） 192頁
- 編集：新潟県立万代島美術館
- 発行：醍醐寺展実行委員会
- 印刷・製本：株式会社山田写真製版所
- 内容：ごあいさつ
 - 凡例
 - 醍醐寺の仏法と文化財／永村眞
 - 醍醐寺の仏像／副島弘道
 - 醍醐寺伽藍
 - はじめに
 - 一 麗しき仏たち
 - 二 密教の祈り
 - 三 醍醐寺ゆかりの人々
 - 四 醍醐の花見と三宝院
 - 醍醐寺年中行事
 - 醍醐寺鳥瞰図
 - 展示品解説
 - 主要参考文献一覧
 - 醍醐寺座主法流血脈
 - 醍醐寺関連年表／総本山醍醐寺編
 - 醍醐寺への交通アクセス
 - 出品目録



【関連記事】

●新聞

- 9月22日(火) 新潟日報
世界遺産 京都・醍醐寺展 (特集)
- 10月8日(木) 新潟日報
醍醐寺展 (県立万代島美術館) と本件の縁 / 川村知行
- 10月30日(金) 新潟日報
醍醐寺展 (県立万代島美術館) 後期の見どころ / 川村知行

その他 十日町タイムス (8/8(土))

- 新潟日報 (8/28(金)、9/15(火)、9/20(日)、10/5(月)、
10/10(土)、10/31(土))
- 十日町新聞 (9/3(木))
- 妻有新聞 (9/25(金))

〈連載〉

・新潟日報「世界遺産醍醐寺の宝」(図版のみ)

- ①《文殊渡海図》(10/23)
- ②《不動明王像 信海筆》(10/24)
- ③《孔雀明王像》(10/27)
- ④《五大明王像のうち不動明王》(10/28)
- ⑤《輪法羯磨文戒体箱》(10/29)

●テレビ

- 10月19日(月)、21日(水)、22日(木)、23日(金)、26日(月) NST
みんなのニュース 名品紹介①～⑤ / 長嶋圭哉
- 10月11日(日) BSN
県政ナビ / 長嶋圭哉
- 9月14日(月)、18日(金)、19日(土)、10月5日(月)、9日(金)、
13日(火)、30日(金) NST
NSTニュース
- 10月14日(水) NHK
NHKニュース

●ラジオ

- 10月13日(火) FM-PORT
Mintフレーバー

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	14,404
	前売	6,427
無料観覧者数	招待	2,939
	無料	714
	免除	1,618
総観覧者数		26,102
有料率 (%)		79.8

担当 長嶋圭哉

【出品リスト】

出品番号	指定	名称	員数	素材・技法	寸法(cm)	年代	展示期間
はじめに							
1	●	醍醐寺縁起(醍醐寺文書聖教93函17号)	一卷	紙本墨書	縦33.0 全長747.7	江戸時代(18世紀)	巻き替え
2		空海像(善通寺御影)	一幅	絹本著色	縦110.5 横69.0	室町時代(16世紀)	
3		理源大師(聖宝)坐像 吉野右京作	一軀	木造 彩色	像高82.5	江戸時代 延宝2年(1673)	
1 麗しき仏たち							
4	◎	如意輪観音坐像	一軀	木造 漆箔	像高49.3	平安時代(10世紀)	
5		大日如来坐像(金剛界)	一軀	木造 漆塗り	像高60.2	平安時代(9~10世紀)	
6	◎	阿弥陀如来坐像	一軀	木造 漆箔	像高86.4	平安時代(12世紀)	
7	◎	五大明王像	五軀	木造 古色塗り	[不動明王]像高86.9 [降三世明王]像高122.0 [軍荼利明王]像高124.0 [大威徳明王]像高81.8 [金剛夜叉明王]像高118.0	平安時代(10世紀)	
8	◎	十巻抄 巻二	一卷	紙本著色	縦29.4 全長1060.5	鎌倉時代 建久4年(1193)	巻き替え
9	◎	善女龍王像 深賢筆	一幅	紙本墨画	縦154.4 横86.4	鎌倉時代 建仁元年(1201)	前期
10	●	五大尊のうち 不動明王像	一幅	絹本著色	縦185.8 横127.5	鎌倉時代(12~13世紀)	前期
11	◎	金剛夜叉明王像	一幅	絹本著色	縦157.8 横84.0	平安時代(12世紀)	前期
12	◎	五秘密像	一幅	絹本著色	縦62.3 横40.7	鎌倉~南北朝時代(14世紀)	前期
13		一字金輪曼荼羅	一幅	絹本著色	縦103.8 横84.0	南北朝時代(14世紀)	前期
14	●	文殊渡海図	一幅	絹本著色	縦143.1 横106.5	鎌倉時代(13世紀)	後期
15	◎	不動明王像 信海筆	一幅	紙本墨画	縦114.8 横51.8	鎌倉時代 弘安5年(1282)	後期
16	◎	孔雀明王像	一幅	紙本著色	縦83.7 横60.9	鎌倉時代(12~13世紀)	後期
17	◎	愛染明王像	一幅	絹本著色	縦120.9 横77.5	鎌倉時代(13世紀)	後期
18		大勝金剛曼荼羅	一幅	紫絹金泥	縦112.8 横99.7	鎌倉時代(13世紀)	後期
二 密教の折り							
19	◎	輪宝羯磨文戒体箱	一合	木胎 銅鍍金 銀板装	縦36.5 横12.3 高16.3	鎌倉時代(13世紀)	
20	◎	金銅五鈷鈴	一口	銅製 鑄造 鍍金	長21.5 鈷張9.5	鎌倉時代(13世紀)	
21		華籠	二枚	銅製 鍛造 透彫 鍍金	径①28.1 ②26.8	江戸時代(17世紀)	
22		転法輪筒	一口	銅製 鍛造 鍍金	縦23.5 径6.3	鎌倉時代(13世紀)	
23	●	転法輪法次第(醍醐寺文書聖教101函39号2)	一帖	紙本墨書	縦16.9 横16.2	室町時代 応永23年(1416)	前期
24	●	転法輪法条々雑事(醍醐寺文書聖教101函39号1)	一帖	紙本墨書	縦16.9 横16.2	室町時代 応永23年(1416)	前期
25	●	覚禅抄(醍醐寺文書聖教466函17号)	一卷	紙本墨書	縦28.1 全長912.2	鎌倉時代(13世紀)	後期
26		大壇具	一式	[大壇]木製 黒漆塗り [五鈷鈴]銅製 鑄造 鍍金 [五鈷杵]銅製 鑄造 鍍金 [金剛盤]銅製 鑄造 鍍金 [輪宝]銅製 鑄造 鍍金 [宝塔]木製 漆箔	[大壇]方170.3 [五鈷鈴]高23.1 [五鈷杵]長21.2 [金剛盤]縦30.5 [輪宝]径12.3 [宝塔]高100.0	桃山~江戸時代(16~17世紀)	
27		十二天屏風	六曲一双	絹本著色	縦141.0 横49.3(一扇)	江戸時代(17~18世紀)	
28		両界曼荼羅	二幅	絹本著色	[金剛界]縦103.3 横88.4 [胎藏界]縦104.5 横88.0	江戸時代(17世紀)	
29	◎	不動明王坐像 快慶作	一軀	木造 彩色 切金	像高53.3	鎌倉時代 建仁3年(1203)	
三 醍醐寺ゆかりの人々							
30	●	大日経開題 空海筆	一卷	紙本墨書	縦29.2 全長290.9	平安時代 延暦4年(805)	巻き替え
31	◎	金銅如意	一柄	[頭部]銅板 鍍金 [柄部]木製 漆塗り	全長58.9 頭部幅24.0	平安時代(10~11世紀)	
32	◎	東南院院主房起請	一卷	紙本墨書	縦32.6 全長74.3	平安時代 延喜7年(907)	
33		勝覚像	一幅	絹本著色	縦86.9 横42.2	室町時代(15世紀)	
34	●	勝覚授賢覚附法状(醍醐寺文書聖教76函31号)	一通	紙本墨書	縦34.6 横52.5	平安時代(12世紀)	前期
35	◎	悉曇字母 勝覚筆(醍醐寺文書聖教145函10号)	一卷	紙本墨書	縦27.9 全長742.5	平安時代(12世紀)	巻き替え
36	●	天長印信 後醍醐天皇筆	一卷	紙本墨書	縦32.0 全長172.0	南北朝時代 延元4年(1339)	前期

37	◎ 弘法大師二十五箇条遺告	一卷	紙本墨書	縦27.9 全長1373.4	平安時代(12世紀)	後期
38	◎ 理趣經 足利尊氏筆	一帖	紙本墨書	縦23.5 横9.7	南北朝時代 延文2年(1357)	頁替え
39	醍醐寺文書聖教函 126函	一合	木製 漆塗り	縦43.7 横31.7 高27.8	江戸時代 寛永元年(1624)	
40	満濟像 土佐行広筆	一幅	絹本着色	縦95.6 横50.0	室町時代 永享6年(1434)	
41	◎ 満濟准后日記 応永35年冊／永享5年冊	二冊	紙本墨書	[応永35年冊]縦21.1 横16.1 [永享5年冊]縦21.5 横16.0	室町時代(15世紀)	頁替え
42	● 織田信長黒印状(醍醐寺文書聖教558函36号)	一幅	紙本墨書	縦17.4 横46.5	安土桃山時代(16世紀)	前期
43	● 織田信長朱印状(醍醐寺文書聖教24函102号)	一通	紙本墨書	縦26.8 横44.7	安土桃山時代 元龜3年(1572)	後期
44	● 徳川家康判物(醍醐寺文書聖教37函1号)	一通	紙本墨書	縦46.5 横66.5	江戸時代 慶長18年(1613)	前期
45	● 真言宗諸法度(醍醐寺文書聖教36函4号)	一通	紙本墨書	縦45.5 横123.9	江戸時代 元和元年(1615)	後期
46	諸国御末寺・修験官職繼目控(醍醐寺文書聖教593函1号)	一冊	紙本墨書	縦30.1 横22.7 厚13.3	江戸～明治時代(18～19世紀)	
47	行者烏帽子	一頭	絹製 綾織	長94.0 裾幅76.6	江戸時代(18～19世紀)	
48	頭襟	一頭	布製 漆塗り	高5.0 径13.3	江戸時代(18～19世紀)	
49	懸衣(掛衣)	一領	絹製 紗織	丈126.4 総幅177.5	江戸時代(18～19世紀)	
50	法螺	二口	[本体]法螺貝 [口部]銀製	長 ①41.0 ②40.5	江戸時代(17世紀)	
51	螺緒	一对	絹製	長 ①111.5 ②107	江戸時代(17～19世紀)	
52	箱笈	一背	木製 漆塗り 金銅装	高69.5 最大幅53.0 最大奥行29.9	江戸時代(18～19世紀)	
53	大斧	一柄	木製 漆塗り 青貝	全長209.5	江戸時代(17～19世紀)	
54	大錫杖	一柄	[頭]銅製 鑄造 [柄]木製 漆塗り 青貝	全長181.3	江戸時代(17～19世紀)	
55	宝剣	一口	[刀身]鉄製 鍛造 [鞘]木製 漆塗り [柄]銅製 鑄造	総長122.0	江戸時代(17～19世紀)	
四 醍醐の花見と三宝院						
56	義演像	一幅	絹本着色	縦94.9 横49.5	江戸時代(17世紀)	
57	◎ 義演准后日記 慶長3年冊／慶長7年冊	二冊	紙本墨書	各縦32.5 横24.2	安土桃山時代～江戸時代(16～17世紀)	頁替え
58	豊臣秀吉像	一幅	絹本着色	縦100.2 横56.2	江戸時代(18世紀)	
59	● 豊臣秀吉法度(醍醐寺文書聖教23函83号)	一通	紙本墨書	縦31.7 横99.4	安土桃山時代 天正13年(1585)	前期
60	● 豊臣秀吉領地朱印状(醍醐寺文書聖教35函1号1)	一通	紙本墨書	[懸紙]縦43.8 横28.5 [本紙]縦43.8 横65.1	安土桃山時代 天正17年(1589)	後期
61	● 文禄五年大仏千僧会表白(醍醐寺文書聖教187函4号)	一帖	紙本墨書	縦15.0 横10.5	安土桃山時代 文禄5年(1596)	後期
62	松桜幔幕凶屏風 生駒等寿筆	六曲一双	紙本金地著色	各隻 縦168.0 横359.0	江戸時代(17世紀)	
63	桜凶屏風 山口雪溪筆	六曲一双	紙本金地著色	各隻 縦168.0 横361.5	江戸時代(17～18世紀)	
64	桐文蒔絵炭斗	一口	木製 黒漆塗り 蒔絵	縦33.0 横29.9 総高38.0	安土桃山時代(17世紀)	
65	腰掛	一脚	木製 黒漆塗り 蒔絵	高38.5 幅32.8	安土桃山時代(16世紀)	
66	桐文蒔絵角盃・椀	一具	木製 黒漆塗り 蒔絵	[角盃]胴径35.2 高15.1 [椀]胴径20.2 高16.2	安土桃山時代(17世紀)	
67	茶弁当風炉	一個	[本体]木製 漆塗り	縦20.0 横33.5 高39.0	江戸時代(17～19世紀)	
68	茶弁当水指	一個	[本体]木製 漆塗り [水指]金属製	縦20.0 横33.5 高39.0	江戸時代(17～19世紀)	
69	◎ 醍醐花見短箱	一帖	紙本墨書	縦37.9 横22.5	安土桃山時代 慶長3年(1598)	頁替え
70	金天目・金天目台	二口・一基	[天目]木胎 金装 [天目台]銅製 鍛造 鍍金	[天目]①高5.8 口径12.6 ②高5.9 口径12.5 [天目台]高6.6 羽根径16.2	安土桃山時代(16世紀)	
71	◎ 三宝院秋草の間障壁画 長谷川等伯・等秀筆	十四面	紙本着色	[西面]各面縦176.0 横116.0 [北面]各面縦166.0 横83.0 [東面]各面縦175.0 横116.0	安土桃山時代(16世紀末)	

※●国宝／◎重要文化財



蜷川実花展

【趣旨】

現代日本を代表する最先端の写真家にして、映画、ファッション、広告など様々な分野で表現活動を行うアーティスト蜷川実花。2008-10年に国内巡回して大成功を収めた回顧展から5年を過ぎ、活動20年の区切りを迎えた2015年、常に新たな領域に切り込む蜷川の世界を紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・来館者数は万代島美術館の歴代14位。これまでの写真展の中でも「篠山紀信展 写真力」「岩合光昭写真展「ねこ」」に次ぐ。
- ・蜷川氏から、最初の部屋の写真撮影を許可いただいた。来館者は写真撮影を楽しみ、またネットで情報を拡散し、広報面でもよい効果があった。
- ・アンケート結果では、新規来館者32.2%、2～4回目来館者が37.0%となり、来館者の裾野を広げることにつながった。
- ・オリジナルしおり3種類を作成し、月替わりで来館者に配布して好評だった。

●検討課題

- ・会場内での写真撮影は効果的だが、すべての展覧会で可能というわけではなく、魅力や楽しさを増やすための創意工夫が求められている。
- ・イベントとして蜷川氏の講演会を開催したかったが、できなかった。イベント案や内容の検討、事務所側との折衝など、十分な余裕を持って行うべきだった。

【開催日・その他】

=2015年11月28日(土)～2016年2月28日(日)(81日間)=

主催：新潟県立万代島美術館、UX新潟テレビ21、蜷川実花展新潟展実行委員会

後援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ほかほかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

制作協力：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社、東京リスマチック株式会社

企画協力：Lucky Star Co., Ltd.、Tomio Koyama Gallery Inc.

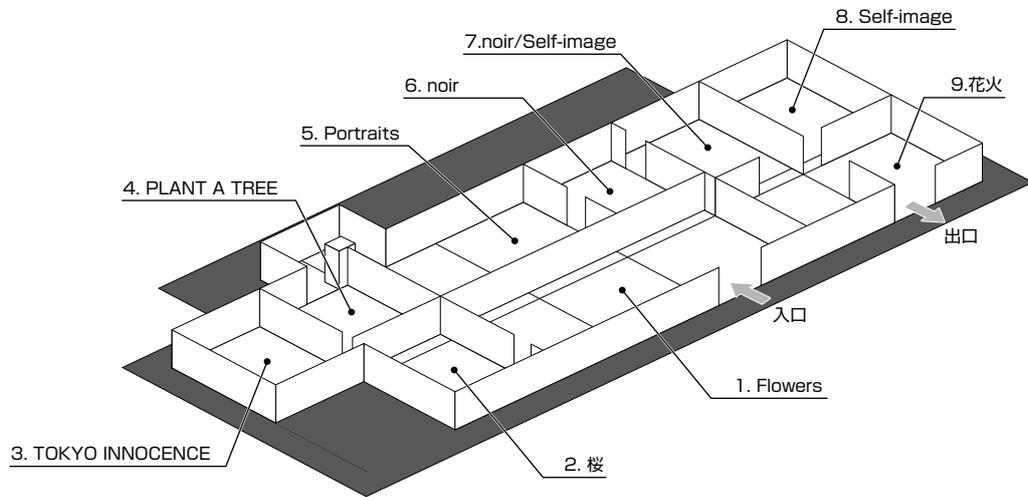
観覧料：一般……………1,000円(800円)〈800円〉

大学・高校生……………800円(600円)

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金



【関連記事】

●新聞

- 11月29日(日) 朝日新聞
「写真展開幕 蜷川実花さんに聞く 今までで一番の規模
長岡花火撮影に運命」
- 1月29日(金) 新潟日報
「展覧会へようこそ『蜷川実花展』」／桐原浩

- その他 読売新聞 (12/6)
新潟日報 (1/4、2/13)

●テレビ

- 11月27日(金) UX
「まるどり」(生中継)
- 12月15日(火) NHK
「お昼はじょんのび」(スタジオ生放送)
- 12月20日(日) NHK
県内ニュース

担当 桐原浩

●ラジオ

- 12月2日(水) FM PORT
フォーシーズンズ
- 12月11日(金) FM PORT
Sw!tch
- 12月26日(土) FMにいがた
サタナビ年末スペシャル

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	21,084
	前売	3,767
無料観覧者数	招待	2,324
	無料	2,054
	免除	818
総観覧者数		30,047
有料率 (%)		82.7



【出品リスト】

1. Flowers
2015年 C-print 106点
2. 桜
2011年 C-print 12点
3. TOKYO INNOCENCE
2013-2015年 C-print 78点 大判出力4点
[内訳]
1. 東京キャ☆パニー / SEXY performer ♂ & ♀
2. トシ子 / 造花アーティスト・衣装デザイン ♂
3. 橘優希 / ♂
4. 奇ヤサリン / パフォーマー ♀
5. 男の娘カフェ&バー NEWTYPEキャスト / ♂
6. ゆり / ♂
7. μ / パフォーマー ♀
8. 富沢ノボル / ヘアメイクアーティスト ♂
9. 宮崎りゅう / 男装アイドル(AIZENN) ♀
10. さちこ / 男の娘カフェ&バー NEWTYPEキャスト ♂
11. YACCO (東京キャ☆パニー) / SEXY performer ♂
12. MEGBABY / モデル ♀
13. MONDO / Drag Queen ♂
14. Ustake Devil / ジェンダーレスモデル ♂
15. もふくちゃん / DEARSTAGE Inc.・MEME TOKYO ♀
16. でんば組.inc / アイドル ♀
17. 相沢梨紗 / アイドル(でんば組.inc) ♀
18. COCO / ♂
19. GIMICO / アンピュティモデル ♀
20. 宝海大空 / 役者 ♂
21. ヒロシミ / コスチュームデザイナー ♂, まりか / 衣装製作 ♀, masaki / GOGOBOY ♂
22. チロル
23. 宝海大空 / 役者 ♂
24. ヒロシミ / コスチュームデザイナー ♂, masaki / GOGOBOY ♂
25. 武藤静香 / Rady デザイナー ♀
26. 桜咲姫奈 / モデル ♀
27. 奈良裕也 / シマ原宿 アートディレクター・ヘアメイク ♂
28. 紫陽花(アジサイの妖精) / 着ぐるみ製作・アクター: 島風榛名 / 着ぐるみを製作、操演するドローラー ♂ ♀ 初桜すずな(桜の妖精) / アクター: ミーナ / 着ぐるみを操演するドローラー ♀, 着ぐるみ製作: 島風榛名 ♂ ♀
29. 葉桜春菜 / アクター: さいこんたん / 着ぐるみを操演するドローラー ♂
30. マドモアゼル ユリア / シンガー・DJ・GIZA デザイナー ♀
31. SGM / パフォーマー ♂
32. AyaBambi / DANCER・MODEL ♀
33. 城山桜桃 / サーカスパフォーマー ♀
34. カリわんズ / ラパークコスチューム制作 ♂ & ♀
35. まりか / 衣装製作 ♀
36. 池田ひらり / Dog harajuku staff・student ♀
37. AMIAYA / アーティスト ♀
38. ちなってい / モデル・フォトグラファー ♂
39. 夢眠ねむ / アイドル(でんば組.inc) ♀
40. 城山桜桃 / サーカスパフォーマー ♀
41. KAI / パフォーマー ♂
42. エリイ(Chim ↑ Pom) / 現代美術作家 ♀
43. 越前リョーマ / ホスト ♂
44. 跡部みう / アイドル(でんば組.inc) ♀
45. 麗夜(れいや) / ホスト ♂
46. IG_RYOTA / メンズポールダンスユニット ♂
47. 斎藤総助 / 男装アイドル(AIZENN) ♀
48. マメ山田 / アクター・ミゼットマジシャン ♂
49. 赤羽太郎 / スチームパンカー ♂
50. ワームきゅん / 着ぐるみ製作・アクター: 島風榛名 ♂ ♀
51. Home緒 / 着ぐるみ製作: 島風榛名 ♂ ♀ / 操演: いてこ ♀

52. ルーフェン
53. 植野有砂 / Creative Director & Designer of FIG & VIPER・DJ・Model ♀
54. カマアユ ♂
55. 櫻遊志 / ホスト ♂
56. りこ(リコリスの妖精) / 着ぐるみ製作&操演: 島風榛名 ♂ ♀
57. MOYAN (東京キャ☆パニー) / SEXY performer ♀
58. 花梨 ♂
59. 西原 鶴真 / 薩摩琵琶奏者 ♀
60. sakupan / Tokyo Boy・Student・96' s ♂
61. オナン・スペルマーメイド / ドラッグクイーン・画家 ♂
62. 桜井莉菜 / モデル ♀
63. 己龍 ♂
64. 酒井参輝(己龍) / 痛絶ノスタルジック代弁第壹人者兼ギター ♂
65. もふくちゃん & ディアガールズ / 秋葉原ディアステージ代表・ディアガールズ
66. サエボーグ / アーティスト ♀
67. AMIAYA / アーティスト ♀
68. 白水桜太郎 / 男装アイドル(AIZENN) ♀
69. まりか / 衣装製作 ♀
70. 遠海准司(己龍) / ドラムス ♂
71. 初桜すずな(桜の妖精) / アクター: ミーナ ♀ / 着ぐるみ製作: 島風榛名 ♂ ♀
72. ヤーミ ♂
73. 黒崎真弥(己龍) / 唯のヴォーカル ♂
74. ベリ / DJ・PAMEO POSE ディレクター ♀
75. 紫陽花(アジサイの妖精) / 着ぐるみ製作・アクター: 島風榛名 ♂ ♀
76. SGM / パフォーマー ♂
77. たけうち亜美 ♂
78. ヒロシミ / コスチュームデザイナー ♂, T@RO ♂

4. PLANT A TREE
2011年 C-print 21点[うち15点は高橋コレクション蔵]

5. Portraits
2002-2015年 C-print 84点

[内訳]
1. 大森靖子「きゅるきゅる」(CD)
2. 浜崎容子(アーバンギャルド)「夜想」
3. 紗栄子「sweet」
4. 玉城ティナ「Mgirl」
5. 永瀬正敏「N@G+S.F2002, Masatoshi Nagase Official Portal Website」
6. 松岡モナ「ELLE CHINA」
7. 道端ジェシカ
8. 伊勢谷友介「EYESCREAM」
9. テイラー・モムセン「2011 Samantha Thavasa campaign photo」
10. 佐々木希「SWAK」
11. 梨花「SWAK」
12. 岡田将生 SDP文庫「舞姫」
13. 中川翔子「Mgirl」
14. 入山杏奈「Mgirl」
15. 島崎遥香「ホットペッパービューティー」
16. 長澤まさみ「長澤まさみ smart」
17. 百田夏菜子「Mgirl」
18. 山本美月「Oh! My RODY」
19. 杏「FRaU」
20. アンジェラベイベー 「LUMINE」(広告)
21. 前田敦子「VOGUE TAIWAN」
22. 成宮寛貴「コーラス」
23. 豊川悦司「豊川悦司 蛭川実花」
24. 橋本愛「LUMINE」(広告)
25. ローラ「Mgirl」
26. 菊地凜子「LOVEフォト」
27. 森星「ジェイアール名古屋タカシマヤ」(広告)
28. 小松菜奈「LUMINE」(広告)
29. 斎藤工「斎藤工 蛭川実花」

30. 森山未來「マリ・クレール」
31. 東出昌大「FRaU」
32. 平子理沙「VoCE」
33. 富永愛「ELLE HONGKONG」
34. 秋元梢「Mgirl」
35. 柴咲コウ「VOGUE TAIWAN」
36. 剛力彩芽「Mgirl」 衣裳協力 / ANNA SUI
37. 黒木メイサ「SWAK」
38. 新井浩文 ©2012 蜷川実花 / 映画「ヘルタースケルター」製作委員会
39. 石原さとみ「FRaU」
40. 渡辺直美「Oh! My RODY」
41. 北野武「SIGHT」
42. 山田優「shu uemura sakura collection 2011」
43. 岩堀せり「MAMA MARIA」
44. AKB48「ここにいたこと」(CD)
45. 綾野剛「VOGUE TAIWAN」
46. 増蜜「Warp」
47. 桐谷美玲「FRaU」
48. 松本幸四郎 九月大歌舞伎「不知火検校」
49. 忌野清志郎 アーティスト写真
50. 向井理「LOVE フォト」
51. 北川景子「R25 Extra Photo Edition by Sony Ericsson/2011」
52. 矢沢永吉「Mgirl」
53. ふなっしー「2015年カレンダー」
54. 水川あさみ「VoCE」
55. CHIHARU 「LUMINE」(広告)
56. 長谷川博己「コーラス」
57. 栗山千明「FHM」
58. 太田莉菜「Mgirl」
59. 堀北真希「FRaU」
60. 土屋アンナ「Mgirl」
61. 長谷川潤「MAQUIA」
62. 井上真央「FRaU」
63. 福士蒼汰「FRaU」
64. ももいろクローバーZ「Mgirl」
65. 大竹しのぶ「MAMA MARIA」
66. 菅野美穂「VoCE」
67. ゆず「BARFOUT!」
68. 沢尻エリカ「Mgirl」
69. 松坂桃李「コーラス」
70. 二階堂ふみ「FRaU」
71. ハローキティ「不思議の国のハローキティ」©1976, 2013 SANRIO CO.,LTD. 協力(株)サンリオ
72. 松田翔太「月刊MEN 松田翔太」
73. 佐藤健「ハーバース・バザー」
74. 倅田來未 ©UULA
75. 椎名林檎「VOGUE TAIWAN」
76. ミランダ・カー「2012 Samantha Thavasa campaign photo」 ©Disney
77. 仲里依紗「Mgirl」
78. ファンピンピン「FHM」
79. 吉川ひなの「MAMA MARIA」
80. 福島リラ「フィガロジャボン」
81. パンプオブチキン アーティスト写真
82. 大島優子「さよならクロール」(CD)
83. 渡辺麻友「ホットベッパーパービューティー」
84. 寛美和子「Mgirl」

6. noir

2010年 C-print 76点

7. noir/Self-image

2010-2015年 C-print 48点 大判出力5点

8. Self-image

2013年 C-print 28点

9. 花火

2014-2015年 C-print 12点

イベント

講演会

開催日	時間	関連展覧会名	演題	講師	内容	参加者数
4月26日(日)	14:00~15:30	印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展	フランス近代美術は何を求めたか—あるいは日本人はフランスに何を求めたか	馬淵明子氏 (国立西洋美術館長)	近代絵画の流れについて企画展の出品作を例にとりながら語る	110
7月4日(土)	14:00~15:30	生誕100年 写真家・濱谷浩	濱谷浩を語る	多田亜生氏(濱谷浩展監修者) 聞き手：澤田佳三 (当館学芸課長代理)	濱谷浩のアマチュア時代からプロの写真家としての駆け出し期、新潟との関わり、写真集などについて語る	51
9月26日(土)	14:00~15:30	会田誠展 ま、still Alive かって こーゆーこと	会田誠氏のお話①	会田誠氏(美術家)	小学校の頃からの生い立ちや、展覧会に出品しなかった作品について制作の経緯やエピソードを語る	132
10月17日(土)	14:00~15:30	会田誠展 ま、still Alive かって こーゆーこと	会田誠氏のお話②	会田誠氏(美術家)	自身の美術論を展開、自身と新潟との関係、現代美術に対する考え方を語る	185
11月14日(日)	14:00~15:30	生誕100年 亀倉雄策と「クリエイション」	トークイベント「亀倉雄策とクリエイション」	大迫修三(JAGDA 事務局長)、 聞き手：伊澤朋美 (当館主任学芸員)	故亀倉雄策氏の足跡や人柄、「クリエイション」制作にまつわるエピソードなどを話す	25
1月10日(日)	第一部 13:00~13:50 第二部 14:00~15:00	磯野宏夫展—生命の森—	熱帯雨林 生命の森 (エメラルドフォレストとの共催)	湯本貴和氏 (京都大学霊長類研究所教授)、 服部眞幸氏(東京農工大学大学院 連合農学研究科 雑草生物学)	第一部：湯本氏による磯野宏夫作品の魅力と熱帯雨林の生きものたちについて 第二部：服部氏による雑草生物学概要と二人の対談	39

計542名

美術鑑賞講座

開催日	時間	関連展覧会名	講座名	講師	内容	参加者数
5月23日(土)	14:00~15:30	印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展	パリの陰影—印象派誕生の謎を追う	平石昌子 (当館学芸課長代理)	印象派が見出した新しい陰影の表現について、歴史的な文脈とともに紹介	45
6月6日(土)	14:00~15:30	コレクション展第1期 展示室1「金色 銀色」	金色 銀色	宮下東子 (当館学芸課長代理)	世界及び日本の過去の遺物等から見た金銀の意味をふまえ、近現代日本画家による金銀を使用した作品とその効果について解説	20
6月27日(土)	14:00~15:35		不同舎の画家 田中本吉とその周辺	松矢国憲 (当館専門学芸員)	田中本吉調査の内容を報告	16
7月25日(月)	14:00~15:30	生誕100年 写真家・濱谷浩	濱谷浩と写真	澤田佳三 (当館学芸課長代理)	戦後の濱谷浩の仕事と戦争との関係に焦点を当てることで、企画展「写真家・濱谷浩」の趣旨をより明確にした	31
10月10日(土)	14:00~15:30	会田誠展 ま、still Alive かって こーゆーこと	シミュレーションイズム再考 ベトナム戦争から会田誠まで	藤田裕彦 (当館学芸課長)	コンセプチュアル・アーティストである会田誠の現代美術の文脈の中での位置づけについてアメリカ現代美術の流れの中で紹介	26
11月21日(土)	14:00~15:30	生誕100年 亀倉雄策と「クリエイション」	デザインって何?	藤田裕彦 (当館学芸課長)	グラフィックデザインとインダストリアルデザインとに分けて、デザインについて解説	13
2月13日(土)	14:00~15:40		明治期の竹内蘆風	長嶋圭哉 (新潟県立万代島美術館主任学芸員)	長岡出身の日本画家・竹内蘆風の画業について、新収蔵品を紹介しながら、東京で活躍した時期を中心に考察	27
2月27日(土)	14:00~15:30		銅像探訪	伊澤朋美 (当館主任学芸員)	街の中に設置された様々な銅像について、エピソードなどを紹介	15

計193名

ワークショップ

開催日	時間	関連展覧会名	ワークショップ名	講師	内容	参加者数
5月2日(土)	14:00~16:00	印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展	フランス色のコースターづくり ~印象派の点描入門	青木善治 (当館学芸課長代理)	企画展出品作品のシニャック、スーラ作品をもとに、紙製のコースターにアクリル絵具で点描を描く	9
5月9日(土)	14:00~15:00		友の会ボランティアによる とっておきの美術館ツアー (新潟県立美術館友の会との共催)	井上千恵子、山本正明、山本節子 (友の会ボランティア)	ボランティア各自の、展覧会だけではないとっておきの美術館のお気に入り案内を案内する	4
5月10日(日)	11:00~12:00		友の会ボランティアによる とっておきの美術館ツアー (友の会ボランティア)	金子かおる、春日正利、渡部学 (友の会ボランティア)	友の会ボランティアによる、とっておきの美術館のお気に入り案内を案内する	4
6月13日(土)	14:00~16:00	コレクション展第1期 展示室2「ブラック/ホワイト」	鉛筆のチカラ！白黒だけで描こう	宇賀田和雄 (当館副学芸員)	木下晋の作品を鑑賞後、12種の濃さが異なる鉛筆を用いて自分自身を描く	10
6月27日(土)	10:00~15:30		らせんを折ろう (新潟県立美術館友の会との共催)	布施和子氏 (折り紙作家)	講師による講演の後、螺旋形の折り紙を実践、大きな紙でも制作し、ギャラリーに展示した(6/28~7/5)	18
7月11日(土)	14:00~16:00		プロの技で、美術館発見！~デジカメを使って~ (新潟県立美術館友の会との共催)	中條均紀氏(写真家)	写真の基礎を学び、気に入りの場面や風景をデジカメで撮影後お互いに鑑賞	12
8月22日(土)	14:00~16:00		ねんどでアニメーション (新潟県立美術館友の会との共催)	青木善治 (当館学芸課長代理)	アニメーションの仕組みを学び、粘土でつくった模型を変化させながら並べ、連続して見える面白さを味わう	11
8月23日(日)	10:00~16:00	コレクション展第2期 展示室2「不思議の国へようこそ」	〈目〉でくさわる!? でっかいアートをつくろう	制作：斎藤博文氏 (魚沼市立堀之内中学校教諭) 鑑賞：宮下東子 (当館学芸課長代理)	展覧会鑑賞後、4m×5mの紙に不要チラシやパッケージなどを貼り付けて作品を制作し、エントランスに展示	15

計83名

対話型鑑賞

開催日	時間	関連展覧会名	イベント名	ナビゲーター	内 容	参加者数
8月1日(土)	11:00~	コレクション展第2期	ギャラリートーク「美術でおしゃべり」	伊澤朋美 (当館主任学芸員)	ナビゲーターと来館者とは話し合いながら、みつけたり考えたりしながら所蔵品を鑑賞	25
8月8日(土)				青木善治 (当館学芸課長代理)		4
8月15日(土)				宮下東子 (当館学芸課長代理)		15

計44名

映画鑑賞会

開催日	時間	関連展覧会名	タイトル	内 容	参加者数			
4月19日(日)	14:00	印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展	巴里のアメリカ人	1951年/アメリカ/113分	28			
5月9日(土)	14:00		そして誰もいなくなった	1945年/アメリカ/97分	50			
7月18日(土)	11:30~	生誕100年 写真家・濱谷浩	十二人の写真家	1955年/日本/49分 企画：亀倉雄策 出演：濱谷浩等	18			
	14:00~				20			
9月12日(土)	13:00~	会田誠 展	The Natives @ Ogi Island	「会田誠展」の出品作品の1点として放映 2013年/日本/48分 監督：会田誠	30			
	15:00~				10			
9月19日(土)	13:00~				20			
	15:00~				12			
9月20日(日)	11:00~				20			
	14:00~				35			
9月21日(月祝)	11:00~				18			
	14:00~				26			
9月22日(火)	11:00~				15			
	14:00~				25			
9月23日(水)	11:00~				16			
	14:00~				22			
10月3日(土)	14:00~				会田誠 展	「続・美術のみかた 第6巻 抽象に至る道-主題から形式へ」	2009年/日本/25分	8
	15:00~							8
10月18日(日)	11:00~	会田誠 展	The Natives @ Ogi Island	「会田誠展」の出品作品の1点として放映 2013年/日本/48分 監督：会田誠	23			
	14:00~				22			
12月6日(日)	13:00	生誕100年 亀倉雄策と「クリエイション」	亀倉雄策のデザイン 未来に向けて	2015年9月8日にTOKYO FMホールで行われた毎日新聞主催のシンポジウム記録	7			
12月12日(土)	14:00~		アンダルシアの犬	1928年/フランス/16分	18			
	15:00~				8			
1月16日(土)	13:00	生誕100年 亀倉雄策と「クリエイション」	亀倉雄策のデザイン 未来に向けて	2015年9月8日にTOKYO FMホールで行われた毎日新聞主催のシンポジウム記録	16			
1月30日(土)	14:00		グレン・ミラー物語	1954年/アメリカ/115分	24			

計499名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	ワークショップ名	講 師	内 容	参加者数
5月24日(日)	10:30~ 15:30	印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展	こらぼ de 茶会 (新潟県立美術館友の会との共催)	長岡大学茶道部	企画展「印象派への旅」の内容を意識した道具立てによりお茶会をおこなった	160
8月15日(土)	9:00~ 16:30	生誕100年 写真家・濱谷浩	終戦記念日イベント「玉音放送とともに振り返る8月15日」		濱谷浩の「終戦の日の太陽」を中心とした映像を投影し、玉音放送を流す。玉音放送の原文と現代語訳を配布	53

計213名

体験コーナー

開催期間	時間	関連展覧会名	体験コーナー名	担 当	内 容	材料
3月4日(土)~ 4月13日(日)	9:00~ 17:00	コレクション展 「近代美術館の名品」	1枚の絵からイメージを広げて	青木善治 (当館学芸課長代理)	デュプレ《羊飼いの絵の外側の景色を想像して描く。	上質紙 鉛筆 色鉛筆
4月25日(土)~ 6月21日(日)	9:00~ 17:00	コレクション展 「近代美術館の名品」	立体感に挑戦	宇賀田和雄 (当館副参事)	色(白・黒)の機能を感じつつ、さまざまな構成を工夫して表現することを楽しむ。	上質紙 鉛筆 色鉛筆
6月25日(土)~ 11月18日(火)	9:00~ 17:00	コレクション展第2期 展示室2「不思議の国へようこそ」	ジグソーパズルに挑戦	青木善治 (当館学芸課長代理)	難易度の異なるジグソーパズルの活動を繰り返すことでキース・ヘリングの作品《花》を楽しむ。	ジグソーパズル
12月8日(火)~ 1月31日(日)	9:00~ 17:00	コレクション展第4期 展示室2「近代美術館の名品」	ズバリ!この作者の作品は?1	宇賀田和雄 (当館副参事)	作者と作品をつなげる活動を通して、美術館が所蔵している作品を知る。	印刷
2月9日(火)~ 3月31日(木)	9:00~ 17:00	コレクション展第5期 展示室2「近代美術館の名品」	ズバリ!この作者の作品は?2			上質紙 印刷 上質紙

館外活動・地域との連携

巡回ミュージアム

【趣旨及び総括】

巡回ミュージアムは、所蔵作品の中から作品を選定し、県内を巡回展示するもので、広く県民に美術鑑賞の機会を提供し、文化振興を図ることを目的としている。

本年度は、湯沢町を会場に、町が長年実施してきた「越後湯沢全国童画展」の20周年記念展と抱き合わせで開催した。「作品との出会い」のテーマのもとに、わかりやすい主題の作品を中心に、抽象作品や彫刻作品も含め幅広く紹介した。

広範囲の作品を選定紹介したが、同会場に童画展の優秀作品が加わったため、よりバラエティに富んだ作品を見ることができるところになった。

【開催地・開催期日・その他】

会場：湯沢町公民館

会期：平成27年9月19日(土)～28日(月) (10日間)

観覧時間：9:00～18:00

主催：新潟県立近代美術館、湯沢町教育委員会

後援：新潟日報社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMゆきぐに

観覧料：無料

出品点数：21点

入場者数：557名

【関連行事】

- ・9月19日(土)10:00～ オープニングセレモニー
10:30～ 作品解説会

担当 宮下東子、青木善治、宇賀田和雄

【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年
1	横山 操	ふるさと	1966
2	青木 繁	妙義山	1902
3	石井 柏亭	池	1928
4	田崎 廣助	箱根の富士	不明
5	小野 末	岩山(スペイン)	1958
6	星 襄一	木の風景(E)	1975
7	荒井 一郎	母と子	1950
8	棟方 志功	女	不明
9	森 芳雄	バレリーナ	1972
10	林 武	帽子の女	c1953
11	バプロ・ピカソ	ランプの下の静物	1962
12	鷹山 宇一	花	不明
13	赤穴 宏	白い卓上のリンゴ	1982
14	藤田 嗣治	猫	1934
15	脇田 和	啄木鳥	1958頃
16	斎藤 義重	作品(Blue)	1961
17	菅井 汲	森の太陽	1969
18	北村 正信	裸婦立像	不明
19	イサム・ノグチ	女(リシケシュにて)	1956
20	フェルナンド・ボテロ	頭像	1989
21	マックス・エルンスト	鳥=人頭	1934

出前講座

No.	月 日	時 間	対 象	内 容	担当者	受講者数
1	5月14日(木)	13:30~14:30	上川西コミュニティセンター 平成27年度 ニコニコ大学 65歳以上の高齢者	「書にまつわることから」	松矢国憲 (当館専門学芸員)	48
2	5月25日(月)	13:40~15:10	新潟デザイン専門学校 モントレー美術大学 学生と引率者	「日本画の基礎知識」	宮下東子 (当館学芸課長代理)	18
3	5月27日(水)	9:30~11:20	長岡市立上組小学校 6年生	「学芸員ってどんなお仕事でしょう」	宮下東子 (当館学芸課長代理)	71
4	1月9日(土)	14:00~15:30	『長岡★堀口大學を語る会』	堀口大學講演会「詩人が愛した芸術家たち —ローランサンと長谷川潔を中心に—」	平石昌子 (当館学芸課長代理)	40
5	2月5日(金)	10:00~10:50	見附市立わかば保育園 年中児	「たのしい かたちを ならべて みよう」 (年中児向け)	宮下東子 (当館学芸課長代理) 宇賀田和雄 (当館副参事)	10
6		11:00~11:50	見附市立わかば保育園 年長児			
7		13:30~14:15	見附市立桜保育園 年長児			
8		14:15~15:00				

計244名

こどもものづくり大学校学外ワーク

子どもたちに日常生活ではできない創るよこびを体験してもらうため、隣接する長岡造形大学が平成23年度から毎年「こどもものづくり大学校」を主催している。年間を通しておこなわれる10回の講座のうち、1回を「学外ワーク」として新潟県立近代美術館が受け持っている。

本年はその第5回目として、ダンボールによる工作をおこなった。日本の伝統的な調度である屏風をミニチュアサイズで制作（四曲屏風）。紙蝶番の部分は実際の屏風と同じ仕組みで作った。その後、実際の屏風の画像を見ながら〈二枚で一組〉の絵を考え、作成した一双屏風に絵を描いた。

主催：長岡造形大学

テーマ：パタパタたためる屏風をつくろう！

日時：10月4日(日) 10:00～16:00

10月18日(日) 10:00～16:00

講師：宮下東子（当館学芸課長代理）

参加者数：75名/70名（合計145名）

担当 宮下東子、青木善治、宇賀田和雄

こらぼ de 茶会

2013年度から始まった長岡大学茶道部によるお茶会も3回目を迎え、本年度から名称を、学生の考案による「こらぼ de 茶会」と定めた。

本年度は、春の企画展「印象派への旅」の会期中に実施した。これに合わせて、金銀彩の茶碗や魚文鉢、水をかたどった菓子など、光や水を意識した道具立てや菓子を選んでおこなわれた。

共催：新潟県立美術館友の会

日時：5月24日(日) 10:30～15:30

会場：新潟県立近代美術館ロビー

呈茶：長岡大学茶道部

参加者数：160名

担当 宮下東子

見附市立保育園との連携

平成25年に見附市の「18年教育」に係り、保育園児の美術との関わりを打診され、要望に応じて鑑賞活動とワークショップ（出前講座）の2点について実施した。いずれも「身体」を使うことを軸にして、鑑賞では、野外彫刻に「触る」「中に入りこむ」「聞く」、展示室で作品を「真似る」などをキーワードに、ワークショップでは抽象作品の形から発想して「並べる」などの活動を行った。

・鑑賞（対話型鑑賞）

11月8日(水)	見附市立桜保育園	年長児38名
12月9日(水)	見附市立本所保育園 わかば保育園	年長児27名 年長児20名
12月10日(木)	見附市立見附保育園 名木野保育園	年長児24名 年長児13名

・ワークショップ「たのしいかたちをならべてみよう」(出前講座)

2月5日(金)	見附市立わかば保育園	年中児10名
	見附市立わかば保育園	年長児19名
	見附市立桜保育園	年長児38名

刊行物・鑑賞資料

刊行物名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成27年度年間スケジュール	平成27年度の企画展とコレクション展の日程及び内容、年間のイベントなどをまとめたもの	A4判変形(展開サイズ210×376mm) 蛇腹4つ折り	35,000部	2015年4月1日	
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」44号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り(A4判)4頁	10,000部	2015年4月14日	2015年度前半期の企画展／NIIGATAアートリンク2015／濱谷浩と高田／私とこの1点「羽下修三《二千六百年を舞う》」／印象派への旅／夏休みは美術館で…親と子のワクワク美術館①不思議の国へようこそ／近代美術館・万代島美術館、両館で開催 亀倉雄策生誕100年展／CATAROGUE GUIDE「新潟県立万代島美術館 開館記念展Ⅰ 絵画の現在」／ミュージアムショップ、レストラン「広告塔」案内／近美のおすすめ／お世話になってますシリーズその6「昔ながらの鉛筆」／編集部からのひとこと
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」45号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り(A4判)4頁	10,000部	2015年9月1日	2015年後半期の企画展／「ヴァロトンの小さな仕事—版画と書籍を中心に」紹介／「ま、still Alive かってこーゆーこと」とは新しい会田誠さんに会えるということ／私とこの1点「中村木子《崔顥詩黄鶴楼》」／亀倉雄策責任編集。「クリエイション」の世界／CATAROGUE GUIDE「時を紡ぐ、ゆたかに語る 絵本と絵巻」／とびまわる学芸員「暑い暑い 鑑賞教育者研修」／近美のおすすめ／お世話になってますシリーズその7「ホワイトボード」／編集部からのひとこと
平成26年度年報	平成26年度の活動報告	A4判 137頁	350部	2016年3月11日	
企画展「印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展」図録	「印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展」の公式図録	B5判変形(217×182mm)、80頁	1,200部	2015年4月18日	ごあいさつ／「印象派への旅」古谷可由／図版／出品目録／謝辞
企画展「生誕100年 濱谷浩」図録	「生誕100年 写真家・濱谷浩」の公式図録。尚、本書は株式会社クレヴィスの発行により書籍扱い	B5判変形 256頁	3,000部	2015年7月4日	〔序論篇〕「時代の渦」濱谷浩／「あいさつにかえて—濱谷浩氏と歩いた街角」酒井忠康／「地域に文化の芽をまく—高田の濱谷浩」徳永健一／「一貫した真摯な姿勢」野町和嘉／〔写真篇〕モダン東京／雪国／裏日本／戦後昭和／学藝諸家／〔解説篇〕「濱谷浩の半世紀—『潜像残像』から読み解く「写真家・濱谷浩」」藤田裕彦／「福縁そして陽の名残り」多田亜生／〔資料編〕年譜 加藤絢／主要文献 多田亜生・片野恵介／作品リスト
企画展「会田誠展 ま、still Alive かってこーゆーこと」図録	「会田誠展 ま、Still Alive かってこーゆーこと」の公式図録	A4判横綴じ 90頁	2,000部	2015年10月2日	ごあいさつ／会田誠さんからのメッセージ／謝辞／「会田誠に向かって」藤田裕彦／図版／会田誠発言集／略歴／主要参考文献作品リスト
企画展「生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』」図録	「生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』」の公式図録	280×216mm 134頁	800部	2015年12月25日	ごあいさつ／謝辞／亀倉雄策『クリエイション』1-20号のまえがき(再録)／図版／座談会「クリエイションのころ」／出品作家略歴／年譜／参考文献／出品リスト
巡回ミュージアム湯沢町 鑑賞のてびき	「巡回ミュージアム」のためのセルフガイド	A3二つ折り 4頁 モノクロ(リングラフにて作成)	1,000部	2015年9月19日	
企画展「印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展」鑑賞シート	ひろしま美術館や、出品作品のテーマ・表現について紹介する鑑賞シート。会場内ソファ上に配置し、自由に手に取り、読み終えたらその場に戻すようにした	A3、A4両面カラー(印刷機にて作成)パウチ加工、3種	①A3版2枚 ②A4版3枚 ③A4版5枚 計20枚	2015年4月18日	①「ひろしま美術館って…」／②「ボン=ヌフ」／③「誰の筆あと？」

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会への理解を深め、より充実した鑑賞の機会となるように、学芸員による作品解説会を行った。コレクション展は毎週土曜日の午前11時から、企画展は毎週日曜日の午後2時から、それぞれの会場で行った。参加者がなかった解説会については、記録から除いた。

企画展（日曜日 14:00～）

コレクション展（土曜日 11:00～）

企画展 展覧会名 期日	人数	新潟を描く・新潟を写す 親と子のワクワク美術館① 不思議の国へようこそ 近代美術館の名品	
		7月 4日	1
		7月11日	2
コレクションストーリーーズ-11年目の物語-		7月25日	4
4月 5日	10	8月 1日	25
小 計	10	8月 8日	4
		8月15日	15
印象派への旅 戦後70年 ひろしま美術館フランス絵画展		8月22日	4
5月 3日	54	8月29日	2
5月17日	82	小 計	57
5月31日	34		
小 計	170	新収蔵品を中心に 近代美術館の名品 ヴァロットの小さな仕事(前期) 没後70年ケーテ・コルヴィッツ(後期)	
生誕100年 写真家・濱谷浩		9月12日	1
7月12日	1	9月19日	1
7月19日	10	9月26日	5
8月 9日	11	10月 3日	3
8月23日	8	10月10日	5
8月30日	19	10月17日	12
小 計	49	10月31日	2
		小 計	29
生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』		ひと 近代美術館の名品 みて きいて 感じて	
11月29日	6	11月21日	2
12月13日	10	12月 5日	2
1月17日	15	12月12日	2
小 計	31	12月19日	2
企画展合計	260	1月 9日	5
		小 計	13
コレクション展		工芸の魅力 近代美術館の名品 裸婦一同	
展覧会名		1月23日	2
期日	人数	1月30日	6
		2月 6日	3
所蔵品に見る「書」 近代美術館の名品 富士詣考		2月13日	1
4月 4日	2	2月20日	1
4月11日	1	2月27日	1
小 計	3	3月19日	1
		3月26日	4
金色 銀色 ブラック/ホワイト 近代美術館の名品		小 計	19
4月18日	3		
4月25日	8	コレクション展合計	181
5月 2日	3		
5月 9日	1		
5月16日	1		
5月23日	5		
5月30日	14		
6月 6日	25		
小 計	60		

団体の受入れ

団体の来館者を受入れ、希望があった団体には作品解説等をおこなった。

2015年度 団体観覧対応実施一覧（申告があった団体のみ記載）

一般団体 ※ *印は解説等をおこなった団体

印象派への旅

4月19日(日)	幸墨会	* 35名
4月23日(休)	大島コミュニティセンター	* 17名
4月23日(休)	胎内市中央公民館	* 8名
5月21日(休)	長岡市社会福祉協議会	22名
5月22日(金)	福島県立博物館友の会	39名
5月28日(休)	新潟教弘友の会	* 70名
5月29日(金)	新潟教弘友の会	* 33名
6月 3日(水)	新潟県職員労働組合長岡支部	* 15名
6月 6日(土)	小諸市文化協会	38名
計9団体	小 計	277名

コレクション展第1期

6月 9日(火)	松任中央地区民生児童委員協議会	20名
6月18日(休)	ミカサ観光	20名
6月21日(日)	宮ノ下農家組合	18名
計3団体	小 計	58名

写真家・濱谷浩

7月 9日(休)	新潟デザイン専門学校	75名
7月10日(金)	新潟デザイン専門学校	67名
7月10日(金)	株式会社村大成堂	50名
8月 1日(土)	青少年文化財講座	* 14名
8月27日(休)	長岡市社会福祉センター	17名
計5団体	小 計	223名

会田誠展

9月16日(水)	チャレンジ夢クラブ西山	28名
10月16日(金)	新潟コンピュータ専門学校	* 14名
10月21日(水)	阪之上コミュニティセンター	* 14名
10月22日(休)	胎内市中央公民館	* 24名
10月22日(休)	会津若松から（昭和観光）	21名
10月23日(金)	佐久グリーンツーリスト	40名
10月31日(土)	群馬県立美術館友の会	39名
計7団体	小 計	180名

コレクション展第3期

10月 4日(日)	メッセ・ジラストラーションポスター展委員会	29名
計1団体	小 計	29名

生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』

12月 5日(土)	みのわの里	7名
12月 8日(火)	なかはくパートナー(長野市立博物館ボランティア)	* 28名
12月 9日(水)	新潟デザイン専門学校	83名
計3団体	小 計	118名

ジブリの大博覧会

3月 5日(土)	みのわの里ゆうあい	9名
3月 8日(火)	特定非営利活動法人希望の会福祉会希望の家	16名
3月 9日(水)	特定非営利活動法人希望の会福祉会のみ家	13名
3月12日(土)	社会福祉法人中越福祉会 みのわの里夢ハウスけやきの家	6名
3月19日(土)	みのわの里 工房ゆきわり	16名
3月19日(土)	みのわの里スマイルセンター三喜	23名
計6団体	小 計	83名
一般合計		968名

幼稚園・保育園

※ *印は対話型鑑賞を実施した団体

コレクション展第4期

11月18日(水)	見附市立桜保育園	* 38名(4名)
12月 9日(水)	見附市立本所保育園	* 27名(4名)
	見附市立わかば保育園	* 19名(5名)
12月10日(休)	見附市立見附保育園	* 24名(4名)
	見附市立名木野保育園	* 13名(2名)
計5団体	小 計	140名

ジブリの大博覧会

3月 9日(水)	認定こども園 明幸幼稚園	84名(8名)
3月10日(休)	学校法人長生学園 中島幼稚園	80名(7名)
3月10日(休)	社会福祉法人浄英会 長生保育園	49名(4名)
3月15日(火)	社会福祉法人 曾根保育園	13名(3名)
3月16日(水)	社会福祉法人 みどり保育園	16名(5名)
3月18日(金)	恵和保育園	63名(3名)
計6団体	小 計	335名
幼・保合計		475名

総合計 1,443名

学校教育との連携

●図工・美術、および部活動等での利用

学校のカリキュラムで来館した学校等団体に展覧会鑑賞の機会を提供した。対話型鑑賞を積極的に提案し、特に、市の芸術鑑賞推進の施策で来館する小千谷市の小学校5年生には対話型鑑賞の実施を勧めた。その結果、学校等の児童生徒たちがコレクション展で当館の所蔵品に触れる機会も増えることとなったと思われる。

【対話型鑑賞の実施】

(児童・生徒780名+引率者45名)

5月30日	新潟県立五泉高等学校美術部	(1・2・3年)	16名(1名)
7月 7日	小千谷市立千田小学校	(5年)	21名(2名)
7月15日	新潟県立長岡明德高等学校	(社会人講座)	17名(1名)
9月 8日	小千谷市立小千谷小学校	(5年)	59名(4名)
9月10日	小千谷市立小千谷小学校	(5年)	89名(4名)
9月15日	長岡市立上通小学校	(3年)	18名(1名)
9月15日	新津第三小学校	(6年)	109名(3名)
10月21日	燕市立小池中学校	(1年)	70名(3名)
10月30日	小千谷市立南小学校	(5年)	18名(1名)
11月 4日	小千谷市立片貝小学校	(5年)	36名(2名)
11月 5日	長岡市立日越小学校	(5・6年)	77名(3名)
11月25日	小千谷市立東小千谷小学校	(5年)	56名(1名)
11月25日	小千谷市立東山小学校	(5年)	4名(1名)
11月27日	小千谷市立吉谷小学校	(5年)	10名(1名)
11月27日	小千谷市立和泉小学校	(5年)	18名(1名)
1月 8日	長岡市立上組小学校	(6年)	67名(3名)
1月21日	長岡市立高等総合支援学校	(1年)	5名(2名)
1月27日	長岡市立脇野町小学校	(3年)	22名(2名)
1月29日	長岡市立山古志小学校	(5・6年)	7名(2名)
2月 2日	長岡市立脇野町小学校	(3年)	23名(2名)
2月18日	出雲崎町立出雲崎小学校	(4年)	38名(2名)

【展覧会解説の実施】※概要解説を含む

(児童・生徒598名+引率者52名)

印象派への旅

6月 2日	長岡市立江陽中学校 美術部	(1・2・3年)	18名(1名)
6月 4日	新潟県立長岡聾学校	(高等部1年)	5名(2名)

写真家・濱谷浩

7月30日	新潟県立長岡工業高等学校 美術部	(1・2・3年)	11名(2名)
-------	------------------	----------	---------

会田誠展

9月24日	新潟県立長岡明德高等学校	(1~4年)	247名(31名)
10月23日	新潟市立西内野小学校	(6年)	77名(4名)
10月27日	新潟県立長岡商業高等学校	(2年)	74名(4名)
10月28日	新潟県立長岡商業高等学校	(2年)	39名(1名)
10月29日	新潟県立長岡商業高等学校	(2年)	40名(2名)
10月30日	新潟県立長岡商業高等学校	(2年)	78名(4名)

亀倉雄策と『クリエイション』

1月 7日	柏崎市立第一中学校 美術部	(1・2年)	9名(1名)
-------	---------------	--------	--------

【展覧会鑑賞のみ】

(児童・生徒996名+引率者103名)

印象派への旅

4月19日	長岡市立堤岡中学校 美術部	(1・2・3年)	7名(2名)
5月 1日	新潟県立新井高等学校	(3年)	141名(11名)
5月17日	長岡市立旭岡中学校 芸術部、吹奏部	(1・2・3年)	47名(3名)
5月23日	柏崎市立東中学校 アート部	(1・2・3年)	12名(2名)
5月23日	南魚沼市立堀内中学校 文化部美術班	(1・2・3年)	18名(1名)
6月 6日	上越市立北城中学校 美術部	(1・2・3年)	23名(1名)
6月 7日	南魚沼市立六日町中学校 文化部		16名(1名)

写真家・濱谷浩

7月14日	長岡市立高等総合支援学校	(3年)	29名(12名)
7月26日	長岡市立太田中学校 美術部	(1・2・3年)	7名(1名)
8月 6日	新潟県立長岡商業高等学校 写真同好会	(1年)	3名(1名)
8月 2日	柏崎市立東中学校 美術部 (美術部)		11名(2名)

会田誠展

9月18日	長岡市立高等総合支援学校	(2年)	4名(2名)
10月 7日	長岡市立南中学校 美術部	(1・3年)	3名(1名)
10月10日	上越市立大湯町中学校 美術部	(2・3年)	6名(2名)
10月15日	長岡市立上川西小学校	(4年)	104名(5名)
10月31日	魚沼市立広神中学校 美術部	(2・3年)	10名(1名)
11月 3日	魚沼市立堀之内中学校 美術部	(1・2・3年)	20名(1名)

コレクション展第3期

9月25日	新潟県立小出特別支援学校 中学部3年		6名(3名)
-------	--------------------	--	--------

亀倉雄策と『クリエイション』

11月14日	長岡市立越路中学校 美術部	(1・2年)	14名(1名)
11月14日	長岡市立秋葉中学校 美術部	(1・2・3年)	25名(1名)
11月14日	長岡市立旭岡中学校 美術部		10名(1名)
11月14日	長岡市立西中学校 美術部		2名(1名)
11月20日	十日町市立水沢小学校	(3年)	33名(2名)

コレクション展第5期

1月29日	新潟県立出雲崎高等学校	(2年)	39名(6名)
-------	-------------	------	---------

ジブリの大博覧会

3月 8日	長岡市立脇野町小学校	(2年)	45名(3名)
3月 8日	長岡市立越路小学校	(2年)	115名(4名)
3月 8日	燕市立分水中学校	(1・2年)	2名(4名)
3月 9日	長岡市立上川西小学校	(3年)	70名(3名)
3月10日	長岡市立上川西小学校	(3年)	69名(3名)
3月11日	新潟県立長岡聾学校	(高等部2年)	4名(2名)
3月12日	魚沼市立広神中学校 美術部	(2・3年)	8名(1名)
3月15日	長岡市立南中学校	(1・2年)	9名(3名)
3月15日	長岡市立神田小学校	(5年)	13名(1名)
3月15日	新潟県立柏崎特別支援学校	(中学部2年)	1名(2名)
3月17日	長岡市立大島中学校	(1年)	1名(2名)
3月21日	魚沼市立堀之内中学校 美術部	(1・2・3年)	23名(1名)
3月23日	加茂市立葵中学校	(1・2年)	4名(4名)
3月23日	新潟市立南浜中学校 美術部	(1・2・3年)	11名(2名)
3月29日	長岡市立西中学校 美術部	(1・2年)	15名(1名)
3月29日	長岡市立岡南中学校 文化部	(1・2年)	16名(3名)

合計2,374名(200名)

●施設見学

美術館の施設についての学習での利用に供し、子どもたちの質問などに回答した。

8月26日 長岡市立日越小学校 (3年) 76名(4名)

●職場体験

学校からの希望に応じて、職場体験を受け入れた。

8月18日 長岡市立堤岡中学校 (2年) 1名

●こども学芸員作品解説

長岡市立上具に小学校6年生の総合的な学習の時間・図工の取組として、児童が当館で学習の成果を来館者に披露する「子ども学芸員」の活動をおこなった。学校と美術館が連携し、以下の日程で一年間かけて取り組んだ。

4月20日 年間の活動についての打合せ

5月27日 出前講座「学芸員って、どんなお仕事でしょう」

1月 8日 全児童来館 クラスごとに対話型鑑賞を体験、また自分が解説する作品を選定

1月16日 児童による作品解説会（コレクション展第4期展示室3にて 参加児童65名）

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

月	期間	日数	開催企画展名称	企 画 展									コレクション展									月計	
				学 校 等						障がい者	介助	合計	学 校 等						障がい者	介助	合計		
				小中・特			高校						小中・特			高校							
				校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率				校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率					
4	1~5	5	コレクション・ストーリーズ-11年の物語	0	0	0	0	0	0	8	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170
	7~12	6											0	0	0	0	0	0	14	5	19		
	16~17	2											0	0	0	0	0	0	3	0	3		
	18~30	11		1	7	2	0	0	0	99	31	139	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
5	1~31	28	印象派への旅 戦後70年ひろしま美術館 フランス絵画展	3	77	6	2	157	12	367	111	730	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	730
6	2~7	6		3	57	3	1	5	2	126	41	234	0	0	0	0	0	0	0	0	0	302	
	9~21	12											0	0	0	0	0	0	36	5	41		
	25~30	5											0	0	0	0	0	0	16	11	27		
7	1~3	3											0	0	0	0	0	0	1	0	1	234	
	4~31	24	生誕100年 写眞家・濱谷浩	2	28	3	3	57	15	103	27	233	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
8	1~30	28		2	87	6	1	3	1	151	40	288	0	0	0	0	0	0	6	1	7	295	
9	3~11	8											2	148	8	0	0	0	8	1	165	770	
	12~30	17		3	133	10	3	251	33	142	35	604	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
10	1~31	27	会田誠 展	7	288	17	6	231	11	189	55	791	0	0	0	0	0	0	1	0	1	792	
11	1~3	2		1	20	1	0	0	0	32	13	66	0	0	0	0	0	0	1	0	1	435	
	4~8	5											2	113	5	0	0	0	4	1	123		
	12~13	2											0	0	0	0	0	0	6	4	10		
	14~29	14		9	172	10	0	0	0	43	9	234	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
12	1~27	24	生誕100年 亀倉雄策と『クリエイション』	0	0	0	0	0	0	46	13	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	
	5~17	12		3	141	7	0	0	0	39	5	192	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
1	21~31	10											2	29	4	2	44	8	6	0	91	283	
2	2~28	24											2	61	4	0	0	0	20	7	92	92	
3	1~4	4											0	0	0	0	0	0	3	0	3	1,570	
	5~31	24	ジブリの大博覧会	15	402	37	1	4	2	849	273	1,567	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合 計		303		49	1,412	102	17	708	76	2,194	654	5,146	8	351	21	2	44	8	127	35	586	5,732	

* 観覧料免除申請はされていないが、小・中学生及び特別支援学校の児童生徒数を含む。

平成27年度 夏季休業期間 観覧料免除者数 7/18~8/30

月	期間	日数	展 覧 会 名	高校生	月計	合計
7	18~31	12	生誕100年 写眞家・濱谷浩	1	1	19
8	1~30	28		18	18	

博物館実習

【趣 旨】

学芸員資格取得を目指す学生等のための博物館実習を実施し、8名の実習生を受け入れた。美術館学芸員の諸業務に関する講義のほか、各分野の作品の取り扱いについて実習を行った。後半には「展覧会計画」として、展覧会を計画・立案、図面や要項の作成、展示、撤収までのひとつのの流れを体験する演習を行った。また、準備を重ねコレクション展出品作品の作品解説を行ったりするなど、学芸業務を実際に体験させることに重点をおいた。

【実習期間】

7月16日(木)～7月30日(木) ※土・日・祝日を除く

【実習生の所属および受け入れ人数】

新潟大学 3名
長岡造形大学 4名
秋田公立美術大学 1名

【カリキュラム】

月日	時限	内 容	担 当
7月16日(木)	1	開講式・館の概要説明、オリエンテーション	館長・副館長、伊澤
	2	展覧会見学（「濱谷浩展」・「コレクション展第2期」）	澤田・宮下
	3	バックヤード見学	伊澤
	4	講 義：博物館運営に関わる法律・現在の博物館を取り巻く状況	藤田
7月17日(金)	1	講 義：作品の収集・分類・保管とデータベース管理	平石・伊澤
	2	講 義：学芸課の業務／展覧会の企画から礼状まで	藤田
	3	実 習：作品の取り扱い・展示・点検（平面作品）	松矢・澤田
	4		
7月21日(火)	1	講 義：ミュージアムエデュケーション	宮下
	2	講 義：美術館と地域連携／ボランティアと友の会	青木
	3		
	4	講 義：作品の調査・研究	松矢
7月22日(水)	1	実 習：作品の取り扱い・展示（軸・屏風）	宮下・澤田
	2		
	3	実 習：作品の取り扱い・展示（彫刻）	伊澤・平石
	4	講 義：総務課の業務／施設管理・安全対策	太平BS、セコム、矢澤
7月23日(木)	1	講 義：美術館のサービスと来館者の視点	副館長・囃託員
	2	講 義：美術館の広報	宮下・宇賀田
	3	講 義：作品の保存・修復	松矢
	4	実 習：作品の取り扱い・展示（工芸）	藤田
7月24日(金)	1	実 習：展覧会計画①（作品・テーマ選定）	伊澤・澤田・平石
	2		
	3		
	4		
7月27日(月)	1	展示替え見学	伊澤・澤田・平石
	2	実 習：展覧会計画②（リスト、図面、開催要項作成）	
	3		
	4	実 習：作品解説会説明、準備①	
7月28日(火)	1	実 習：展覧会計画③（パネル・キャプション等の作成）	伊澤・澤田・平石
	2		
	3	実 習：作品解説会準備②	
	4		
7月29日(水)	1	実 習：作品搬入、展示作業	伊澤・澤田・平石
	2		
	3		
	4		
7月30日(木)	1	実 習：作品解説会準備③	伊澤・澤田・平石
	2		
	3	実 習：作品解説会（一般公開）	澤田・学芸課
	4	講 義：作品解説会・講評／実習のまとめ・閉講式	澤田・学芸課／館長・伊澤

8時50分出勤 実習場所は会議室を基本とする

①9:00～10:20（80分） ②10:40～12:00（80分）

③13:10～14:30（80分） ④14:50～16:10（80分）

担当：伊澤朋美、澤田佳三、平石昌子

イベント

講演会

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内 容	会場	備考	参加者数
6月20日(土)	14:00～15:40	日韓近代美術家のまなざし「朝鮮」で描く	近代期の京城＝ソウル、おんたちの「モダン」と「伝統」	金恵信(キム・ヘシン)氏 (沖縄県立芸術大学准教授、本展学術協力者)	本展学術協力者の金恵信(キム・ヘシン)氏による講演会	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	参加無料 申込不要	20
8月 8日(土)	14:00～15:30	生誕100年 亀倉雄策展	亀倉雄策の東京オリンピックと大阪万博	木田拓也氏 (東京国立近代美術館工芸館主任研究員)	東京オリンピック(1964)、大阪万博(1970)における亀倉雄策のデザインワークについて解説	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	参加無料 申込不要	22
9月19日(土)	11:00～12:00	三宝院開創900年記念 世界遺産 京都・醍醐寺展	ギャラリートーク	仲田順英氏 (醍醐寺執行総務部長)	会場を回りながら、主要作品を前に醍醐寺の歴史と名宝について紹介	美術館展示室内	要観覧券 申込不要	70
10月12日(月・祝)	14:00～15:00			長瀬福男氏 (醍醐寺公室室長)				

計222名

美術鑑賞講座

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内 容	会場	備考	参加者数
5月23日(土)	14:00～15:30	日韓近代美術家のまなざし「朝鮮」で描く	新潟の彫刻家・戸張幸男の朝鮮での制作活動について	高晟俊 (当館主任学芸員)	新潟の彫刻家・戸張幸男の朝鮮における活動について紹介	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	聴講無料 申込不要	20
8月 1日(土)	14:00～15:30	生誕100年 亀倉雄策展	亀倉雄策のデザイン—当館所蔵資料から業績をたどる	今井有 (当館業務課課長代理)	新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵の亀倉雄策の作品について、戦前から東京オリンピックの一連の仕事に至るまでの業績を中心に紹介	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	聴講無料 申込不要	6
3月13日(日)	14:00～15:30	現代のアートとデザイン	水島爾保布の挿絵『人魚の嘆き 魔術師』をめぐって	桐原浩 (当館業務課長)	3部構成で、次の展覧会「ピアズリーと日本」の出品作家・水島爾保布とピアズリーとの関係を紹介	美術館ロビー	聴講無料 申込不要	1
3月27日(日)						NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)		3

計30名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内 容	会場	備考	参加者数	
4月 5日(日)	11:00～ 13:00～ 14:30～ 16:00～	トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	ムーミンがびじゅつかんにやってくる!		ムーミンとの記念撮影会	美術館ロビー	要整理券	415	
9月19日(土)	10:00～	三宝院開創900年記念 世界遺産 京都・醍醐寺展	開会法要	醍醐寺、真言宗醍醐派新潟宗務所寺院による	国宝《五大尊》のうち《不道明王》の前での法要	美術館展示室内	要観覧券 申込不要	150	
9月28日(月)					展示室《大壇具》前において、藍川全浄氏(新発田市・法音寺)など全4名の真言宗醍醐派新潟宗務所寺院僧侶による法要			70	
10月5日(月)	11:00～11:20		法要「醍醐の祈り」	真言宗醍醐派新潟宗務所寺院による	声明を中心とし「散華」を行った法要			110	
10月19日(月)								80	
10月26日(月)								9月28日とほぼ同様	90
11月2日(月)									100
11月8日(月)	17:40～18:00	結願法要	醍醐寺(仲田部長、壁瀬氏)、真言宗醍醐寺派新潟宗務所寺院(藍川氏他)など	醍醐寺(仲田部長、壁瀬氏)、真言宗醍醐寺派新潟宗務所寺院(藍川氏他)など全7名の僧侶による結願法要	30				

小計1,045名
総合計1,297名

刊行物

刊行物名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成27年度 展覧会案内 リーフレット	平成27年度の企画展と所蔵品展の日程及び内容、年間のイベント予定などをまとめたもの。	A4判 観音四つ折り	55,000部	2015年4月1日	展覧会予定 / 開館カレンダー / 美術鑑賞講座案内 / 近代美術館スケジュール / 観覧料免除・乳幼児・障害者向け施設案内 / サポートメンバー募集 / 友の会案内 / 市内美術館紹介 / 駐車場案内 / 交通案内
新潟県立万代島美術館だより「B.island」No.14	美術館からの情報発信として一般来館者向けに編集したものの。	A3二つ折り (A4判) 4頁	5,000部	2015年4月1日	2015年度の企画展 / 2015年度の所蔵品展 / 注目の展覧会「日韓近代美術家のまなざし―「朝鮮」で描く」 / 「生誕100年亀倉雄策展」 / イベントピックアップ「梅佳代展 アーティスト・トーク&サイン会」、「美術の冒険展 ギャラリー・トーク」、「近藤喜文展 写真撮影コーナー」、「伊藤若冲と京の美術展 ミュージアム・コンサート」 / 「教えて！万代島美術館のこと！〜スタッフ編」 / 「サポートメンバーを募集しています」 / 「万代島美術館でアートに親しんだ後は……」 / 近代美術館の企画展案内 / 交通案内
企画展 「亀倉雄策展」 図録	「亀倉雄策展」の公式図録	A4判 164頁	1,000部	2015年7月11日	ごあいさつ / 図版・章解説 (今井有) / 第1章 「少年図案家」としてのスタート / 第2章 スタイルの確立―「商業美術」から「グラフィックデザイン」へ / 第3章 「日本」を発信するデザイナー―オリンピック、万博 / 第4章 書籍、ロゴ、マークの仕事 / 第5章 企業の個性とデザイン / 第6章 曲線と直線の宇宙 / 第7章 コレクターとしての眼差しとライフスタイル / 亀倉雄策の素顔―「第264回クリエイティブサロン (出演：永井一正 聞き手：大迫修三)」より / 亀倉雄策における「日本的なもの」―東京オリンピックのデザインワークから見えてくるもの (木田拓也) / 新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵の亀倉雄策関連資料について (今井有) / 出品リスト / 亀倉雄策 年譜 / 資料―新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵 亀倉雄策 ポスター・カレンダー作品目録
企画展 「京都醍醐寺展」 図録	「京都醍醐寺展」の公式図録	B5判変形 192頁	1,700部	2015年9月19日	ごあいさつ / 凡例 / 醍醐寺の仏法と文化財 (永村真) / 醍醐寺の仏像 (副島弘道) / 醍醐寺伽藍 / はじめに / 一 麗しき仏たち / 二 密教の祈り / 三 醍醐寺ゆかりの人々 / 四 醍醐の花見と三宝院 / 醍醐寺年中行事 / 醍醐寺鳥瞰図 / 展示品解説 / 主要参考文献一覧 / 醍醐寺座主法流血脈 / 醍醐寺関連年表 / 総本山醍醐寺編 / 醍醐寺への交通アクセス / 出品目録
新潟県立近代美術館 研究紀要 第15号	学芸員による研究報告	A4判 94頁	400部	2016年3月31日	【研究】 ・澤田佳三 「新津記念館所蔵 藤田嗣治《千人針》《佐渡小木港》について」 ・宮下東子 「幼児の鑑賞と体験に関する一考察 一対話型鑑賞を通して」 ・青木善治 「美術館と学校教育との連携に関する一考察―子どもの考える力、表現する力、自己肯定感を育むための鑑賞活動の取組―」 ・松矢国憲 「佐渡モッコ、中村木子の生涯と作品」 【英文要旨】

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会期中に学芸員による作品解説会等を行っている。
いずれも美術館に興味と親しみを感じていただくためのもので、来館者に興味をもって参加していただいた。

企画展 生誕100年 トーベ・ヤンソン展		企画展 日韓近代美術家のまなざし		企画展 生誕100年 亀倉雄策展		所蔵品展 現代のアートとデザイン		
期日	人数	期日	人数	期日	人数	期日	人数	
4月18日(土)	20名	5月31日(日)	7名	7月11日(土)	13名	3月20日(日)	2名	
(1回)		6月 7日(日)	20名	7月25日(土)	15名	(1回)		
小計	20名	(2回)		(2回)		小計	2名	
		小計	27名	小計	28名			
総合計							6回	
							77名	

団体の受入れ

団体来館(小・中学校、高校以外)のうち、希望があった場合、作品解説や施設紹介をおこなった。

トーベ・ヤンソン展

4月 3日(金)	葛塚東児童館	32名(引率2名)
4月23日(木)	胎内市中央公民館	7名(引率2名)

亀倉雄策展

8月26日(水)	長岡公務員・情報ビジネス専門学校	13名(引率2名)
8月28日(金)	新潟コンピュータ専門学校	17名(引率1名)

世界遺産 京都・醍醐寺展

10月14日(水)	三条市大島公民館	24名
10月22日(水)	胎内市中央公民館	24名
11月 4日(水)	田上町退職議員連盟	11名

蜷川実花展

12月11日(金)	JR東日本新潟支社	20名
-----------	-----------	-----

合計155名

学校教育との連携

●図工・美術の授業及び部活動での利用—展覧会の鑑賞

学校のカリキュラム等で来館した学校団体に展覧会の鑑賞の機会を提供した。

特に希望のあった学校団体に関しては、学芸員による作品解説を行った。

[学芸員による作品解説を行った学校] **87名**
(児童・生徒80名+引率者7名)

日韓近代美術家のまなざし

6月 9日(火) 新潟市立東新潟中学校 (1・2・3年) 23名(2名)

亀倉雄策展

7月23日(木) 上越市立直江津中学校 (1・2・3年) 15名(1名)

7月30日(木) 新潟市立東中学校 (1・2・3年) 11名(1名)

8月 4日(火) 新潟市立横越中学校 (1・2・3年) 14名(1名)

世界遺産 京都・醍醐寺展

11月 5日(木) 新潟県立長岡商業高等学校 (1・2年) 10名(1名)

現代のアートとデザイン

3月31日(木) 新潟市立東新潟中学校 (1・2年) 7名(1名)

[展覧会鑑賞のみの学校団体] **213名**
(児童・生徒196名+引率者17名)

トーベ・ヤンソン展

4月26日(日) 村上市立村上東中学校 (1・2・3年) 6名(1名)

5月 2日(土) 阿賀町立阿賀津川中学校 (1・2・3年) 12名(1名)

亀倉雄策展

8月 5日(水) 新潟市立小新中学校 (1・2・3年) 27名(1名)

8月 9日(日) 新潟市立新津第二中学校 (1・2・3年) 32名(0名)

8月22日(土) 柏崎市立東中学校 (1・2・3年) 11名(2名)

世界遺産 京都・醍醐寺展

10月31日(土) 魚沼市立広神中学校 (2・3年) 10名(1名)

11月 3日(火) 魚沼市立堀之内中学校 (1・2・3年) 19名(1名)

11月 5日(木) 新潟県立高田高等学校 (1・2年) 14名(1名)

11月 5日(木) 新潟県立糸魚川白嶺高等学校 (2年) 4名(2名)

11月 5日(木) 新潟県立上越総合技術高等学校 (1・2・3年) 12名(1名)

11月 5日(木) 新潟県立柏崎工業高等学校 (1・2・3年) 15名(1名)

11月 5日(木) 新潟県立高田高等学校 (1・2・3年) 8名(1名)

蛭川実花展

12月12日(土) 新潟県立新潟向陽高等学校 (1・2・3年) 20名(2名)

2月 3日(水) 新潟県立豊栄高等学校 (1・2・3年) 6名(2名)

●校外学習・総合学習

学校教育、特に中学校の校外学習及び総合学習での利用に供した。希望のあった場合は目的に応じて施設や職業に関する質問への対応や案内を行った。

[学芸員による解説を行った学校] **25名**
(児童・生徒23名+2名)

トーベ・ヤンソン展

4月17日(金) 新潟市立宮浦中学校 (2年) 4名(0名)

亀倉雄策展

7月15日(水) 新潟市立濁川中学校 (2年) 2名(2名)

7月17日(金) 長岡市立中之島中学校 (2年) 17名(0名)

[展覧会鑑賞のみの学校] **402名**
(児童・生徒371名+引率者31名)

トーベ・ヤンソン展

4月17日(金) 猪苗代町立東中学校 (2年) 3名(1名)

5月 1日(金) 新潟市立東新潟中学校 (2年) 5名(0名)

5月 1日(金) 会津若松市立一貫中学校 (1年) 5名(0名)

5月 4日(月) 長野県上田染谷丘高等学校 (不明) 21名(1名)

日韓近代美術家のまなざし

5月19日(火) 新潟市立豊浦中学校 (2年) 25名(1名)

5月19日(火) 燕市立分水中学校 (2年) 9名(0名)

5月22日(金) 五泉市立愛宕中学校 (2年) 13名(1名)

5月26日(火) 見附市立西中学校 (2年) 8名(0名)

亀倉雄策展

7月14日(火) 新潟県立長岡鹽学校 (3年) 4名(2名)

7月16日(木) 新潟県立江南高等特別支援学校 (1年) 12名(5名)

7月17日(金) 出雲崎町立出雲崎中学校 (2年) 28名(5名)

世界遺産 京都・醍醐寺展

10月 7日(水) 新潟県立小千谷西高等学校 (3年) 153名(9名)

10月 8日(木) 新潟市立本丸中学校 (1年) 6名(0名)

10月27日(火) 新潟市立猿橋中学校 (1年) 10名(0名)

10月30日(金) 新潟市立新津第二中学校 (1年) 39名(0名)

蛭川実花展

12月 3日(木) 燕市通応指導教室インゼルルーム (小5,中1~3年) 5名(3名)

12月 4日(金) 見附市立田井小学校 (5・6年) 9名(3名)

1月 6日(水) 新潟明訓高等学校 (不明) 16名(0名)

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

展覧会名	会期	日数	学 校 等						障がい者	介助	合 計
			小中・特			高校					
			校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率			
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展	4月1日～5月6日	34	6	35	3	0	0	0	523	167	728
日韓近代美術家のまなざしー「朝鮮」で描く	5月16日～6月28日	41	5	78	4	0	0	0	154	31	267
生誕100年 亀倉雄策展	7月11日～8月30日	47	9	157	13	2	16	7	236	44	473
世界遺産 京都・醍醐寺展	9月19日～11月8日	50	5	84	2	7	216	16	926	290	1,534
蜷川実花展	11月28日～2月28日	81	2	14	6	2	26	4	624	158	832
現代のアートとデザイン	3月12日～3月31日	18	1	7	1	0	0	0	45	9	62
合 計		271	28	375	29	11	258	27	2,508	699	3,896

夏休み期間 観覧料免除者数

展覧会名	期間	日数	校数	生徒
生誕100年 亀倉雄策展	7月11日～8月30日	47	16	105

サポートメンバー (新潟県立万代島美術館ボランティア組織)

新潟県立万代島美術館では、美術館と県民とをより親しく結びつけることを目的として、新潟県立万代島美術館サポートメンバーを組織している。本年度は下記のとおり活動を行った。

【ねらい】

- 1 来館者に生涯学習の機会と場を提供する。
- 2 美術館の活動を共有し、美術館への関心と関わりを深めることにより、美術館の愛好者を増大する。

【登録人数】(H28年3月現在)

9名

【活動内容】

展覧会に付随するイベントへの協力、万代島美術館の活動や展覧会業務で必要な活動への協力

- ・美術鑑賞講座 実施補助
- ・「生誕100年亀倉雄策展」講演会 実施補助
- ・ロビー配架図書の整理
- ・各展覧会広報活動（ポスター、チラシ発送）への協力
- ・亀倉雄策関連資料データベース化作業
- ・図書、新聞切り抜き等整理

【課題】

- ・各展覧会のイベントへの協力、ポスター・チラシ等の発送などを中心に活動していただいた。
- ・活動のメニューを増やせるよう、メンバーからも希望を募りたい。

博物館実習

【趣旨】

学芸員資格取得を目指す学生のために博物館実習を実施し、9名の実習生を受け入れた。各分野についての講義の他、作品の点検・取扱いの指導も行った。研究課題として所蔵品を使った展覧会企画を各自が発表し、学芸員の仕事について学んだ実習の総まとめとした。

【実習期間】

7月28日(火)～30日(木)、8月4日(火)～6日(木) 計6日間

【実習生の所属および受入人数】

新潟大学	2名
群馬県立女子大学	2名
金沢学院大学	1名
同志社女子大学	1名
日本大学（通信）	1名
多摩美術大学	1名
成安造形大学	1名
合計	9名

【カリキュラム】

日	時限	内容	担当
7月28日(火)	1	開校式・館長講話・オリエンテーション	館長 長嶋
	2	施設案内(朱鷺メッセ・万代島ビル)／企画展見学	長嶋
	3	博物館法／美術館の課題	桐原
	4	研究課題(課題説明、資料収集)	長嶋
7月29日(水)	1	総務担当の業務について(実行委員会、予算、人事等)	板垣
	2	著作権／所蔵品管理／刊行物作成(図録、年報・紀要等)について	今井
	3	作品の点検・取扱い(平面)	今井
	4	研究課題(テーマ決定、構成検討)	長嶋
7月30日(木)	1	広報活動／作品収集／保存・修復について	今井
	2	展覧会の企画・運営 総論	桐原
	3	研究課題(リスト・図面作成)	長嶋
	4		
8月4日(火)	1	美術館の教育普及活動について(近代美術館)	宮下(近代美術館)
	2	作品の取扱い(日本画)	長嶋
	3	作品の取扱い(工芸)	藤田(近代美術館)
	4	濱谷浩展見学	澤田(近代美術館)
8月5日(水)	1	受付・監視の仕事	囃託員
	2	作品の点検・取扱い(彫刻、写真等)	桐原
	3		
	4	研究課題	長嶋
8月6日(木)	1	課題発表準備(機材準備、資料配付等)	長嶋
	2		
	3	課題発表・講評	職員
	4	閉校式	館長・職員

※8月4日(火)は近代美術館(長岡市)で実施

10:10出勤 実習場所:会議室

- ①10:10～11:30(80分) ②11:50～13:10(80分)
③14:15～15:35(80分) ④15:55～17:15(80分)

担当 長嶋圭哉

新潟県立近代美術館

【調査】

展覧会関連

伊澤朋美、藤田裕彦

亀倉雄策と『クリエイション』展作品調査 栃木県立美術館／宇都宮美術館／JAGDA／G8 4月22日～24日

澤田佳三 濱谷浩展作品調査 濱谷浩邸 5月13日～14日

松矢国憲、宇賀田和雄

良寛作品調査 燕市分水良寛資料館 5月21日

松矢国憲 ジブリの大博覧会展調査 愛媛県美術館 5月26日～28日

伊澤朋美 亀倉雄策資料調査 万代島美術館 6月10日

伊澤朋美、藤田裕彦

亀倉雄策トークセッションイベント調査
新潟日報メディアシップ 2月29日

藤田裕彦 会田誠作品設置調査 関川村 6月27日

松矢国憲、藤田裕彦

ジブリの大博覧会展作品調査 小金井市 8月6日

伊澤朋美 亀倉雄策資料調査 万代島美術館 8月14日

松矢国憲 良寛作品調査 燕市 9月8日

伊澤朋美 亀倉雄策展シンポジウムイベント調査

東京FMホール 9月8日

松矢国憲 ジブリの大博覧会展調査 愛・地球博公園
9月10日～11日

丸山実、藤田裕彦

モネ展作品調査 東京都美術館 9月18日

平石昌子、伊澤朋美

ヴェネツィア展調査 名古屋ボストン美術館
9月18日

平石昌子 モネ展作品調査 東京都美術館 10月16日

松矢国憲 巻菱湖作品調査 巻菱湖記念時代館 10月26日

松矢国憲 巻菱湖作品調査 新潟県立図書館
2016年1月28日

平石昌子 モネ展調査 福岡市美術館 2016年2月3日～4日

宮下東子 ヴェネツィア展調査 名古屋ボストン美術館
2016年2月17日

平石昌子 モネ展調査 京都市美術館 2016年3月1日

作品調査

藤田裕彦 原益夫作品調査 柏崎市 4月21日

宮下東子 長谷川嵐溪作品調査 新潟市 4月22日

伊澤朋美、藤田裕彦

武石弘三郎作品調査 作新学院 4月22日

澤田佳三、松矢国憲、藤田裕彦

佐藤哲三作品他作品調査 砂丘館 4月28日

松矢国憲、宇賀田和雄

中村木子作品調査 富山県立図書館 5月22日

松矢国憲 田中本吉作品調査 長岡市 6月18日

徳永健一、松矢国憲、伊澤朋美

巻菱湖、林昭三他作品調査 小千谷市 6月25日

松矢国憲 中村木子作品調査 富山県立図書館他
7月5日、7月7日

松矢国憲 中村木子作品調査 新潟市 7月22日

徳永健一、丸山実、伊澤朋美

野上公平作品調査 南魚沼市 9月25日

松矢国憲 中村木子作品調査 佐渡市 10月12日

澤田佳三 河西智作品調査 新発田市 12月8日

藤田裕彦、平石昌子

堀口大學旧蔵作品調査 神奈川県三浦郡 12月8日

澤田佳三 藤田嗣治資料調査 東京藝術大学大学美術館
12月21日

【図録執筆】

平石昌子、藤田裕彦、濱田真由美

『印象派への旅 ひろしま美術館フランス絵画展』
作品解説 4月

徳永健一 『生誕100年 写真家・濱谷浩展』

『地域文化の芽をまくー高田の濱谷浩』 5月

藤田裕彦 『生誕100年 写真家・濱谷浩展』

『濱谷浩の半世紀ー「潜像残像」から読み解く
〈写真家・濱谷浩〉』 5月

平石昌子 『マルモッタン・モネ美術館所蔵モネ展』 作品解説
6月

藤田裕彦 『会田誠展』 巻頭論文「会田誠に向かって」 8月

【寄稿】

『印象派への旅』 新潟日報朝刊連載「印象派への旅」

平石昌子 ①マネ『灰色の羽根帽の婦人』 4月28日

平石昌子 ②シスレー『サン・マメス』 4月29日

宮下東子 ③ピサロ『ボン＝ヌフ』 4月30日

宮下東子 ④キスリング『ルーマニアの女』 5月1日

青木善治 ⑤シニャック『ポルトリユー、グーヴェルロー』
5月2日

『濱谷浩』 新潟日報「展覧会へようこそ」 7月25日

澤田佳三 生誕100年 写真家・濱谷浩 道開いた高田での
体験

『会田誠展』 新潟日報「会田誠展 ま、Still Alive ってこー
ゆーこと」

藤田裕彦 創造 無限 9月3日

藤田裕彦 『美術の窓』10月号 異論反論・現代美術

『〈コンセプチュアルアーティスト〉としての会田誠
の魅力に迫る』 10月

「亀倉雄策と『クリエイション』」

伊澤朋美 新潟日報「展覧会へようこそ」
亀倉雄策とクリエイション デザイン哲学そのもの
12月9日

当館展覧会以外

藤田裕彦 新潟日報「ニイガタレビュー・前山忠一鏡に落ちて」
4月6日

濱田真由美 新潟日報「ニイガタレビュー・猪爪彦一
ー黄昏の国より」 5月1日

濱田真由美 新潟日報「光る先駆性 久保田成子の芸術」上・
下 10月2日～3日

平石昌子 インタビュー「ドガはなぜ誰よりも多く女性の絵を
描き続けるのか」
『SIGHT ART』Vol.3 2016 Winter 10月16日

藤田裕彦 新潟日報「展覧会によろこそ・人間国宝玉川宣夫展」
10月21日

松矢国憲 全国美術館会議『東日本大震災文化財レスキュー事
業記録集』

澤田佳三 「展覧会評 戦後70年をめぐる展覧会ー戦前と戦
後という時代認識から見えるものー」『美術研究』
第417号（東京文化財研究所）

松矢国憲 「江口草玄」『東アジアにおける〈美の初学〉の伝統
と変容』

【講演・講義等】

松矢国憲 長岡造形大学「博物館概論」 6月11日

松矢国憲 国際シンポジウム「東アジアにおける〈書の美学〉
の伝統と変容」 リュートピア パネリスト
9月3日

新潟大学人文学部講義（美術史概説A） 10月7日～2月3日

平石昌子 「⑧近代美術 18世紀フランス美術」 11月25日

平石昌子 「⑨近代美術 ロマン主義」 12月2日

平石昌子 「⑩近代美術 リアリズム」 12月9日

平石昌子 「⑪近代美術 世紀末美術」 12月16日

藤田裕彦 「⑫20世紀美術4 戦後・現代」 2月3日

教職員向け研修会 8月17日～12月3日

宮下東子 新潟県高等学校教育研究会芸術部会美術研修会・近
美講座室 「授業における鑑賞教育の教授法」
参加者15名 8月17日 10:00～16:00

宮下東子 希望・大島地区別集會研修会・近美講座室 「展覧
会の鑑賞」
参加者30名 8月21日 15:00～16:50

青木善治 長岡市三島郡小・中・総合支援学校教頭会「第6ブ
ロック研修会」・近美講座室 「展覧会の鑑賞」
参加者17名 11月17日 15:00～16:40

青木善治、宇賀田和雄

児童厚生員研修会講師・長岡市市民体育館
参加者数113名 11月25日 14:00～16:00

宮下東子 長岡市三島郡美術教育研究会・近美講座室 「美術
館の対話型鑑賞を通して、授業での鑑賞指導や美術
館の活用方法を学ぶ」

参加者数21名 12月3日 15:00～16:40

【研修】

伊澤朋美 第9回指定文化財（美術工芸品）企画展示・セミナー
（2年度）東京国立博物館 7月6日～10日

宇賀田和雄 「美術館を活用した鑑賞教育充実のための指導者
研修」東京国立近代美術館、国立新美術館
8月3日～4日

松矢国憲 第5回ミュージアム・マネジメント研修 東京国立
博物館黒田記念館セミナー室 12月2日～4日

【審査】

徳永健一、宮下東子

越後丘陵公園ペイントコンペ審査 7月22日

【会議等】

松矢国憲 小林古径記念美術館運営協議会 8月7日

宇賀田和雄 第51回中越教育美術展第2次審査会
長岡上組小学校 11月27日

青木善治 「新潟県ジュニア展覧会」新潟県民会館
11月30日～12月1日

藤田裕彦 公開承認施設会議 文化庁 11月5日

藤田裕彦、澤田佳三
萬鐵五郎展会議・東京新聞 2016年3月11日

松矢国憲 小林古径記念美術館運営協議会 小林古径記念美術
館 2016年3月22日

【ラジオ】

松矢国憲 「ながおか人の輪・地域の輪 不同舎の画家：田中
本吉とその周辺」6月25日、26日 FMながおか

新潟県立万代島美術館

【調査】

企画展「生誕100年 亀倉雄策展」関連調査
今井有 新潟県立近代美術館 4月20日

企画展「世界遺産 京都・醍醐寺展」関連調査
長嶋圭哉 長岡市立中央図書館 4月24日
醍醐寺 7月21日

企画展「ピアズリーと日本」関連調査
桐原浩 東京都立中央図書館 4月3日、11月18日、2月16日、2月17日
明星大学（西村美香先生） 4月3日
長岡市個人 5月1日
弥生美術館 5月20日
新潟大学図書館 6月11日
国立国会図書館 7月29日、1月22日、2月16日

【図録執筆】

『日韓近代美術家のまなざし―「朝鮮」で描く』
高晟俊 （論文・コラム）「古都と名所―植民地朝鮮への美術旅行」、
「在朝鮮日本人漫画家」、
「越北画家」（翻訳）金炫淑（キム・ヒョンスク）
「『朝鮮』をめぐるすれ違いの視線」、
同「古代への憧憬と朝鮮風俗画の復興」、
柳枝延（リュ・ジヨン）
「柳宗悦―朝鮮の美を発見する」、
金炫淑「金剛山観光の大衆化と金剛山図の流行」、
同「近代余暇文化と昌慶苑（チャンギョングン）の花見」
作品解説、作家解説

『生誕100年 亀倉雄策展』
今井有 （論文）
「新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵の亀倉雄策関連資料について」
（章解説）第1章～第7章

『世界遺産 京都・醍醐寺展』
長嶋圭哉 章解説、作品解説

『ピアズリーと日本』
桐原浩 章解説、作品解説、年譜

【寄稿】

新聞原稿
今井有 「新潟でトーベ・ヤンソン展」（連載）『朝日新聞』
「第5章 ムーミン（1960年以降）」4月3日
「第6章 広がる創作の世界」4月10日
池田珠緒 「水墨画名品展（敦井美術館）」（展覧会へようこそ）
『新潟日報』11月26日
池田珠緒 「美術鑑賞に行こう 新春展2016」『新潟日報』
1月4日

桐原浩 「蜷川実花展」（展覧会へようこそ）『新潟日報』
1月29日
高晟俊 「ダヴィット・ガレジ（グルジア／ジョージア）、ベル
トッパニ修道院主聖堂の装飾プログラム」、
越宏一監修、
益田朋幸編、『ヨーロッパ中世美術論集4
聖堂の小宇宙』、竹林舎、2016年刊行予定

【講演会、講義等】

桐原浩 新潟大学人文学部「美術史概説A」
②「ルネサンス イタリア美術①」10月21日
③「ルネサンス イタリア美術②」10月28日
④「ルネサンス 北方美術」11月4日
⑤「バロック イタリア美術」11月11日
⑫「20世紀美術2 ドイツ表現主義」1月20日
今井有 新潟大学人文学部「美術史概説A」
⑦「バロック オランダ・フランドル美術」
11月18日
⑭「20世紀美術3 バウハウスを中心に」1月27日
高晟俊 にかがた県政出前講座「朝鮮で描いた新潟の美術家
たち」6月24日
長嶋圭哉 県立美術館友の会主催アートカフェ「醍醐寺展の楽
しみ方」（ジュンク堂書店）10月18日
長嶋圭哉 新潟国際情報大学 エクステンション講座「美術史
と音楽史の出会い」
①「ルネサンスからバロック、ロココ古典主義まで」
1月15日
②「ロマン主義から印象主義、世紀末芸術へ」
1月22日
③「20世紀芸術」1月29日

※小見秀男氏（元新潟県立万代島美術館業務課長）との共同担当

【会議等】

桐原浩 「第64回全国美術館会議総会」（郡山ビューホテル
アネックス）5月28日

【その他】

高晟俊 トーク聞き手「『ふたつの祖国、ひとつの愛～イ・ジュ
ンソプの妻～』監督酒井充子氏とのトーク」
6月28日（新潟・市民映画館シネ・ウインド）
座談会「イ・スギョンの芸術世界」（水と土の芸術
祭イベント）
7月11日（NEXT21 1階アトリウム）
今井有 番組出演「生誕100年記念特別番組 亀倉雄策
デザインの先に見えるもの」NST 7月18日
池田珠緒 作品解説会「新潟日報新春展」（新潟伊勢丹）
1月6日
桐原浩 新潟デザイン専門学校卒業修了制作展 審査員
（NEXT21 6階 新潟市民プラザ）2月13日

美術品の収集

平成27年度収集作品一覧

分野	各領域点数	合計点数
新潟の美術	日本画8 資料1 油彩画他2 彫刻2 工芸2 素描2 水彩1 分類替516	534
日本の美術		0
世界の美術		0
総合計	日本画8 資料1 油彩画他2 彫刻2 工芸2 素描2 水彩1 分類替516	534

新潟の美術

分野	作家名(生歿年)	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
日本画	長谷川嵐渓 はせがわらんけい 1814-1865	仙山楼閣図	江戸時代後期	139.0×50.4	絹本彩色 軸装	寄贈
		離合山水図	江戸時代後期	各106.2×43.8	絹本墨画 軸装	寄贈
		墨蘭図	江戸時代後期	44.7×40.3	絹本墨画 軸装	寄贈
		墨竹図	江戸時代後期	43.2×59.0	紙本墨画 軸装	寄贈
	長谷川嵐渓 他	墨蘭図、牡丹図、七言詩	1857年	123.4×57.0	紙本墨画 軸装	寄贈
	瀧和亭 たしかてい 1830-1901	四季花鳥画冊	1864年	22.5×30.3	絹本彩色 折本装	寄贈
	長谷川嵐渓 はせがわらんけい 1814-1865	四季山水画冊	1864年	22.5×30.3	絹本墨画／絹本彩色 折本装	寄贈
瀧和亭 たしかてい 1830-1901	長谷川嵐渓像 大槻磐溪題	1863年	書57.0×42.2／ 画57.0×42.2	絹本彩色／墨書 軸装	寄贈	
資料	長谷川嵐渓 はせがわらんけい 1814-1865	長濱久六宛書簡	1859年	16.2×33.1	紙本墨書 軸装	寄贈
油彩画他	矢部友衛 やべともえ 1892-1981	婦人像	1938年頃	90.8×65.5	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
	木下晋 きのしたすすむ 1947-	自画像	1977年	33.4×24.4	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
彫刻	野上公平 のがみこうへい 1934-2015	燦燦 No. 9	1996年	高さ93.0×横幅 63.5×奥行18.0	黒御影石	寄贈
		雲の行方 No. 8	1998年	高さ62.0×横幅 70.0×奥行28.0	ニューインベリアルレッド (赤御影石)	寄贈
工芸	原益夫 はらますお 1934-	潮	1965年	34.0×69.0×13.0	鍍金、銅	寄贈
		エンドレス	2002年	40.0×26.0×13.0	鍍金、ブロンズ	寄贈
素描	佐藤哲三 さとうてつぞう 1910-1954	農婦	1937年	45.0×33.0	紙、鉛筆 額装	寄贈
		自転車屋の職人の肖像	1940年	60.7×45.5	紙、鉛筆 額装	寄贈
水彩	佐藤哲三 さとうてつぞう 1910-1954	小鳥	制作年不明	21.0×14.0	紙、グワッシュ 額装	寄贈

分類替え作品(参考資料から作品へ)

分野	作家名(生歿年)	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法・形状	備考
デザイン	亀倉雄策 かめくらゆうさく 1915-1997	銀河 他	1946年他		ポスター、カレンダー等	516点

新収蔵品

新潟の美術



日本画
長谷川嵐溪《離合山水図》



日本画
長谷川嵐溪《仙山楼閣図》



日本画
長谷川嵐溪《嵐溪呉石継之助》



日本画
長谷川嵐溪《墨竹図》



日本画
長谷川嵐溪《墨蘭図》



日本画
瀧和亭《四季花鳥画冊》12点中6点



日本画
長谷川嵐溪《四季山水画冊》12点中6点



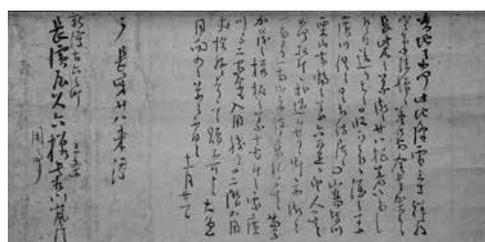
日本画
瀧和亭《嵐溪像》



油彩画他
矢部友衛《婦人像》



油彩画他
木下晋《自画像》



資料
長谷川嵐溪《長濱久六宛書簡》



素描
佐藤哲三《自転車屋の職人の肖像》



素描
佐藤哲三《農婦》



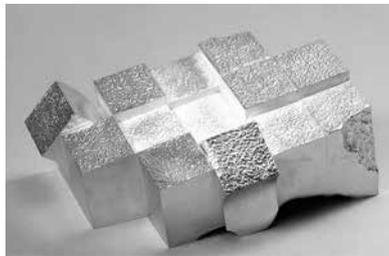
水彩
佐藤哲三《小鳥》



彫刻
野上公平《雲の行方 No.8》



工芸
原益夫《潮》



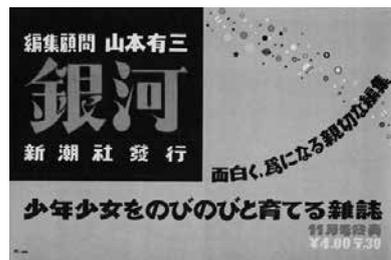
工芸
原益夫《エンドレス》



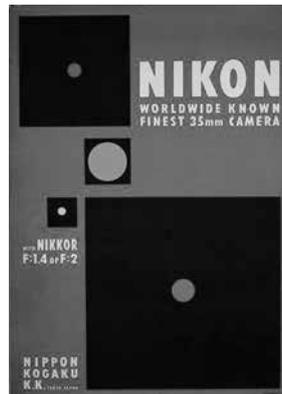
彫刻
野上公平《燦燦 No.9》

分類替え作品

(資料から作品へ)



デザイン
亀倉雄策《銀河》



デザイン
亀倉雄策《ニコンカメラ》

美術品の修復

平成27年度 修復作品一覧

分野	作家名	作品名	制作年	修復内容	修復者	修復期間
書	中村木子	崔顥詩黃鶴樓	1946年	軸装新調（対幅）	神尾萬正堂（新潟県）	平成27年6月4日～8月31日
書	中村木子	老子 第一章	1946年	額装新調	神尾萬正堂（新潟県）	平成27年6月4日～8月31日
油彩画他	海老原喜之助	燃える	1957年	画面修復、額装改善（カンヴァスの張りの調整、金具による固定、裏面蓋装備等）	有限会社修復研究所21（東京都）	平成27年10月13日～10月16日（現地修復）

美術品の燻蒸

平成25、26年度の収蔵品等を燻蒸し、収蔵庫に収めた。

平成27年度 燻蒸作品一覧

分野	作家名	作品名
日本画	尾竹竹坡	山岳図
日本画	尾竹竹坡	山岳図
日本画	尾竹竹坡	阿寒湖
日本画	安宅安五郎	麦圃
日本画	長谷川嵐溪	仙山楼閣図
日本画	長谷川嵐溪	離合山水図
日本画	長谷川嵐溪	墨蘭図
日本画	長谷川嵐溪	墨竹図
日本画	長谷川嵐溪	四季山水画冊
日本画	長谷川嵐溪・河井継之助・呉石	水墨詩画
日本画	瀧和亭	四季花鳥画冊
日本画	瀧和亭	長谷川嵐溪像
油画その他	海老原喜之助	燃える
油画その他	里見勝三	赤と緑の静物
油画その他	矢部友衛	婦人像
彫刻	北村四海	女性立像
彫刻	渡邊利尭	門
彫刻	渡邊利尭	陽
彫刻	渡邊利尭	鏡の前で毛繕いをする猫
工芸	五代伊藤赤水	佐渡島
工芸	五代伊藤赤水	無名異練上花文角壺
書	中村木子	崔顥詩黃鶴樓
書	中村木子	老子 第一章
資料	長谷川嵐溪	羽賀浜久六宛書簡
参考資料	尾竹竹坡	豪華下絵4点

燻蒸者	株式会社サニーサタナー（新潟県）
実施期間	平成27年11月20日～27日
使用薬剤	エキヒュームS
燻蒸方法	包み込み燻蒸処理

美術品の貸出

平成27年度 作品貸与一覧 (近代美術館所管作品)

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
生誕110年 海老原喜之助展	鹿児島市立美術館	平成26年10月2日～11月9日	海老原喜之助	市場
	下関市立美術館	平成26年11月15日～12月28日		
	横須賀美術館	平成27年2月7日～4月5日		
International Pop	ウォーカーアートセンター	平成27年4月11日～9月6日	岡本信治郎	10人のインディアン ※寄託作品
	ダラス美術館	平成27年10月11日～平成28年1月17日		
	フィラデルフィア美術館	平成28年2月18日～5月15日		
北斎とリヴィエール展	四日市市立博物館	平成27年4月18日～5月31日	アンリ・リヴィエール	エッフェル塔36景(表紙、1.扉絵～36.塔の中の塗装工)
亀倉雄策デザイン飛行	クリエイションギャラリーG8	平成27年4月6日～5月29日	亀倉雄策	書簡等27点、「クリエイション」関連資料38点
加山又造展	浜松市秋野不矩美術館	平成27年4月25日～6月7日	加山又造	馬 鳥 烈風
平澤熊一展	栃木県立美術館	平成27年4月18日～6月21日	平澤熊一	長岡 宮内疎開中 摂田屋風景 静物 草むら
三輪晁勢	京都府立堂本印象美術館	平成27年4月22日～6月14日	三輪晁勢	海女 アダチオ 黄色い椅子 游 菖蒲
平家物語を描く	井原市立田中美術館	平成27年4月27日～5月31日	岩田正巳	浜名をわたる源九郎義経
横山操 心にしみる日本の風景	弥彦の丘美術館	平成27年6月6日～7月20日	横山操	港 親不知夜雨 暉 秋 伊豆 林 『中央公論』表紙絵 1967-1「暁富士」 『中央公論』表紙絵 1967-2「雪国」 『中央公論』表紙絵 1967-3「桜島」 『中央公論』表紙絵 1967-4「水郷」 『中央公論』表紙絵 1967-5「鯉のぼりのある風景」 『中央公論』表紙絵 1967-6「奥入瀬」 『中央公論』表紙絵 1967-7「夏の海」 『中央公論』表紙絵 1967-9「月」 『中央公論』表紙絵 1967-10「林の道」 『中央公論』表紙絵 1967-11「夕焼け」 『中央公論』表紙絵 1967-12「冬山」
伝説の洋画家たち 二科100年展	東京都美術館 大阪市立美術館 石橋美術館	平成27年7月18日～9月6日 平成27年9月12日～11月1日 平成27年11月7日～12月27日	矢部友衛	習作
画家たちと戦争	名古屋市美術館	平成27年7月18日～9月23日	藤田嗣治	私の夢
戦後日本美術の出発	群馬県立近代美術館	平成27年9月19日～11月3日	阿部展也	太郎 作品
画家の詩、詩人の絵 絵は詩のごとく、 詩は絵のごとく	平塚市美術館	平成27年9月19日～11月8日	田畑あきら子	作品No.3 作品No.5 作品No.7 作品No.8 作品No.10 作品No.22 作品No.23 作品No.25 作品No.26
	碧南市藤井達吉現代美術館	平成27年11月17日～12月20日		
	姫路市立美術館	平成28年2月13日～3月27日		

画家の詩、詩人の絵 絵は詩のごとく、詩は絵のごとく	足利市立美術館	平成28年4月9日～6月12日	田畑あきら子	作品No.28
	北海道立函館美術館	平成28年6月18日～8月7日		作品No.29
				作品No.30
				作品No.31
				作品No.32
作品No.41				
美を求める心 東山魁夷を読む	香川県立東山魁夷せとうち美術館	平成27年9月19日～11月3日	東山魁夷	森の静寂
日韓近代美術家のまなざし「朝鮮」で描く	神奈川県立近代美術館(葉山)	平成27年4月4日～5月6日	土田麦僊	朝鮮風景写生
	新潟県立万代島美術館	平成27年5月16日～6月28日	土肥鹿四郎	戸張幸男宛感謝状
	岐阜県美術館	平成27年7月9日～8月23日		
一宮の文人野村一志と土田麦僊をめぐる画家たち	一宮市三岸節子記念美術館	平成27年10月3日～11月23日	土田麦僊	芥子 芥子素描 芥子素描
燕三条・デザインのDNA「亀倉雄策と小杉二郎」展	燕三条地場産業振興センター	平成27年9月25日～10月12日	亀倉雄策	原子エネルギーを平和産業に(再プリント)
				ニコンカメラ(再プリント)
				ニコンSP(再プリント)
				東京オリンピック 公式ポスター第1号(再プリント)
				東京オリンピック 公式ポスター第2号(再プリント)
				東京オリンピック 公式ポスター第3号(再プリント)
				UCLA日本古典芸能団招聘記念(再プリント)
				ヒロシマアビールズ1983(再プリント)
				世界デザイン博覧会(再プリント)
The Language of Light(コレクションシリーズNo.3)(再プリント)				
旅と芸術—発見・驚異・夢想	埼玉県立近代美術館	平成27年11月14日～平成28年1月31日	ギュスターヴ・クールベ	エトルタ海岸、夕日
			エミール・ベルナール	青い肩かけのブルターニュ婦人
				サン・ブリアクの収穫 レゼビアン—サン・ブリアクの小湾 アヴェン川の大きな赤い帆
ピアズリーと日本	宇都宮美術館	平成27年12月6日～平成28年1月31日	オーブリー・ピアズリー他	『イエロー・ブック』第1巻
	滋賀県立近代美術館	平成28年2月6日～3月27日		『イエロー・ブック』第2巻
	新潟県立万代島美術館	平成28年4月29日～6月26日		『イエロー・ブック』第3巻
	石川県立美術館	平成28年7月23日～8月28日		『イエロー・ブック』第4巻

平成27年度 作品貸与一覧 (万代島美術館所管作品)

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
北前船—地域と文化をつなぐ海のみち—	新潟県立歴史博物館	平成27年7月25日～9月6日	行田魁庵ほか	新潟年中行事絵巻
	兵庫県立歴史博物館	平成27年9月19日～11月3日		
浮世絵から写真へ	東京都江戸東京博物館	平成27年10月10日～12月6日	鈴木真一	横山松三郎
			江崎礼二	下岡蓮杖
			金井弥一	母子着色写真 籠手田知事令嬢
米谷清和展～渋谷、新宿、三鷹	三鷹市美術ギャラリー	平成28年1月16日～3月21日	米谷清和	街・朝
				街・午後
				街・夕
				街・夜

管理・運営



新潟県立近代美術館

コレクション展観覧者数（コレクション展のみの観覧者）

期間 (企画展名)	第5期		第1期			第2期		第3期			第4期		第5期		合計 (年間303日)
	H27 4/1~4/12 (11日間)		H27 4/16~6/21 (59日間)			H27 6/25~8/30 (60日間)		H27 9/3~11/8 (59日間)			H27 11/12~H28 1/17 (52日間)		H28 1/21~3/31 (62日間)		
個	4/1~4/5 5日間 (コレクション・ ストーリーズ -11年の物語)	4/7~4/12 6日間 (コレクション 展のみ)	4/16~4/17 2日間 (コレクショ ン展のみ)	4/18~6/7 45日間 (印象派へ の旅)	6/9~6/21 12日間 (コレクショ ン展のみ)	6/25~7/3 8日間 (コレクショ ン展のみ)	7/4~8/30 52日間 (写真家・ 濱谷浩)	9/3~9/11 8日間 (コレクショ ン展のみ)	9/12~11/3 46日間 (会田誠展)	11/4~11/8 5日間 (コレクショ ン展のみ)	11/12~11/13 2日間 (コレクショ ン展のみ)	11/14~1/7 50日間 (亀倉雄策と『ク リエイション』 展のみ)	1/21~3/4 38日間 (コレクショ ン展のみ)	3/5~3/31 24日間 (ジブリの 大博覧会)	
人	一般 4	177	11	24	182	87	414	85	158	65	14	109	328	62	1,720
	大学・高校生	0	0	4	1	3	39	5	8	0	0	5	34	2	101
小計	4	177	11	28	183	90	453	90	166	65	14	114	362	64	1,821
		181		222		543		321		128		426			
団	一般	0	0	0	20	0	53	0	0	0	0	0	0	0	73
	大学・高校生	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	28
小計	0	0	0	0	20	0	81	0	0	0	0	0	0	0	101
		0		20		81		0		0		0		0	
無料	1	40	5	36	112	26	584	175	27	125	4	72	167	11	1,385
免除	0	19	3	0	41	28	7	17	3	10	10	1	96	0	235
企画展チケット	202	0	0	9,386	0	0	3,341	0	6,621	0	0	1,570	0	5,294	26,414
合計	207	236	19	9,450	356	144	4,466	282	6,817	200	28	1,757	625	5,369	29,956
		443		9,825		4,610		7,299		1,785		5,994		29,956	

*無料には友の会会員を含む。

企画展観覧者数

企画展名	コレクション・ストーリーズ -11年の物語- 4/1~4/5 (5日間)	印象派への旅 4/18~6/7 (45日間)	写真家・濱谷浩 7/4~8/30 (52日間)	会田誠展 9/12~11/3 (46日間)	亀倉雄策と『クリ エイション』 11/14~1/17 (50日間)	ジブリの大博覧会 3/5~3/31 (24日間)	合計	
個	119	7,560	3,214	6,484	1,109	24,462	42,948	
人	大学・高校生	3	207	85	450	65	3,479	4,289
小計	122	7,767	3,299	6,934	1,174	27,941	47,237	
団	一般	4	246	33	161	46	20	510
	大学・高校生	0	30	10	126	95	61	322
小計	4	276	43	287	141	81	832	
前売		2,335	450	1,355	211	11,393	15,744	
無料	124	2,547	1,487	2,836	1,364	20,484	28,842	
免除	9	962	425	1,020	172	1,165	3,753	
合計	259	13,887	5,704	12,432	3,062	61,064	96,408	

企画展名	コレクション・ストーリーズ -11年の物語-	印象派への旅	写真家・濱谷浩	会田誠展	亀倉雄策と『クリ エイション』	ジブリの 大博覧会	思い出のマーニー -種田実平展-	合計
図録販売数(冊)	2	948	350	514	62	1,359	289	3,524
音声ガイド使用数(台)		1,452					746	2,198

共催展

展覧会名	会期	日数	観覧者数
県展「長岡展」	6/17~6/21	5	3,065
第45回世界児童画展	8/1~8/8	8	1,199
第26回MOA美術館長岡児童作品展	10/20~10/28	8	752
友の会文化祭	11/3~11/8	6	148
第19回長岡市中学校美術部作品展	11/14~11/15	2	809
磯野宏夫展－生命の森－	12/22~1/17	18	1,855
第46回県ジュニア美術展「長岡展」	1/23~2/3	10	2,615
こどもものづくり大学校	3/19~3/27	8	1,537
計		65	11,980

巡回ミュージアム

開催地	会場名	会期	日数	観覧者数
湯沢町	湯沢町公民館ホール	9/19~9/28	10	557
計			10	557

総観覧者数

	常設展	企画展	共催展	巡回ミュージアム	合計
観覧者数	29,956	96,408	11,980	557	138,901

新潟県立万代島美術館

所蔵品展・企画展 観覧者数

展覧会名	トーベ・ヤンソン展	日韓近代美術家のまなざし	亀倉雄策展	京都・醍醐寺展	蛸川実花展	所蔵品展 現代のアートとデザイン	合計	
期間	4/1~5/6 (34日間)	5/16~6/28 (41日間)	7/11~8/30 (47日間)	9/19~11/8 (50日間)	11/28~2/28 (81日間)	3/12~3/31 (18日間)		
個人	一般	12,301	841	3,125	13,688	19,311	645	49,911
	大高生	1,069	26	313	317	1,477	122	3,324
	小計	13,370	867	3,438	14,005	20,788	767	53,235
団体	一般	51	59	102	395	117		724
	大高生	49	0	26	4	179		258
	小計	100	59	128	399	296	0	982
前売(一般のみ)	3,928	79	355	6,427	3,767	0	14,556	
招待	1,585	515	992	2,939	2,324	105	8,460	
無料	3,573	97	655	714	2,054	108	7,201	
免除	693	189	421	1,618	818	55	3,794	
合計	23,249	1,806	5,989	26,102	30,047	1,035	88,228	

* 所蔵品展の無料には友の会会員を含む

** 小中学生は無料を含む

*** 招待：封筒、ヒラ下、パス、その他、招待券、開場式

講堂・ギャラリーの貸出

県民の文化活動の促進に資するため、新潟県立近代美術館講堂及びギャラリー使用要項に則り、講堂は1日につき27,100円、ギャラリーは1日につき17,700円で貸し出した。

講堂使用状況

使用日	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
4/5	1日間	おさらい会	ピアノ発表会	120
4/11	1日間	翼の会発表会	ピアノ発表会	100
4/12	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	100
4/16	半日間	カワイ音楽教育研究会	ピアノ講座	40
4/16	半日間	中越吹奏楽連盟総会	会議及び研修会	65
4/25	1日間	スプリングコンサートのリハーサル	ピアノ教室の演奏会練習	30
4/29	1日間	スプリングコンサート	ピアノ教室の演奏会	200
5/2	1日間	2015Piano Concert	ピアノ教室発表会	30
5/22	半日間	カワイ音楽教育研究会	保護者とのコミュニケーションについて	45
6/13	半日間	朗読発表会	発表会	11
6/14	1日間	菅井音楽教室発表会	ピアノ・歌発表会	70
6/17	半日間	赤血球の形状で健康状態がすべてわかる	講演会	40
6/20	1日間	朗読発表会	発表会	105
6/21	半日間	大人のおさらい会	ピアノ発表会	30
6/21	半日間	坂井睦ピアノ教室発表会	ピアノの発表会	200
7/12	半日間	エリーゼの会 ピアノ発表会	ピアノ演奏の発表会	80
7/19	半日間	内山音楽教室発表会	演奏会	30
8/1	1日間	ステラ・ムジカ ピアノ発表会2015	ピアノ演奏会	108
8/9	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	70
8/26	半日間	カワイ音楽教育研究会	ピアノ講座	45
9/6	1日間	Music of wing	音楽教室発表会	50
9/17	半日間	カワイ音楽教育研究会	ピアノ講座	40
9/27	1日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	45
10/4	半日間	講演会	教育に関する講演会	129
10/11	1日間	イオンの会 ピアノ発表会	発表会	195
10/12	半日間	ドルチェの会 発表会	ピアノ発表会	100
10/24	半日間	見直そう毎日の食生活	講演会	190
11/1	1日間	新潟県競書大会表彰式	特別賞受賞者の表彰	200
11/3	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	200
11/4	1日間	新潟県アンサンブルコンテスト抽選会	出演順抽選	55
11/6	半日間	水稲晩生品種「新之助」生産体制説明会	生産体制の説明会	84
11/7	1日間	越後一席の会	落語会	194
11/8	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	60
11/15	半日間	音楽教室発表会	ピアノ・エレクトーン発表会	87
11/25	1日間	動物取扱責任者研修会	動物取扱者への勉強会	180
11/27	半日間	音楽研究会	音楽研究会	40
11/28	1日間	[RITA] & オペラ・ガラ・コンサート	オペラコンサート	142
11/29	半日間	吉澤ピアノ教室発表会	ピアノ演奏	120
12/13	1日間	ピアノ発表会	演奏会	80
12/19	半日間	ラルゴピアノ発表会	ピアノ発表会	100
12/20	1日間	2015清水ピアノ教室クリスマスコンサート	ピアノ教室発表会	30
12/23	半日間	ピアノ発表会	ピアノ教室おさらい会	57
2/9	半日間	信濃川水系農業用水情報連絡会	講演会	84
2/28	1日間	平成27年度新潟県書き初め大会	展覧会及び表彰	200
3/8	半日間	中山間地域活性化研修会	講演会	115
3/12	半日間	越後一席の会	落語会	190
3/13	半日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	50
3/19	1日間	ファミリーコンサート	ピアノ発表会	120
3/20	1日間	ティンカーベルピアノ発表会	ピアノ発表会	200
3/21	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	100
3/26	1日間	第38回長岡アトニーピアノ発表会	ピアノ発表会	50

以上51件 (延べ日数…39日) 合計人数 3,740

ギャラリー使用状況

使用日	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
8/9~8/23	14日間	長岡造形大学視覚デザイン学科08・09「平和」展	「平和」をテーマにしたポスター展	452
8/26~8/30	5日間	キルト浪漫Ⅱ 菊池登美子作品展	キルト作品の展示	1,417
10/9~10/17	8日間	第6回カリグラフィー作品展	カリグラフィーの展示	521
10/30~11/1	3日間	新潟県競書大会	優秀作品の展示	3,267
2/26~2/28	3日間	平成27年度新潟県書き初め大会	展覧会及び表彰	6,049
3/5~3/13	8日間	第五回 白雪ノ会展	グループ展	696

以上6件 (延べ日数…41日) 合計人数 12,402

講座室使用状況

使用日	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
4/12	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	25
4/16	半日間	中越吹奏楽連盟総会	会議及び研修会	20
4/29	1日間	スプリングコンサート	ピアノ教室の演奏会	40
5/8	半日間	会議	会議	11
6/17~6/18	1.5日間	赤血球の形状で健康状態がすべてわかる	講演会	10
7/7	1日間	会議	会議	12
8/18	半日間	セミナー	発酵食品について	9
9/9	1日間	会議	会議	11
9/29	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	10
10/4	半日間	講演会	教育に関する講演会	25
10/6	1日間	会議	会議	12
10/11	1日間	イオンの会 ピアノ発表会	発表会	6
10/16	半日間	会議	会議	6
10/20	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	10
10/24	半日間	見直そう毎日の食生活	講演会	10
11/1	半日間	セミナー	発酵食品について	10
11/3	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	20
11/6	1日間	会議	会議	14
11/7	1日間	越後一席の会	落語会	15
11/8	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	5
11/13	半日間	編集委員会	機関誌編集会議	9
11/17	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	14
11/25	1日間	動物取扱責任者研修会	動物取扱者への勉強会	4
11/28	1日間	[RITA] & オペラ・ガラ・コンサート	オペラコンサート	29
12/1	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	12
12/8	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	9
12/19	半日間	ラルゴピアノ発表会	ピアノ発表会	5
12/20	1日間	2015清水ピアノ教室クリスマスコンサート	ピアノ教室発表会	3
1/15	半日間	会議	会議	7
1/26	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	9
1/30	半日間	相談会	面談	3
2/2	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	10
2/6	1日間	新潟県「あなたの婚活」応援プロジェクト 婚活カフェ	無料相談	6
2/9	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	10
2/16	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	9
3/1	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	8
3/8	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	10
3/12	半日間	越後一席の会	落語会	10
3/15	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	10
3/19	1日間	ファミリーコンサート	ピアノ発表会	20
3/20	1日間	相談会	面談	4
3/29	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジメント	6

以上42件 (延べ日数…30日) 合計人数 488

新潟県立近代美術館

展覧会名	会期	入場者数	回答者	回収率
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	2月3日～4月5日	2,084	71	3.41%
印象派への旅	4月18日～6月7日	13,887	229	1.65%
写真家・濱谷浩	7月4日～8月30日	5,704	123	2.16%
会田誠	9月12日～11月3日	12,432	163	1.31%
亀倉雄策と『クリエイション』	11月14日～1月17日	3,062	36	1.18%
合計		37,169	622	1.67%

I 企画展覧会の感想

展覧会名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合計
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	47.9%	36.6%	1.4%	2.8%	11.3%	100.0%
印象派への旅	49.3%	41.9%	3.1%	1.3%	3.9%	100.0%
写真家・濱谷浩	65.9%	25.2%	1.6%	0.0%	7.3%	100.0%
会田誠	62.0%	27.6%	3.1%	1.2%	6.1%	100.0%
亀倉雄策と『クリエイション』	50.0%	44.4%	0.0%	0.0%	5.6%	100.0%
平均	55.0%	35.1%	1.8%	1.1%	6.8%	100.0%

II 企画展覧会のきっかけ

展覧会名	新聞記事	新聞広告	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知人	たまたま来て	その他	無回答	合計
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	8.8%	2.5%	3.8%	0.0%	15.0%	1.3%	11.3%	5.0%	11.3%	15.0%	13.8%	12.5%	100.0%
印象派への旅	17.0%	16.1%	16.1%	1.3%	14.4%	3.0%	6.9%	3.9%	8.2%	4.9%	5.6%	2.6%	100.0%
写真家・濱谷浩	18.9%	9.5%	6.1%	1.4%	13.5%	2.7%	6.1%	0.7%	10.8%	12.8%	10.8%	6.8%	100.0%
会田誠	10.4%	7.1%	18.0%	0.9%	9.5%	3.3%	14.7%	0.5%	9.5%	3.8%	16.1%	6.2%	100.0%
亀倉雄策と『クリエイション』	2.4%	4.8%	9.5%	2.4%	14.3%	0.0%	11.9%	2.4%	26.2%	7.1%	11.9%	7.1%	100.0%
平均	11.5%	8.0%	10.7%	1.2%	13.3%	2.1%	10.2%	2.5%	13.2%	8.7%	11.6%	7.0%	100.0%

III コレクション展の感想

展覧会名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合計
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	28.2%	29.6%	2.8%	2.8%	3.7%	100.0%
印象派への旅	26.2%	33.2%	3.1%	0.4%	37.1%	100.0%
写真家・濱谷浩	31.7%	19.5%	0.8%	1.6%	46.3%	100.0%
会田誠	20.9%	33.7%	1.2%	1.2%	42.9%	100.0%
亀倉雄策と『クリエイション』	33.3%	22.2%	5.6%	2.8%	36.1%	100.0%
平均	28.1%	27.6%	2.7%	1.8%	33.2%	93.4%

IV 普段の情報源

展覧会名	新聞	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知人	たまたま来て	その他	無回答	合計
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	18.4%	23.4%	6.4%	13.5%	1.4%	19.9%	2.1%	3.5%	2.8%	4.3%	4.3%	100.0%
印象派への旅	27.8%	28.5%	5.9%	9.1%	3.0%	15.4%	2.1%	3.0%	0.8%	2.1%	2.3%	100.0%
写真家・濱谷浩	27.0%	22.4%	8.5%	10.0%	3.1%	18.5%	1.2%	2.3%	1.2%	1.2%	4.6%	100.0%
会田誠	18.4%	22.7%	7.6%	6.3%	6.9%	23.3%	1.2%	4.5%	0.9%	3.0%	5.1%	100.0%
亀倉雄策と『クリエイション』	18.1%	25.0%	6.9%	6.9%	4.2%	15.3%	1.4%	6.9%	1.4%	8.3%	5.6%	100.0%
平均	21.9%	24.4%	7.1%	9.2%	3.7%	18.5%	1.6%	4.0%	1.4%	3.8%	4.4%	100.0%

V 当館への来館回数

展覧会名	初めて	2回以上	5回以上	10回以上	無回答	合計
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	14.1%	15.5%	16.9%	45.1%	8.5%	100.0%
印象派への旅	12.7%	15.7%	26.6%	41.5%	3.5%	100.0%
写真家・濱谷浩	26.8%	16.3%	18.7%	33.3%	4.9%	100.0%
会田誠	30.7%	11.0%	17.2%	35.0%	6.1%	100.0%
亀倉雄策と『クリエイション』	11.1%	22.2%	33.3%	25.0%	8.3%	100.0%
平均	19.1%	16.1%	22.5%	36.0%	6.3%	100.0%

VI 展覧会ジャンルの希望

展覧会名	日本画	洋画 (日本)	西洋 絵画	彫刻	版画	工芸	書	写真	デザイン	現代美術	その他	無回答	合計
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	15.3%	12.4%	13.6%	4.5%	7.3%	8.5%	4.0%	9.0%	11.3%	9.6%	1.7%	2.8%	100.0%
印象派への旅	19.1%	13.4%	21.8%	6.7%	4.5%	5.8%	3.1%	6.7%	6.4%	7.4%	2.5%	2.5%	100.0%
写真家・濱谷浩	12.3%	9.4%	10.4%	5.8%	6.2%	7.8%	2.9%	16.6%	11.0%	8.4%	4.9%	4.2%	100.0%
会田誠	13.4%	9.3%	10.8%	6.8%	6.1%	6.8%	2.2%	10.0%	12.0%	14.7%	3.2%	4.6%	100.0%
亀倉雄策と『クリエイション』	18.2%	10.2%	8.0%	5.7%	5.7%	6.8%	1.1%	11.4%	12.5%	6.8%	8.0%	5.7%	100.0%
平均	15.7%	10.9%	12.9%	5.9%	6.0%	7.1%	2.7%	10.7%	10.6%	9.4%	4.1%	4.0%	100.0%

(性別)

展覧会名	男性	女性	無回答	合計
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	38.0%	49.3%	12.7%	100.0%
印象派への旅	33.6%	54.6%	11.8%	100.0%
写真家・濱谷浩	41.5%	47.2%	11.4%	100.0%
会田誠	33.7%	55.8%	10.4%	100.0%
亀倉雄策と『クリエイション』	41.7%	47.2%	11.1%	100.0%
平均	37.7%	50.8%	11.5%	100.0%

(お住まい)

展覧会名	長岡市	新潟市	県内	県外	無回答	合計
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	26.8%	22.5%	25.4%	12.7%	12.7%	100.0%
印象派への旅	24.9%	26.6%	31.4%	6.1%	10.9%	100.0%
写真家・濱谷浩	30.1%	15.4%	21.1%	20.3%	13.0%	100.0%
会田誠	23.3%	25.2%	23.3%	19.0%	9.2%	100.0%
亀倉雄策と『クリエイション』	38.9%	22.2%	19.4%	11.1%	8.3%	100.0%
平均	28.8%	22.4%	24.1%	15.8%	10.8%	100.0%

(年代)

展覧会名	小・中 学生	高校・ 大学生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才 以上	無回答	合計
コレクション・ストーリーズ-11年の物語	1.4%	8.5%	0.0%	11.3%	11.3%	9.9%	15.5%	16.9%	12.7%	12.7%	100.0%
印象派への旅	7.4%	3.9%	0.0%	4.8%	8.7%	7.9%	17.9%	20.5%	18.3%	10.5%	100.0%
写真家・濱谷浩	14.6%	1.6%	1.6%	2.4%	13.8%	10.6%	9.8%	16.3%	19.5%	9.8%	100.0%
会田誠	11.0%	4.9%	0.0%	12.3%	12.3%	17.2%	19.0%	8.6%	6.1%	8.6%	100.0%
亀倉雄策と『クリエイション』	16.7%	2.8%	0.0%	5.6%	0.0%	5.6%	25.0%	11.1%	16.7%	16.7%	100.0%
平均	10.2%	4.3%	0.3%	8.5%	9.2%	10.2%	17.4%	14.7%	14.7%	11.7%	100.0%

新潟県立万代島美術館

展覧会名	会期	入館者数	アンケート回収数	アンケート回収率
トーベ・ヤンソン展	平成27年(2月28日)4月1日~5月6日	23,249	316	1.4%
日韓近代美術家のまなざし	平成27年5月16日~6月28日	1,806	48	2.7%
亀倉雄策展	平成27年7月11日~8月30日	5,989	223	3.7%
京都・醍醐寺展	平成27年9月19日~11月8日	26,102	202	0.8%
蜷川実花展	平成27年11月28日~平成28年2月28日	30,047	376	1.3%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	平成28年3月12日~3月31日(4月17日)	1,035	12	1.2%
合 計		88,228	1,177	1.3%

展覧会の感想

展覧会名	良かった	まあまあ良かった	やや不満	かなり不満	無回答	合 計
トーベ・ヤンソン展	81.7%	13.6%	1.3%	0.3%	3.2%	100.0%
日韓近代美術家のまなざし	56.3%	22.9%	4.2%	4.2%	12.5%	100.0%
亀倉雄策展	81.2%	13.9%	0.9%	0.0%	4.0%	100.0%
京都・醍醐寺展	64.0%	18.5%	3.0%	2.5%	12.0%	100.0%
蜷川実花展	70.5%	20.2%	1.9%	2.4%	5.1%	100.0%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	66.7%	25.0%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%
平 均	70.0%	19.0%	3.3%	1.6%	6.1%	100.0%

作品や作家についての解説

展覧会名	適度な量である	量が少ない	量が多い	その他	無回答	合 計
トーベ・ヤンソン展	68.5%	6.0%	8.5%	0.3%	16.7%	100.0%
日韓近代美術家のまなざし	54.2%	8.3%	8.3%	0.0%	29.2%	100.0%
亀倉雄策展	72.3%	10.3%	3.6%	0.0%	13.8%	100.0%
京都・醍醐寺展	46.0%	9.4%	4.0%	1.5%	39.1%	100.0%
蜷川実花展	47.5%	15.8%	3.1%	2.9%	30.6%	100.0%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	69.2%	23.1%	0.0%	7.7%	0.0%	100.0%
平 均	59.6%	12.2%	4.6%	2.1%	21.6%	100.0%

展覧会名	わかりやすい	難しい	簡単すぎる	無回答	合 計
トーベ・ヤンソン展	80.4%	7.9%	1.6%	10.1%	100.0%
日韓近代美術家のまなざし	45.8%	20.8%	8.3%	25.0%	100.0%
亀倉雄策展	87.5%	4.9%	3.1%	4.5%	100.0%
京都・醍醐寺展	52.5%	20.0%	2.5%	25.0%	100.0%
蜷川実花展	50.8%	13.0%	4.5%	31.6%	100.0%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	58.3%	25.0%	0.0%	16.7%	100.0%
平 均	59.0%	16.8%	3.7%	20.6%	100.0%

展覧会についてどのようにお知りになりましたか

展覧会名	ポスター	チラシ	新聞	テレビ	ラジオ	雑誌	知人	友の会 会員	県民 だより	HP	フリー ペーパー	インター ネット	その他	無回答	計
トーベ・ヤンソン展	15.5%	14.1%	11.5%	29.0%	1.4%	3.9%	8.4%	0.0%	0.8%	3.5%	1.8%	5.3%	3.7%	1.2%	100%
日韓近代美術家のまなざし	17.9%	12.5%	19.6%	5.4%	0.0%	1.8%	5.4%	3.6%	5.4%	8.9%	0.0%	0.0%	5.4%	14.3%	100%
亀倉雄策展	17.8%	10.4%	17.5%	10.8%	1.0%	1.7%	8.1%	0.3%	1.3%	8.4%	2.0%	10.1%	7.4%	3.0%	100%
京都・醍醐寺展	14.2%	14.5%	28.3%	14.2%	1.8%	1.8%	4.0%	1.2%	0.9%	4.6%	2.2%	3.1%	2.8%	6.5%	100%
蜷川実花展	15.5%	14.3%	9.4%	21.9%	1.6%	2.3%	10.7%	0.2%	1.4%	4.3%	3.0%	7.0%	5.0%	3.4%	100%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	14.3%	21.4%	0.0%	14.3%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	7.1%	28.6%	0.0%	0.0%	100%
平 均	15.9%	14.8%	14.4%	15.9%	1.0%	3.1%	6.1%	0.9%	1.6%	6.2%	2.7%	9.0%	4.0%	4.7%	100%

お客様ご自身について

(1) 性別

展覧会名	男性	女性	(不明)	計
トーベ・ヤンソン展	16.1%	79.1%	4.7%	100%
日韓近代美術家のまなざし	54.2%	35.4%	10.4%	100%
亀倉雄策展	42.4%	54.0%	3.6%	100%
京都・醍醐寺展	43.6%	48.5%	7.9%	100%
蛸川実花展	28.6%	65.8%	5.6%	100%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	25.0%	75.0%	0.0%	100%
平均	35%	60%	5%	100%

(2) 年代

展覧会名	中学生以下	高校生	左記以外の10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	(無回答)	計
トーベ・ヤンソン展	19.0%	2.8%	6.0%	17.4%	14.9%	14.9%	14.2%	6.0%	2.5%	2.2%	100.0%
日韓近代美術家のまなざし	10.4%	0.0%	0.0%	6.3%	8.3%	12.5%	12.5%	12.5%	20.8%	16.7%	100.0%
亀倉雄策展	11.1%	6.2%	4.0%	19.0%	15.5%	15.5%	15.9%	8.8%	1.3%	2.7%	100.0%
京都・醍醐寺展	10.9%	1.5%	1.5%	4.0%	9.9%	16.8%	10.4%	13.4%	23.3%	8.4%	100.0%
蛸川実花展	11.4%	1.9%	4.5%	29.2%	18.0%	13.3%	9.0%	6.6%	2.9%	3.2%	100.0%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	16.7%	16.7%	0.0%	41.7%	8.3%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%
平均	13.2%	4.8%	2.7%	19.6%	12.5%	12.2%	11.7%	9.3%	8.5%	5.5%	100.0%

(3) お住まい

展覧会名	新潟市内	新潟市以外の下越地区	佐渡地区	中越地区	上越地区	県外・海外	(無回答)	計
トーベ・ヤンソン展	48.9%	11.7%	1.9%	15.9%	4.1%	11.4%	6.0%	100.0%
日韓近代美術家のまなざし	33.3%	8.3%	4.2%	14.6%	2.1%	25.0%	12.5%	100.0%
亀倉雄策展	39.4%	7.7%	0.5%	18.6%	0.9%	24.9%	8.1%	100.0%
京都・醍醐寺展	41.8%	17.4%	1.0%	15.9%	4.0%	3.0%	16.9%	100.0%
蛸川実花展	43.7%	15.0%	2.7%	16.6%	2.4%	11.8%	7.8%	100.0%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	58.3%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
平均	44.2%	11.4%	1.7%	15.0%	2.3%	16.8%	8.6%	100.0%

(4) 当館へは主としてどんな交通手段でおいでになりますか。

展覧会名	自家用車	徒歩・自転車	バス	タクシー	電車	貸切バス	その他	(無回答)	計
トーベ・ヤンソン展	63.1%	10.1%	15.9%	1.2%	7.3%	0.0%	1.5%	0.9%	100.0%
日韓近代美術家のまなざし	24.5%	2.0%	32.7%	6.1%	16.3%	0.0%	8.2%	10.2%	100.0%
亀倉雄策展	46.8%	14.7%	22.5%	2.2%	10.0%	0.4%	0.9%	2.6%	100.0%
京都・醍醐寺展	53.7%	12.2%	12.7%	1.0%	10.2%	0.0%	0.5%	9.8%	100.0%
蛸川実花展	61.0%	7.3%	17.7%	2.3%	6.2%	0.0%	1.6%	3.9%	100.0%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	54.5%	18.2%	9.1%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
平均	50.6%	10.7%	18.4%	2.1%	11.4%	0.1%	2.1%	4.6%	100.0%

(5) 万代島美術館に来たのは何回目ですか

展覧会名	初めて	2～4回目	5回以上	回答なし	計
トーベ・ヤンソン展	28.8%	43.4%	26.3%	1.6%	100.0%
日韓近代美術家のまなざし	29.2%	10.4%	50.0%	10.4%	100.0%
亀倉雄策展	33.3%	25.3%	39.6%	1.8%	100.0%
京都・醍醐寺展	11.7%	33.0%	45.1%	10.2%	100.0%
蜷川実花展	32.2%	37.0%	26.9%	4.0%	100.0%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	41.7%	33.3%	25.0%	0.0%	100.0%
平均	29.5%	30.4%	35.5%	4.7%	100.0%

(6) 当館に限らず年に何回展覧会に来ますか

展覧会名	1回以下	2～4回目	5回以上	回答なし	計
トーベ・ヤンソン展	27.5%	54.7%	17.1%	0.6%	100.0%
日韓近代美術家のまなざし	12.5%	22.9%	54.2%	10.4%	100.0%
亀倉雄策展	20.4%	40.4%	36.0%	3.1%	100.0%
京都・醍醐寺展	13.4%	44.8%	31.8%	10.0%	100.0%
蜷川実花展	28.0%	51.7%	16.8%	3.5%	100.0%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	8.3%	50.0%	41.7%	0.0%	100.0%
平均	18.4%	44.1%	32.9%	4.6%	100.0%

(7) どんなジャンルの展覧会を望みますか

展覧会名	日本画	洋画	西洋洋画	彫刻	版画	工芸	書	写真	デザイン	現代美術	泉人作家	アジアの美術	絵本	アニメーションマンガ	その他	無回答	計
トーベ・ヤンソン展	9.0%	7.7%	10.2%	3.7%	3.3%	3.1%	2.5%	8.1%	8.4%	5.6%	1.6%	1.5%	17.0%	15.7%	0.7%	2.0%	100.0%
日韓近代美術家のまなざし	14.2%	11.1%	14.2%	6.3%	5.3%	5.8%	2.1%	7.4%	4.7%	6.3%	4.2%	5.8%	2.6%	5.8%	1.1%	3.2%	100.0%
亀倉雄策展	11.7%	7.4%	12.1%	3.1%	3.9%	4.7%	2.5%	10.9%	14.8%	8.9%	2.2%	2.1%	6.9%	7.3%	1.0%	0.6%	100.0%
京都・醍醐寺展	19.3%	8.7%	12.5%	8.0%	3.5%	7.3%	5.4%	7.3%	3.0%	3.8%	1.4%	3.3%	3.6%	5.0%	3.8%	4.2%	100.0%
蜷川実花展	7.6%	7.2%	9.3%	4.1%	2.2%	4.5%	2.9%	17.4%	11.1%	8.4%	1.6%	2.2%	7.8%	9.9%	1.6%	2.2%	100.0%
所蔵品展 現代のアートとデザイン	11.6%	7.0%	16.3%	7.0%	2.3%	9.3%	7.0%	9.3%	7.0%	7.0%	4.7%	2.3%	2.3%	4.7%	0.0%	2.3%	100.0%
平均	12.2%	8.2%	12.4%	5.4%	3.4%	5.8%	3.7%	10.1%	8.2%	6.7%	2.6%	2.9%	6.7%	8.1%	1.4%	2.4%	100.0%

組織及び業務

新潟県立美術館の業務【20年4月現在】

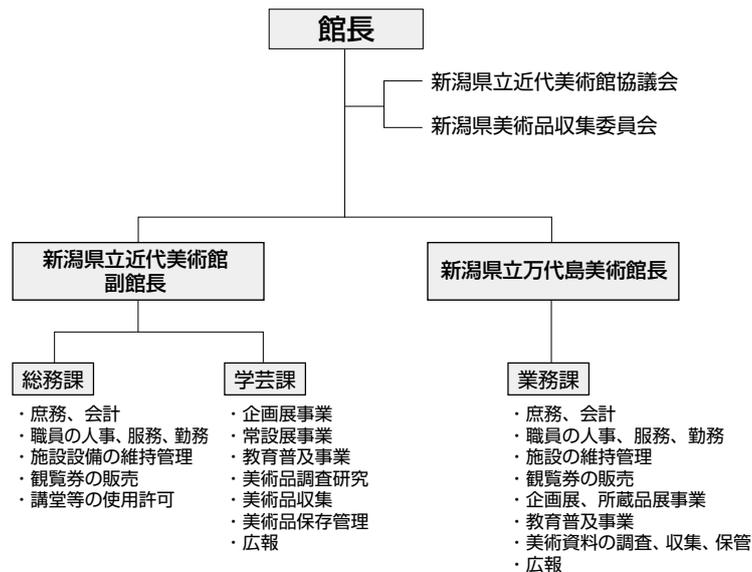
■新潟県立近代美術館条例（平成5年3月31日 新潟県条例第24号）（抜粋）

（設置）第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、新潟県立美術館（以下「美術館」という）を長岡市千秋3丁目に設置する。

2 前項に規定する美術館には、教育委員会の定めるところにより、分館として新潟県立万代島美術館（以下「万代島美術館」という。）を設置する。

（事業）第2条 美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術品、美術に関する資料等（以下「美術品等」という）の収集、保管及び展示
- (2) 美術品等の利用に関し必要な説明、助言、指導等
- (3) 美術品等の調査及び研究
- (4) 美術品等に関する講演会、講習会、映写会等の主催及びその開催の援助
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の目的を達成するために必要な事業



職員

新潟県立近代美術館

館長	徳永 健一
副館長	丸山 実
●総務課	課長 矢澤 一広
	主査 小林 史子
	主任 重高 優子
	非常勤職員 佐藤真希子
	非常勤職員 佐野 一美
●学芸課	学芸課長 藤田 裕彦
	専門学芸員 松矢 国憲
	学芸課長代理 青木 善治
	学芸課長代理 平石 昌子
	学芸課長代理 宮下 東子
	学芸課長代理 澤田 佳三
	副参事 宇賀田和雄
	主任学芸員 濱田真由美
	主任学芸員 伊澤 朋美
	臨時的任用職員 松本 美樹
	嘱託員 佐藤 和子
	嘱託員 佐藤 友紀
	嘱託員 風間佳代子
	嘱託員 村越万友美
	嘱託員 深井 尚子
	嘱託員 酒井 真李
	嘱託員 蟹沢 仁美（～H28.2.7）
	嘱託員 武 紗織
	嘱託員 中村 有斐

新潟県立万代島美術館

近代美術館万代島美術館長	伊藤 輝男
●業務課	業務課長 桐原 浩
	課長代理 板垣 和美
	課長代理 今井 有
	主査 中村 敦子
	主任学芸員 池田 珠緒
	主任学芸員 高 晟俊（兼務）
	主任学芸員 長嶋 圭哉
	美術学芸員 飯島沙耶子
	臨時的任用職員 阿部 春花（～H27.11.11）
	臨時的任用職員 松本 美樹（～H27.6.16）
	臨時的任用職員 五十嵐千春（H27.11.12～）
	嘱託員 五十嵐綾子（～H27.10.14）
	嘱託員 天木ひかり
	嘱託員 中嶋 美幸
	嘱託員 豊島 晶子
	嘱託員 齋藤 恵理
	嘱託員 長井恵美子
	嘱託員 佐藤美香子（H27.10.15～）

新潟県立近代美術館

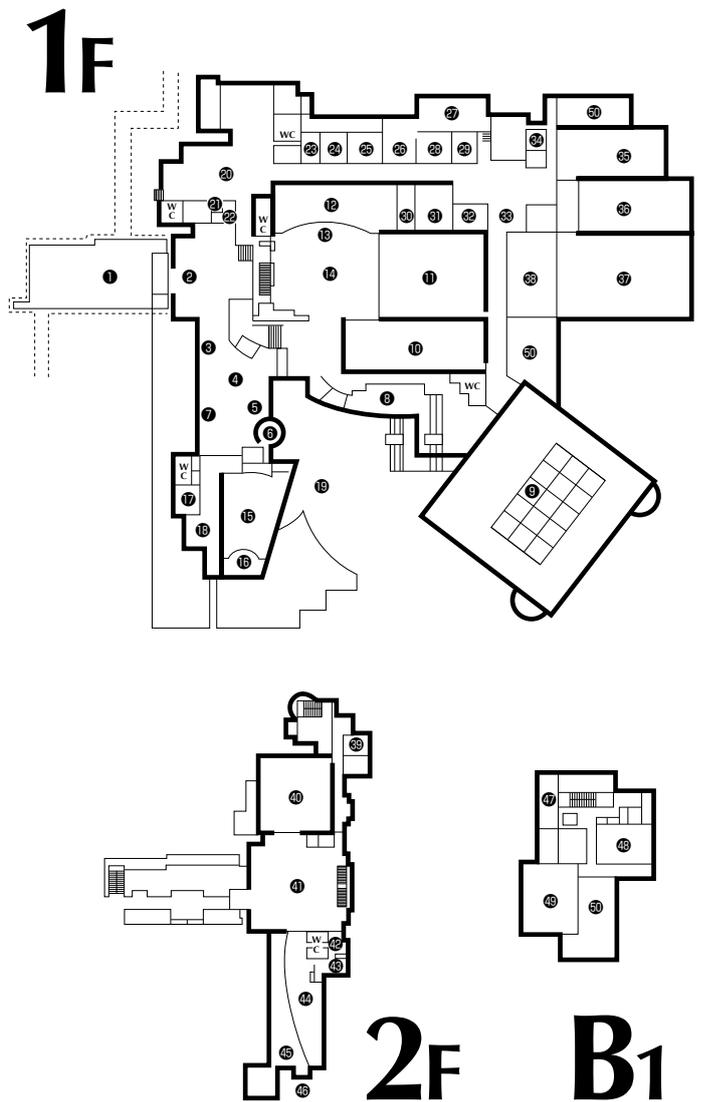
【施設概要】

〈名称〉新潟県立近代美術館
 〈所在地〉新潟県長岡市千秋3丁目278-14
 〈設計〉(株)日本設計
 造園設計 (株)日本設計・(株)日本造園
 設計期間 1990年9月～1991年2月
 〈監理〉新潟県土木部都市整備局営繕課
 (株)日本設計
 〈施工〉大成・吉原・小杉特定共同企業体
 電気工事 六興・大原・長岡特定共同企業体
 空調工事 三建・日立・越後特定共同企業体
 衛生工事 ナカムラ・北陸特定共同企業体
 ガス工事 北陸瓦斯(株)
 昇降機工事 日本オーチスエレベーター
 備品工事 (株)高島屋
 植栽工事 北陸緑化、ニューガーデン、
 長生園、宮川苑、吉茂造園、
 鈴木造園、新潟造園土木、
 長岡ガーデン、川崎農園、
 グリーン産業、松本造園
 工事期間 1991年7月29日～1993年5月31日
 〈総工事費〉 9,859,851千円
 支出内訳
 建築工事費 7,442,809千円
 造園工事費 1,216,187千円
 電気工事費 79,654千円
 展示工事費 1,121,201千円
 〈主体構造〉 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、
 プレストレストコンクリート梁
 基礎・地業 PHC抗
 〈規模〉 地下1階、地上2階、塔屋1階
 軒高 13.0m
 最高高 19.250m
 主なスパン 3.9m
 階高 5.7m
 〈面積〉 敷地面積 33,800㎡
 建築面積 9,133㎡
 延床面積 10,723㎡
 地下-機械室・電気室 716㎡
 1階-展示室・収蔵庫・講堂・
 事務室・他 8,873㎡
 2階-レストラン・県民ギャラリー
 1,064㎡
 屋階-ELV機械室
 地域地区 市街化調整区域
 〈面積配分〉
 導入部門 1,356㎡
 (エントランスホール636㎡、ロビー 576㎡、ほか)
 展示部門 2,674㎡
 (常設展示室391㎡+472㎡+265㎡、
 企画展示室1,332㎡ ほか)
 教育普及部門 384㎡
 (講堂234㎡、講座室53㎡、ハイビジョン67㎡、ほか)
 収蔵部門 1,746㎡
 (収蔵庫第一292㎡、第二575㎡、
 第三267㎡、作業室49㎡、ほか)
 調査研究部門 272㎡
 (研究室83㎡、資料保管室61㎡、書庫128㎡)
 管理事務部門 416㎡
 (事務室133㎡、会議室70㎡、館長室55㎡、ほか)
 設備・機械 1,017㎡
 (熱源機械室、電気室、空調機械室、ほか)
 他共用部門 2,858㎡
 (廊下、階段、ほか)

〈展示室の環境〉
 室の明るさ 70～150lux+局部照明
 照明方法 全体照明(ダウンライト・間接)
 スポットライトによる局部照明
 光源の種類 ハロゲンランプ(熱線カット)
 美術館用蛍光灯
 温度・湿度 夏季/26℃・50%
 冬季/22℃・55%
 〈主な設備〉
 空調方法 個別式(単一ダクト方式・FCU方式)
 熱源:ガス・電気
 熱源機器/ガス冷水発生機2台
 冷房能力/240USRT
 暖房能力/52,000kCal/h
 冷却塔/2,810,000kCal/h
 空調機器/全空気方式 空冷ヒート
 ポンプエアコンファン
 給排水衛生 給水/上水直結
 給湯/中央式(ガス)、
 個別式(電気)
 排水/屋内合流、屋外下水道放流
 給排水 BIF床上受水槽(FRP40㎡)
 排水槽/有効0.76㎡
 電気 受電/3相3線 50Hz 6.6kV
 660kW
 発電機/3φ3W 50Hz 6.6kV
 375kVA
 非常保安動力/300kVA
 非常保安電灯(スコット)/50kVA
 変圧器/1,400kVA7台
 防災 消火/屋内消火栓、屋外消火栓、
 ハロゲン化物消失
 排煙/自然排煙
 屋内消火栓 粉末消火器 ハロン
 消火設備 ハロン消火器 連結散
 水設備 屋外消火栓
 昇降機 乗用ELV/750kg積
 (30m/分)1台
 人荷用ELV/3,000kg積
 (30m/分)1台
 駐車場 屋内2台、屋外165台
 〈主な外部仕上〉
 屋根 アルミクラッド鋼板立ハゼ葺
 外壁 四丁掛精拓器質タイル(割肌)
 ニ丁掛精拓器質タイル
 建具 アルミサッシュ電解二次着色
 ステンレスサッシュH.L.仕上
 外構 御影石ブロック+陶製ブロック舗装
 〈主な内部仕上〉
 エントランスホール
 天井/コンクリート打放し
 壁/御影石こぶ出し仕上
 床/御影石ジェットバーナー仕上
 展示室 天井/P.B.E.P
 壁/ガラスクロスE.P
 床/タイルカーペット
 収蔵庫 天井・壁/スプルス
 床/ナラ縁甲板張
 講堂 天井/
 壁/四丁掛精拓器質タイル+P.B.E.P
 床/カーペット
 研究室・事務室
 天井/岩綿吸音板
 壁/ビニールクロス貼
 床/タイルカーペット

【施設の配置】

- | | |
|---------------|-------------|
| ① キャンピ | ②⑥ 研究室 |
| ② エントランスホール | ②⑦ 書庫 |
| ③ ロビー | ②⑧ 資料保管室 |
| ④ ミュージアムショップ | ②⑨ 倉庫 |
| ⑤ データベース室 | ②⑩ フィルム保管室 |
| ⑥ ハイビジョンギャラリー | ②⑪ 撮影室 |
| ⑦ レファレンス | ②⑫ 作業室 |
| ⑧ 企画展示室ロビー | ②⑬ 荷解室 |
| ⑨ 企画展示室 | ②⑭ 燻蒸室 |
| ⑩ 展示室 1 | ②⑮ 収蔵室 1 |
| ⑪ 展示室 2 | ②⑯ 収蔵室 3 |
| ⑫ 展示室 3 | ②⑰ 収蔵室 2 |
| ⑬ 常設展示室ロビー | ②⑱ 展示備品倉庫 |
| ⑭ 中庭 | ②⑲ ガラリー控室 |
| ⑮ 講堂 | ②⑳ ガラリー |
| ⑯ ステージ | ②㉑ アトリウム上部 |
| ⑰ 講座室 | ②㉒ レストラン事務室 |
| ⑱ 講堂ロビー | ②㉓ 厨房 |
| ⑲ 屋外展示スペース | ②㉔ レストラン |
| ⑳ 事務室 | ②㉕ 吹抜 |
| ㉑ 乳児室 | ②㉖ テラス |
| ㉒ ロッカー室 | ②㉗ ドライエリア |
| ㉓ 応接室 | ②㉘ 電気室 |
| ㉔ 館長室 | ②㉙ 熱源機械室 |
| ㉕ 会議室 | ②㉚ 空調機械室 |



新潟県立万代島美術館

【施設概要】

〈機能別延床面積〉

	内訳	用途等	面積
展示室		美術品等の企画展示	1,433.09㎡
収蔵	収蔵庫	美術品等の保管	102.05㎡
	収蔵庫前室	収蔵庫の室温度を安定させる	28.15㎡
専用エレベーター		地下1階より美術品を搬入	27.59㎡
管理	事務室	学芸員、一般事務の執務室	72.66㎡
	資材倉庫	文書・書籍カタログ等の収納	32.75㎡
	準備室	展示作業用の作品移動ケース置場等	95.56㎡
	荷解室	美術品の開梱・点検場所	107.58㎡
	休憩室	嘱託員の休憩場所	10.04㎡
	応接室	来賓等の応接	13.99㎡
	トイレ	職員・来館者用	92.58㎡
	空調機械室	美術館専用の空調機械設置	120.15㎡
共通	ポンペ庫	ハロン消火設備用ポンペ庫(予)	28.63㎡
	ロビー	来館者の導入、休憩及びインフォメーション等	279.63㎡
	廊下等	来館者の通路、避難経路など	321.84㎡
	乳児室	乳児のために使用	6.35㎡
B1F	ロッカー・ルーム	来館者の利便のために手荷物を保管	22.62㎡
	専用エレベーター(B1F)	美術品の搬入用	26.23㎡
	専用エレベーター機械室	専用エレベーター用の機械設置	13.42㎡
合計		美術品の荷捌スペース	124.54㎡
合計			2,959.45㎡

〈建築概要〉

1. 全体概要

種別／複合ビル内包型 公立美術館
 所在地／新潟県新潟市万代島5番1号
 工事期間／平成12年10月3日～平成15年3月30日
 敷地面積／103,128.93㎡ (万代島一団地認定敷地全体)
 建築面積／6,017.37㎡
 延床面積／52,585.54㎡ (うち、美術館2,959.45㎡)
 構造種別／鉄骨鉄筋コンクリート造
 階高／美術館フロア6.3m

2. 建築主体

設計／鹿島建設株式会社一級建築士事務所
 監理／鹿島建設株式会社一級建築士事務所
 施工／鹿島・大成・福田・五洋・本間・東亜共同企業体

3. 仕上げ(美術館部分のみ)

屋根／鉄筋コンクリート下地断熱アスファルト防水押え、
 コンクリート鋼製根太組天然スレート敷
 外壁／プレキャストコンクリート下地アルミスバンド
 レル張り、アルミカーテンウォールふっ素樹脂
 焼付塗装、プレキャストコンクリートカーテン
 ウォールふっ素樹脂常乾塗装
 内装／(設備概要を参照のこと)

4. 電気設備

電力引込／3相3線6.6Kv50Hz
 2回線受電、地中引込
 受変電／1階サブ変電所、キュービクル式受変電設備
 非常用電源／発電機1台、ディーゼル1000KVA、
 蓄電池400AH
 電話設備／電話配管(機器、配線は別)
 放送設備／非常放送兼用アンブ1160W、130回線、
 美術館業務用アンブ80W、5回線

5. 空調設備

熱源／全体熱源：冷温水発生器(ガス焚)
 240RT×2台
 収蔵庫：空冷ヒートポンプ
 空調機／コンパクトエアハン7台
 単一ダクト
 換気／個別換気
 給気ファン1台、排気ファン15台
 制御機構／24時間中央温湿度管理システム

6. 昇降機

乗用／ロープ式 210m/分 定員20名1,350kg
 4基(うち、車椅子仕様1基)
 荷物用／油圧式
 15m/分 3,000kg 1基
 テーブルリフター／
 リフト 0.9m
 テーブル 2.0m×2.0m 3,000kg

〈設備概要〉

1. 展示室概要

壁仕上／不燃プasterボード、ガラスクロス表面仕上げ
 床仕上／フローリング(ダグラスファー)
 可動壁／不燃プasterボード、ガラスクロス表面仕上げ
 L4.0m×H4.5m:30枚、L2.0m×H4.5m:26
 枚、L2.4m×H4.5m:4枚
 固定展示ケース／2箇所
 (外側)スチール製・高透過ガラススチール製・アクリル焼
 付塗装、高透過ガラス・重量キャスター・アジャス
 ター付、シリンダー錠付
 (内側)低ホルマリン合板、クロス張り、エアタイト、寸法
 D18.0m、W1.2m、H4.5m
 照明／全て美術館用UV/IRカットフィルター付
 ベース照明：ハロゲンウォールウォッシャー
 200W
 展示照明：ローボルトハロゲン(12V50W)
 ケース内照明：高効率照明器具(32W)及びロー
 ボルトハロゲン(12V50W)
 設定温湿度／春・夏期：23℃、60%
 秋・冬期：20℃、50%
 (変動率±3℃、±10%以内)

2. 収蔵庫概要

- 床 仕 上 / フローリング
- 壁 仕 上 / ゼオライトパネル (天井共)
- 内部寸法 / L11.5m、W7.5m、天井H3.5m
- 入口寸法 / H3.0m、W3.0m
- 収蔵庫内作品固定方法 / 収蔵棚
- 収蔵庫扉の構造及び仕様 / スチール製
耐火2時間扉
- 照 明 / 高効率照明器具 (32W)
美術館用UV/IRカットフィルター付
- 空 調 / 恒温恒湿パッケージ2台 単一ダクト (VAV)
- 設定温湿度 / 春・夏期: 20℃、60%
秋・冬期: 20℃、60%
(変動率±2℃、±5%以内)

3. 搬入口関連概要

- 専用搬入口寸法 / H3.8m、W5.0m
- 高位置の接岸ドック / 地上からの高さ0.7m
- 可動接岸ドック / 0~0.9mレベルまで
- 油圧式リフト / 最大重量3,000kg
- クレーン / 最大重量3,000kg
- 搬入可能なクレーンの最大サイズ /
H3.0m、W3.0m、D3.0m
- セキュリティ / 画像センサー機械警備
- 荷解室への立入管理 / カードリーダー方式電気錠

昇降機内部寸法 / L3.0m、W3.0m、
天井H3.0m

4. 防災設備

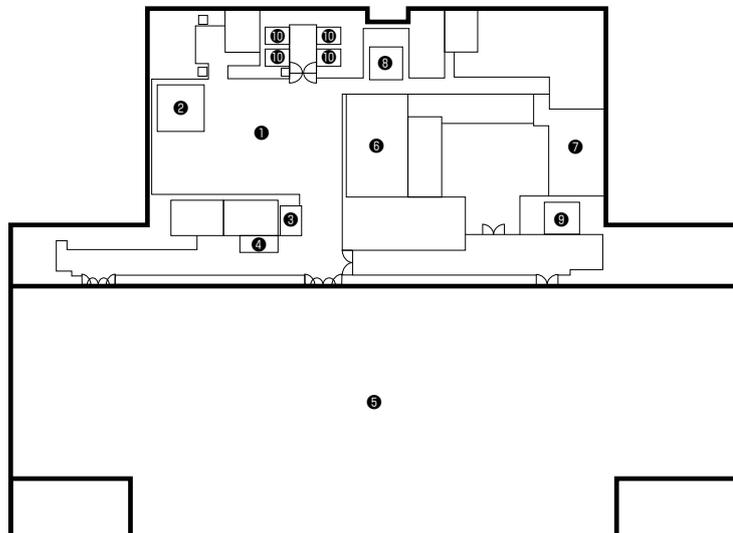
- 消火設備 / 湿式スプリンクラー
展示室、準備室、荷解室及び収蔵庫はハロン消火
- 感知器の種類 / 自動煙感知
- 火災警報への伝達 / 発信機、非常電話
- 補助消火栓 / 搬入場所1基、その他4基
- 連結送水管 / その他2基
- 消 火 器 / 搬入場所: 粉末ABC
展示室: ハロンガス
その他: 粉末ABC及びハロンガス

5. 防犯設備

- 監視設備 / ITVモニター、ITVカメラ15台
(美術館14台、EV1台)
- 機械警備設備 / 画像センサー+スピーカ
- 警備会社 / SECOM株式会社
- 使用警報機の種類 / 画像センサー及び
水銀スイッチ
- 警報入電場所 / 館内中央監視盤及び
美術館事務室
- 盗難防止ケースの種類 /
ガラス・ケース及び壁面固定ケース全てにシ
リンダー錠付

【施設の配置】

- ① エントランスホール
- ② ミュージアムショップ
- ③ 情報検索コーナー
- ④ 乳児室
- ⑤ 展示室
- ⑥ 収蔵庫
- ⑦ 事務室
- ⑧ ロッカー・自販機
- ⑨ 作品専用エレベーター
- ⑩ エレベーター



新潟県立近代美術館協議会

【委員】(依嘱当時)

(平成26年8月1日から平成28年7月31日まで)

●学識経験者

- 近藤フチエ (新潟大学名誉教授)
- 金子 賢治 (茨城県陶芸美術館長/多治見市美濃焼ミュージアム館長)
- 松本 健義 (上越教育大学大学院学校教育研究科教授)
- 菅野 翠清
(新潟県美術家連盟常務理事/北日本書芸院主幹/新潟県美術展覧会委員)
- 西條和佳子
(特定非営利活動法人ワーキングウイメンズアソシエーション常任理事)

●社会教育関係者

- 竹内 伊澄
(歯科衛生士/新潟県社会教育委員/上越市社会教育委員)

●学校教育関係者

- 市村 吉之
(新潟市立中之口西小学校長/新潟県美術教育連盟副会長/下越美術教育研究会会長)
- 霜鳥 健二
(新潟県立長岡商業高等学校美術科教諭/新潟県高等学校文化連盟美術・工芸専門部委員長/新潟県美術展覧会運営委員)

●一般公募

- 北嶋 伸 (社会保険労務士)
- 地主 純 (新潟県税務署非常勤職員)

※○は会長 ○は副会長

【日程及び内容】

第1回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成27年5月22日(金) 10:00～12:00

会場：新潟県立近代美術館

内容：(1) 「平成26年度新潟県立近代美術館協議会評価報告書」の作成について
(2) 平成27年度事業について

第2回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成27年10月26日(月) 10:00～12:00

会場：新潟県立万代島美術館

内容：(1) 平成26年度新潟県立近代美術館協議会評価報告書について
(2) 平成27年度「事業目標・取組に対する達成状況」の中間報告について

第3回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成28年1月30日(土) 13:30～15:30

会場：新潟県立万代島美術館

内容：(1) 平成27年度事業の中間報告②
(2) 平成27年度評価の分野と執筆担当
(3) 作成手順およびスケジュール
(4) 次年度評価に向けた意見交換

【自己評価に対する委員評価】

平成27年10月

はじめに

近代美術館は、設立から20年を経て、人口減や社会的状況の大きな変化とともに、芸術を取り巻く状況が大きく変化し、当初期待されたような成果があげられているか、県民が知りたいと願うのは当然なことと思います。美術館に関心の有無にかかわらず、美術館が日ごろ取り組んでいる活動を理解し、外部委員の声を参考にされることは、事業改善のために、意義あることと考えます。

20数年前の美術館創立時から状況は大きく変化し、芸術価値観やメディアの多様性の変化に伴い、必要とされる芸術教育の内容方法はもちろん、美術館に対するニーズも変化しています。しかしながら時代の変化を先取りして対応できるほど、一般的に公共美術館のネットワークは軽くないようです。この評価報告書から多様な制限下での関係者の日ごろの努力について理解が得られれば幸いです。

平成27年10月

新潟県立近代美術館協議会

会長 近藤 フチエ

第1章 県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

(1) 美術館運営の全般について

本県の実業も、この数十年、映画やその他の娯楽と同様、従来の企画展、広報、地域への働き掛けなど、さまざまな見直しが行われて来た。芸術観の変化に対応する作品鑑賞に関わる研究と実践、出前授業やワークショップ、鑑賞シートの作成など、教育普及も数は少ないものの一定の成果をあげている。そして、この数年の近年の実業運営への市民参加や支援体制も整備されつつある。

また、地域貢献の一環として、優れた環境を活用し、より活発な交流の場として、地域の文化的中心となり、多くの住民から親しまれる美術館であるために、施設の改善も進められている。

(2) 目標設定のあり方について

県立近代美術館と万代島美術館は異なる性質を有するために、それぞれ重点項目は異なっている。近代美術館では東西の多様な時代の展示を扱い、県関係の作家の作品研究、保存、作品鑑賞や出前授業を通じて鑑賞教育の実践、それに対して万代島美術館は現代の多様なジャンル、メディアの企画展示を扱っているため、若い世代の来館者の充実を重点目標に掲げている。両館に共通するのは、快適な環境、広報の工夫、資料の収集調査、研究成果の発表、支援体制の構築を目標に掲げ、それらについて評価が行われている。

(3) 目標に対する達成状況について

目標が達成できたかどうかは、その設定の仕方に関わっていることが多く、入館者数が予想を下回った企画展については、企画と住民ニーズとの専門的な調査とともに、広報や見学者への対応など、多面的な検証も必要となる。企画の多様性、展示法や鑑賞の支援など工夫が評価されている。万代島の美術館利用者の開拓についても、アンケートの数値から、一定の成果が認められる。また、近代美術館では、特筆すべき改善として、本年度ホームページの充実がある。

関係者の調査、研究、地域との連携事業など、外見から見えにくい多様な活動は、展示内容を充実し、来館者の満足度を高め、芸術文化に親しむ人々を育て、同時に来館者数が増加することを期待しているが、美術館の努力だけでは達成しがたい課題が多いのも事実である。話題性のある企画展の減少、多様な業務の専門性や人的不足や美術館に対する社会的無理解など、克服しなければならない課題は多いと言える。

第2章 分野別に見た自己評価に対する委員評価

1 展覧会に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

コレクション展、企画展とも目標達成に向けて大きな成果を上げたと言える。ただし重点的業務目標の「法隆寺展」は、古代～中世の仏像の名品、金堂壁画の原寸大模写などが展示され、大方の関心を誘える企画であったが、「これぞ法隆寺」と言える名品が一点でも欲しかった。「コレクション・ストーリー」は2003～13年の新収蔵品と他の所蔵品を10個のテーマに分けて展示するもの。魅力的なテーマ設定にもかかわらず入館者が伸びなかった理由の一つは展覧会タイトルだろう。双方とも良質な企画にもかかわらず入館者が今一步の結果に、隔靴搔痒の感が何とも惜しいのである。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

今年度も県民、来館者の幅広い層の関心に応えるものがライ

ソナップされた。人気アニメ作家の作品、古典的な優れた美術の紹介、世界の現代美術の名品、県出身の近代美術作家の業績をたどるものなど。これらがバランスよく配分され、広く関心と呼ぶように取り組んだことは評価される。

トーベ・ヤンソン展はともすればムーミン側面になりがちであるが、今回は近代的な画家としての側面を美術史的にきっちり辿り、その中で人気アニメを位置付けた。それに「おだんごヘア」、「なりきり撮影」などの小技をドッキングし、幅広い層の入館者、取り分け高校生から大学生の利用者を拡大しようとした試みは大きく評価される。現代美術展などの斬新なデザインを採用も同様である。

ルーベンス展の経験からまた地元企業との連携を成功させたことは大きく評価される。今後の活動にさらに一層結び付けてもらいたい。

(3) 自己評価に対する総括

確かに「法隆寺展」は国宝・重文を多数陳列できたことは美術館の力を示すことになった。しかしそれが専門家だけではなくもっとも一般の関心を誘う方向に作用しなければこの種の展覧会の意味が半減してしまう。企画段階の早い時期からの取組が必要で、それは容易ではないが、不可欠なことであろう。

万美の館独自の展覧会開催への取り組みは大きく評価される。もちろん近美の県出身者の掘り起しなども同様に評価されることは言うまでもないが、こうした地道な試みがやがて美術館の底力を幾重にも押し上げていく。

2 教育普及等関連事業に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について、今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

1. 各企画展に応じた教育プログラムを実施する。

各企画展に応じて、美術講演会、美術鑑賞講座、ワークショップ、映画鑑賞会、作品解説会、巡回ミュージアム等の様々な取組を通して、美術作品鑑賞のきっかけづくりや美術作品に親しむ環境づくりが、有効かつ妥当に実施されている。

出前講座は、幼児向けの教育プログラムを開発し、対象地域を見附市まで広げ複数回実施して定着を図っている。保護者が必ず同伴するため、親や祖父母世代の美術への興味・関心の高まりにつながっている。

2. 対話を取り入れた鑑賞活動を推進する。

対話型鑑賞活動は多くの団体（学校・一般）が利用している。感受性豊かな児童・生徒期に美術作品を鑑賞する楽しさを伝える取組として、今後も継続して充実させていく必要がある。

学校教員への対話型鑑賞活動の研修は大変有意義である。研修の充実により対話型鑑賞活動が教育に携わるものなら誰でも実施可能となり、学校教員が美術館と展示作品を活用して鑑賞活動を行うこと、土日や夏季休暇等に美術館でボランティアスタッフとして鑑賞活動を行うこと等が、研修の一環として可能となる互恵的環境の醸成が図られることが必要である。

○万代島美術館

1. 展覧会に関連した学習に広がりを持たせる。

過去5年間の様々な取組を通じ成果を上げている。「学校教育や社会教育施設と連携し、美術に関する鑑賞体験や知識を提供する」は、課題が明確化し充実した取組となっている。

団体や学校に対し対話型の鑑賞会の実施は、展覧会の趣

旨、作品の意図を直に伝えられる良い企画である。少ない人員でできる限り団体の求めに応じた作品解説を実施している。

2. 館外の人材を活用し、多彩なイベントを企画する。

取り組み5年間を経て充実した内容の展開となっている。特に梅佳代展での作者のトークでは310名の参加を得て来館者増加につなげたことは高く評価できる。

近藤喜文展でのコンサート、細見展での館長トークもそれぞれ356名、136名の参加者があり、音楽愛好家の美術への興味・関心を高めている。

「実行委員会の構成団体とも協力し、イベントを実施する」は取組内容の設定として評価できる。

(2) 自己評価に対する総括

○近代美術館

美術館側の提供するプログラムと教育現場が必要としているプログラムの乖離の有無、目的や成果を検証する場や方法の開発と実施が必要である。

幼児に対しては幼稚園・保育園、特に保護者を取り込んだ活動プログラムを開発することにより、家庭や保護者に美術を通した子どもとの交流と美術館見学に対する意識付けを行うことが必要である。

対話型鑑賞活動を映像記録し、学校教員、退職教員、美術に関心がある一般の方が、対話型鑑賞活動の実際を知り学ぶ研修のためのデータベースとしての活用について検討が必要である。

○万代島美術館

教育普及を今後も多角的に展開するのであれば、まず専門のスタッフの充実を検討すべきである。または、外部の人力(教員研修組織等)を積極的に活用する方策も真剣に検討するべきである。

万代島美術館は施設に空間的制約があるが、万代島ビルや朱鷺メッセのコンベンションで開催の各種展示会と、万代島美術館の企画展とのタイアップした取組も視野に入れ、制約を克服する手立てを検討する必要がある。

職員の長期出張、休職等に当たっては、年度目標の達成と業務の遂行に支障が生じないように、専門性を有した非常勤職員等の臨時雇用により、適切な対応と運営がなされる必要がある。

3 調査・研究、収集・保存、発信に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況

今年度も、県出身作家、県関係作家の調査・研究に大きな成果を上げたことを評価したい。亀倉雄策、濱谷浩、会田誠はそれぞれ現代を代表するスケールの大きな作家であり、十分な取組が必要である。今年度でその基本的な準備ができたものと取組われ、今後が期待される。

学芸員の研究成果発表も順調である。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

県出身作家、県関係作家の調査・研究を中心に設定された内容は順調に進められ、成果を上げつつある。それと海外研究者との共同研究も進み、展覧会開催に十分な程成果を上げている。

(3) 自己評価に対する総括

亀倉展、濱谷展は順調だが、会田展は是非妥当なところで進めてもらいたい。学芸員の研究成果発表は、真に美術館活動を豊かにするために必須のものである。今年度はまだまだ少ない。より充実した成果を望む。それには美術館幹部の奨励力が最も

肝要である。

4 環境・設備に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

来館者が快適に美術作品鑑賞を行える環境を整える意味で、特にトイレの洋式化は大変評価できる。環境・設備を整えることがリピーターにつながると考える。

○万代島美術館

展示パネルの総点検、防火シャッター・展示ケース等の修繕を行い施設の安全管理に努めた事は評価できる。引き続き計画的に施設整備に取り組んでほしい。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

トイレの洋式化は完了し、来館者の評価を得ている。開館30周年に向けた計画はリニューアル案、設計業者との調整など計画が進んでおり、予算面では、大規模改修基本計画策定支援業務を次年度の当初予算に計上されている。施設設備には大きな予算を伴うため、関係機関と協議を重ねた取組を期待する。

○万代島美術館

公開承認施設の認定を目指してより充実した環境を整えるために点検、修繕など、計画的に実施されている。大切な作品を守るため、そして来館者の安全確保のために努力されていることは評価できるものである。なおいっそうの環境・設備の充実を期待する。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については達成された事への的確な評価がされ、事業に対しては建設的な意見や新しい提案などが示されており妥当である。

5 協働組織に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

「巡回ミュージアムにおける阿賀町との協働」は、県立美術館として相応しい意義のあることと評価する。地域の自治体と協働することで、年配者、障害者、乳幼児など、地域に暮らす人々への配慮も実施されたことであろう。

その一方で、学校への広報活動が子どもや家族の来場に結びつかなかったのであれば、それは「子ども」に照準を合わせた協働を考える契機としてもらいたい。そうすれば、自治体を通じたPTAとの協働など、新たな取組が見いだせるかもしれない。また、町内会や老人ホームとの協働など、自治体との協働だからこそ可能な「地域密着の協働」が生まれるかもしれない。

「新潟アートリンク」については、参加者が増え、他館の関連作品を展示するなど、地道に実績を積んできていることを評価する。しかし、24年度に始まって3年目ということは、定着の一方でマンネリが生じる時期でもある。今後は民間のギャラリーとの連携や、教育委員会との連携など、外部にも目を向けて、広がりや深みを追求してもらいたい。

「友の会ならびにアートボランティア」との関係については、両者が一体化することで、美術館との協働事業が盛んになったことは好ましい。ワークショップや研修など、美術館への集客と美術教育の両立が図られている事業がある点も評価したい。ただ、美術館のホームページや友の会のホームペー

ジを見ても、具体的な協働風景が掲載されておらず、この点は残念である。

○万代島美術館

「サポートメンバー」は、万代島美術館を身近に感じている住民の存在を伝える意味で評価する。また、実際にメンバーの協力で美術館運営がなされており、必要な存在でもあるのだろう。その一方で、近代美術館のアートボランティアが友の会と一体化したことに伴い、同じ県立の美術館でありながら、二館で異なる体制であることに少し違和感が生じたように思われる。

また、手薄な人人体制を補うために有効なかもしれないが、展示会の補助業務までボランティアの役割に含まれているのは残念である。本来業務の手が足りないのであれば、職員の増強あるいはアルバイトの雇用などを検討しても良いのではないだろうか。

「タクシー運転手への解説会」やホテル日航新潟や「りゅーとびあ」との協働は、来館者へのサービスや満足度向上のために良い事例だと思う。新潟市を代表する一つの顔とも言える万代島に立地している点を生かし、ホテル関係者をはじめ、新潟市内への観光客誘致を業務としている企業や団体など、「具体的な成果」への期待が望めそうな相手を協働相手として開拓することで、万代島美術館らしい協働スタイルが生まれることを期待したい。

「4館スタンブラリー」についても、地道な継続を評価しつつ、新潟市美術館ならびに新津美術館と立地が近いメリットを生かすことを期待したい。万代島美術館の来館者向けの飲食店割引なども生かし、新潟市の2館を先に訪れた人を万代島美術館に強力に引き寄せてもらいたい。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

「阿賀町との協働」は、長岡市との間で蓄積してきた協働の実績とノウハウを他自治体に広める一歩として大変妥当なものである。

また、長岡市や新潟市といった都市型の自治体ではなく、山間部や過疎地も含む郡部の自治体との協働のあり方を探るためにも大変有効なものであったと思う。その効果については次年度以降まで判定を待ちたいと思うが、新潟県の自治体の状況を考えて大変意義のある取組であったと考える。

「アートリンク」については開始から3年目、立ち上がりの第一ステップの最終年とも言える妥当な内容だったと考える。次年度からは第二ステップとして、それぞれの美術館を核として、官民間問わず外部との連携や協働に目を向けてもらいたい。

「友の会とアートボランティアの一体化への協力」は、美術に関心のある人材育成や「愛される美術館」作りのために妥当な取組であったと思う。特にこの一年、活発な事業展開として、具体的な効果が示されていることを評価したい。

○万代島美術館

「サポートメンバーの活動を軌道に乗せる」については、万代島美術館を身近に感じている住民の存在を伝える意味と、美術館業務を円滑に進めるために役に立っているという点では妥当な点だと考える。しかし、近代美術館における友の会とアートボランティアの一体化を考え合わせると、少し判断が難しい。

また、スタートして4年目ともなっても会員数が6名に留まっている点で、効果という点でも評価が難しい。

「近隣施設との連携・協働」については、万代島の立地や、

ホテルやオフィスのある複合ビルの中に所在している強みが考慮されており、妥当である。

目に見える効果は先かも知れないが、「強みを生かす」ことに集中すれば、来館者の増加や美術教育の普及、人材発掘などの点で大きな可能性があると思われる。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については「出来たこと」と「さらに改善が必要なこと」が示されており、おおむね妥当と考える。

近代美術館については、地元長岡市との協働から他自治体との協働へと拡大されたことが県内の美術をけん引する立場として自己評価に値し、万代島美術館についても、外部との関わりが随分多くなったように思われる。

その一方で、友の会とアートボランティア、サポートメンバーの関係など、両館の整合性という点で検討が必要な点が出てきたように思われる。

第3章 平成27年度県立近代美術館運営への提言

近藤 フチエ 会長

20数年前、各県1館ずつ作られた美術館は、地域の近代美術作品コレクションを中核としているため、多少とも似通った性質を持っている。そんな中でたとえば山梨県立美術館や青森県立美術館のように、よく知られた作家の作品の眼玉を有している、その作品を見るためだけに訪れる人々がいるのは事実である。長岡には「大光コレクション」と前川館長時代の「ドイツルネッサンスの巨匠デューラー等の版画のコレクション」があるが、どちらか一方に焦点を絞ることもできない。だが、たとえば長岡現代美術館のコレクションは他に例のないもので、その他とともに全コレクションを特色あるユニットとして集約化、再構成して、対外的に明確なキャッチコピーでアピールする必要がある。

もうひとつは地域連携の道である。近代美術館は長岡の地にあり、長岡市の他の県立博物館、科学博物館、そして長岡市との連携を探り、市民ガイドによる観光ルートの構築を目指す。新潟地区では、万代島美術館のほか、市美術館、歴史美術館などと、新潟市と博物館・美術館の連携プロジェクトを推進する。この他にも、地域文化の活性化のために、関係者の意欲的な挑戦に期待したい。

以上のような計画を推進する為には、現在の友の会のような市民の力を借りて行うことが望ましい。各地方都市には市民ガイドの活躍があるが、県内外の人々に親しんでもらえる美術館であるために、そのような市民ガイドの養成に美術館が果たす役割は小さくないものとする。

金子 賢治 副会長

高校生の入場者の割合が低いというのは日本の美術館の普遍的な問題である。私の勤める茨城県陶芸美術館ではその打開策の一つとして陶芸美術館ならではの企画を始めている。それは県内高校の8割にあるという茶道部との連携企画である。さすが水戸徳川のお膝元、水戸市には裏千家、表千家、江戸千家、石州流という4代流派が活動し、その連合体、茨城県茶道連盟もある。高校の各茶道部には部長（各校の先生）他に、4代流派の内の1流派の専門家がインストラクターとしてついている。なかなか高度なクラブ活動である。

その茶道部の交流会を開いたところ、17校約120人が参加する模擬茶会が開かれたのである。各校が亭主側と客側になり陰立てで喫茶するのである。午前と午後の部に分かれ、大きく二つの集団に分かれて行われた。第一集団がお茶会を行っているとき、第二集団は二班に分かれ、第一班は人間国宝の茶碗を実際に手に

触れてみる。第二班は展示されている陶芸作品（茶陶もあれば皿・鉢・花瓶などの通常の作品、オブジェもある）を学芸員の解説付きで鑑賞する、という具合である。午後になると第一と第二が入れ替わる。

茶会ではそれぞれの茶道部の部長、流派のインストラクターがすぐ横で見学し、講評をする。最後の閉会式で、茶道連盟会長のよる講評が行われた。

各高校の反応は大変良く、これから毎年交流会をやってほしいという要望があり、館はこれに応えていく。

それにもう一つ、このところ京都と美濃の30代の陶芸家による「試みの茶事」という、いわば茶会の梯子が行われている。京都の古建築、多治見（美濃）の修道院、東京国立近代美術館工芸館、札幌の本願寺、京都の高山寺遺香庵などである。これは茶碗から懐石料理の器すべてを参加の陶芸家作り、料理も同じ30代の料理家を作る。裏千家のインストラクターが一人ついているが、基本的なルールさえも持っていればあとは自由にやれる気楽な茶事である。

いずれこの二つの動きを笠間で合体する、と言うのが私の意図である。そのこと通して、高校生に陶芸美術館に入ってきてもらい、美術館のリピーター、そしてサポーターになってもらう。それを突破口として、高校生に美術館の鑑賞者、さらには陶芸家との交流を経て、日本の陶芸文化のサポーターになってもらうというのが私の目標である。新潟県でもいかがであろうか。

松本 健義 委員

まず、過去5年間の美術館のたゆまぬ教育普及への努力に深く敬意を表します。

近代美術館は、対話による鑑賞を核とした教育普及の開発と普及は、内容、対象、方法、実施体制について、基本的な段階を総合的に達成したといえる。今後は、以下の項目について取り組まれることで事業の一層の充実を期待いたします。

①新潟県立美術館収蔵作品を中心に、県内美術館、博物館の収蔵品を映像資料やアートカードなどの学習教材へと学校や大学の教員と連携して開発し、授業や出前講座等で活用すること。

②作品を「見る楽しみ」「見る力」が変化していく喜びのある鑑賞経験が生まれるよう、作品を媒介とした他者との多様な対話を中心とした活動について、教材や道具の開発や活動成果の検証も合わせた研究開発の推進。

③教員の研修システムやツールの開発。

④研修とボランティアを互恵的に組織したネットワークを地域に構成すること。

万代島美術館は、過去三年間に教育普及にかかわり提言してきた点について、十分な達成にいたってはいない。新潟市周辺の幼小中の学校園の児童生徒への教育普及は、地理的にも当館の使命と考えます。子ども、地域住民、学校の多様なニーズにこたえる教育普及を展開することが可能となる専門的人員数とその構成について、事業目標・事業内容とあわせて再検討し、行政と連携して整備することが必要です。

両館ともに少人数の専門的職員により事業や業務が運営されているため、職員の長期の出張や休職等においては、同様の専門性を備えた非常勤職員等の補充により事業や業務の遂行に支障をきたさないよう制度的な整備が必要で。

菅野 翠濤 委員

美術館に足を運ぶ毎に最近感じ始めたことがある。美術展を企画する時、広い会場を全て使用して美術品で埋め尽くさなければならぬのかなという事である。数の多さに多少辟易し、歩く距離もかなり長くなり、最後の方は申し訳ないが、疲れも併い飽きてしまう。

全てのスペースを使用せずとも、2/3程度の展示であれば、特

に高齢者にとっては満足感も得られ、気分よく会場を後に出来ると思う。

美術展の企画は、全てのスペースを埋めることが前提なのかは不明だが、ある程度数を絞る事で、充実した展観になる可能性もあると思う。人口の割合、時間の余裕等を考えた場合、当然高齢者の集客を念頭に置き、少し壁面を減らした美術展をたまには企画して欲しいと希望する。

西條 和佳子 委員

26年度の万代島美術館の重点目標の一つに「若年利用者の充実」が掲げられていることに関連して2点提言を行いたい。

1点目は「バンビでデート♪」。ふざけた話に思われるかもしれないが、近年、ジャニーズ事務所のアイドルグループのコンサートが朱鷺メッセで開催されることが多く、朱鷺メッセに行ったことがある、朱鷺メッセを知っている、という若年層はかなり多いのではないかとされる。また、アイドルのコンサートで来たことはなくとも、学生向けの就職フェアなどで朱鷺メッセを訪れたことがある若者も一定数いるのではないと思う。

こうした若者に照準を合わせ、「週末には万代島でちょっとおしゃれなデートをしよう」をコンセプトに、ペアチケットの発売などをしてはどうか。その際の広報手段としては、女性向けなら「月刊新潟Komachi」、男性向けなら「新潟WEEK!」などの媒体が有効に利用できるのではないかと考える。

2点目は「いつもお世話になっている人に美術館をプレゼント◆」。こちらも若者をターゲットに、「母の日」「父の日」「家族の誕生日」などに展示会のチケットをプレゼントしませんか、と訴えかけるものである。万代島美術館で開催される展示会の一般向けチケットは前売りで大体が800円、2枚買っても1,600円と若者にも負担が少ない価格であろう。

図書カードに贈答用の封筒があるように、展示会のチケットを入れる贈答用の封筒、あるいは通常のチケット入れの封筒の上に貼るリボン型のシールなどがあれば、「プレゼントにチケットを贈る」という新たな消費行動が喚起できるように思われる。

また、贈った相手と一緒に若者自身が来館することも予想され、来館機会の創出という点でも検討の余地がありはしないだろうか。

竹内 伊澄 委員

私が初めて近代美術館を訪れた時、周りの環境のすばらしさに感動したことを覚えている。

美術館にまず、足を運んでもらうためには、近代美術館の周辺は若い親子連れが多く見受けられた為、ゆったりとした空間と豊富な緑を前面に出したファミリー向けのプランの提案。

万代島美術館は朱鷺メッセの知名度をフル活用し、他の催し物とのタイアップも視野に入れた展示物の選定。そして、朱鷺メッセの来館者の取り込みの方策を講じる。

たとえば、「万代島美術館でアートに親しんだ後は…」ではなく、「朱鷺メッセで楽しんだ後は万代島美術館へ…」等、発想の転換が必要。

上越市の社会教育委員会議の席上で小中学校の利用が26年度2校だけと言う現状を報告。その後、ある中学校の教室に「日韓近代美術家のまなざし」のパンフレットが教室のど真ん中に貼ってあった。成果を焦らず、声を出して行く事が大切と実感。

また、上越広報の表紙に「濱谷浩と雪国」が掲載され、展示説明会や特別講演「濱谷浩と上越の文化サロン」が丁寧に紹介されていた。

今後も地域や各種教育機関との協働によって連携を深めてほしい。

私たち委員もそれぞれの立場で美術館の宣伝マンとなり、協働事業成功の為に多方面へ働きかけよう！

そして、新潟県立美術館の社会的使命は「新潟固有の文化の価値を見直し、併せて未来に継承すべきコレクションの充実と研究、活用、普及を通じて人材の育成に取り組み、地域の人々と協働しながら、県民の誇りとなる新潟の文化を発信する。」とある。

集客、収益ももちろん大切だが、観客に媚びる事なく、新潟県立美術館の学芸員が自信を持って推薦出来る作品の展示を熱望。その為の集客、収益確保の会議が肝要と考える。

市村 吉之 委員

近代美術館、万代島美術館の両美術館が、企画、展示に毎年たゆまぬ創意工夫を重ねていることに深く敬意を表します。多くの県民が、「美術館に足を運ぶ」「美術作品を鑑賞する喜びを味わう」「美術に対する興味・関心を高める」ことをねらいとする来館者数増加を目指した取組は大変重要なことです。また、そのねらいの達成に向けた両美術館のこれまでの地道な努力は賞賛に値するとも感じています。

しかし、一方で、近年、漫画やアニメーション、写真等の話題性のある企画展は、目標来館者数の達成率が高くなる傾向にあり、反面、古典及び純粋芸術の企画展のそれは伸び悩む傾向にあります。この課題を解決するために、教育普及の面から次の5点について改善を望みます。

①ファミリー層のさらなる来館者数の増加を目指し、企画展に関連付けて、幼児・児童・生徒とその父母・祖父母に向けた取組をより一層工夫する。例えば、子どもと大人が必然性をもって、一緒に作品を鑑賞したり、ワークショップ等で製作したりできるような取組を工夫する。その際、前者は小学校高学年～高校生を、後者は幼児～小学校中学年を対象にするなど、ターゲットを絞った内容を考える。

②古典及び純粋芸術を鑑賞できる能力が伸びるのは、中学校3年生以上からだと言われている。小中学生の無料化までいかなくてもよいが、学校を通さないう高校生へある程度の減免措置ができないかを本格的に検討する時期が来ている。芸術や文化を理解できる年齢になった子どもにこそ、鑑賞の機会を多く与えたい。

③万代島美術館は、配置職員数からいって教育普及活動に大きな力点を置くことが困難である。したがって、対話型鑑賞の実践については、新潟市美術館や教育研究団体（市小研図画工作部、中教研美術部、下越美術教育研究会）等との積極的な連携を模索する。万代島美術館が場を提供し、他館の学芸員や教育研究団体の所属教員が対話型鑑賞などの実践ができる環境を整備していく必要がある。

④将来的には、教育普及活動の一つとして、「鑑賞教育.jp」のようなシステムを構築し、県立美術館及び県内各地の市立、私立美術館の「所蔵品の映像」と、それを活用した「対話型鑑賞の実践」等のデータベースを整えていくことが望まれる。

⑤美術は、様々な分野を「つなぐ力」を内在している。科学、歴史、文学、音楽、舞踊、演劇、建築、自然、経済、政治など多様な分野・要素に目を向けながら、その「つなぐ力」を生かす取組を積極的に企画していく。現在実施している近代美術館の「美術館茶会」や「絵本読み聞かせ」、万代島美術館の「ミュージアムコンサート」などは、その取組の先駆けであると考えられる。

以上の5つの改善点の中には、すでに検討の俎上に載せられているものがあるかも知れないが、一つでも多く実現できることを期待している。美術館の教育普及活動は、人を美術の豊かな精神性の世界に誘う夢のある取組である。子どもからお年寄りまで、すべての人が、よりよく生きるための人生のツールとして、美術館を活用することを強く願っている。

霜島 健二 委員

高校の美術を担当する上で必要な情報や知識を得るため、また自身の制作に活かすために毎年多くの美術館・画廊や芸術祭・アー

トイベントなどを廻っている。その経験を元に、いくつか提言を行いたい。

美術館は作品だけが全てではないと考えている。展示室内の設備（展示方法や照明、キャプションなど）はもとより、ショッピングセンターに買い物に行く人たちは、それだけを楽しみにしているわけではないのと同じように、食事、ショップ、美術情報など、トータルで魅力を持った施設でなければ、何度も訪れようという気持ちにはなれない。

県立近代美術館の魅力は何か、来館者が美術館で過ごす貴重な時間のために、何をどう提供しているのか、来館者目線で検証することも必要ではないか。開館以来100回以上訪れているが、県民ギャラリーや飲食（休息）空間、情報発信、案内表示、ミュージアムショップなど来館者を惹き付けるための工夫に余地はあるように思う。

それと同時に、家族連れや各種グループが館を利用しやすいように、周辺の施設や自然を活かした展覧会、他の施設と情報やアクセスの連携を図った企画も検討してもらいたい。「インサイド・アウトサイド」展で実証した、野外の作品と展示室との関係性。それらを明確化し、美術館の内と外とが一体的に鑑賞できる演出を望みたい。

美術館を単体で考えるのではなく、複合的なミュージアムパークとして様々な企画を行ったらどうだろうか。

もう一つはコンクールを主催し、全国、世界から作家を呼び込み、若く才能ある作家の発掘と育成を行う、という提言である。（参考として、群馬県立近代美術館の「群馬青年ビエンナーレ展」）。長岡現代美術館が長岡から世界へ向けて新しい美術を発信し、世界から注目を集めた。再び長岡の地から若きアーティストを生み出して欲しい。

展覧会の費用対効果を館の設置者、展覧会の主催者の立場で計るのはどうだろうか。費用対効果は本来、来館者側の目線で捉えなければならぬ。来館者がそれに要した時間や経費、そして鑑賞後の満足度、充実感などである。展覧会がそれらに見合うものかどうか、一人一人の来館者の判断に委ねるべきである。

最後に、高校現場では美術の専任教員が急激に減少し、その数は全県（県立、私立高）で28名になっている。専任のいない学校では美術館授業の企画も引率も事実上不可能であり、美術館は遠い存在となっている。今後、個々の生徒に向け、SNSやHPなどで美術館情報の発信を考案して行く必要がある。

北嶋 伸 委員

東京近郊で生活していた学生時代と就職後の20代は、今より気持ちと時間に余裕があったこともあり、話題の展覧会を中心に年数回は美術館に足を運んでいた。その後、年齢を重ねるにつれ仕事や日々の雑事を理由にその頻度は減り、ここ数年は年間で1、2回訪れる程度になっていた。そんな折、ご縁をいただき美術館協議会委員の任命を受け、また家族で友の会にも参加させていただくことになり、久しぶりに美術に親しむ生活が戻ってきた。ひと月1回程度のペースではあるが、日常と異なる空間に身を置き、創作者の気迫を直に感じ取れる時間は、心身がリフレッシュされて、凝り固まった思考を解きほぐし、新たな発想を得る機会になっている。改めて、我々30代から50代の働き盛りの世代にとって、美術館で過ごす時間は、身近に文化を感じ生活に潤いを与えてくれる機会と感じた。しかし、その年齢層は概ね忙しく、平日はもとより休日も家庭や地域での役割も多く担い、美術鑑賞の優先順位は低くせざるを得ず、行きたい気持ちはあれども足が遠のいている人も多いのではないかと。そんな人達を美術館にいざなうアイデアをいくつか考えてみたい。

一つ目として、平日に週1日、例えば水曜日は午後8時まで開館時間を延長してみる。開館時間の延長日を設けている美術館は国内外を問わず多い。国の「仕事と生活の調和（ワークライフバ

新潟県美術品収集委員会

ランス)」の推進を受けて、徐々にノー残業デーなどの残業削減の取組みを実施する企業も増えており、今後終業後の時間を活用できる人も増えてくると思われる。私も新潟市に仕事で出向くことがあるが、帰路に就く前に万代島美術館に寄ってみようという気持ちになるであろう。二つ目として、プロ野球など他業界のアイデアも取り入れてみたい。閉館前1時間以降の観覧料を、通常の半額若しくはワンコインの500円にする。ある程度じっくり鑑賞するには滞在時間は2時間から3時間は必要だと思うが、「時間はないがちょっと寄ってみたい」人達にとって、来館の敷居を低くする効果があると思う。最後に三つ目として、例えば夏休み期間の日曜日は、閉館時間を午前8時に早めてみる。午前10時の開館では他の用事は午後からに限定されるが、午前8時から鑑賞できると、一日の中で遠出や他のレジャーとの両立も可能になる。

以上はハード面の投資は伴わず実施できる取組の一案である。人の配置等労務管理面や費用対効果の検討など問題はもちろんあるが、これらに限らず、良いと思うことはまずやってみるトライアル&エラーの姿勢で、今後も県民がより身近な存在と感じる美術館を目指していただきたい。

池主 純 委員

この一年間、一般のみなさんからの意見や自分自身の感じたことをまとめてみた。

まずは、万代島美術館についてであるが、車の方は問題ないのがあるが公共交通機関を使って行こうとすると、とても億劫な場所である。しかし、日航ホテルと同じビルにある利点を活かしてホテルのお客さんを呼び込めばいいと思う。日航ホテルのバスを共有できるようになれば便利になると思う。

アートに興味がなくとも旅先では美術館に行く。売店では、新潟のお土産になる物をお土産では、そこにしか売ってなくオシャレな物が求められるので、新潟のアーティスト作品をお土産用に販売したり売店にも特色を出したら面白いと思う。

他に空間についてであるが、ビルの中の美術館ですがエレベーターが開いた瞬間、別世界な空間が広がるとまず一歩からワクワクすると思う。売店があるスペースの使い方がもったいないので、若手アーティストの作品発表の場を設けたり、寛ぎスペースがあるといい。近代美術館のように外に向かって椅子があると、作品鑑賞が終わった後も余韻に浸ることができる。

近代美術館の方は、環境的にもアクセスも便利である。周辺の施設と共同イベントなどするともっと楽しくなると思う。近くにある長岡造形大学の方は、あまり美術館に行かないという意見を聞き、ボランティア的な関わりだけでなく作品展示のチャンスも与えてあげてほしい。

お客のニーズに合わせるのも大切であると思う。夏休み期間中はとにかくファミリーは毎週末どこに行こうかと計画を立てる。なので、7月8月は子供でも親しみやすい企画を持つてくとか、夏休みの工作に頭を悩ませている方が多いのでワークショップをたくさん開催するなどしていけたらいいと思う。

地域の団体との連携については、新潟は市民活動が盛んなので連携は容易にできると思う。例えばであるが、私の携わっているアートスタジオで美術館企画の作家さんのワークショップやトークイベントをして、そこに来てくれたお客さんを美術館にも足を運んでもらえるように繋げるとか、ボランティア募集のチラシなどスタジオに置いておけば興味のある人は、たくさんいる。地域と美術館が繋がれば、もっと相乗効果で良くなるはずである。

その点、友の会はとて素晴らしい取組だと思う。美術館の一番のファンであり協力者であるから、これからも大切にしてほしい。私は協議会委員になるまで友の会の存在を知らなかった。なので、もっとたくさんの人に知ってもらえるように宣伝もしたい。

美術館が、皆さんに愛される場所になるために今後も考えていこうと思う。

【委員】

宮田 亮平（東京藝術大学学長）

草薙奈津子（平塚市美術館長）

本江 邦夫（多摩美術大学教授）

前川 公秀（DIC川村記念美術館顧問）

柳原 正樹（京都国立近代美術館長、富山県水墨美術館長）

松本 透（東京国立近代美術館副館長）

郷 晃（新潟大学教授）

【日程及び内容】

平成27年度は収集委員会を開催せず、各委員への資料持ち回りにより収集の可否を諮った。

新潟県立美術館友の会

新潟県立美術館友の会は、新潟県立近代美術館開館の翌年、平成6年4月8日に「新潟県立近代美術館友の会」として発足。平成15年、新潟県立万代島美術館の開館にともない2館共通の友の会組織となり、「新潟県立美術館友の会」と改称した。

広く美術を愛する人達を中心として、美術館の活動及び運営に協力するとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深め、芸術文化の普及、向上を図ることを目的として活動している。

【会費・会員の種類】

一般会員	一般	2,000円	358人
	学生	1,000円	898人
ファミリー会員		4,000円	80人
特別会員	個人	30,000円	0人
	法人		26人
計			1,362人

【会員の特典】

- ・会員証による近代美術館コレクション展、万代島美術館所蔵品の無料観覧
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展を観覧できるモニター券の配布（モニター券1枚で一回観覧可）
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展の優待観覧（団体料金）
- ・企画展図録の割引
- ・近代美術館、万代島ビル内のレストランの割引
- ・友の会だより、美術館便り等の配布
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展開場式への参加

【役員体制】

会 長 丸山 結香
副会長 小林 新治、上松 和義、小栗 俊郎、宮澤奈緒子、舩岡 武雄
理 事 渡辺 雅明、丸岡 稔
監 事 松永 芳文、関澤 正道
代 議 員 阿部 貴子、阿部美恵子、永島 賢司、大平 剛、恩田 里士、片野 トク、佐藤 丈二、近藤フヂエ、田中 弘邦、高田 博俊、羽賀 享、原 和彦、樋口 栄治、保坂 太、丸山 智、宮本 恵子、目黒 真弓、山梨玲江子、山本 正明、蒲木みゆき、久島 芳尚
名誉顧問 豊口 協
顧 問 徳永 健一、平山 征夫、和田 裕
相 談 役 櫛谷 一代、澤 秀一郎
事 務 局 更科 昌江

【事業内容】

- ◇5月10日 ワークショップ
「アートカフェ～印象派への誘い～」
会場：近代美術館会議室
講師：平石昌子課長代理
- ◇5月12日 代議員会
会場：近代美術館会議室
- ◇5月24日 こらぼde茶会
会場：近代美術館
呈茶：長岡大学 茶道部
- ◇6月14日 美術鑑賞ツアー
行き先：富山県立近代美術館他
- ◇6月27日 ワークショップ「折り紙でらせんを折ろう」
会場：近代美術館会議室
講師：布施知子氏
- ◇7月11日 ワークショップ「プロの技で、美術館再発見」
会場：近代美術館講座室他
講師：中條均紀氏
- ◇8月18日 美術鑑賞ツアー
行き先：大地の芸術祭他
- ◇8月22日 ワークショップ「ねんどでアニメーション」
会場：近代美術館講座室
講師：青木善治課長代理
- ◇10月18日 ワークショップ
「アートカフェ～醍醐寺展の楽しみ方～」
会場：ジュンク堂
講師：長嶋圭哉学芸員
- ◇11月3日～11月8日 第19回文化祭・作品展
会場：近代美術館ギャラリー
- ◇2月28日 ワークショップ「美術を自分なりに楽しもう」
会場：千秋が原ふるさとの森アトリウム
講師：近藤フヂエ氏
- ◇3月13日～4月17日 友の会文化祭・作品展
(近代美術館の縮小版)
会場：万代島美術館
- ◇友の会だよりの発行
- ◇図録、前売券等の委託販売
- ◇近代美術館、万代島美術館主催の開場式に参加
- ◇各種情報提供 美術館だより等の送付

沿革

《新潟県立近代美術館》

昭和63年度予算で美術館建設調査費計上

昭和63年12月

「新潟県美術品収集基金条例」制定

平成元年10月

新潟県美術館建設基本構想を策定

平成2年3月

新潟県美術館建設基本計画を策定

平成2年3月

県立近代美術館建設の設計者選考方式を指名設計競技（コンペ）に決定

平成2年3月

指名設計競技の参加設計事務所5社を決定

平成2年7月

県立近代美術館建設指名設計競技審査会開催

（株）日本設計の作品が入選

平成2年8月

設計業務の委託を（株）日本設計と契約

平成3年2月

県立近代美術館建設の実設計策定

平成3年5月

県立近代美術館建設工事入札

大成・吉原・小杉特定共同企業体等が落札

平成3年7月

県議会で建設工事の契約承認

平成3年7月

新潟県立近代美術館の建設着工

平成4年12月

県立近代美術館建設本体工事完了・引き渡し

平成5年3月

新潟県立近代美術館条例公布

平成5年4月

新潟県立近代美術館発足

平成5年7月

開館

《新潟県立近代美術館万代島美術館》

平成12年8月

新潟県新美術館基本構想を発表

平成13年2月

新潟県新美術館基本計画を策定

平成14年4月

新潟県新美術館開設準備室発足

平成15年8月

新美術館の名称を一般公募により「新潟県立万代島美術館」と決定

平成15年3月

朱鷺メッセ万代島ビル竣工

平成15年4月

新潟県立近代美術館万代島美術館発足

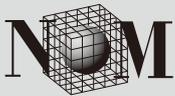
平成15年7月

開館

平成27年度
新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館 年報

編集 新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館

印刷 株式会社中央印刷
発行 平成29年3月10日



THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum